

— 令和4年度日常生活圏域ニーズ調査 —

結果報告書

令和5年2月

逗子市

<目次>

I	調査概要	1
1	調査対象	1
2	調査方法	1
3	調査期間	1
4	調査項目	1
5	回収結果	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
1)	年齢構成	2
2)	認定・該当状況	2
3)	世帯構成	2
4)	世帯構成別年齢構成	3
5)	圏域	3
6)	圏域別年齢構成	3
2	生活機能	4
(1)	運動	4
(2)	閉じこもり	14
(3)	転倒	22
(4)	栄養	26
(5)	口腔	34
(6)	認知機能	42
(7)	うつ予防	55
(8)	虚弱	70
(9)	基本チェックリスト該当者	79
3	日常生活	85
(1)	手段的自立度（IADL）	85
4	社会参加	89
(1)	知的能動性	89
(2)	社会的役割	93
(3)	老研式活動能力指標総合評価	105
(4)	生きがい	108
(5)	趣味	109
5	疾病	110
(1)	病気全体	110
(2)	高血圧	111
(3)	高脂血症（脂質異常）	112
(4)	筋骨格の病気	113

(5) 目の病気.....	114
(6) 糖尿病.....	115
(7) 心臓病.....	116
(8) 脳卒中.....	117
(9) 通院.....	119
6 健康・生活習慣.....	121
(1) 主観的健康感.....	121
(2) 肥満度.....	125
(3) 聞こえ.....	126
(4) 飲酒.....	130
(5) 喫煙.....	132
(6) インターネットの利用.....	134
(7) 就労.....	136
7 介護の状況.....	137
(1) 介護・介助の必要性.....	137
(2) 要介護・介助の原因.....	138
(3) 介護者.....	139
(4) 介護が必要な状態になった後の暮らし.....	140
8 保健福祉サービス.....	141
(1) 運動や栄養改善への関心度.....	141
(2) 介護予防教室への参加意向.....	142
9 住宅・暮らし.....	143
(1) 現在の暮らしの状況.....	143
(2) 終の住み家.....	144
10 圏域別の概況.....	145
(1) 生活機能等リスク該当者.....	145
(2) 疾病.....	146
(3) 健康に関する事項.....	147
参考資料1（圏域別設問クロス集計）.....	148
1 基本チェックリスト項目.....	148
2 後期高齢者の項目.....	150
3 後期高齢者の項目（75歳以上）.....	151
参考資料2（調査票）.....	152

I 調査概要

1 調査対象

- ・令和4年6月1日現在、逗子市内に住所を持つ65歳以上の方です。
(要介護認定を受けている方及び施設に入所している方を除く)

2 調査方法

- ・郵送による配布・回収

3 調査期間

- ・令和4年9月14日～10月4日
(その後未回収者に対しては調査票を再送付して11月25日まで回収)

4 調査項目

- ①家族や生活状況について
- ②からだを動かすことについて
- ③食えることについて
- ④毎日の生活について
- ⑤地域での活動について
- ⑥健康について
- ⑦認知症にかかる相談窓口の把握について
- ⑧運動・栄養改善プログラムや保健福祉サービスについて

5 回収結果

	調査対象者数	有効回答数	有効回答率
全体	5,328	3,823	71.8
男性	2,302	1,621	70.4
女性	3,026	2,202	72.8

1 回答者の属性

II 調査結果

1 回答者の属性

1) 年齢構成

上段：人数、下段：%

	前期高齢者			後期高齢者					合計
	65～69歳	70～74歳	前期計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	後期計	
市全体	809 21.2	1,137 29.7	1,946 50.9	468 12.2	887 23.2	437 11.4	85 2.2	1,877 49.1	3,823 100.0
男性	381 23.5	502 31.0	883 54.5	173 10.7	365 22.5	168 10.4	32 2.0	738 45.5	1,621 100.0
女性	428 19.4	635 28.8	1,063 48.3	295 13.4	522 23.7	269 12.2	53 2.4	1,139 51.7	2,202 100.0

※上段の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

2) 認定・該当状況

上段：人数、下段：%

	非該当	基本チェックリスト 該当者	要支援者	不明	合計
市全体	1,399 36.6	1,966 51.4	283 7.4	175 4.6	3,823 100.0
男性	617 38.1	845 52.1	81 5.0	78 4.8	1,621 100.0
女性	782 35.5	1,121 50.9	202 9.2	97 4.4	2,202 100.0

※基本チェックリスト該当者とは、介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための国の基本チェックリスト(本調査でのリスク判定項目である「生活機能」「運動」「閉じこもり」「栄養」「口腔」「認知機能」「うつ予防)」のうち、1項目以上に該当する者。

3) 世帯構成

上段：人数、下段：%

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他	無回答	合計
市全体	755 19.7	1,599 41.8	179 4.7	614 16.1	555 14.5	121 3.2	3,823 100.0
男性	190 11.7	789 48.7	150 9.3	218 13.4	217 13.4	57 3.5	1,621 100.0
女性	565 25.7	810 36.8	29 1.3	396 18.0	338 15.4	64 2.9	2,202 100.0

1 回答者の属性

4) 世帯構成別年齢構成

上段：人数、下段：%

	前期高齢者			後期高齢者					合計
	65～69歳	70～74歳	前期計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	後期計	
市全体	809 21.2	1,137 29.7	1,946 50.9	468 12.2	887 23.2	437 11.4	85 2.2	1,877 49.1	3,823 100.0
1人暮らし	111 14.7	202 26.8	313 41.5	84 11.1	186 24.6	133 17.6	39 5.2	442 58.5	755 100.0
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	269 16.8	546 34.1	815 51.0	232 14.5	396 24.8	141 8.8	15 0.9	784 49.0	1,599 100.0
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 67.0	33 18.4	153 85.5	4 2.2	16 8.9	6 3.4	0 0.0	26 14.5	179 100.0
息子・娘との 2世帯	107 17.4	161 26.2	268 43.6	80 13.0	156 25.4	92 15.0	18 2.9	346 56.4	614 100.0
その他	187 33.7	169 30.5	356 64.1	52 9.4	101 18.2	38 6.8	8 1.4	199 35.9	555 100.0
無回答	15 12.4	26 21.5	41 33.9	16 13.2	32 26.4	27 22.3	5 4.1	80 66.1	121 100.0

5) 圏域

上段：人数、下段：%

	東部	中部	西部	合計
市全体	1,250 32.7	1,372 28.2	1,201 33.6	3,823 100.0
男性	518 32.0	581 35.8	522 32.2	1,621 100.0
女性	732 33.2	791 35.9	679 30.8	2,202 100.0

- 東部・・・桜山3・4・5丁目(35～37番、葉桜団地を除く)、沼間、池子
- 中部・・・逗子、桜山1・2・5丁目(35～37番、葉桜団地のみ)・6～9丁目、山の根、新宿1～3・4丁目1～5番(2番 29～59号を除く)・6番 38～42号・5丁目
- 西部・・・久木、小坪、新宿4丁目2番 29～59号・6～16番(6番 38～42号除く)

6) 圏域別年齢構成

上段：人数、下段：%

	前期高齢者			後期高齢者					合計
	65～69歳	70～74歳	前期計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	後期計	
市全体	809 21.2	1,137 29.7	1,946 50.9	468 12.2	887 23.2	437 11.4	85 2.2	1,877 49.1	3,823 100.0
東部	245 19.6	401 32.1	646 51.7	163 13.0	292 23.4	126 10.1	23 1.8	604 48.3	1,250 100.0
中部	316 23.0	396 28.9	712 51.9	169 12.3	317 23.1	141 10.3	33 2.4	660 48.1	1,372 100.0
西部	248 20.6	340 28.3	588 49.0	136 11.3	278 23.1	170 14.2	29 2.4	613 51.0	1,201 100.0

2 生活機能

2 生活機能

(1) 運動

ア 設問と評価

介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための国の基本チェックリスト（以下「基本チェックリスト」と表記）では、下の5つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしています。

具体的には、設問5問中3問以上に該当した場合に運動器の機能低下と判定されます。

図表 運動器に関する設問（基本チェックリスト）

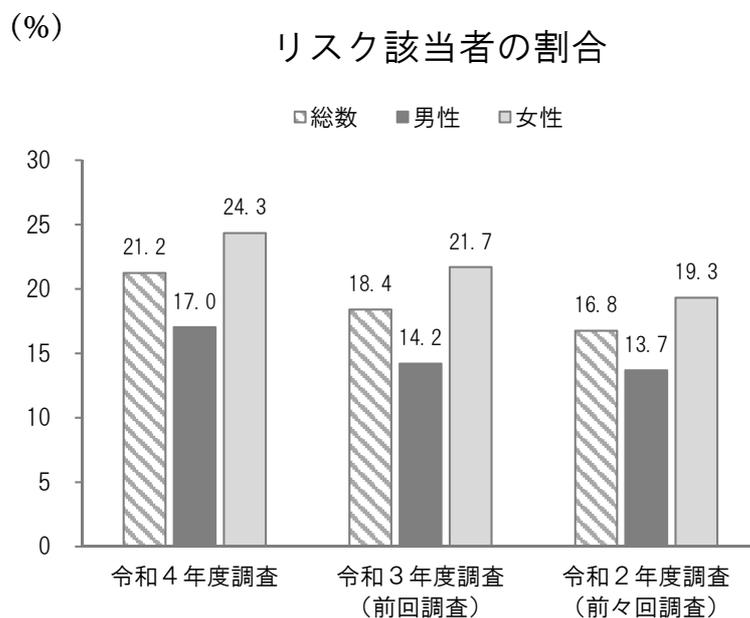
問番号	設 問	該当する選択肢
問2・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるけどしていない」または「3. できない」
問2・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるけどしていない」または「3. できない」
問2・Q4	15分位続けて歩いていますか	「2. できるけどしていない」または「3. できない」
問2・Q5	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または「2. 1度ある」
問2・Q6	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった高齢者全体で21.2%：812人、男性17.0%：276人、女性24.3%：536人が運動器の機能低下のリスク該当者となっています。男性より女性でリスク該当者の割合が高くなっています。

過去の調査と比べると令和3年度（前回調査）から若干増加しており、2.8ポイント高くなりました。令和2年度調査（前々回調査）と比べると、リスク該当者割合が4.4ポイント高くなっています。

図表 リスク該当状況－運動器の機能低下



(1) 運動

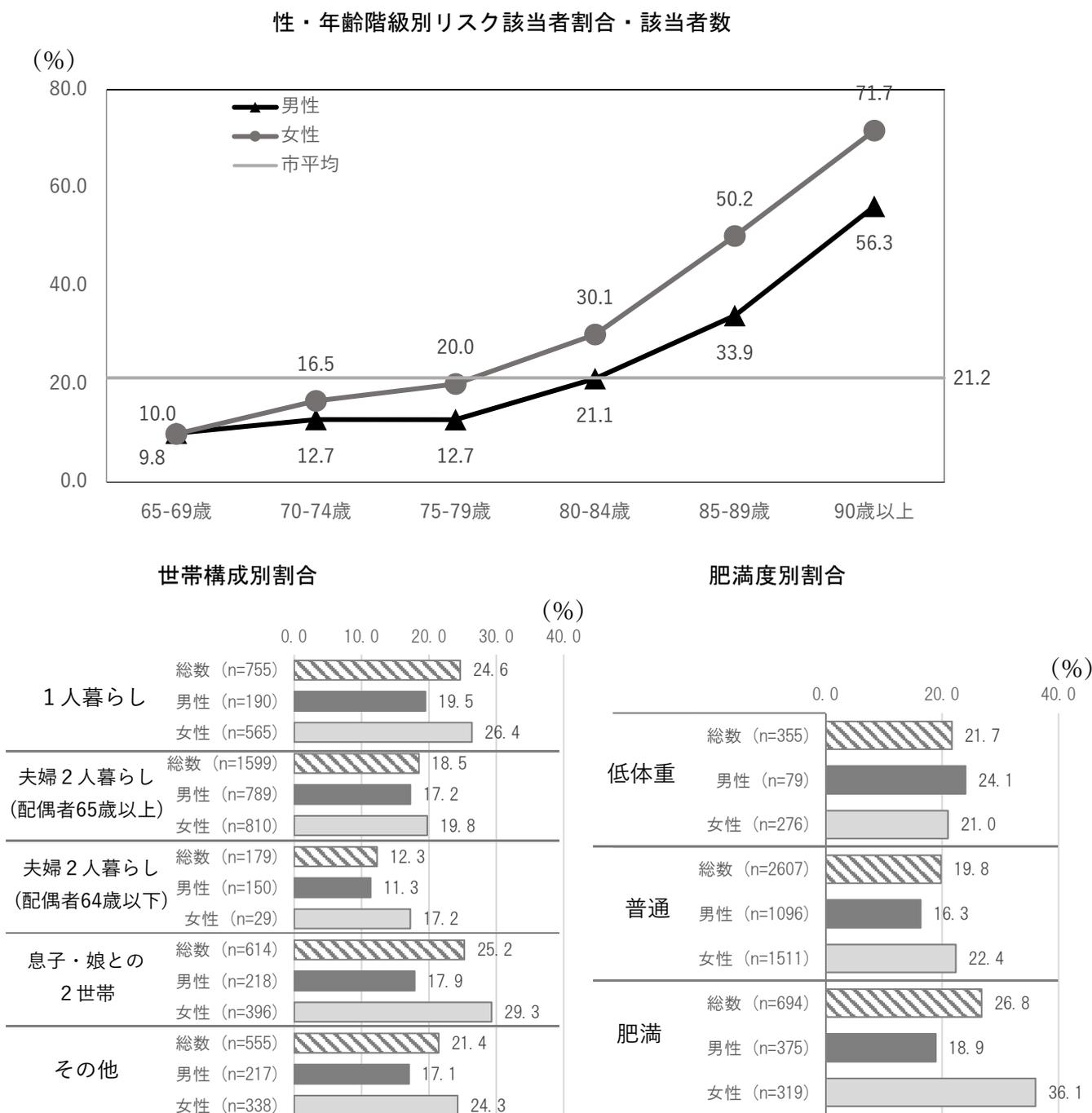
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、年齢とともにリスク該当者割合が高くなっています。男性は85～89歳から上、女性は80～84歳から上の年齢が市全体平均（21.2%）を超えています。

これを世帯構成別にみると、男性は1人暮らし、女性は息子・娘との2世帯で、割合が高くなっています。

さらに肥満度別にみると、男性では低体重（BMI18.5未満）のリスク該当者で24.1%と普通体重の男性に比べ7.8ポイント高く、女性では肥満者（BMI25以上）のリスク該当割合が36.1%と、普通体重の女性に比べて13.7ポイント高くなっています。男性では低体重が、女性では肥満が運動器の機能に影響を及ぼしていることがうかがえます。

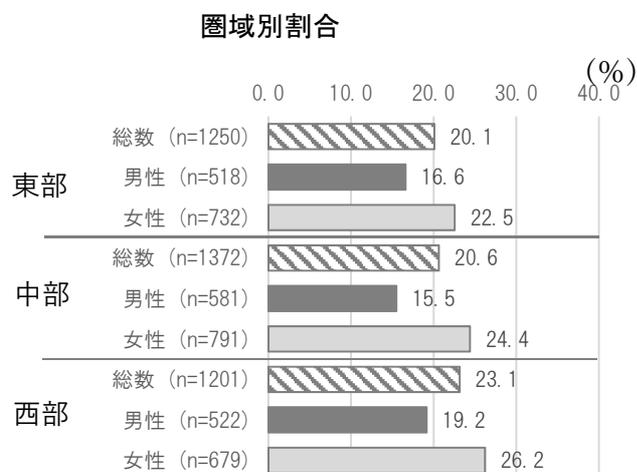
図表 運動器の機能低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別、肥満度別



2 生活機能

圏域別にみると、男性・女性ともに西部圏域が最も高くなっています。ただ、圏域ごとに年齢構成も異なるため、それが影響していることも考えられます。

図表 運動器の機能低下 リスク該当状況—圏域別割合



そこで、こうした圏域別の年齢構成の差を取り除いた形でリスク該当者数を比較するため、標準化死亡比（SMR）の考え方に準じて、年齢調整済みの指数を算出しました。

この指数は、今回の調査結果全体の性・年齢階級別のリスク該当者割合を各圏域に当てはめた場合に、各圏域の期待されるリスク該当者数に対する実際のリスク該当者数の比率となります。全体の平均が 100 となり、この指数が 100 を超す場合は全体の平均よりリスク該当者が多く、逆に 100 未満の場合はリスク該当者が少ないと判断できます。

具体的にこの指数を運動器の機能低下のリスク該当者について各圏域別に算出すると下の図表のとおりとなります。次のページ一番下の図表をみると、リスク該当者割合が高い西部圏域は、年齢構成を加味した指数でも 105.5 と最も高くなっています。

図表 圏域別の性・年齢階級別回答者数

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69 歳	123	155	103	122	161	145
70～74 歳	159	179	164	242	217	176
75～79 歳	64	61	48	99	108	88
80～84 歳	118	122	125	174	195	153
85～89 歳	47	54	67	79	87	103
90 歳以上	7	10	15	16	23	14

図表 圏域別の実際のリスク該当者数：運動器の機能低下

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69 歳	14	14	10	7	18	17
70～74 歳	22	22	20	41	37	27
75～79 歳	6	8	8	20	23	16
80～84 歳	25	23	29	49	52	56
85～89 歳	14	19	24	37	47	51
90 歳以上	5	4	9	11	16	11

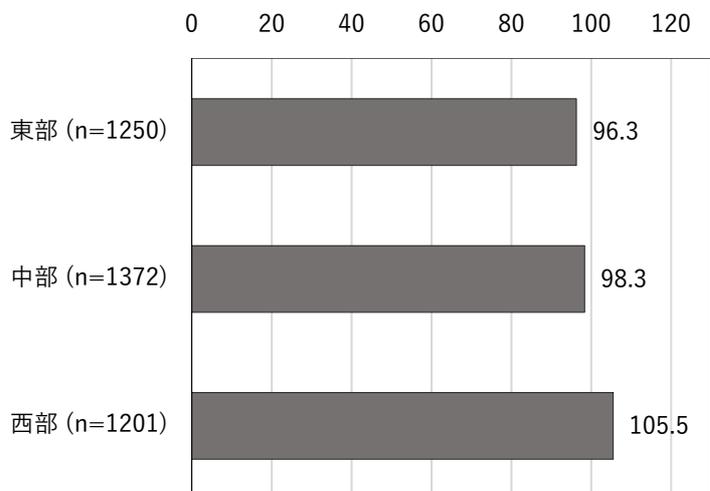
図表 圏域別の期待リスク該当者数：運動器の機能低下

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69 歳	12.3	15.5	10.3	12.0	15.8	14.2
70～74 歳	20.3	22.8	20.9	40.0	35.9	29.1
75～79 歳	8.1	7.8	6.1	19.8	21.6	17.6
80～84 歳	24.9	25.7	26.4	52.3	58.6	46.0
85～89 歳	15.9	18.3	22.7	39.6	43.7	51.7
90 歳以上	3.9	5.6	8.4	11.5	16.5	10.0

図表 圏域別の指数：運動器の機能低下

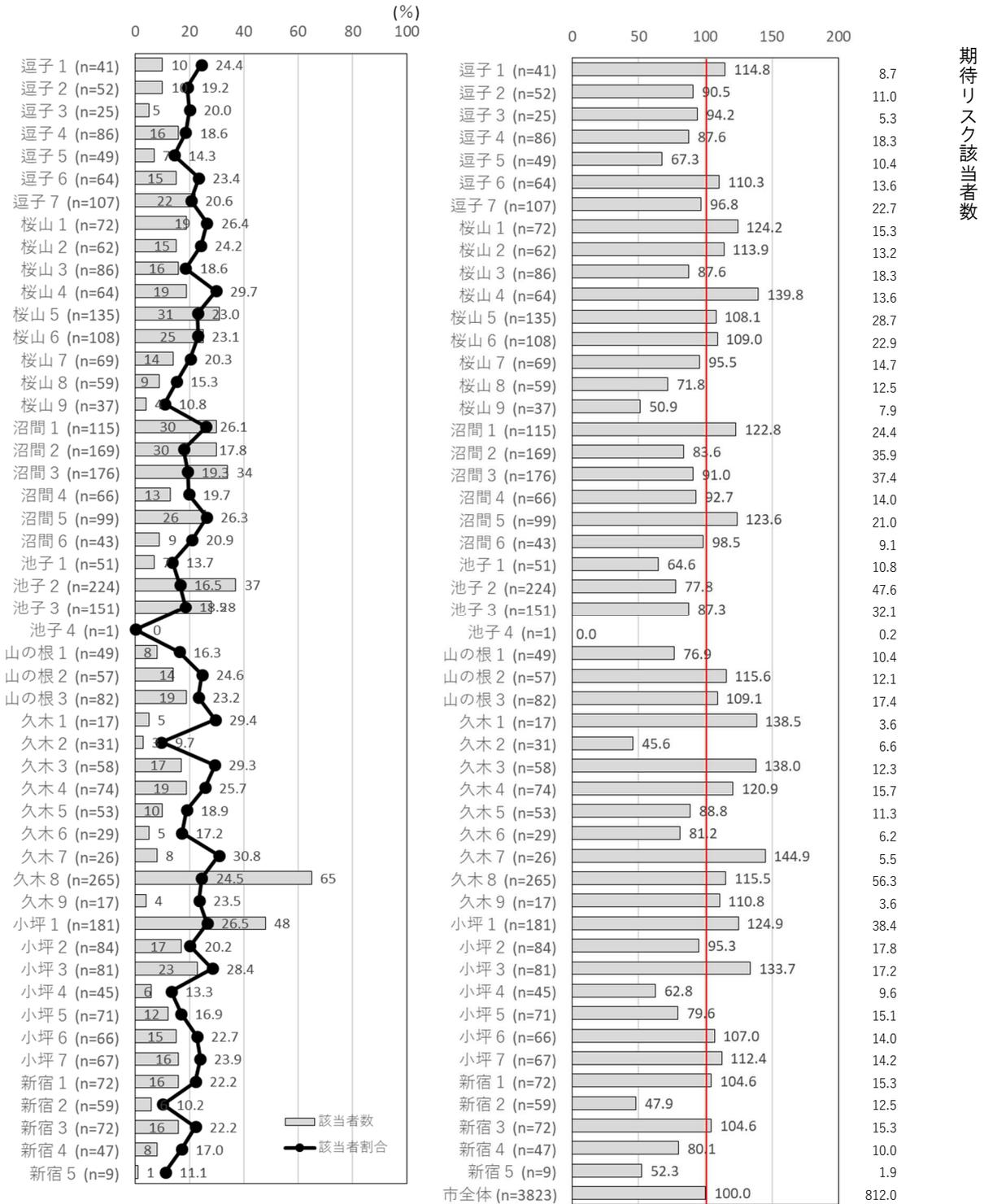
	東部	中部	西部
実際の該当者数 (a)	251	283	278
期待該当者数 (b)	260.7	287.8	263.5
指数 (a/b*100)	96.3	98.3	105.5



2 生活機能

さらに、町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目、小坪1丁目、池子2丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、久木7丁目、桜山4丁目、久木1丁目の順で高くなっています。

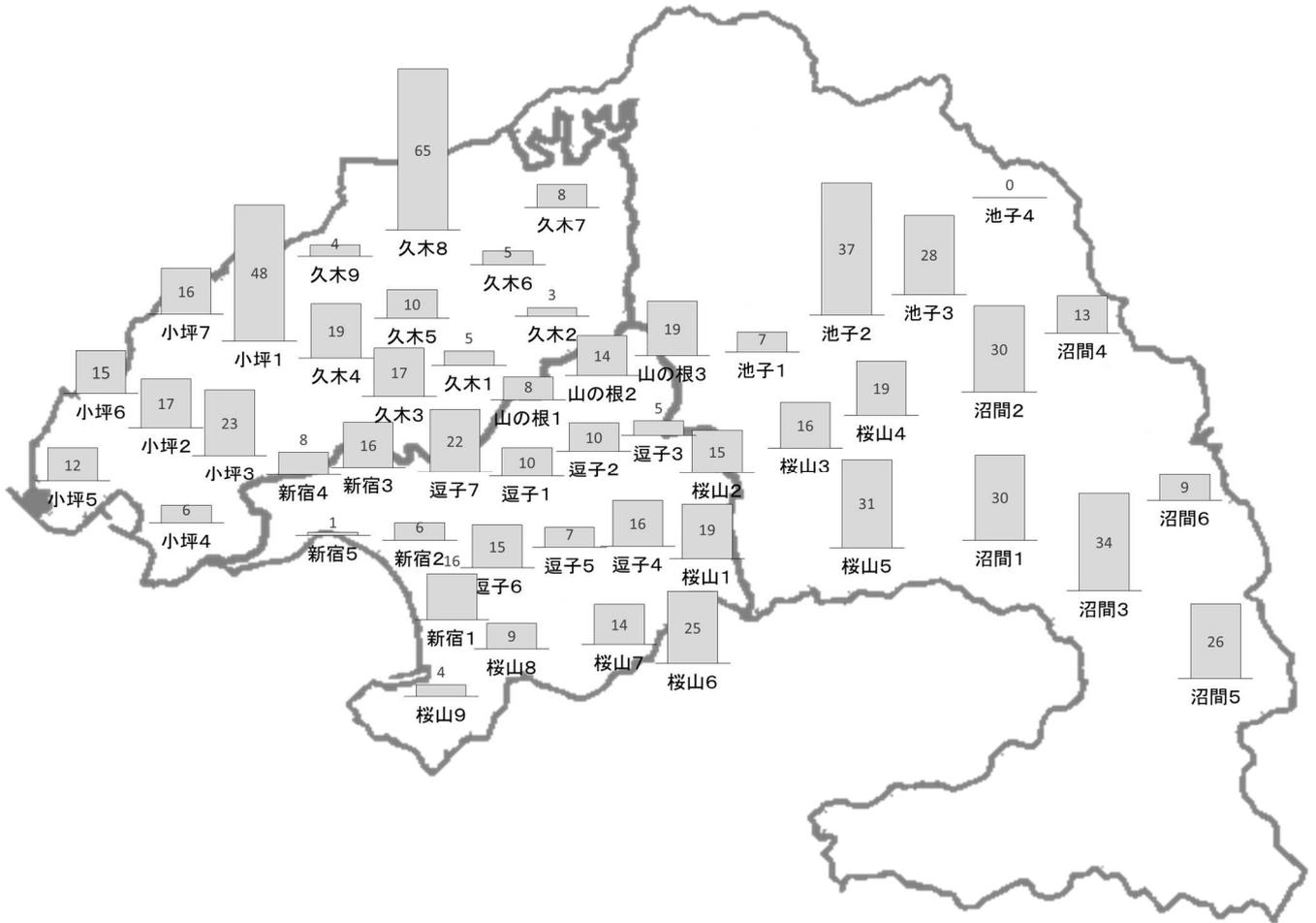
図表 運動器の機能低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数



指数は、市全体の年齢別リスク該当者割合に各町丁別の年齢別回答者数を乗じることによって求められる各町丁別期待リスク該当者数に対する実際のリスク該当者数の割合を示したものです。100が市全体の平均となり、それを上回る場合は、年齢構成からすると市全体の平均よりリスク該当者が多いことを示す（以下同じ）。

(1) 運動

図表 圏域別リスク該当者数の分布：運動器の機能低下



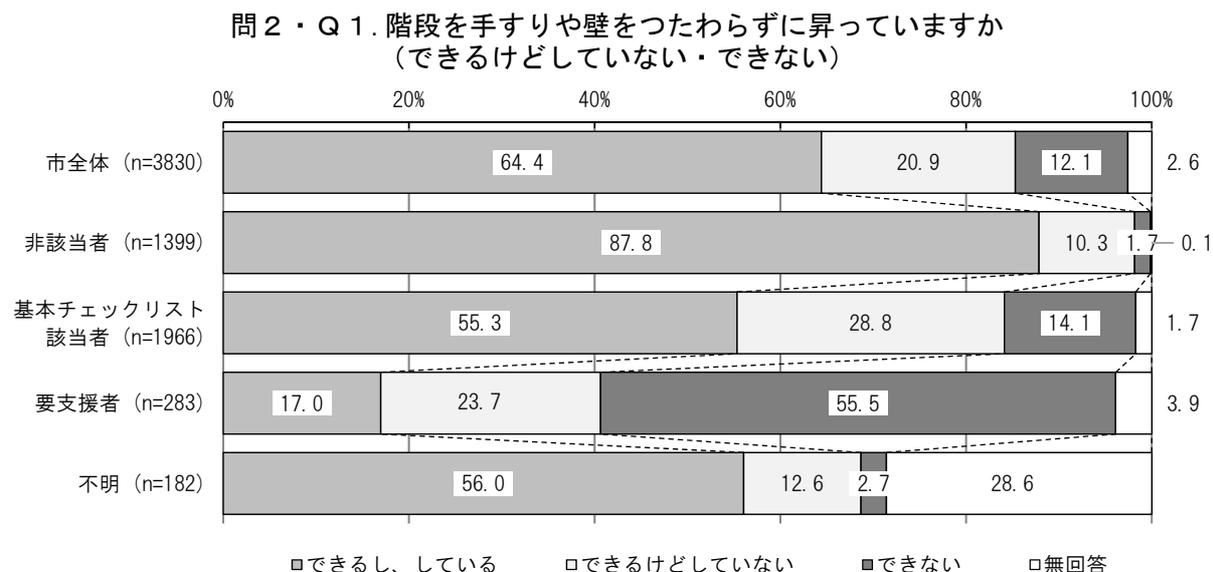
2 生活機能

ウ 回答結果

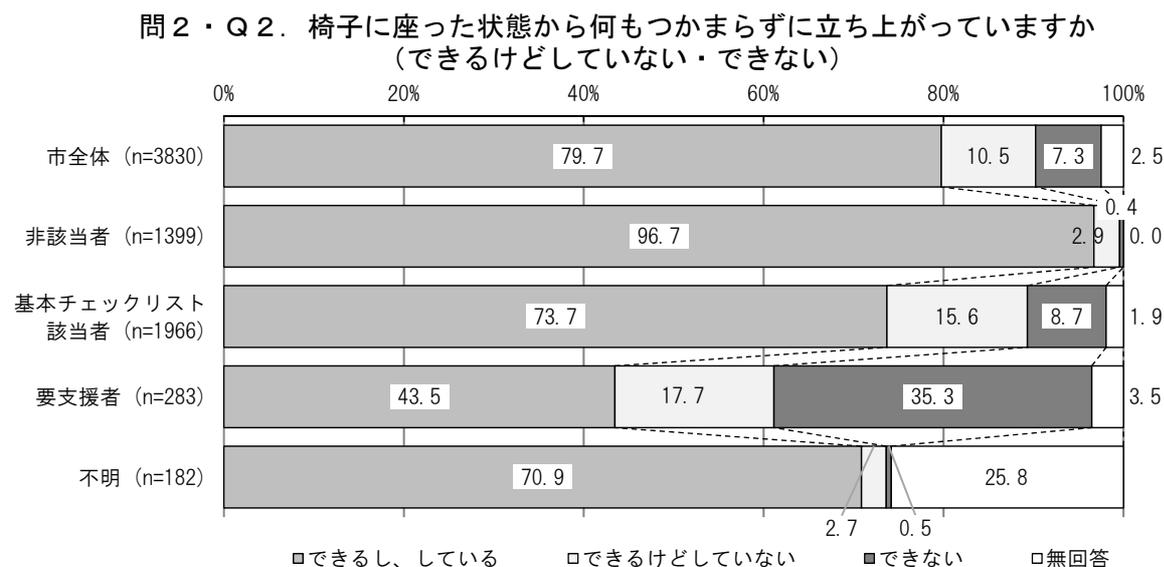
評価の基礎となった設問に対する回答結果を認定該当状況別にみると、下の図表のとおりとなっています。

個々の設問でリスクの該当に係る回答をした割合（該当率）が高いのは要支援者で、「転倒に対する不安は大きいですか」（問2・Q6）に対して、「不安である（とても不安である+やや不安である）」と答えた割合が8割を超えています。

図表 回答結果-1

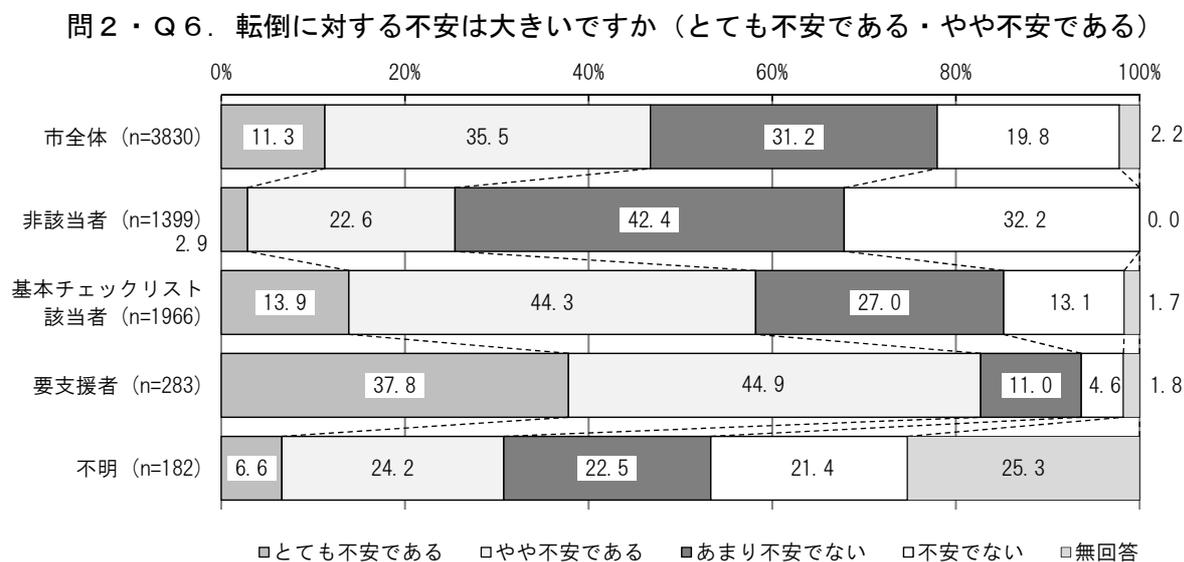
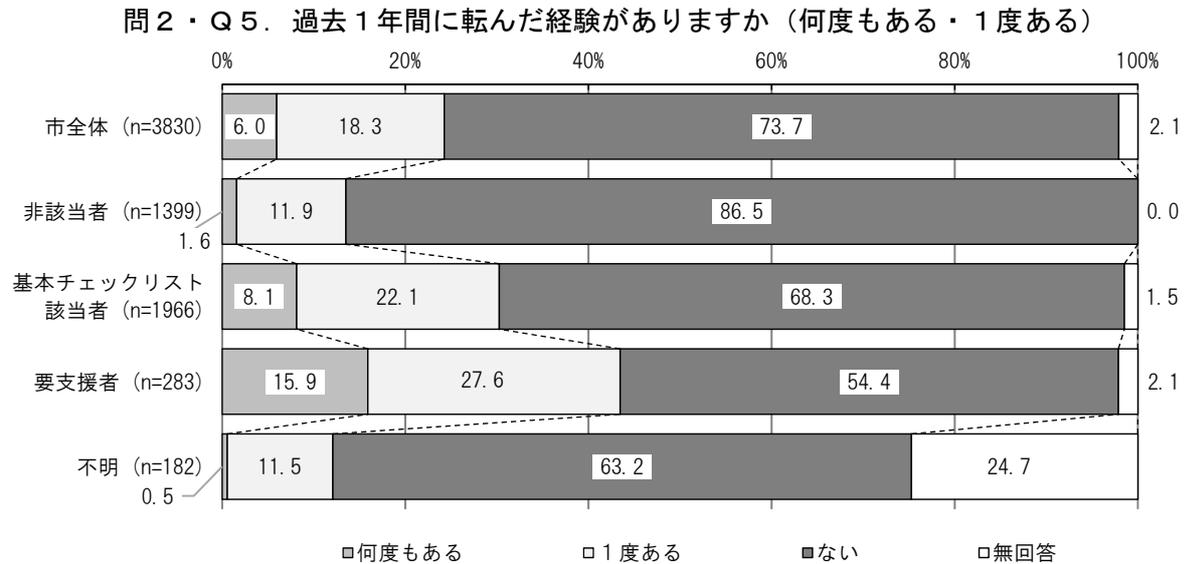
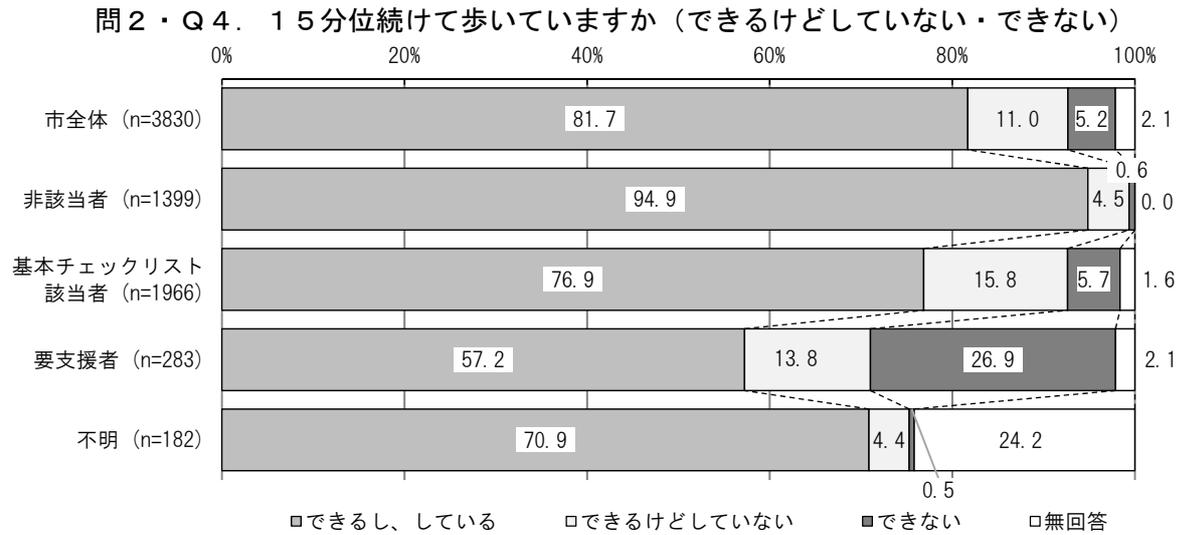


※設問文末尾の()内は、該当する回答(以下同じ)



(1) 運動

図表 回答結果-2



2 生活機能

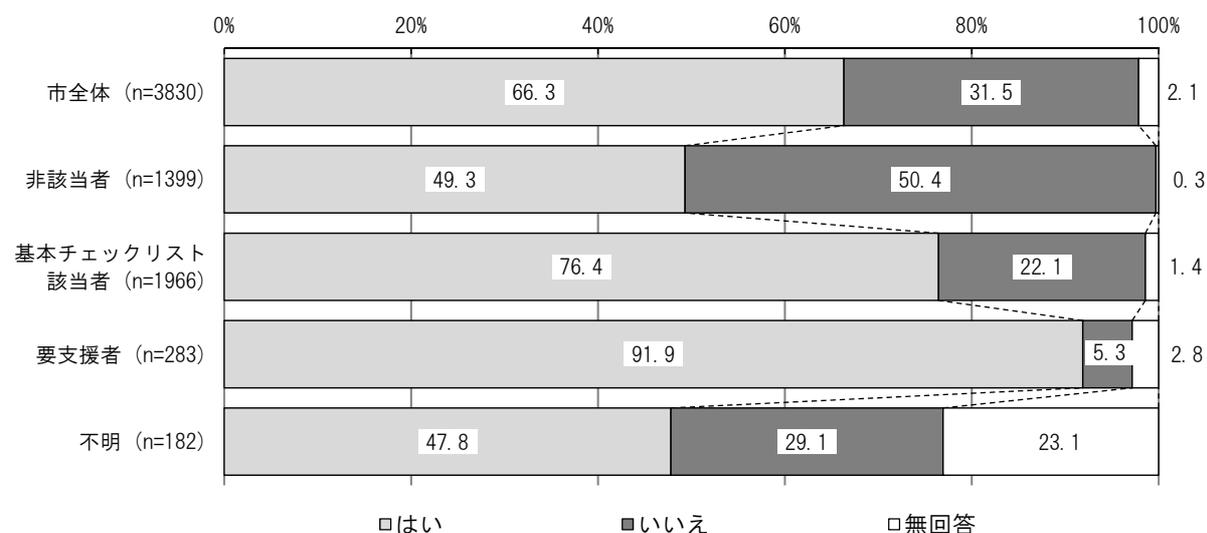
エ 関連設問

(問2・Q3)「以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか」の回答を認定・該当状況別にみると、「はい」は要支援者が91.9%で最も多く、次いで基本チェックリスト該当者(76.4%)、非該当者(49.3%)となっています。

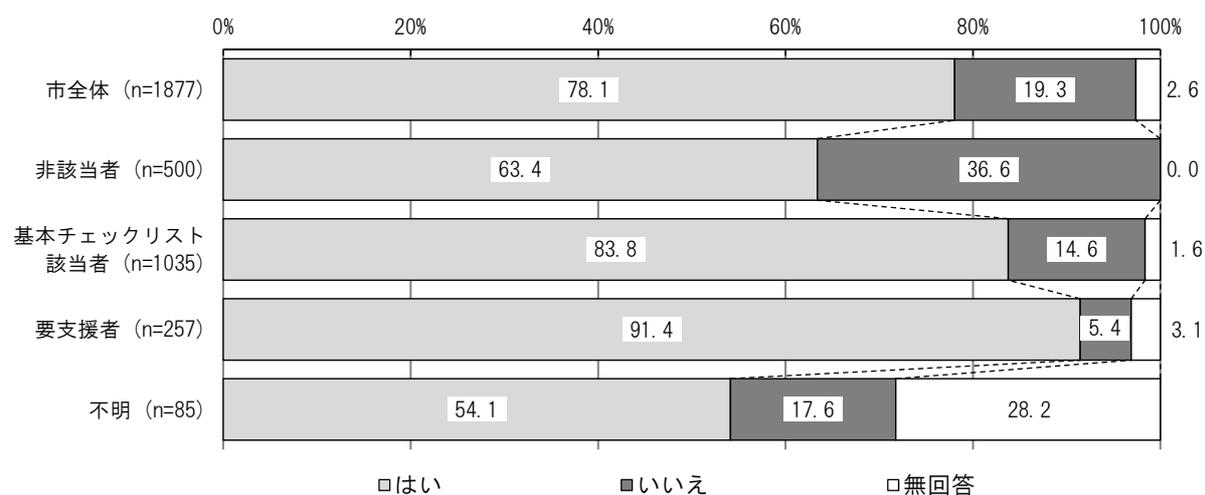
また、(問2・Q7)「ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか」の回答を認定・該当状況別にみると、「はい」は非該当者が78.1%で最も多く、次いで基本チェックリスト該当者(60.6%)、要支援者(44.9%)となっています。

図表 歩く速度について

問2・Q3. 以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか

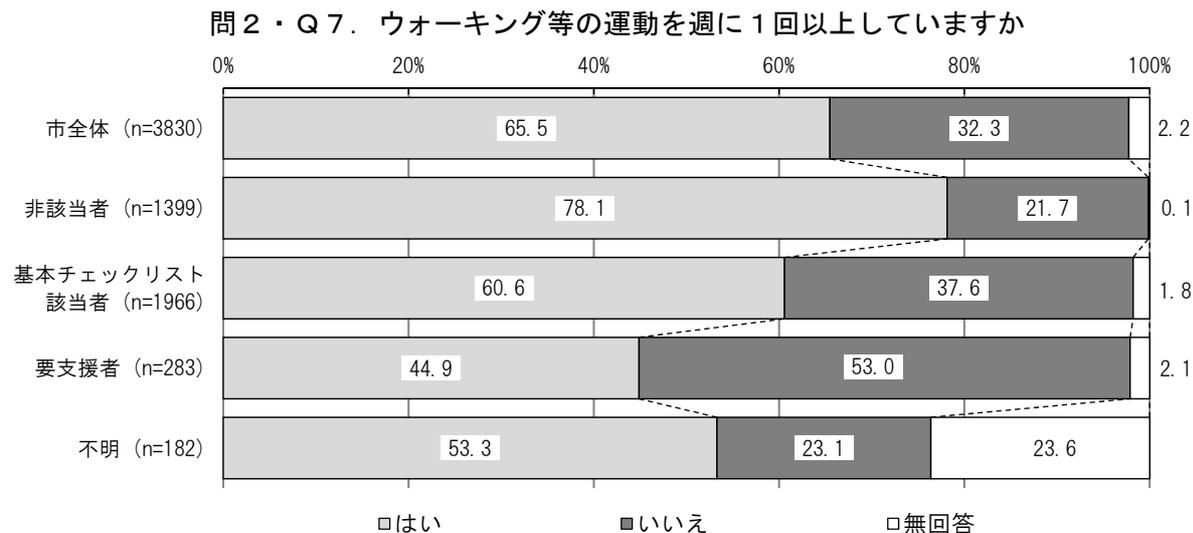


問2・Q3. 以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか (75歳以上)

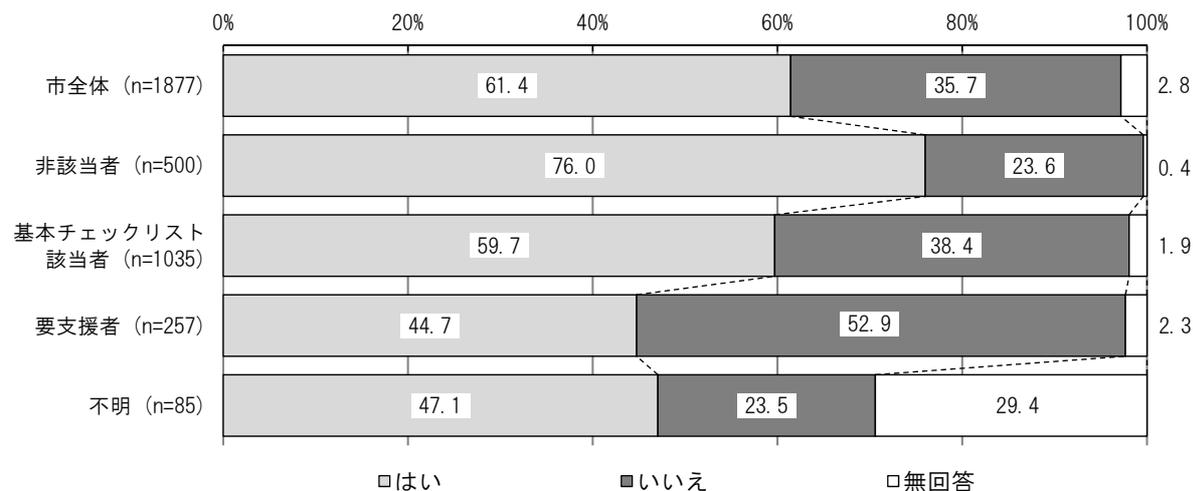


(1) 運動

図表 ウォーキング等の運動の有無



問2・Q7. ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか (75歳以上)



2 生活機能

(2) 閉じこもり

ア 設問と評価

基本チェックリストには、運動に関連する指標として、閉じこもりのリスクに関する設問が2問含まれています（下表参照）。

具体的には、問2・Q8に該当した場合、閉じこもりに該当し、介護予防・生活支援サービスの対象者になります。問2・Q9にも該当している場合は、より注意が必要という評価になります。

外出回数が週1回以下の場合には、寝たきりの要因の一つといわれる閉じこもりリスクがあると考えられるため、リスク該当者として評価しています。

図表 閉じこもりに関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問2・Q8	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」
問2・Q9	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」または 「2. 減っている」

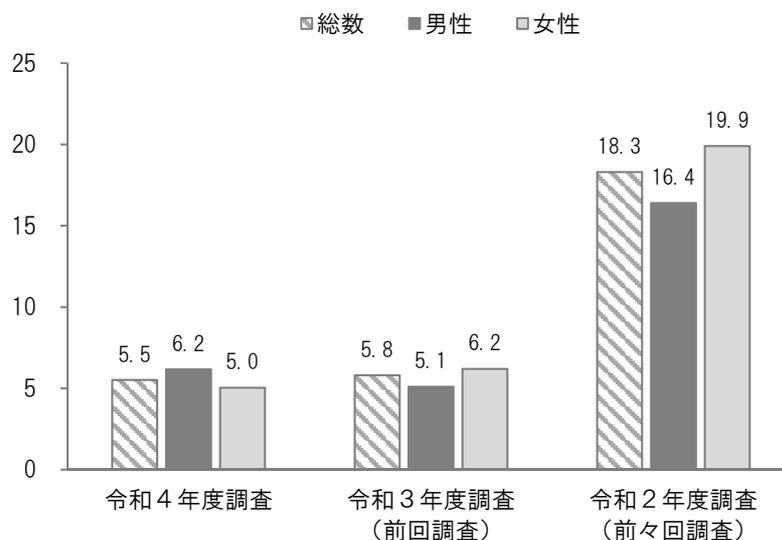
イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった高齢者全体で5.5%：211人、男性6.2%：100人、女性5.0%：111人がリスク該当者となっています。令和2年度（前々回調査）と比較すると大きく減少していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛が大きな要因であったと考えられます。令和3年度（前回調査）と比較すると若干減少しており、全体で0.3ポイント低くなっています。

図表 リスク該当状況－閉じこもり

(%)

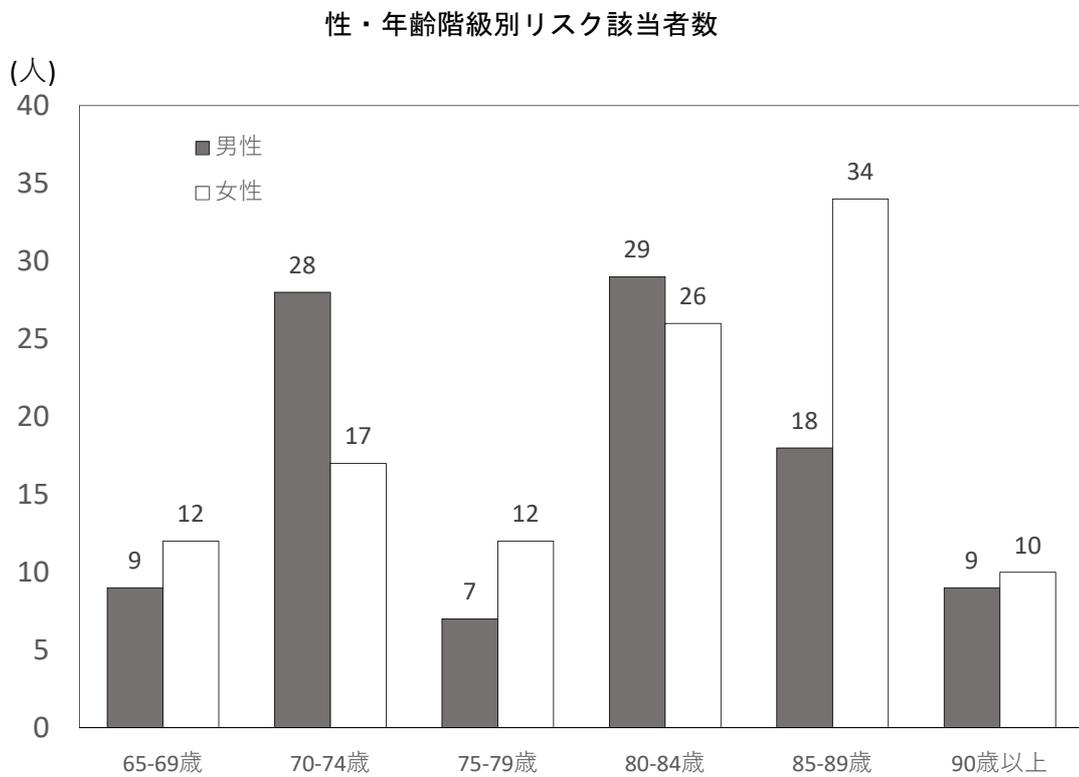
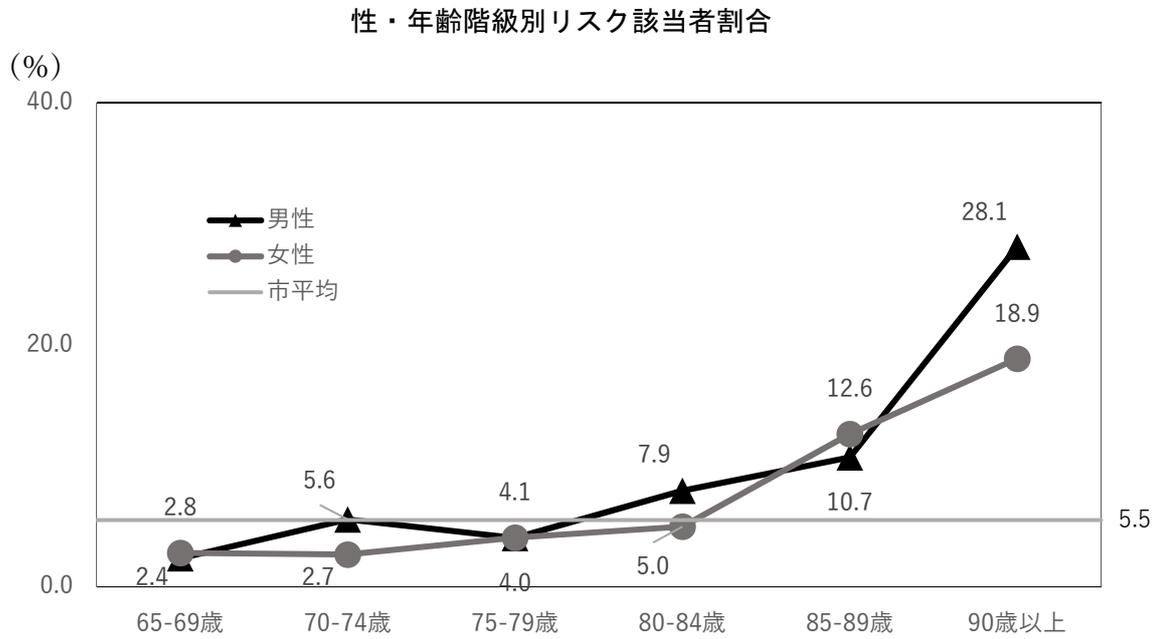
リスク該当者の割合



(2) 閉じこもり

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともに閉じこもりリスクの該当者割合が高くなっています。男性では80～84歳から上の年齢が市全体平均（5.5%）を超えています。

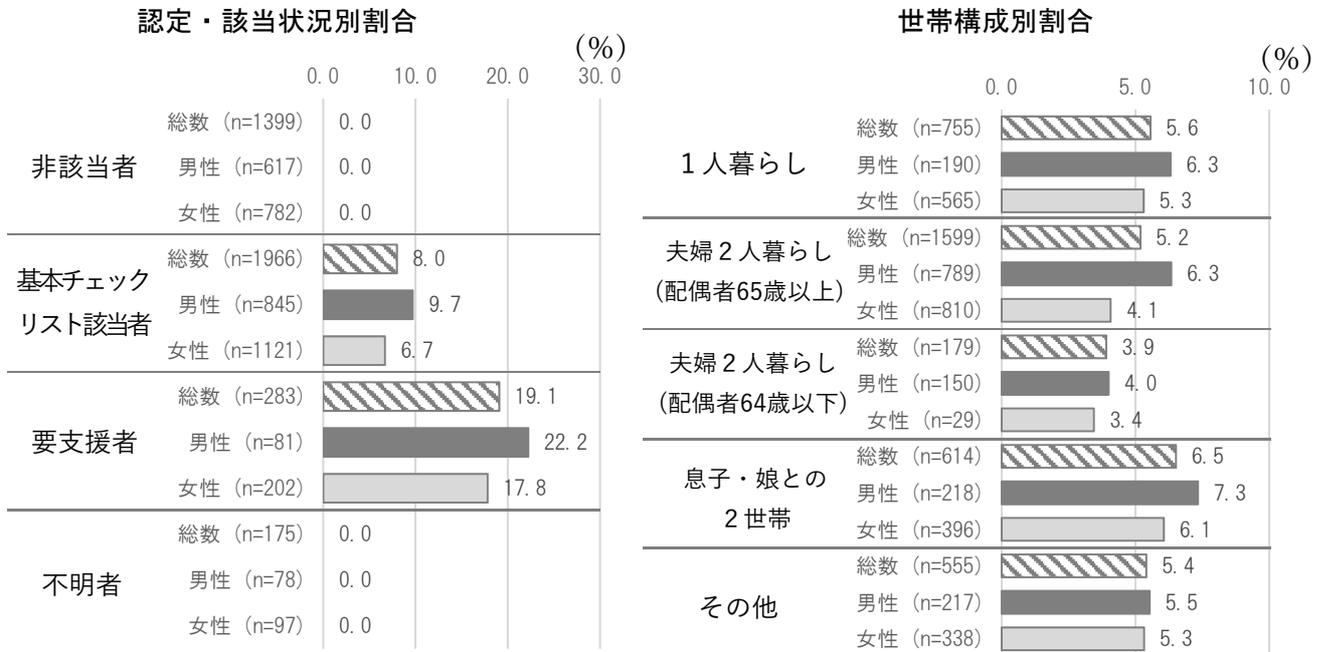
図表 閉じこもり リスク該当状況一性・年齢階級別



2 生活機能

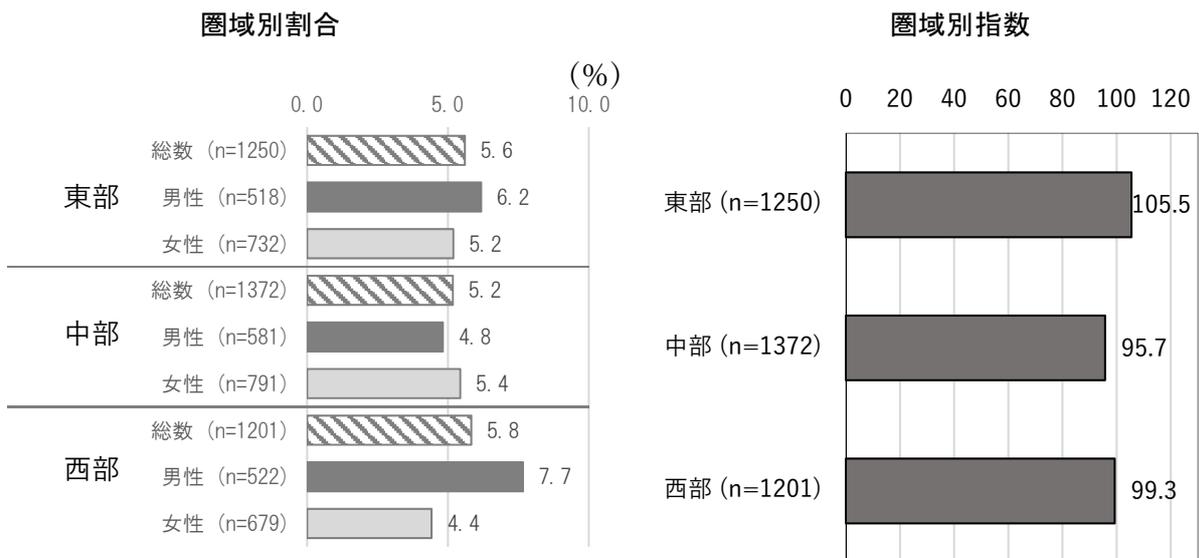
認定・該当状況別にみると、男女ともに要支援者のリスク該当者割合が最も高くなっています。また、世帯構成別にみると、男女ともに息子・娘との2世帯でリスク該当者割合が高くなっています。

図表 閉じこもり リスク該当状況—認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別割合をみると、西部圏域の男性が7.7%と他圏域に比べて高くなっています。圏域別指数をみると、東部圏域が105.5と高くなっています。

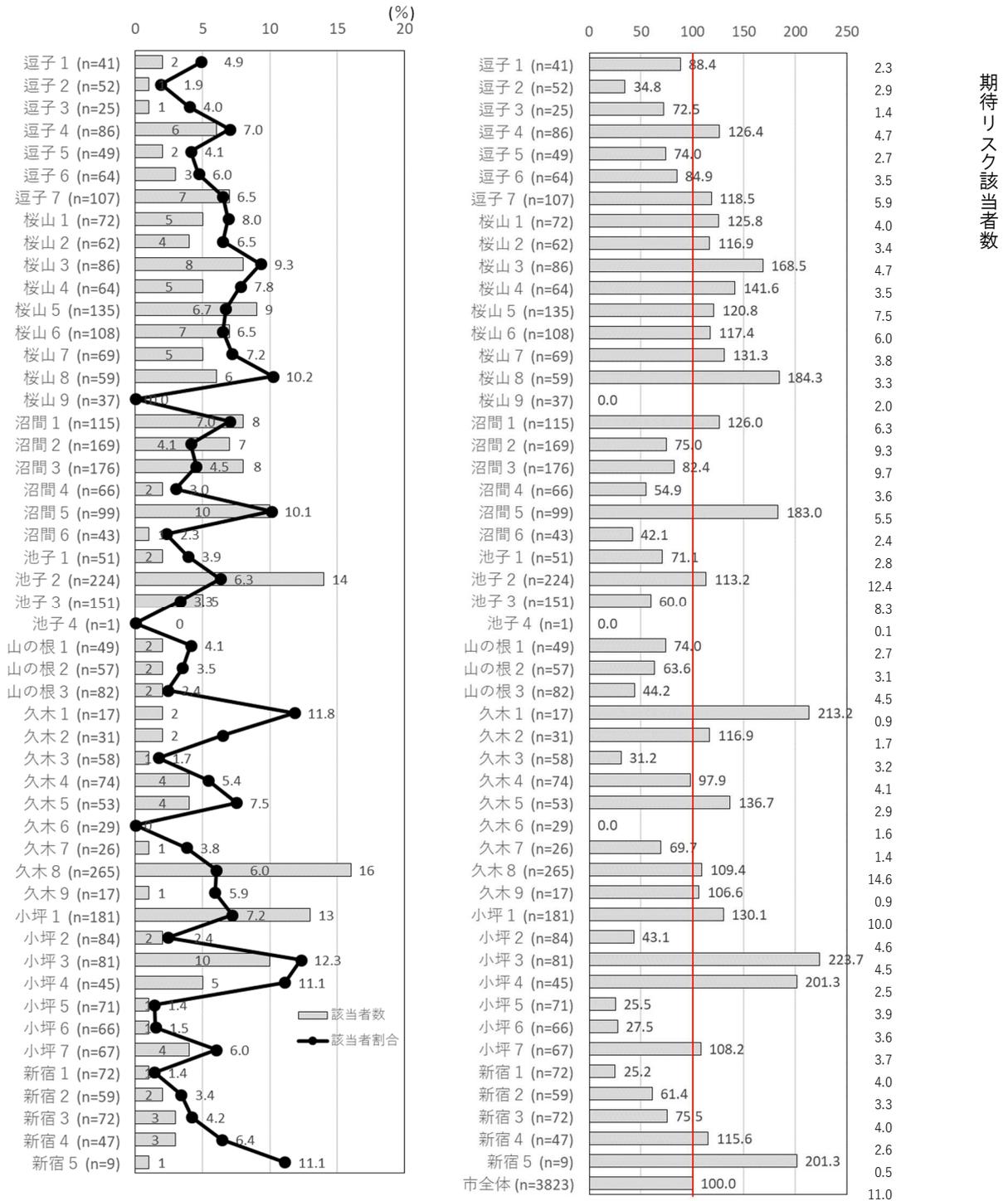
図表 閉じこもり リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目、池子2丁目、小坪1丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、小坪3丁目、久木1丁目、小坪4丁目（新宿5丁目と同率）の順で高くなっています。

図表 閉じこもり（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



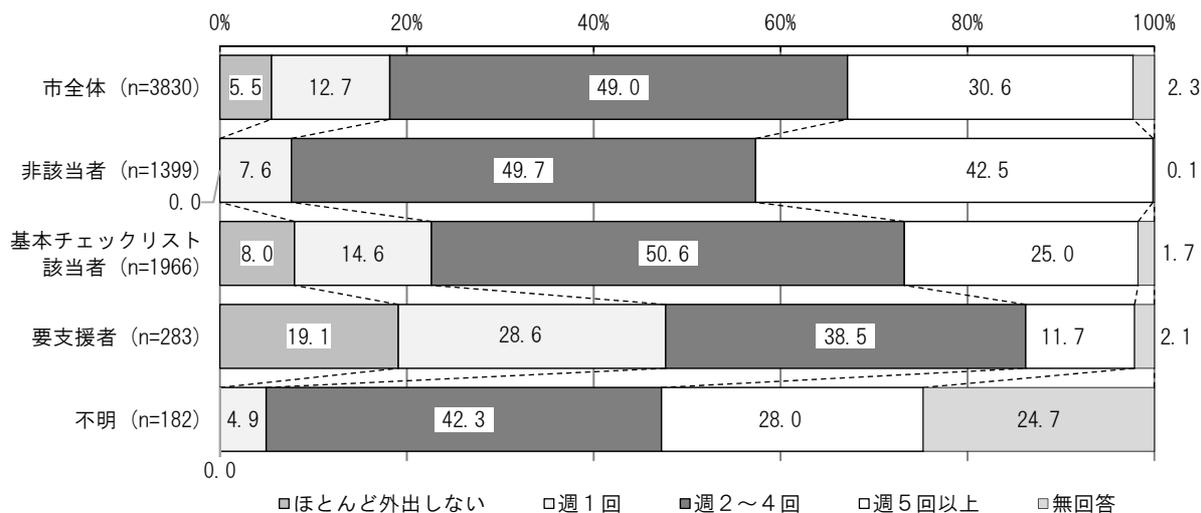
ウ 回答結果

個々の設問に関する回答を認定・該当状況別にみると、「週に1回以上は外出していますか」(問2・Q8)については、要支援者で「ほとんど外出しない」「週1回」と回答したリスク該当者割合が47.7%と高くなっています。

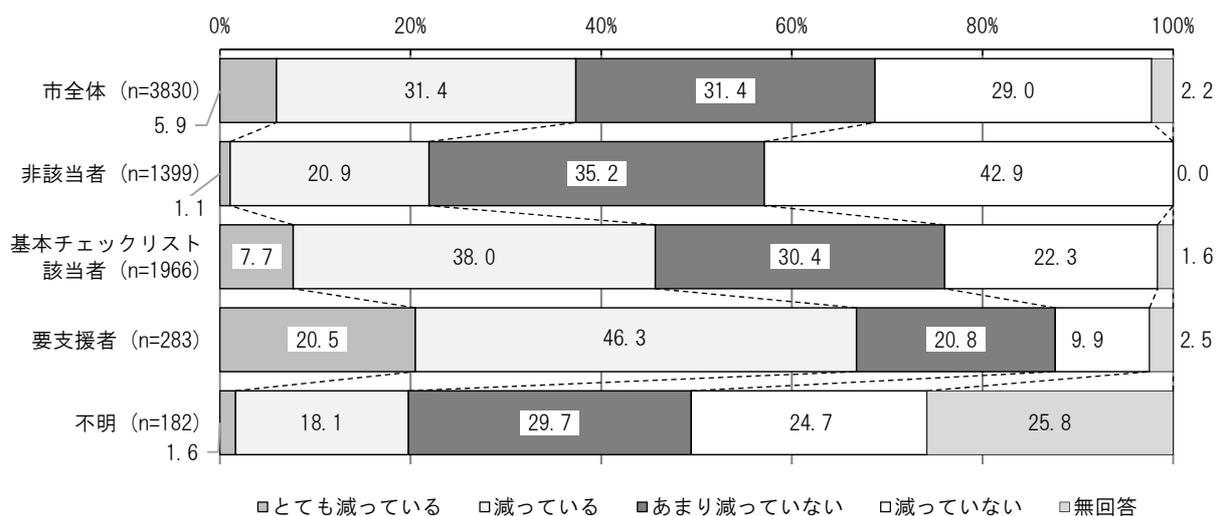
「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」(問2・Q9)でも、要支援者で「減っている(とても減っている+減っている)」の割合が6割を超えて高くなっています。

図表 回答結果

問2・Q8. 週に1回以上は外出していますか(ほとんど外出しない・週1回)



問2・Q9. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか(とても減っている・減っている)



2 生活機能

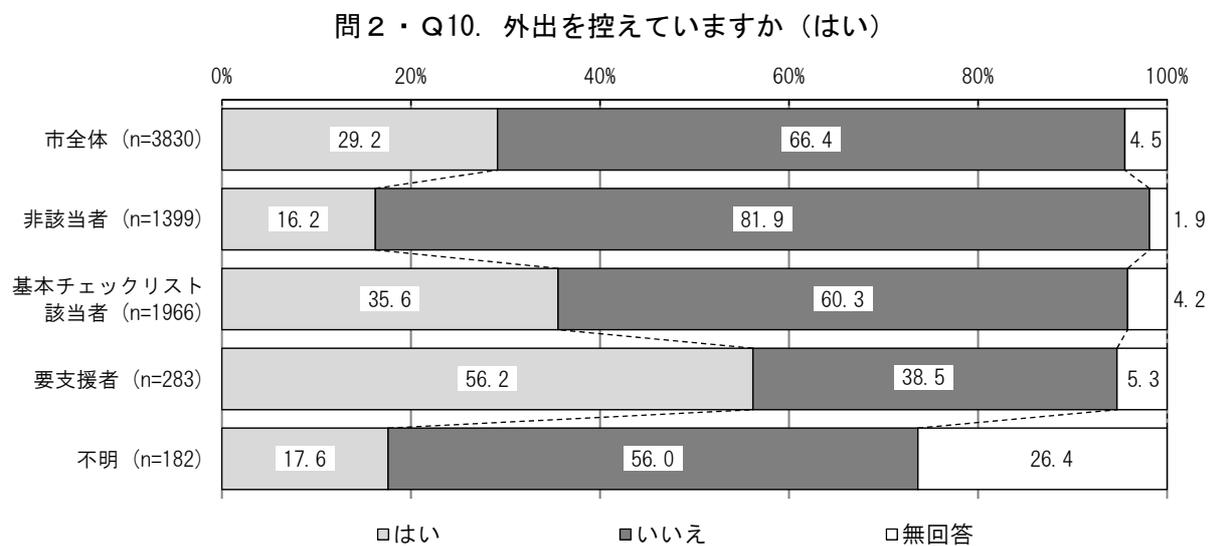
エ 関連設問

(問2・Q10)「外出を控えていますか」の回答を認定・該当状況別にみると、「はい」は要支援者が56.2%で最も多く、次いで基本チェックリスト該当者(35.6%)、非該当者(16.2%)となっています。

外出を控えていると回答した方にその理由を質問したところ、最も多いのは「その他」(56.2%)で5割を超えています。その内訳を自由記述からみると、「新型コロナウイルス感染症による外出自粛」がほとんどで、全体の割合で87.6%となっています。「その他」以外では、「足腰などの痛み」(26.7%)などが続いています。

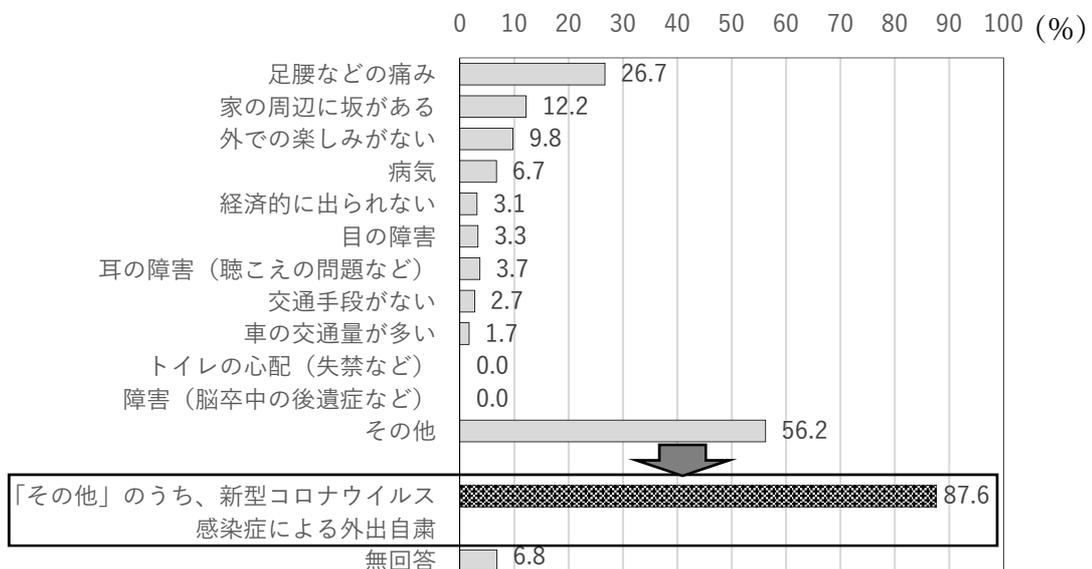
また、外出する際の移動手段としては、「徒歩」が77.8%で最も多く、次いで「電車」(56.3%)「路線バス」(47.2%)、「自動車(自分で運転)」(35.2%)などが続いています。

図表 外出を控えているかの有無



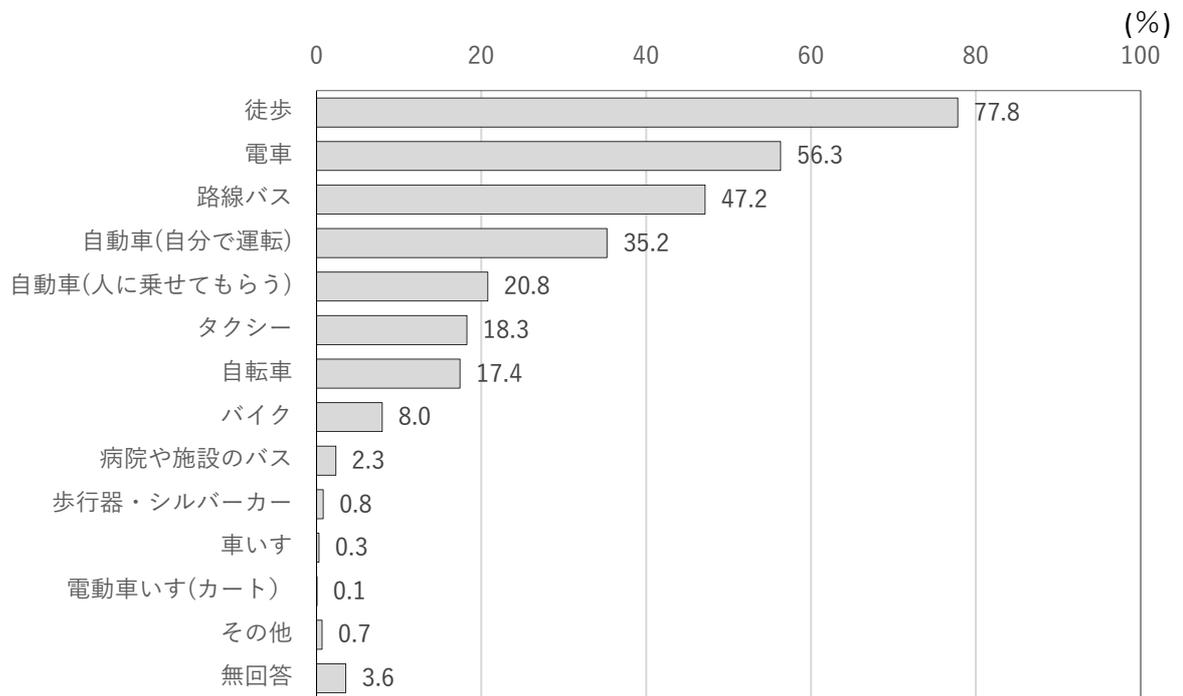
図表 外出を控えている理由

問2・Q10-1. 外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)



図表 外出の際の移動手段

問2・Q11. 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）



2 生活機能

(3) 転倒

ア 設問と評価

本調査では、基本チェックリストの運動機能の評価に加え、転倒リスクについても別に評価ができるよう、設問が設けられています。

具体的には、調査票の問2・Q5が該当します。評価における各設問に対する配点は下の図表のとおりで、評価としては、問2・Q5に「1. 何度もある」「2. 1度ある」と答えた方を転倒リスク該当者として評価しています。

図表 転倒リスクに関する設問

問番号	設 問	配点と選択肢
問2・Q5	過去1年間に転んだ経験がありますか	1:「1. 何度もある」「2. 1度ある」 0:「3. ない」

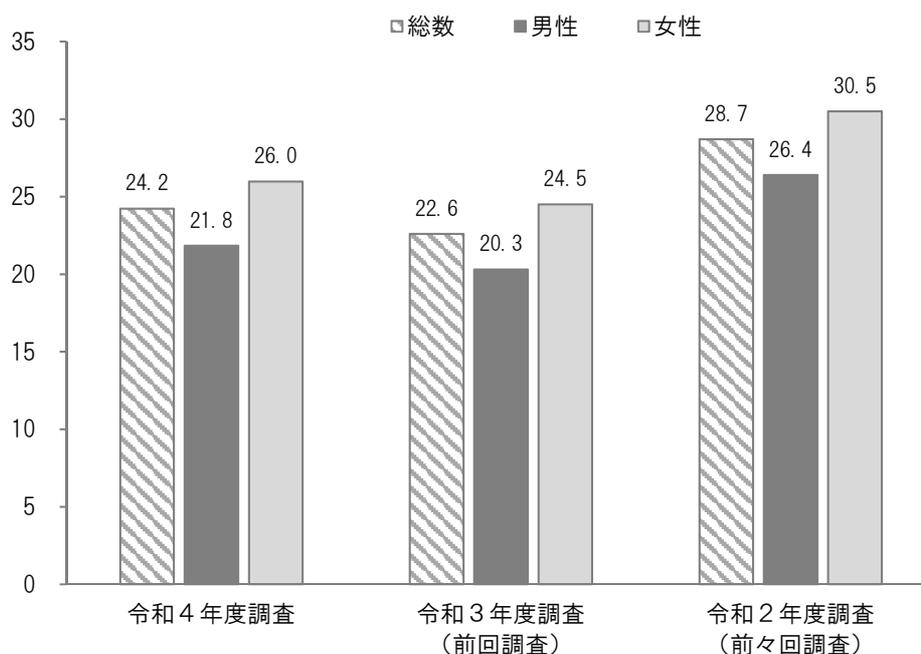
イ 評価結果

結果をみると、全体で24.2%：926人、男性21.8%：354人、女性26.0%：572人がリスク該当者（転倒しやすい）となっています。過去の調査と比較すると、令和2年度調査（前々回調査）から令和3年度調査（前回調査）にかけて全体で6.1ポイント減少しましたが、今回調査では令和3年度調査（前回調査）より1.6ポイント増加しています。

図表 リスク該当状況－転倒

(%)

リスク該当者の割合



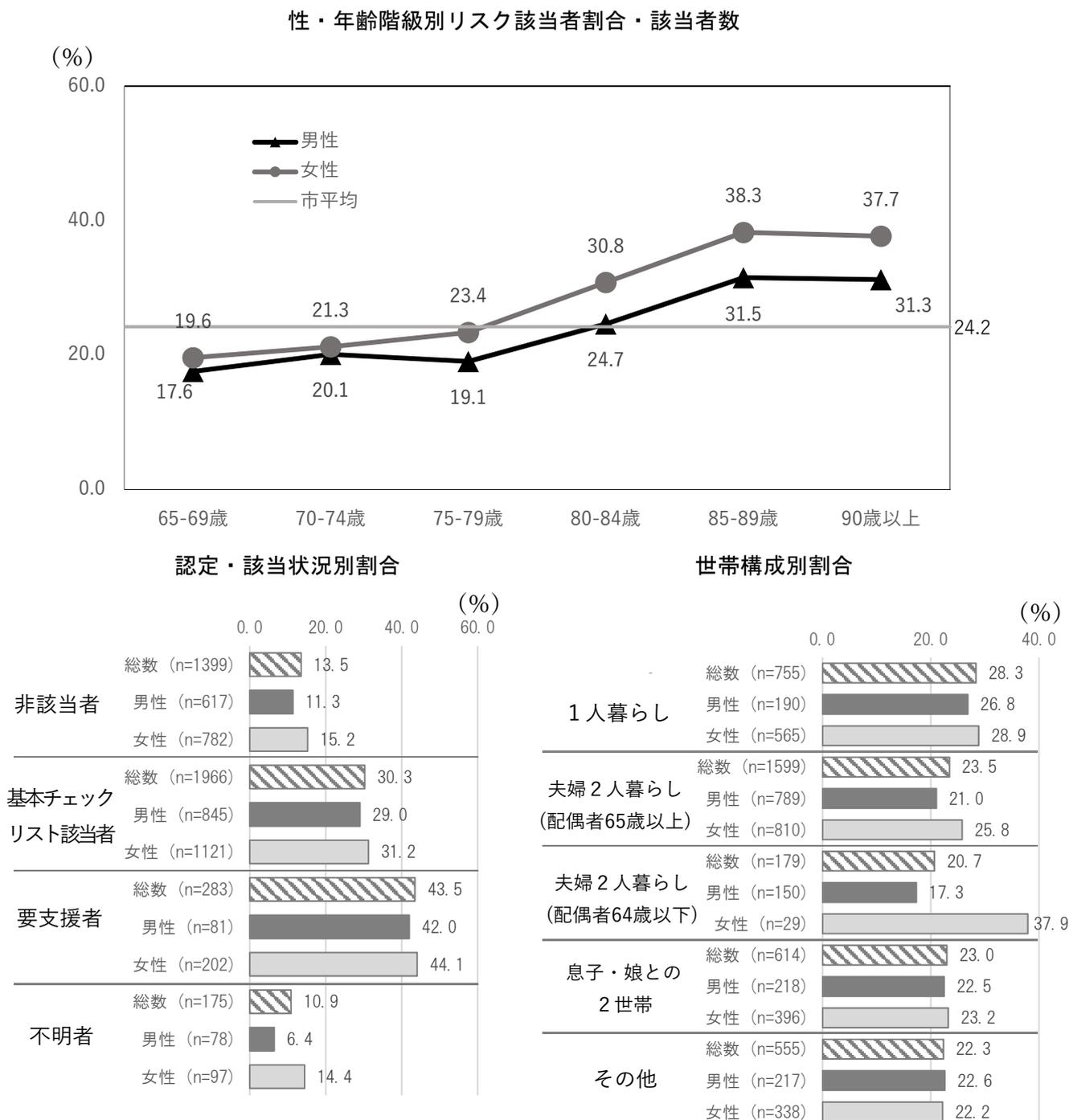
(3) 転倒

性・年齢階級別にみると、年齢とともにリスク該当者割合が高くなっています。男女ともに80～84歳から上の年齢が市全体平均（24.2%）より高くなっています。

これを認定・該当状況別にみると、非該当者は13.5%、基本チェックリスト該当者は30.3%、要支援者は43.5%となっており、要支援者のリスク該当者割合が高くなっています。

世帯構成別にみると、男性は、「1人暮らし」で26.8%、女性は「夫婦二人暮らし（配偶者64歳以下）」で37.9%となっており、リスク該当者割合が高くなっています。

図表 転倒リスク該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別

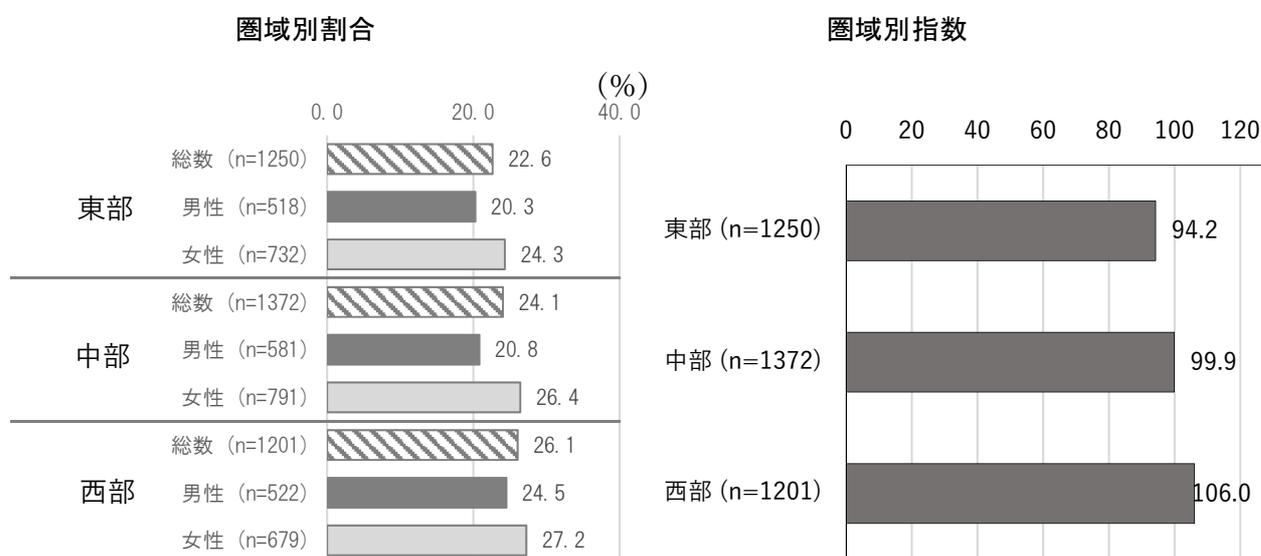


2 生活機能

圏域別割合をみると、西部圏域が26.1%と他圏域に比べて高くなっています。

圏域別指数においても、西部圏域が106.0で高くなっています。

図表 転倒リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数

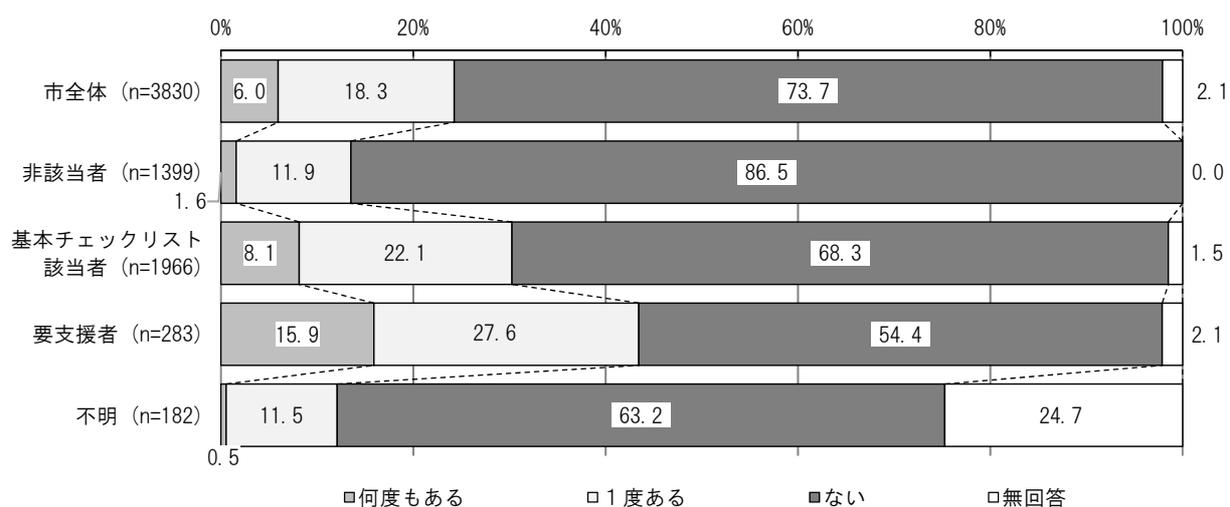


ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答をみると、転倒の経験に関する設問（問2・Q5）では、基本チェックリスト該当者で30.2%、要支援者で43.5%、非該当者でも13.5%がリスク該当に係る回答をしています。

図表 回答結果

問2・Q5. 過去1年間に転んだ経験がありますか（何度もある・1度ある）

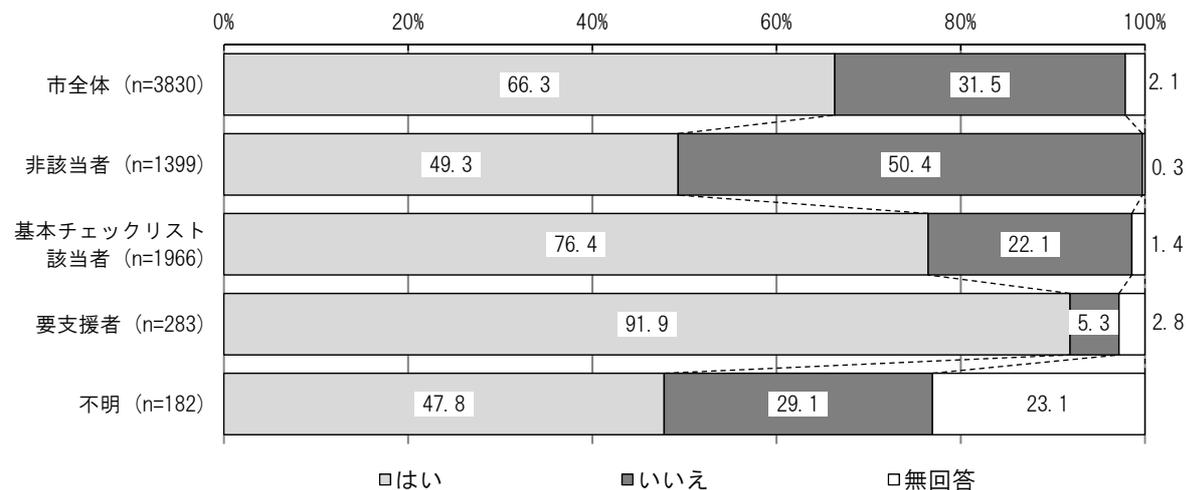


(3) 転倒

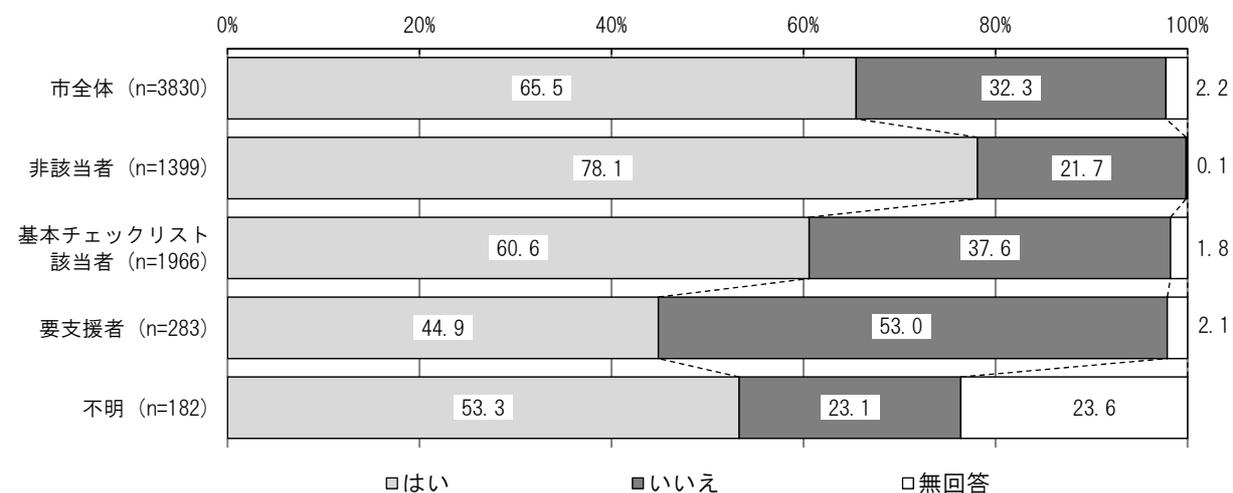
エ 関連質問

関連質問として、以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか（問2・Q3）では、要支援者で91.9%、基本チェックリスト該当者で76.4%が「はい」と答えており、7割を超えています。非該当者でも約5割が「はい」と答えました。ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか（問2・Q7）では、非該当者が78.1%で「はい」と答えており、最も高い割合となりました。

問2・Q3 以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか



問2・Q7 ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか



2 生活機能

(4) 栄養

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、下の2つの設問に対する回答から、高齢者の低栄養リスクの判断を行っています。

具体的には、設問2問中2問に該当した場合（BMI＝体重kg／身長m／身長mが18.5未満で、ここ6か月間で2～3kg以上の体重減少があった場合）に低栄養状態と判定されます。

図表 栄養に関する設問（基本チェックリスト）

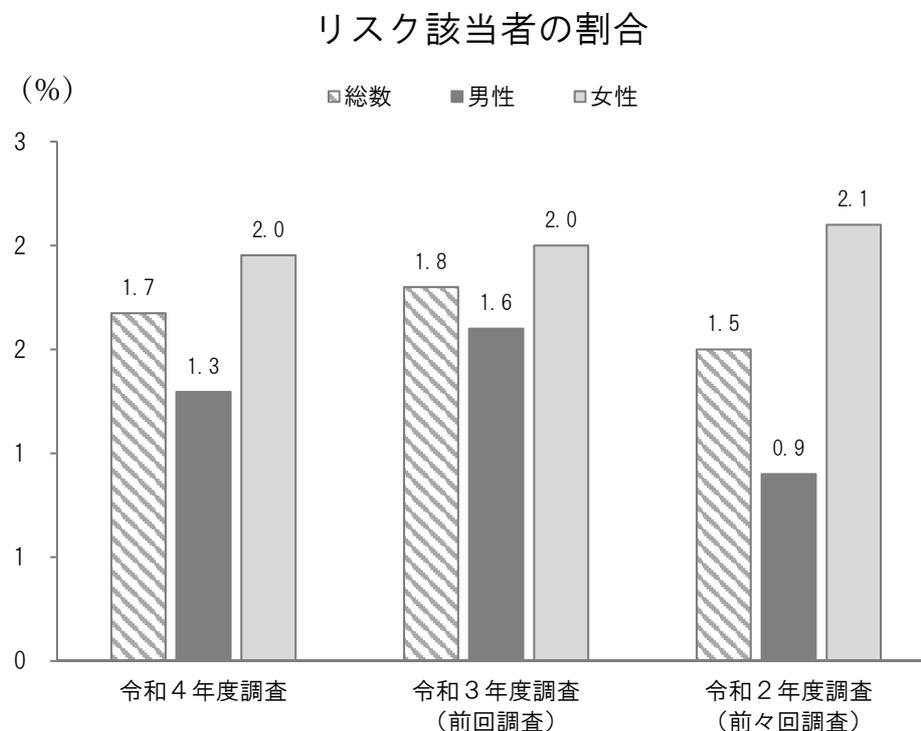
問番号	設問	該当する選択肢
問3・Q1	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
問3・Q10	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

※BMI(肥満指数)：体重(kg)／身長(m)／身長(m)によって求められる値。18.5未満が「やせ」、25以上が「肥満」。

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で1.7%：64人、男性1.3%：21人、女性2.0%：43人がリスク該当者となっています。過去の調査と比べると、全体では令和3年度調査（前回調査）から0.1ポイント減少しており、男性は0.3ポイント減少しています。

図表 リスク該当状況－低栄養状態

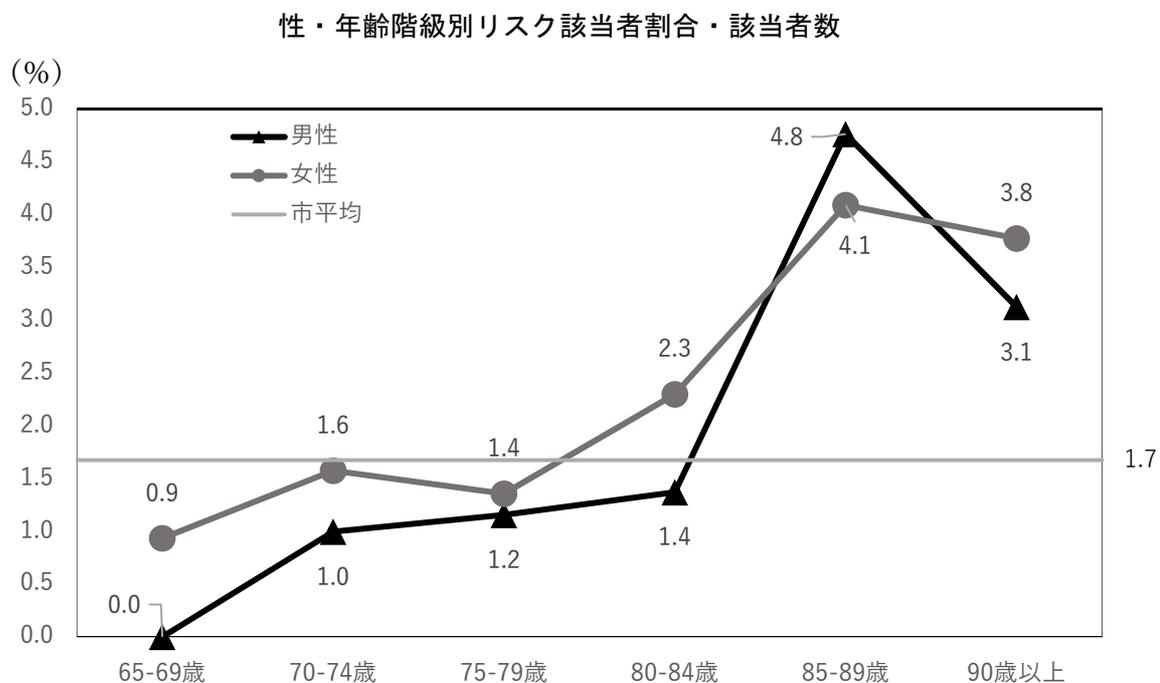


(4) 栄養

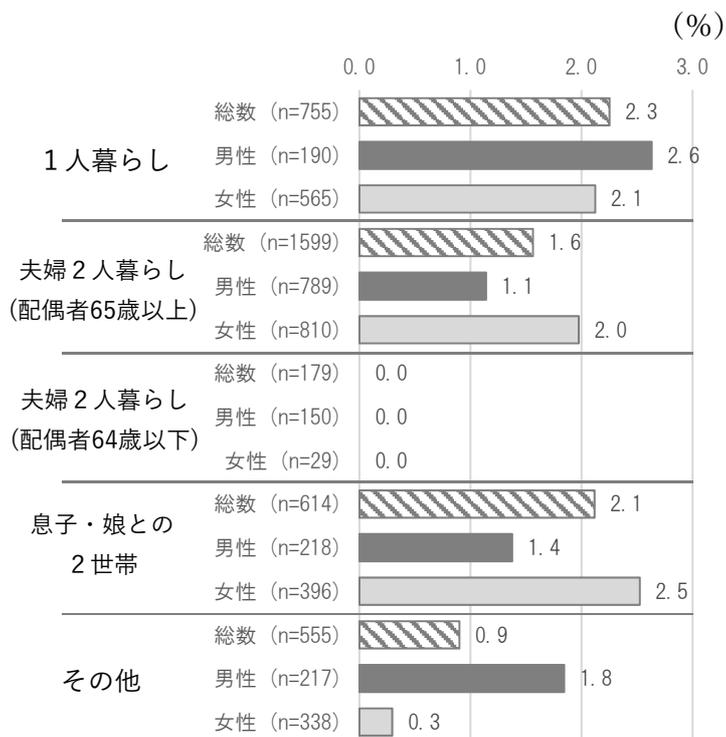
性・年齢階級別にみると、男女ともに85～89歳に次いで90歳以上でリスク該当者割合が高くなっています。

世帯構成別では、男性は一人暮らしで2.6%、女性は息子・娘との2世帯で2.5%とリスク該当者割合が高くなっています。

図表 低栄養状態リスク該当状況－性・年齢階級別、世帯構成別



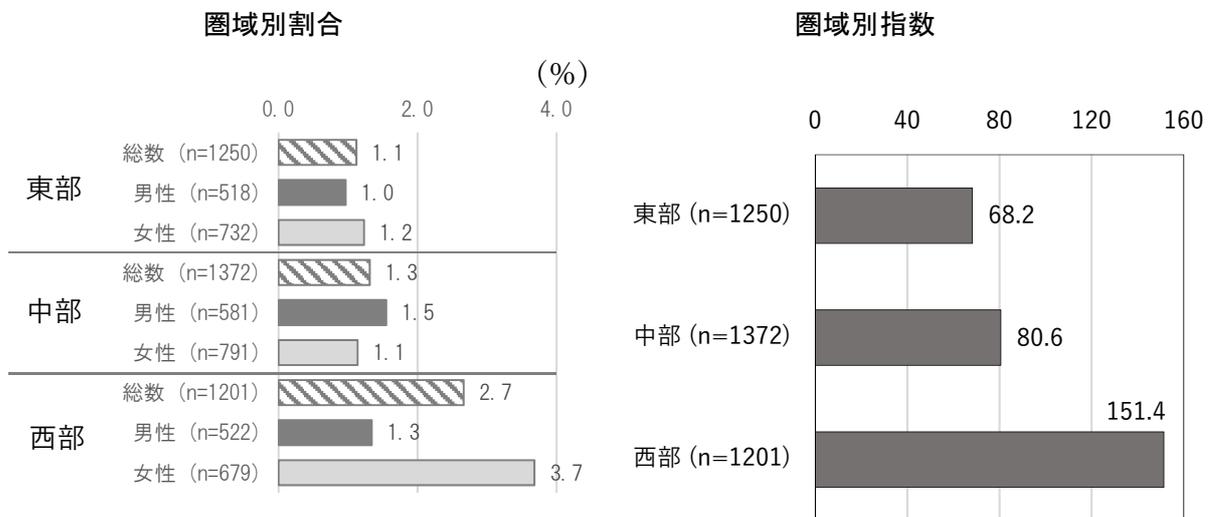
世帯構成別割合



2 生活機能

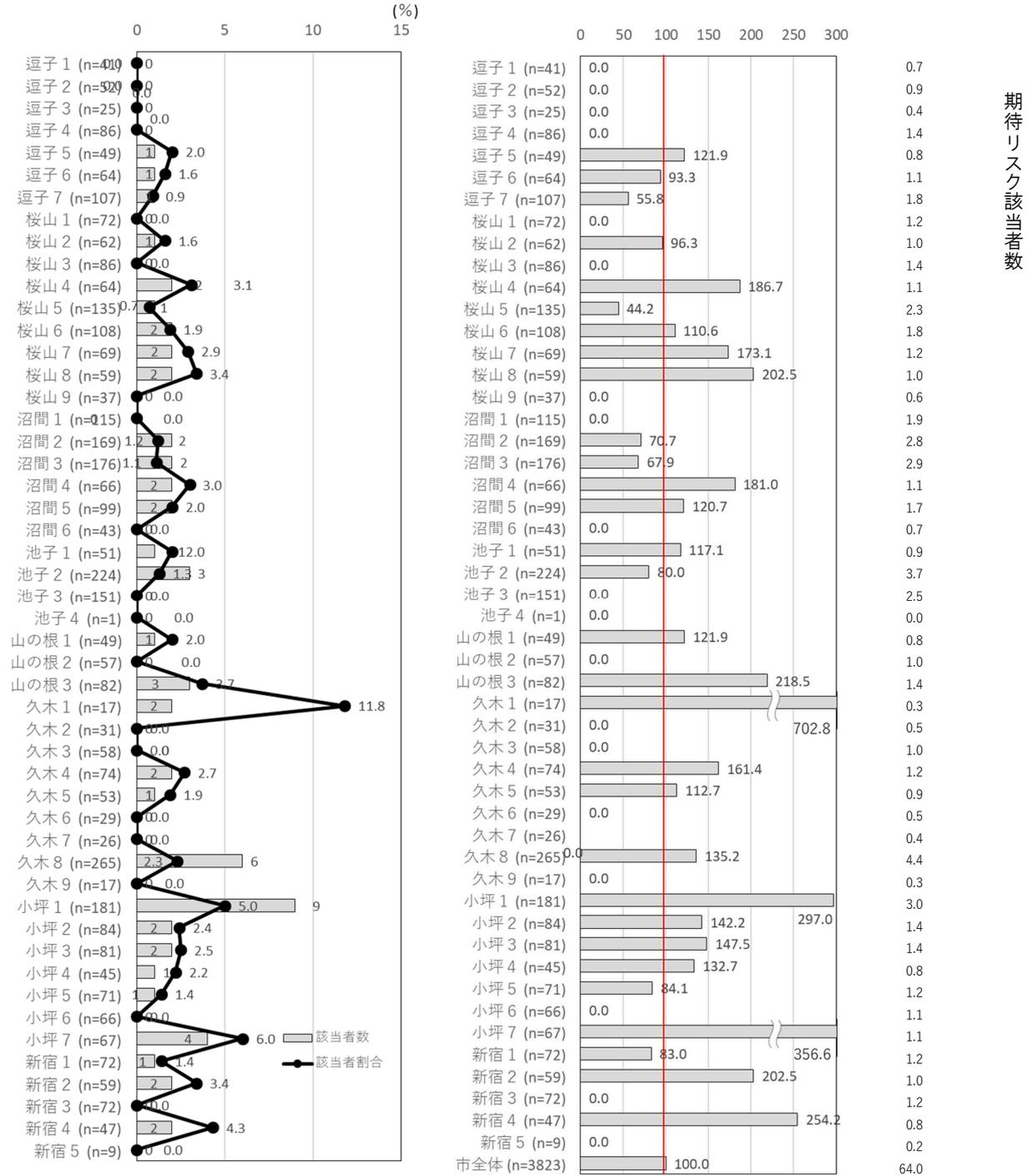
圏域別割合をみると、西部圏域の女性が3.7%と他圏域に比べて高くなっています。
 圏域別指数においても、西部圏域が151.4で最も高くなっています。

図表 低栄養状態リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



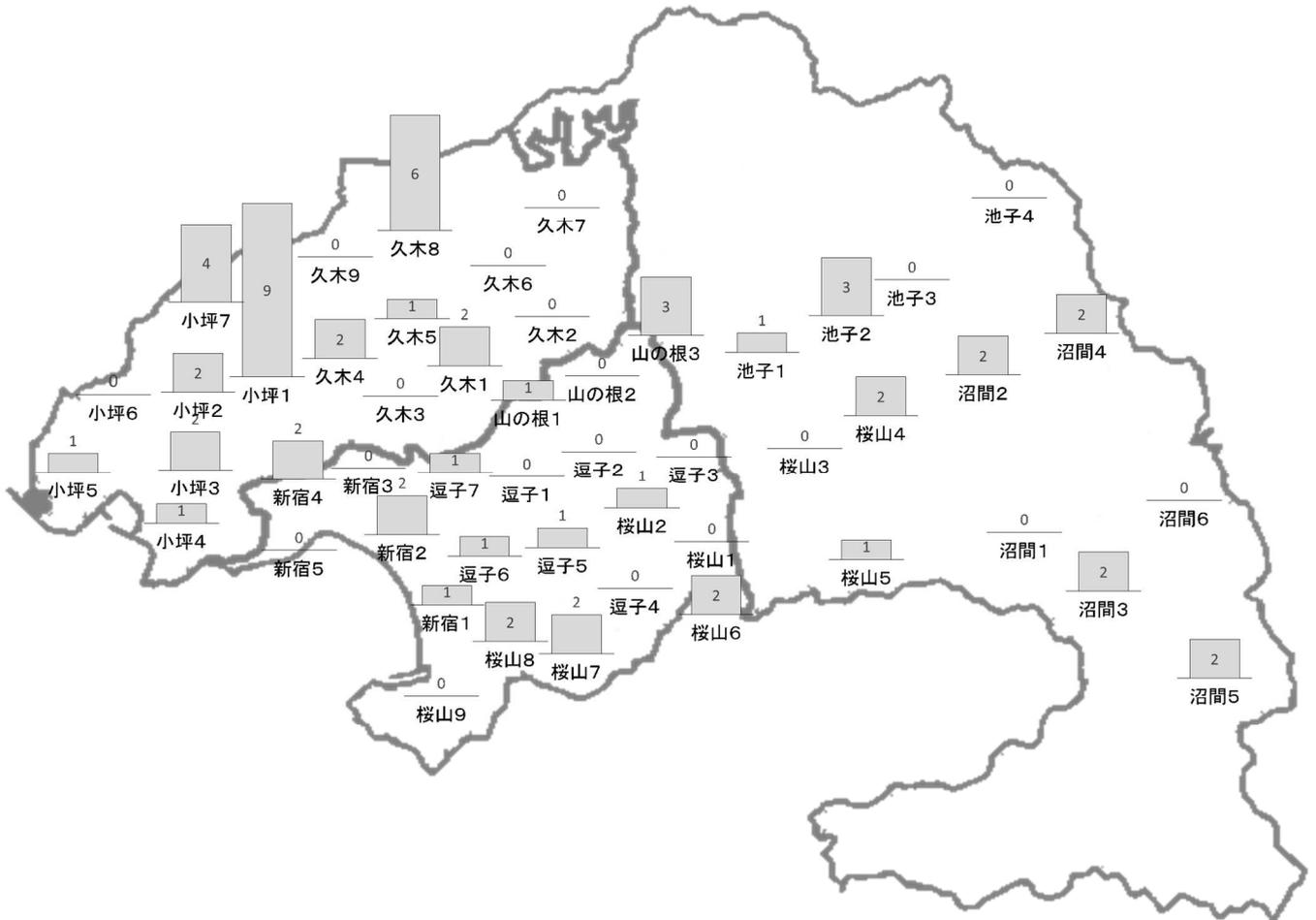
町丁別リスク該当者数をみると、小坪1丁目、久木8丁目、小坪7丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、久木1丁目、小坪7丁目、小坪1丁目の順で高くなっています。

図表 低栄養状態（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：低栄養状態



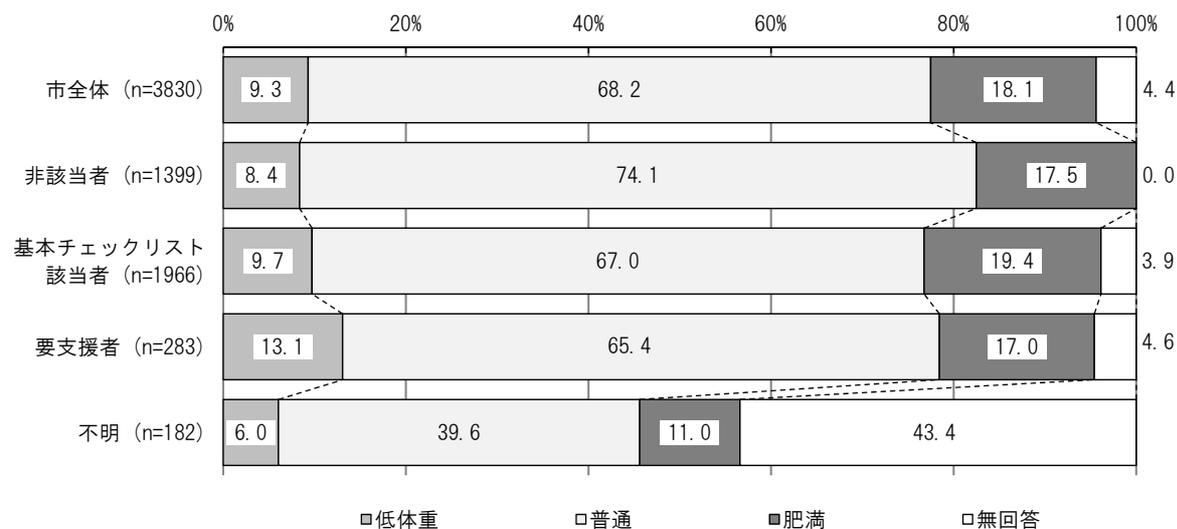
ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答をみると、体格指数（BMI）については、非該当者のうち 8.4%が低体重となっており、非該当者にも潜在的な低栄養リスク者がいることがうかがえます。

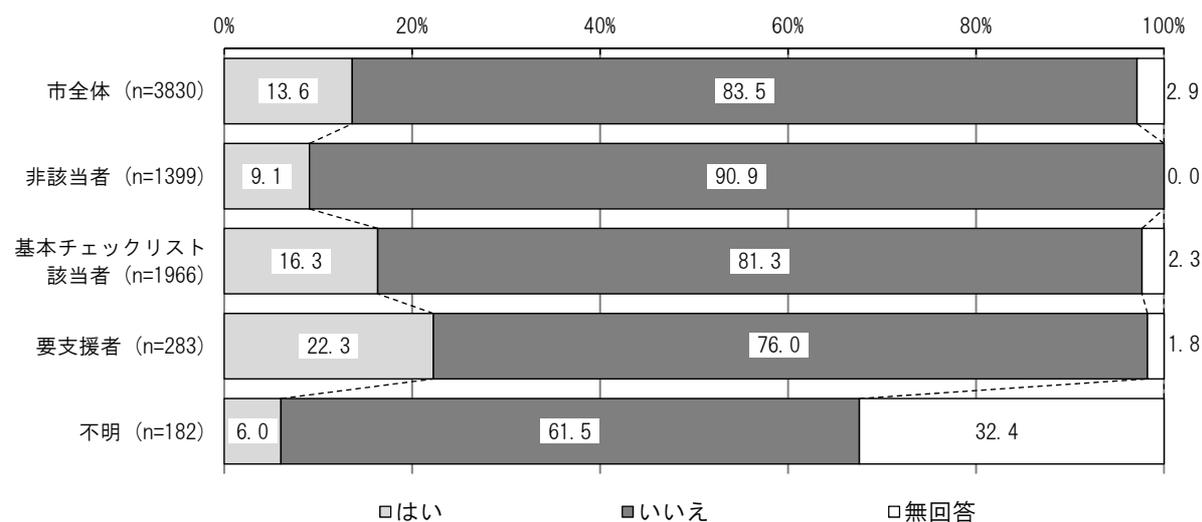
2～3 kg 以上の体重減少に関する設問（問3・Q10）で「はい」と回答した要支援者が 22.3%、次いで基本チェックリスト該当者が 16.3%となっています。

図表 回答結果

問3・Q1. 身長と体重（BMI = 体重（kg） / 身長（m） / 身長（m） < 18.5 低体重）



問3・Q10. 6か月間で2～3 kg 以上の体重減少がありましたか（はい）

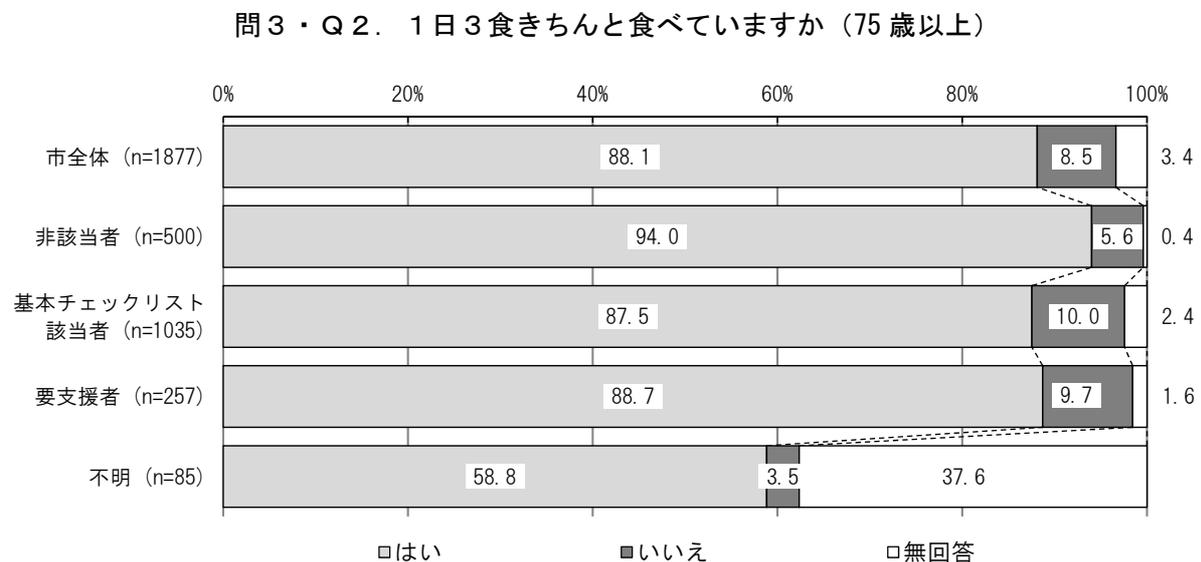
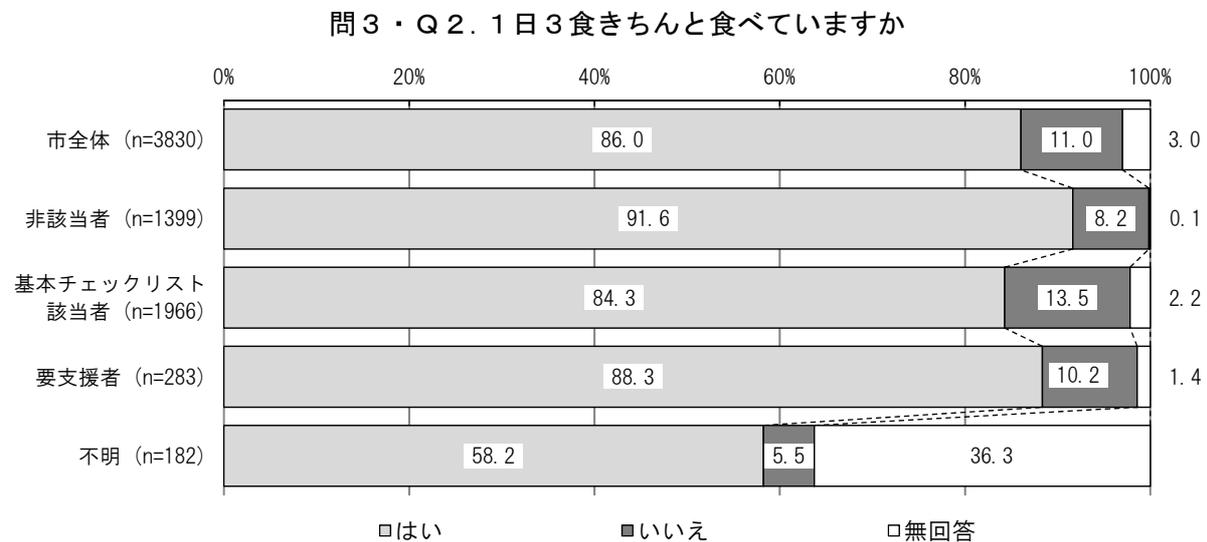


2 生活機能

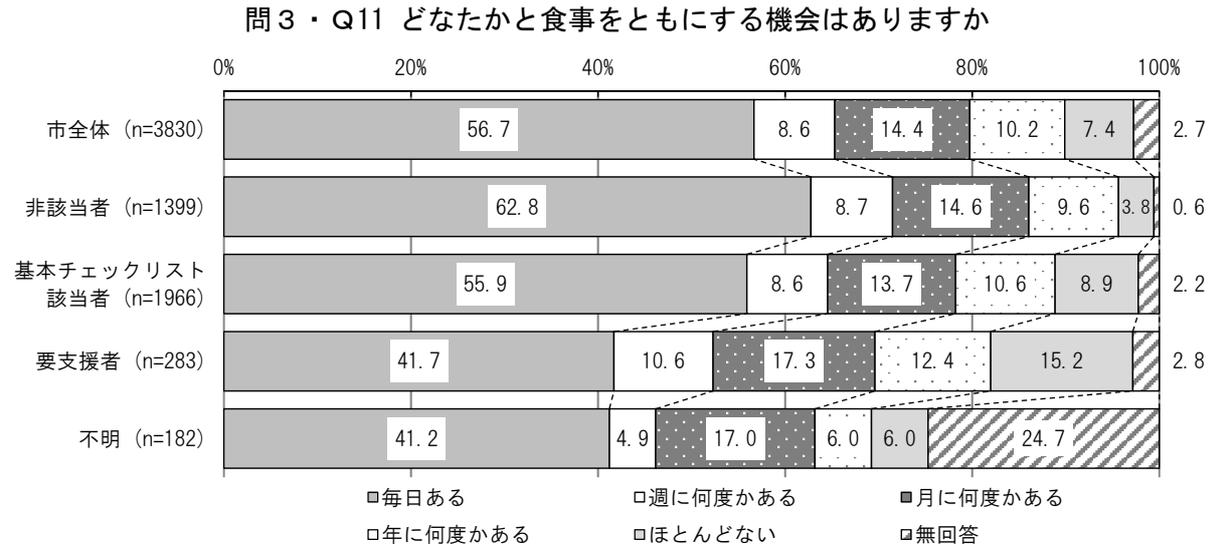
エ 関連設問

1日3食きちんと食べていますか（問3 Q2）の設問では、不明を除く全ての対象者が8割を超えて「はい」と答えています。

また、誰かとともに食事をする機会（問3・Q11）に関する設問では、非該当者の「毎日ある」が62.8%と最も高くなっています。



図表 回答結果-2



2 生活機能

(5) 口腔

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、栄養と関連する指標として口腔機能のリスク判定がされます。

具体的には、3問中2問以上に該当した場合に口腔機能低下と判定されます。

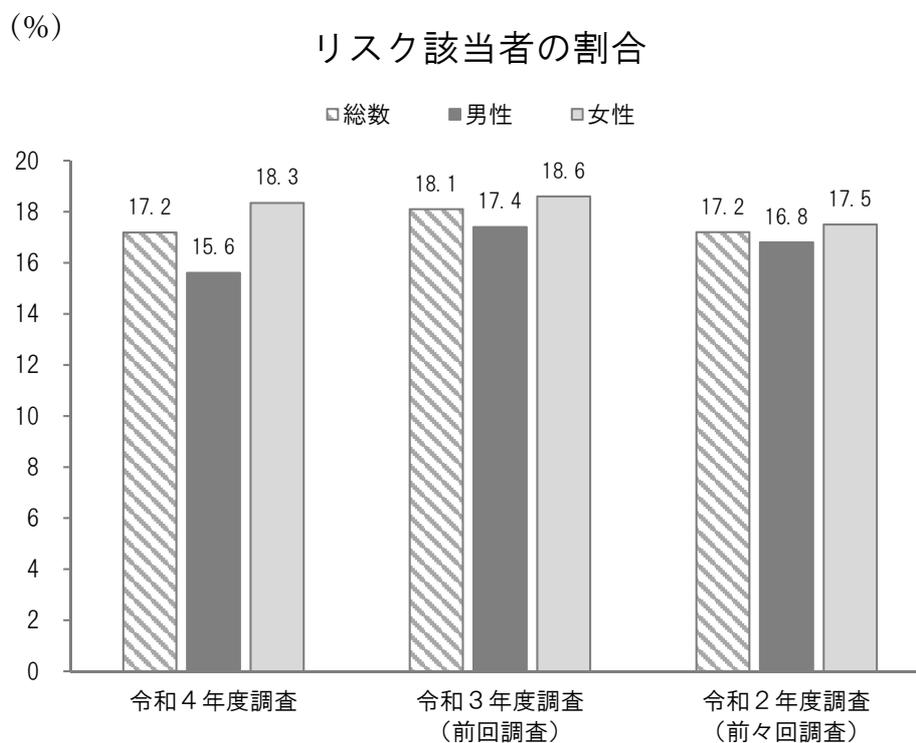
図表 口腔機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問3・Q3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3・Q4	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3・Q5	口の渇きが気になりますか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で 17.2%：657 人、男性 15.6%：253 人、女性 18.3%：404 人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、令和3年度調査（前回調査）から 0.9%減少しています。

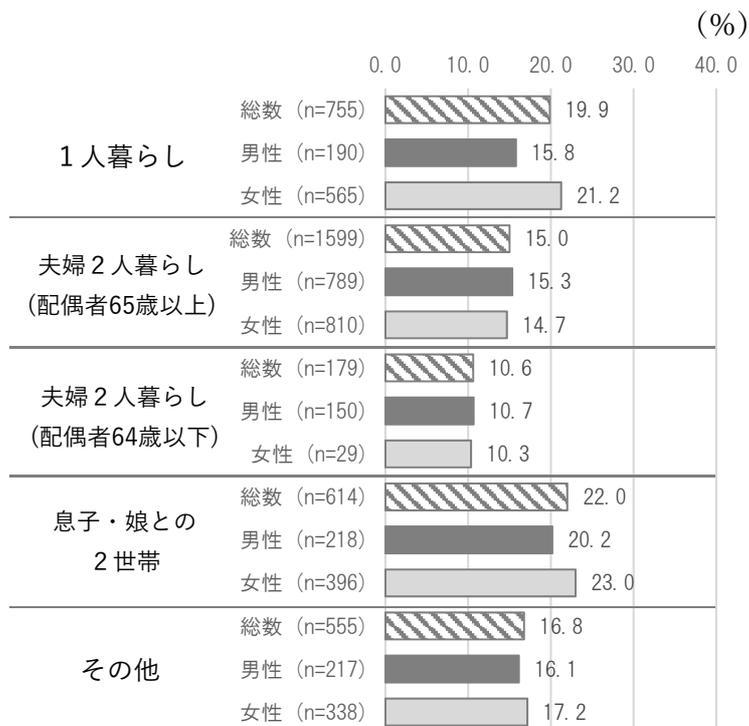
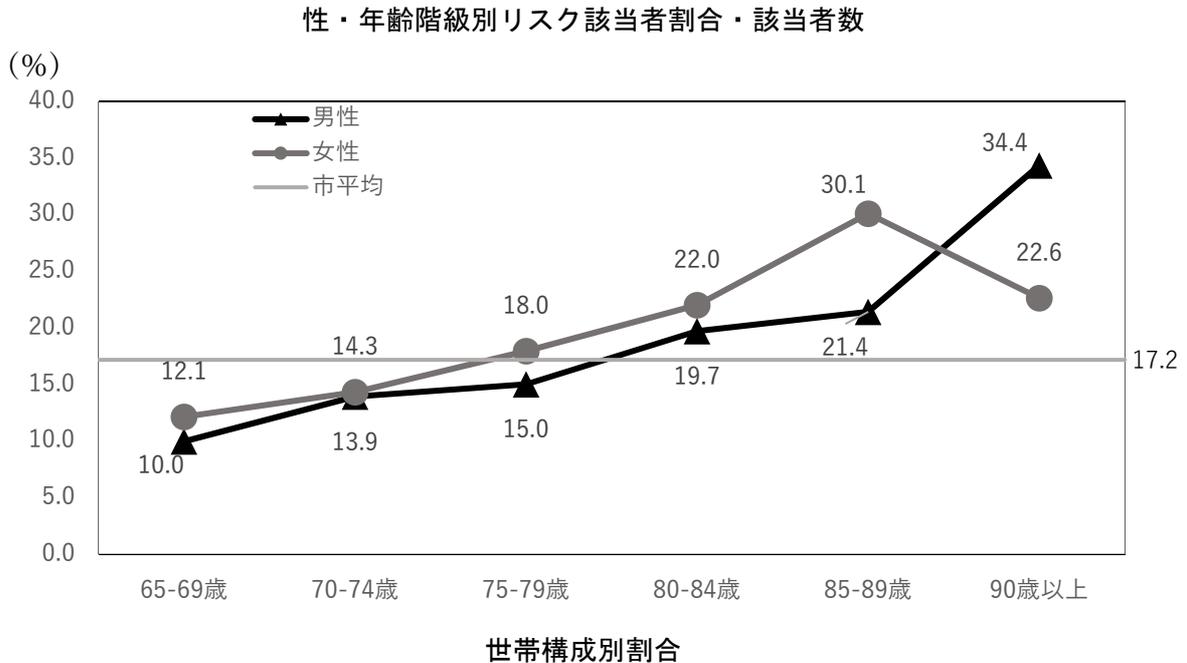
図表 リスク該当状況－口腔機能の低下



性・年齢階級別にリスク該当者割合をみると、男性は90歳以上で34.4%と最も高くなっており、女性は85～89歳で30.1%と最も高くなっています。

世帯構成別にみると、男女ともに「息子・娘との2世帯」でリスク該当者割合が最も高くなっています。

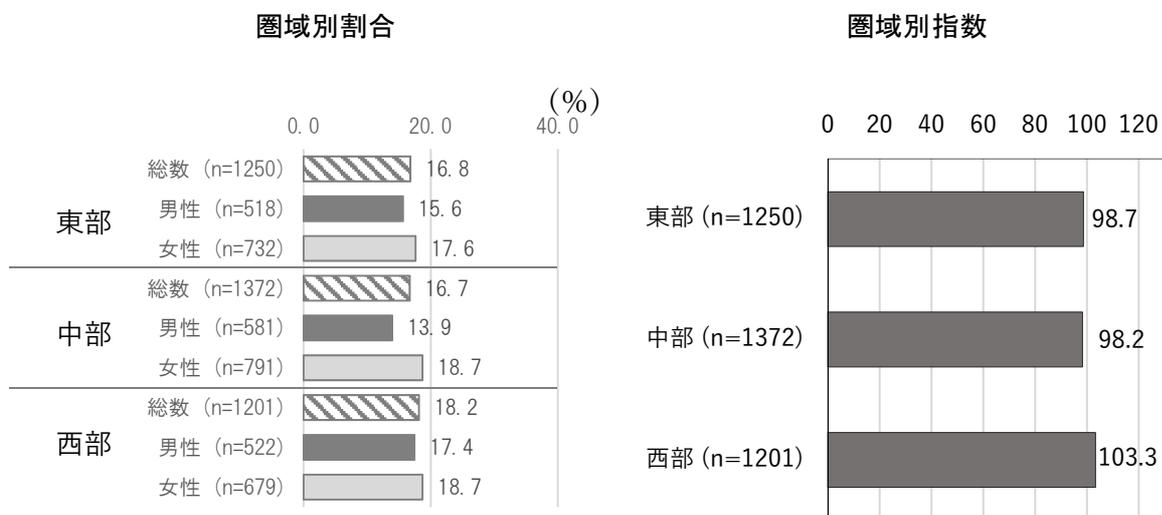
図表 口腔機能の低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



2 生活機能

圏域別割合をみると、中部圏域と西部圏域の女性が18.7%と他圏域に比べて高くなっています。圏域別指数をみると、西部圏域が103.3で最も高くなっています。

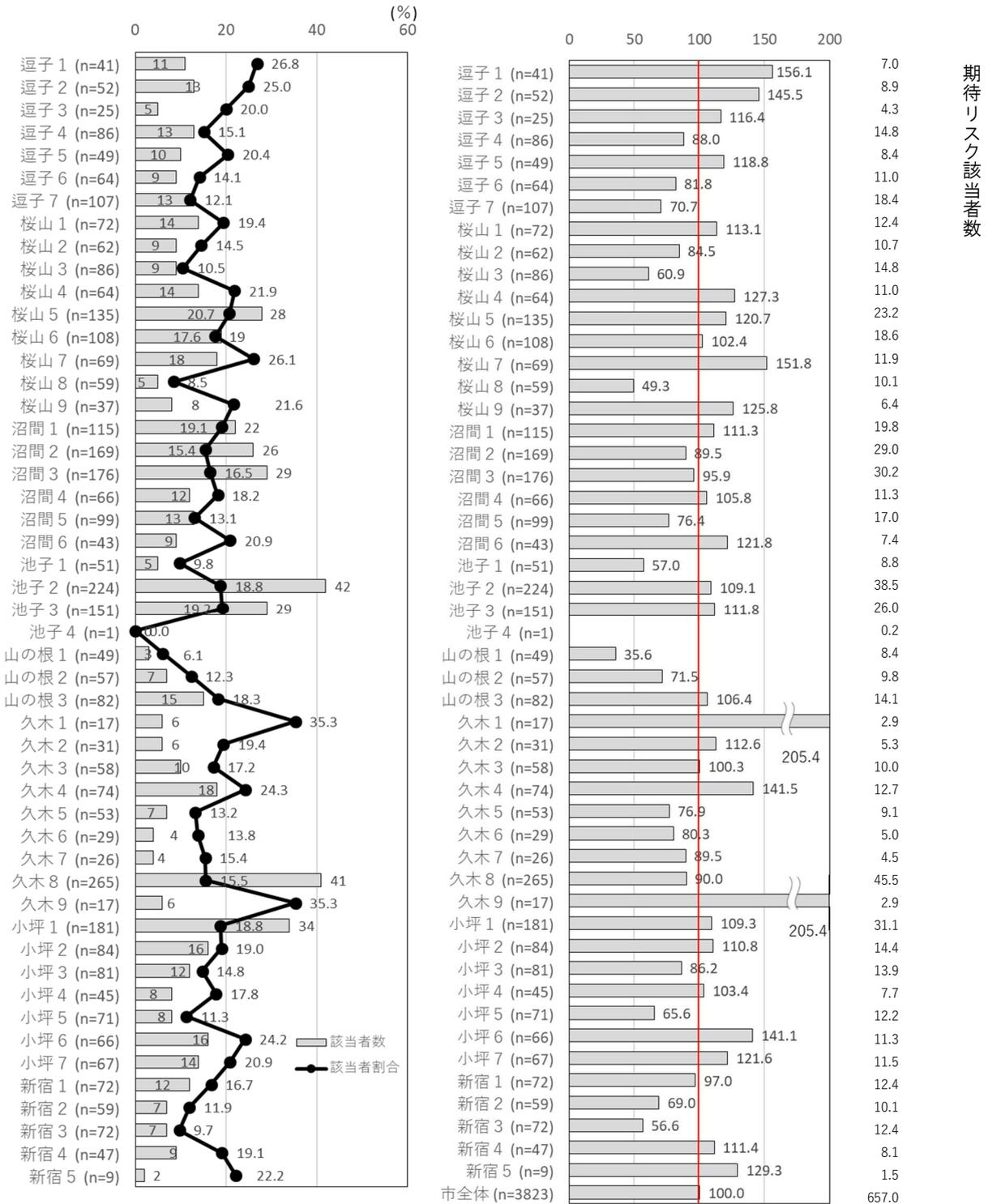
図表 口腔機能リスク該当状況－圏域別割合、圏域別指数



2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、池子2丁目、久木8丁目、小坪1丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、久木1丁目、久木9丁目（久木1丁目と同率）の順で高くなっています。

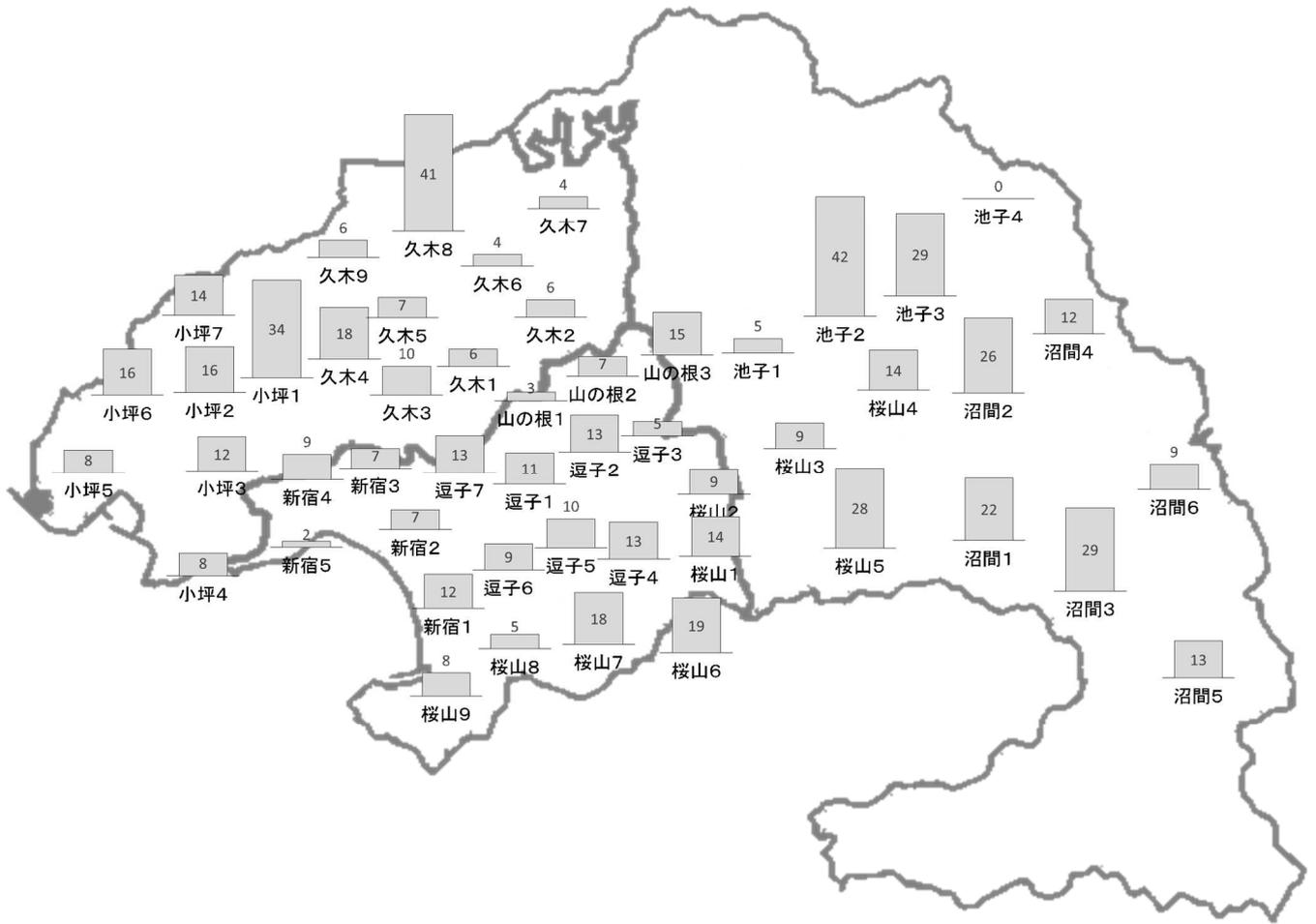
図表 口腔機能の低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



期待リスク該当者数

2 生活機能

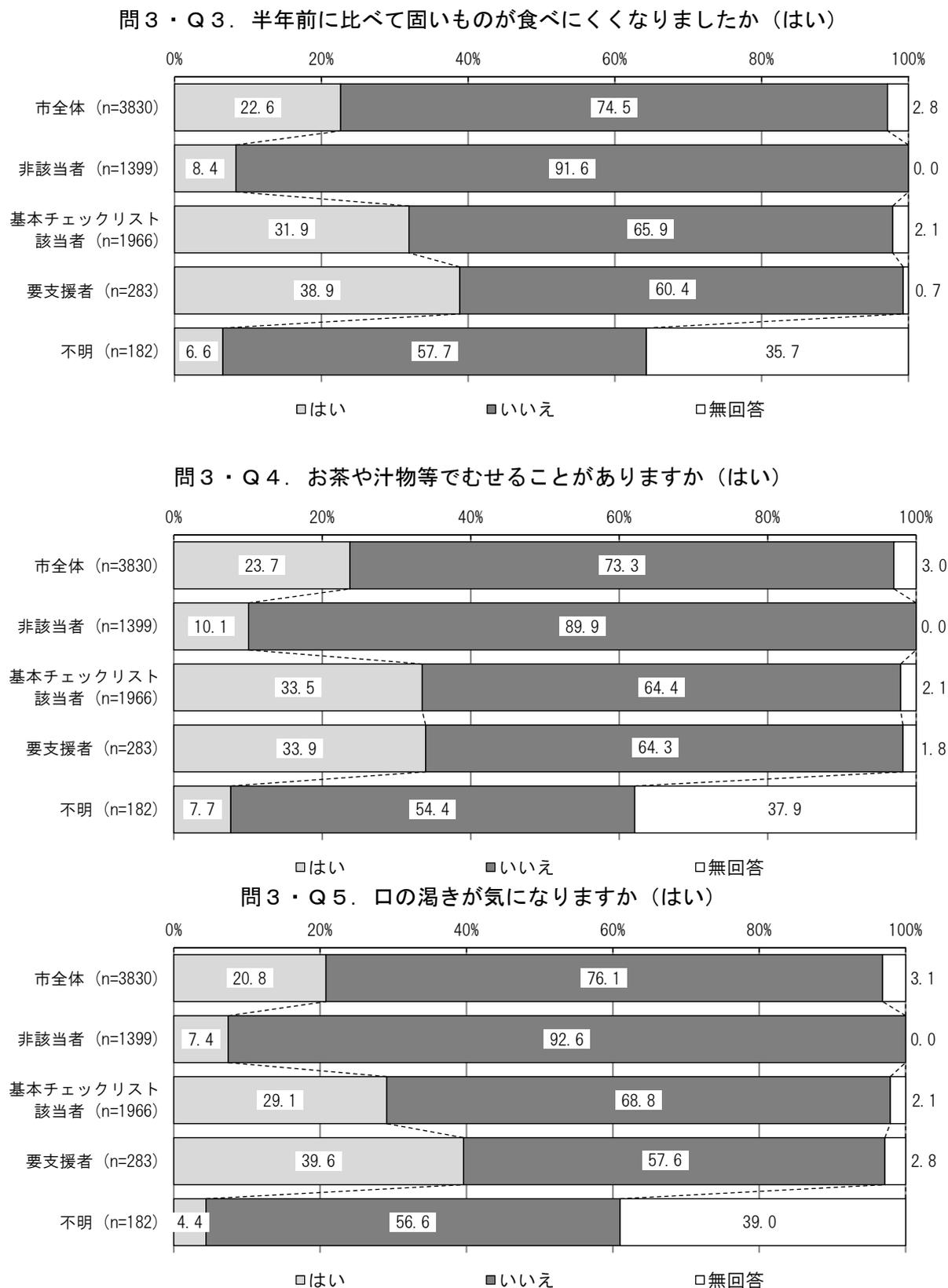
図表 町丁別リスク該当者数の分布：口腔機能の低下



ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答をみると、3問とも基本チェックリスト該当者、要支援者のリスク該当に係る回答が約3～4割になっています。

図表 口腔に関する設問



2 生活機能

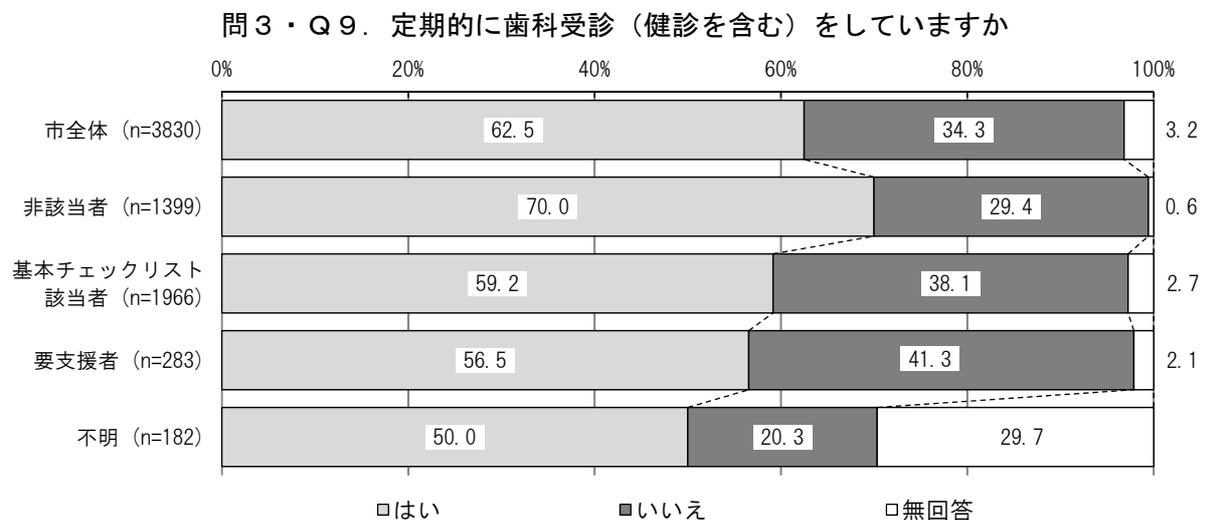
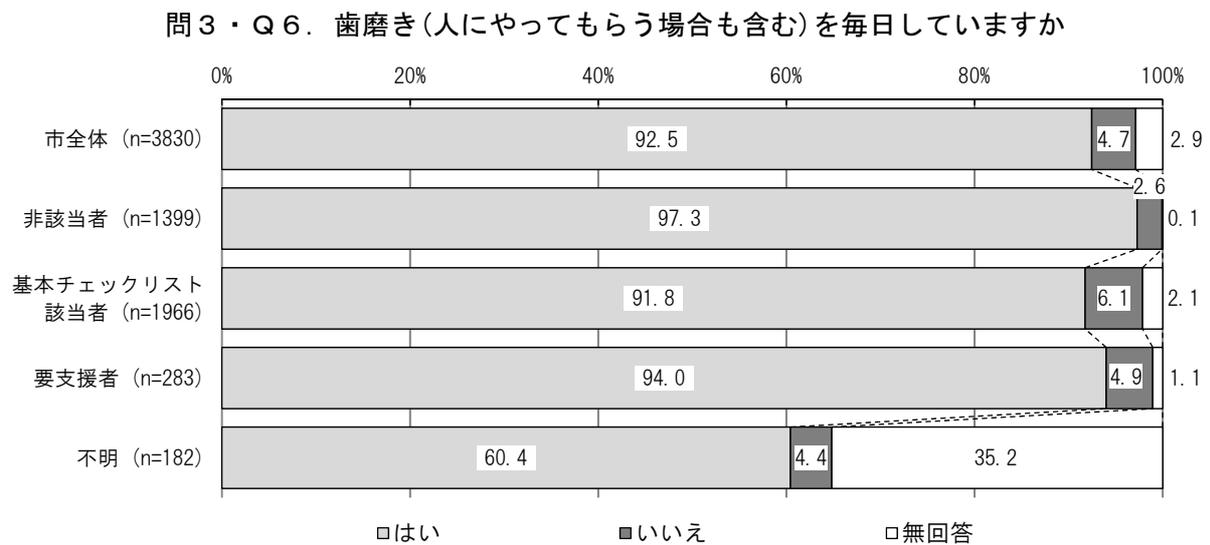
エ 関連設問

関連設問に対する回答をみると、毎日の歯磨きをしているかについては、市全体で4.7%が「いいえ」と回答しています。また、定期的に歯科受診（健診）をしているかについては、非該当者、基本チェックリスト該当者、要支援者の順に「はい」が少なくなっています。

歯の数と入れ歯使用の有無をみてみると、全体では「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」（43.4%）、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」（27.0%）の順に多くなっています。「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」（17.1%）も含めると、入れ歯を利用している人の割合は全体の4割を超えています。

入れ歯を利用している方に、「毎日入れ歯の手入れをしているか」について聞くと、「はい」との回答が全体で87.2%、「いいえ」との回答が4.8%となっており、認定・該当状況別においても同程度の割合となっていますが、噛み合わせが良いかについては、非該当者では「いいえ」が6.4%であるのに対し、要支援者と基本チェックリスト該当者ではそれぞれ15.4%、16.6%と多くなっています。

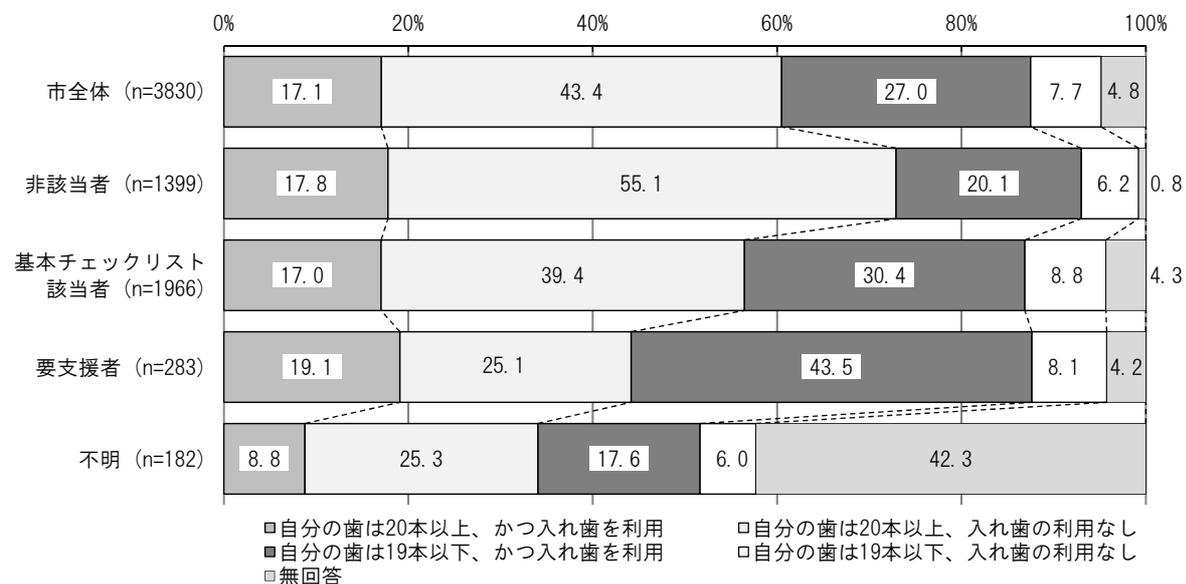
図表 口腔に関する設問・回答-1



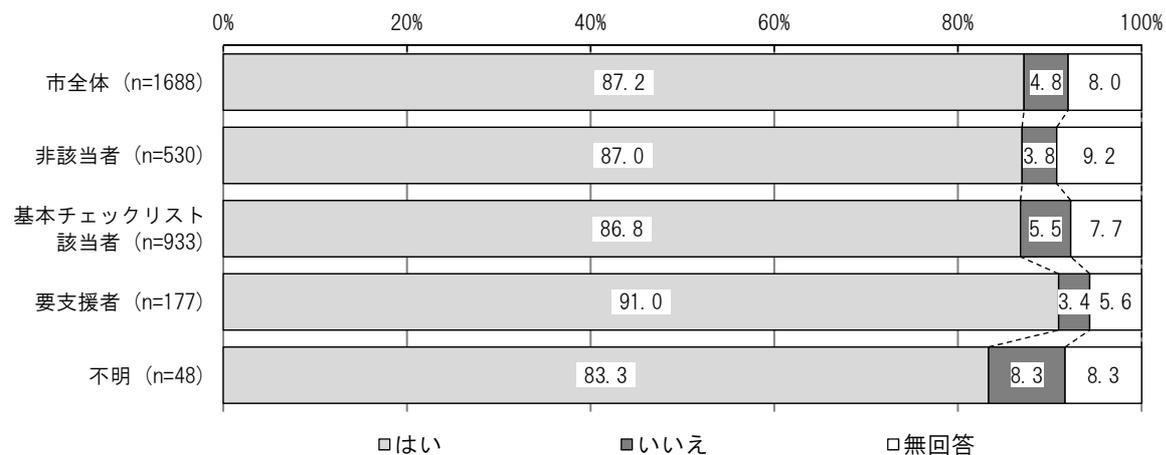
(5) 口腔

図表 口腔に関する設問・回答-2

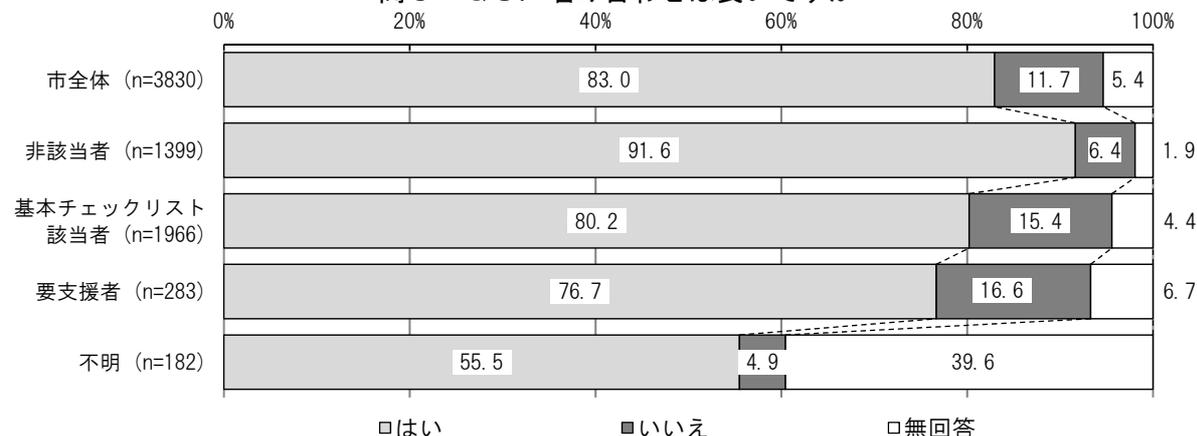
問3・Q7. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)



問3・Q7-1. (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の手入れをしていますか



問3・Q8. 噛み合わせは良いですか



2 生活機能

(6) 認知機能

ア 設問と評価

今回、国のニーズ調査の手引きより、問4・Q2設問に対する回答から、認知機能低下リスクの判定をしています。

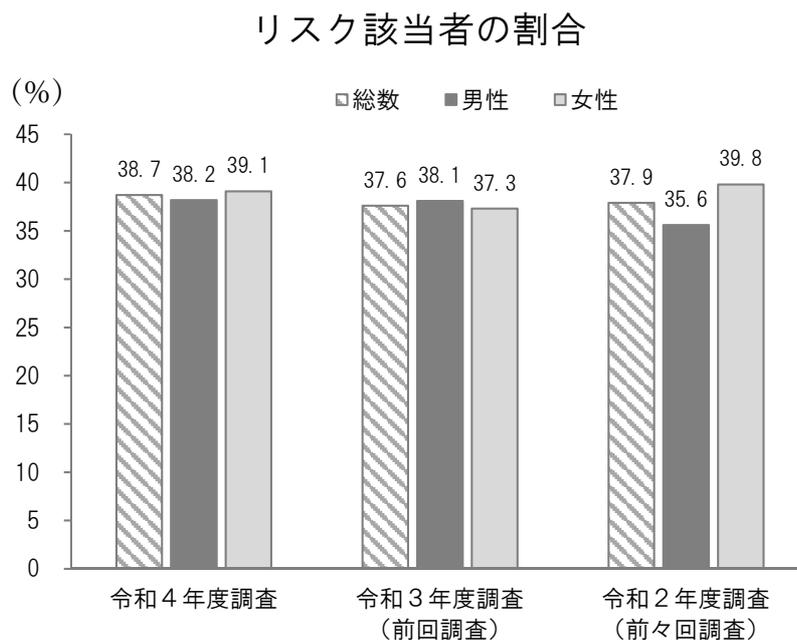
図表 認知機能に関する設問（国のニーズ調査の手引き）

問番号	設問	該当する選択肢
問4・Q2	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、38.7%：1480人、男性38.2%：619人、女性39.1%：861人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で令和3年度調査（前回調査）から1.1ポイント増加となっています。

図表 リスク該当状況－認知機能低下



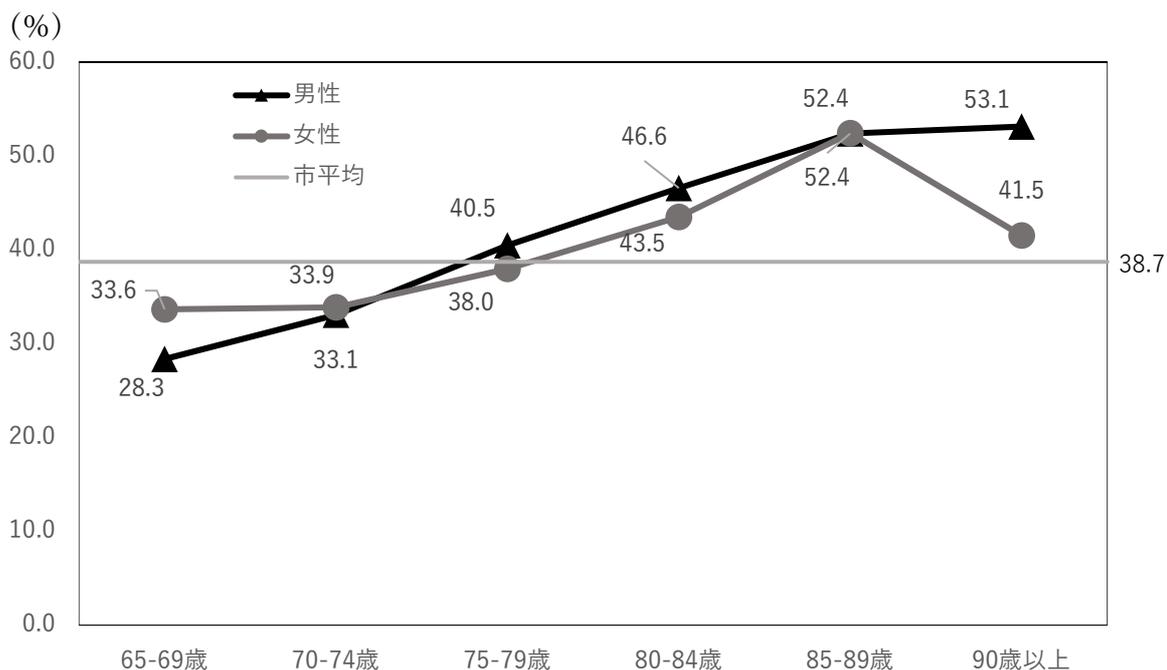
性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者割合が高くなっています。男性は90歳以上が53.1%で最も高い割合となっており、女性は、85～89歳が52.4%で最も高い割合となっています。男性は75～79歳から、女性は80～84歳から市全体平均より高くなっています。

認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者が50.1%と約半数となっています。

世帯構成別では、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)の女性が48.3%で最も高い割合となっています。

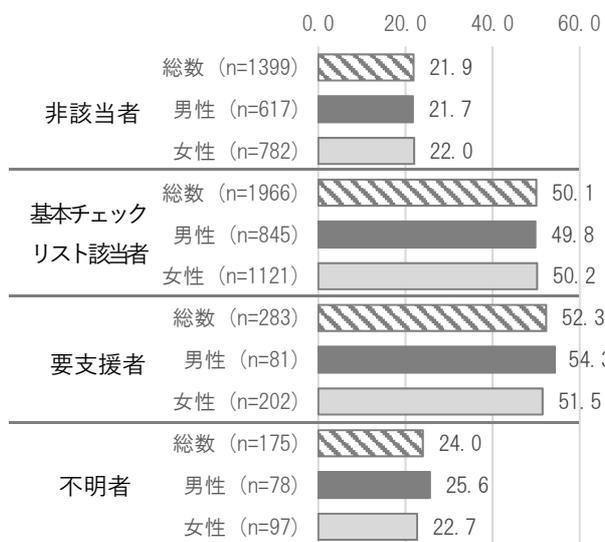
図表 認知機能低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別

性・年齢階級別リスク該当者割合・該当者数



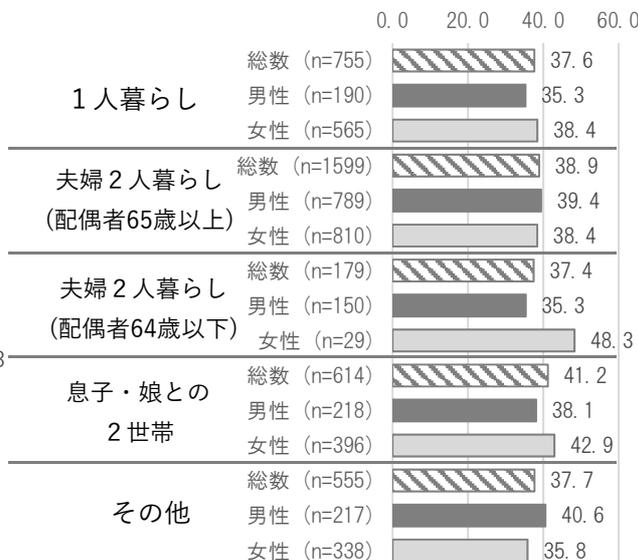
認定・該当状況別割合

(%)



世帯構成別割合

(%)

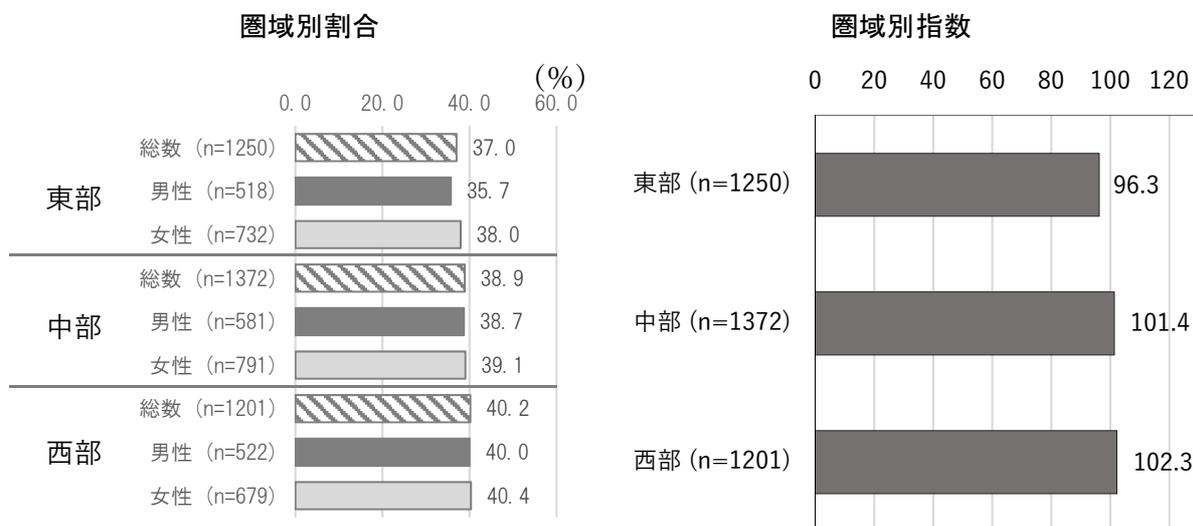


2 生活機能

圏域別割合をみると、西部圏域が 40.2%と最も高くなっています。

圏域別指数においても、西部圏域が 102.3 と最も高くなっています。

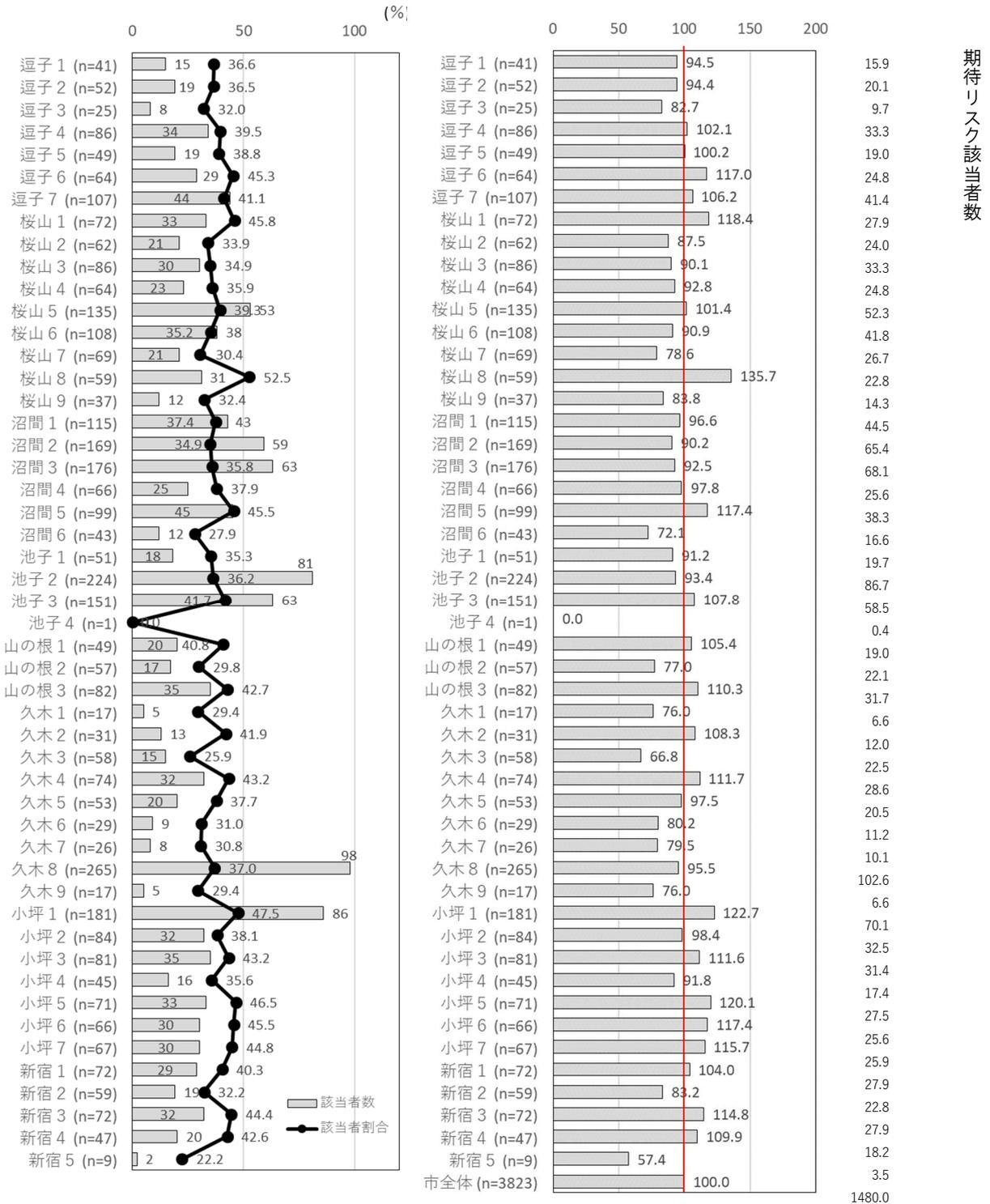
図表 認知機能低下 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



2 生活機能

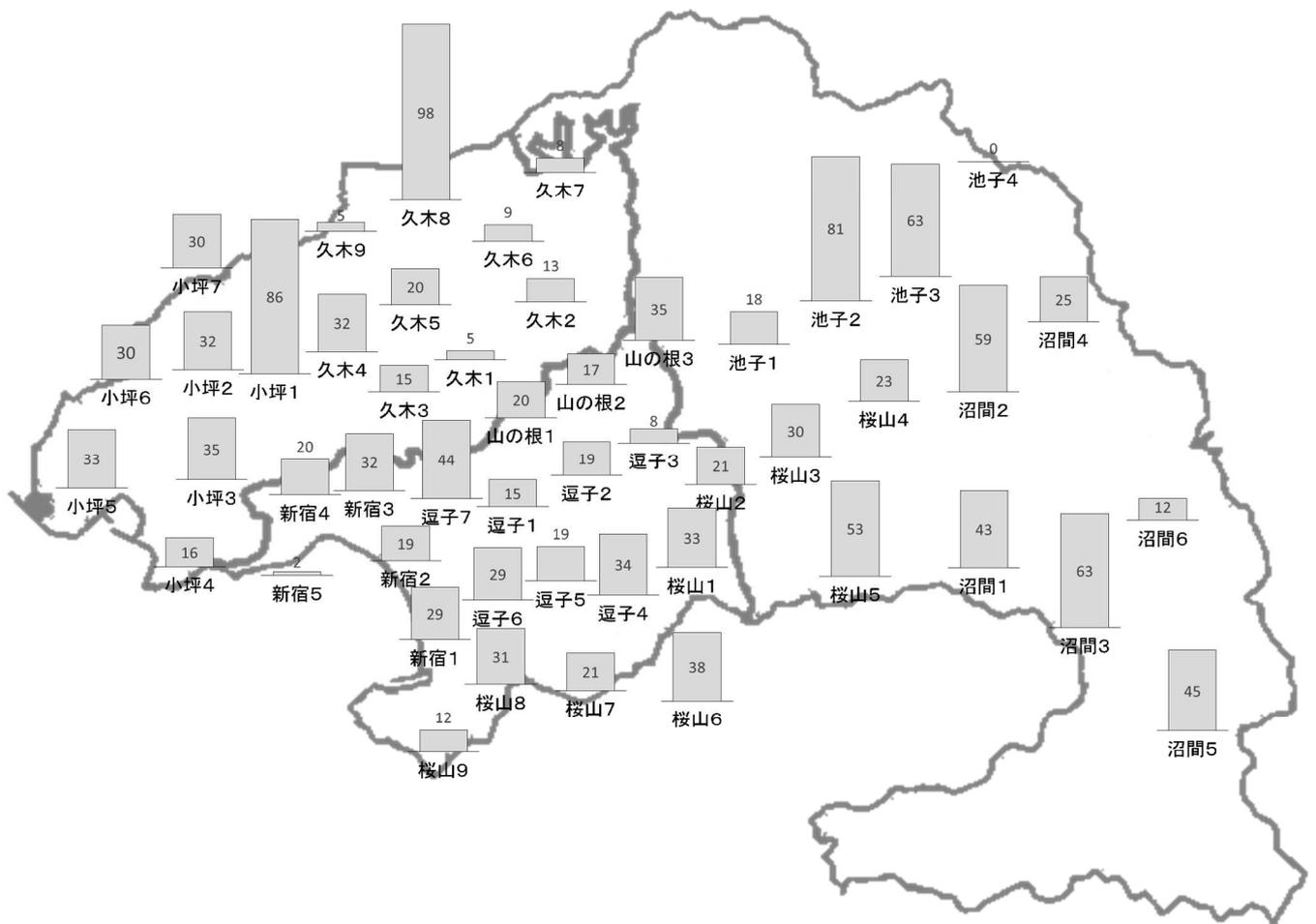
町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目、小坪1丁目、池子2丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、桜山8丁目、小坪1丁目、小坪5丁目の順で高くなっています。

図表 認知機能低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：認知機能低下

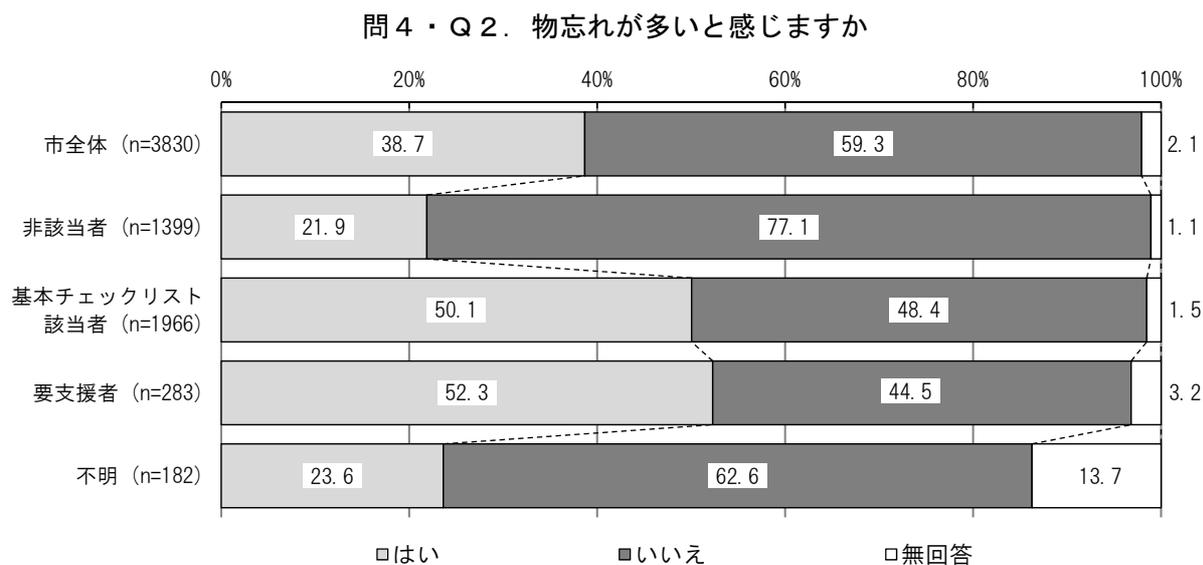


ウ 回答結果-1

物忘れが多いかについては、国のニーズ調査の手引きによる認知機能の低下を問う設問で、この設問に「はい」と回答した場合は、認知機能の低下が疑われる高齢者となります。全体では38.7%が「はい」と回答しています。

認定・該当状況別では、非該当者で21.9%、基本チェックリスト該当者で50.1%、要支援者で52.3%が「はい」と回答しており、認知機能の低下が疑われる高齢者が2割以上いると考えられます。

図表 物忘れ



2 生活機能

エ 回答結果-2

基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、認知機能低下リスクの判定ができます。

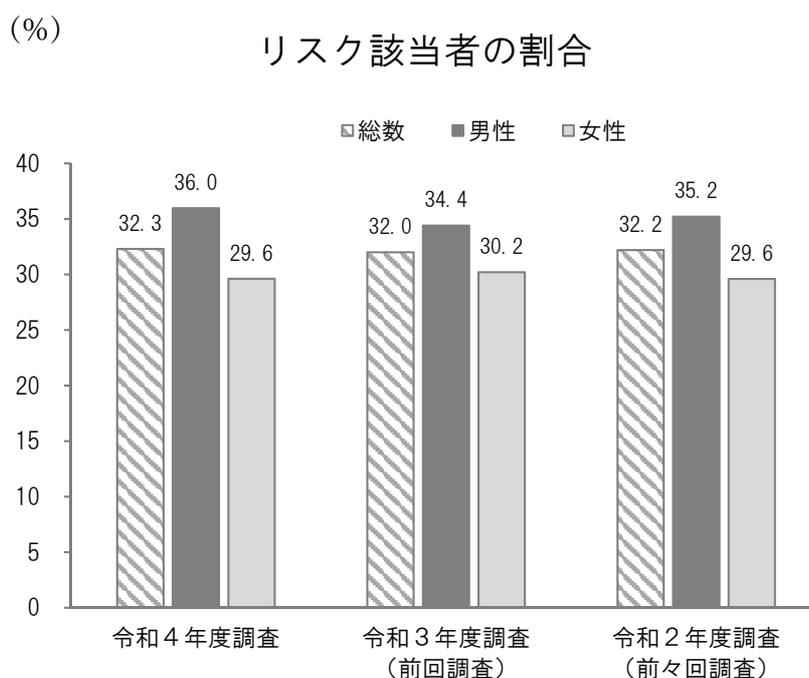
具体的には、3問中1問以上に該当した場合に、認知機能低下と判定されます。

図表 認知機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問4・Q3	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
問4・Q4	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4・Q5	今日が何月何日かわからないときがありますか	「1. はい」

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、32.3%：1,235人、男性36.0%：583人、女性29.6%：652人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、女性は令和3年度調査（前回調査）から減少し、男性は増加しています。

図表 リスク該当状況－認知機能低下

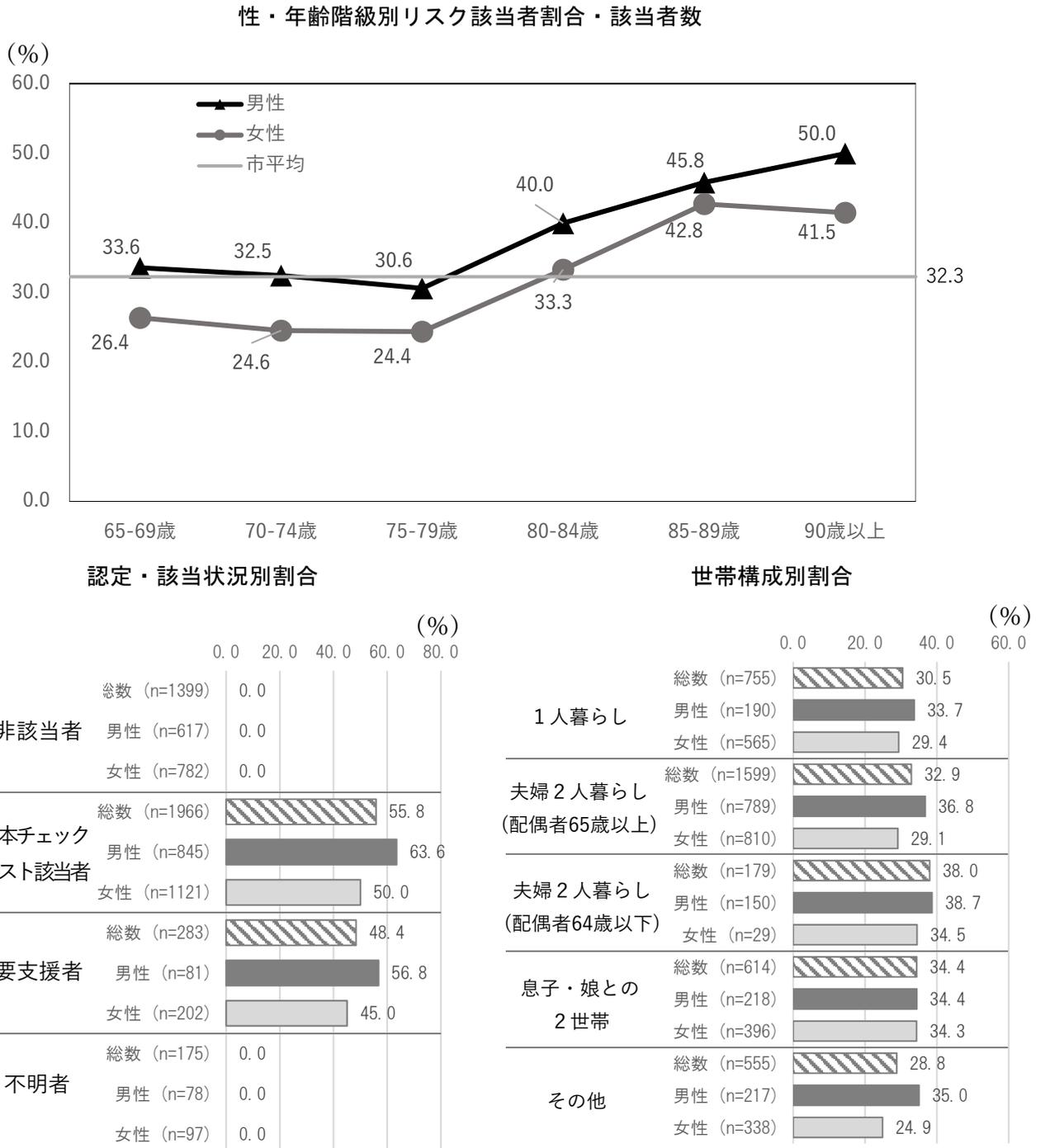


性・年齢階級別にみると、女性では65～79歳までは市全体平均以下で推移していますが、80歳以上になると平均を超える割合となっています。

認定・該当状況別にみると、男性は基本チェックリスト該当者が63.6%、要支援者が56.8%と、いずれも女性より高くなっています。

世帯構成別では、男女ともに夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)が最も高くなっています。

図表 認知機能低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別

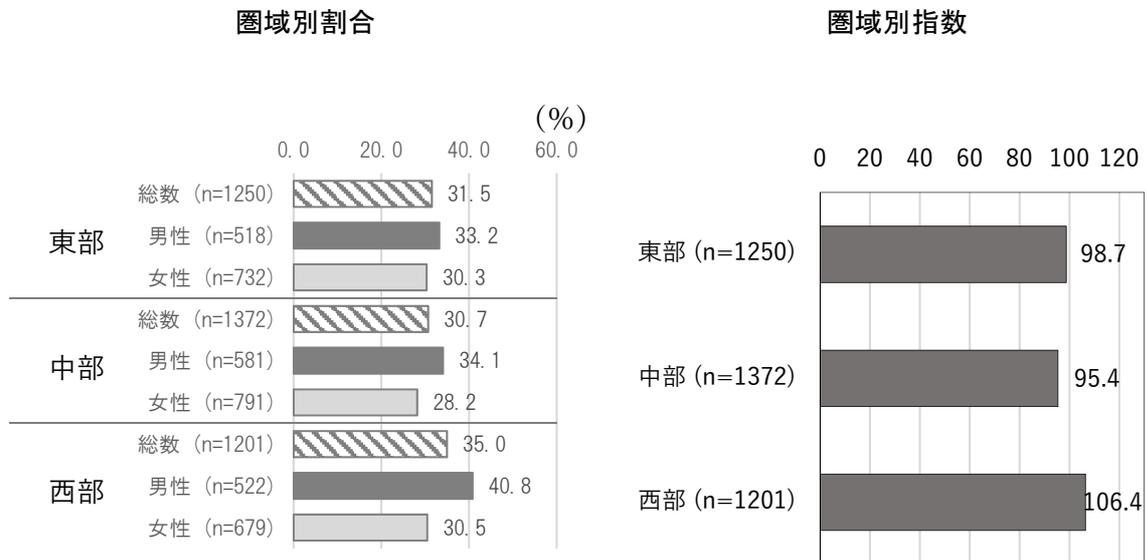


2 生活機能

圏域別割合をみると、西部圏域が 35.0%と最も高い割合となっています。

圏域別指数においても、西部圏域が 106.4 と最も高くなっています。

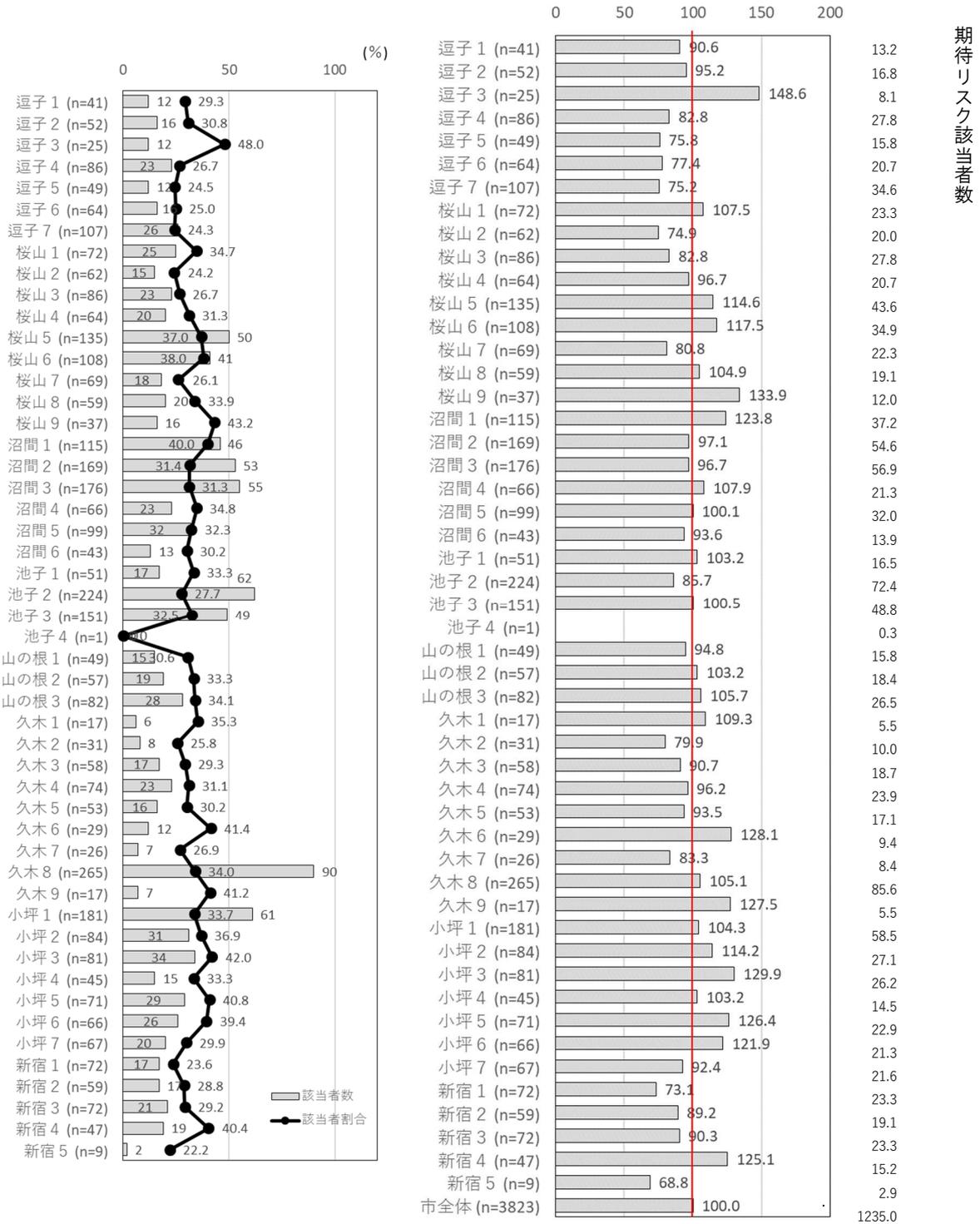
図表 認知機能低下 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



2 生活機能

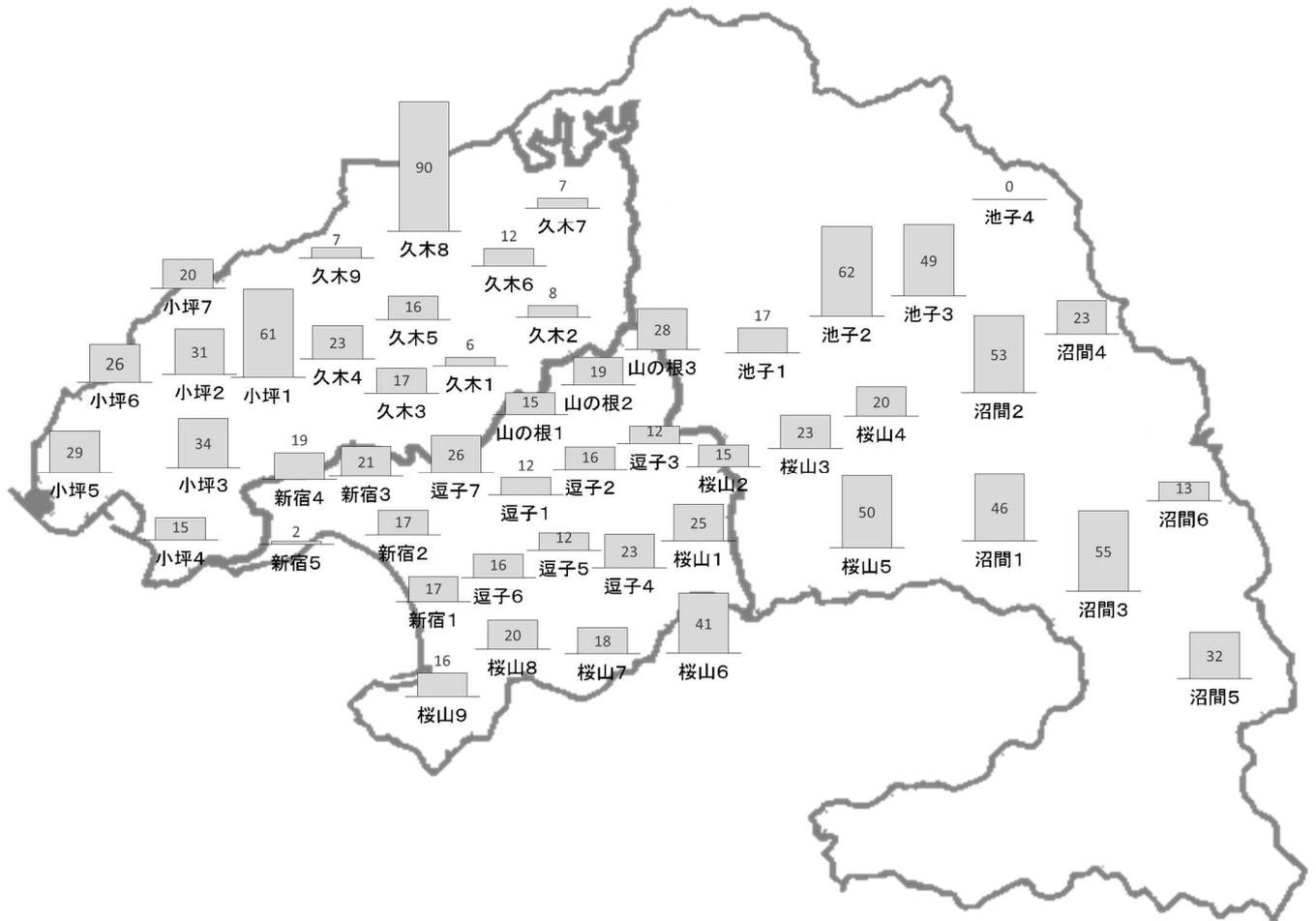
町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目、池子2丁目、小坪1丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、逗子3丁目、桜山9丁目、小坪3丁目の順で高くなっています。

図表 認知機能低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：認知機能低下

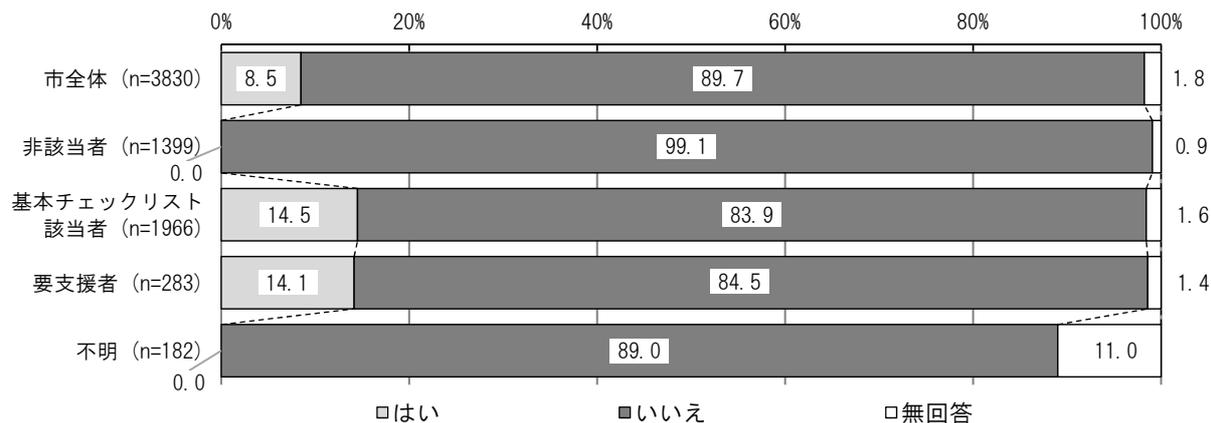


基本チェックリストによる判定対象となる設問への回答をみると、電話番号を調べての電話利用（問4・Q4）では全体で「いいえ」が9.8%となっています。

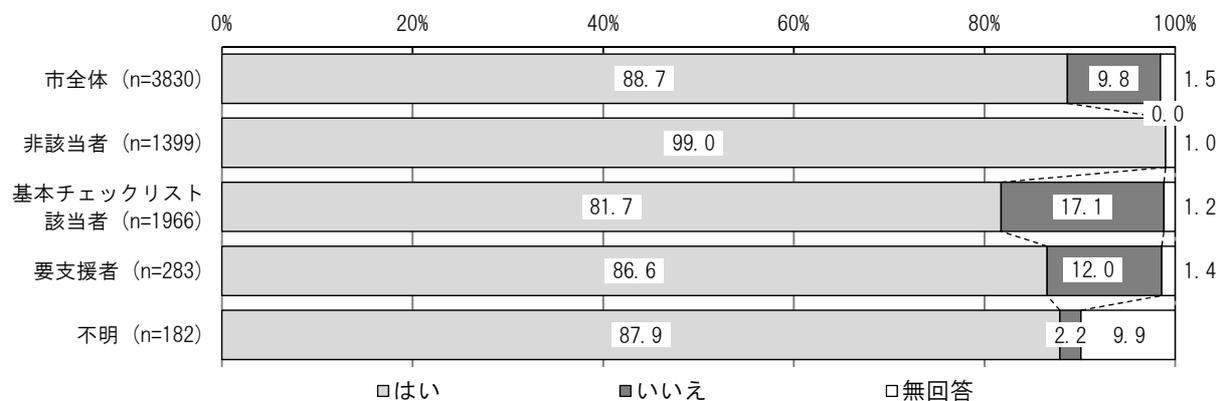
一方、日付の認識（問4・Q5）については、全体で「はい」が21.6%となっており、認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者が36.8%、要支援者が35.0%と高くなっています。

図表 回答結果

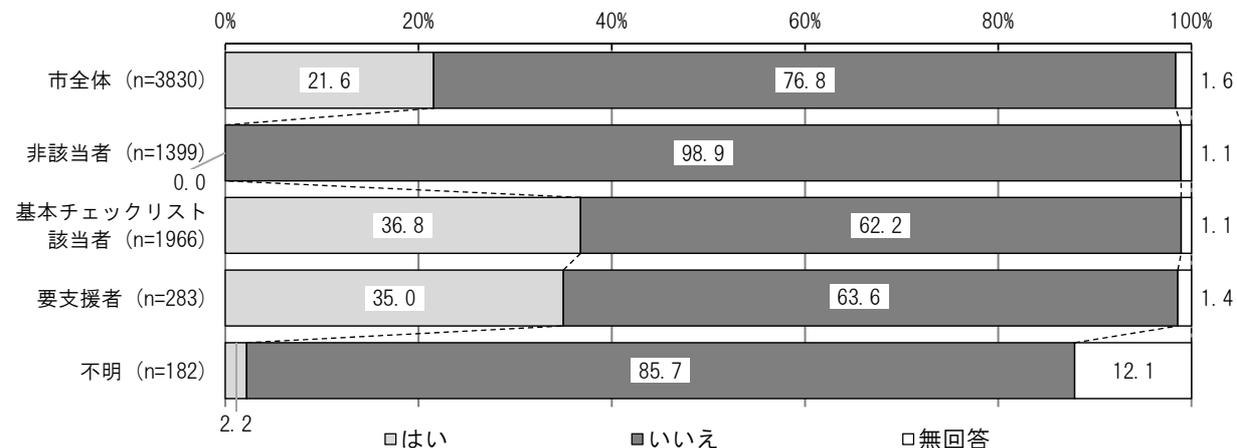
問4・Q3. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか（はい）



問4・Q4. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（いいえ）



問4・Q5. 今日が何月何日かわからないときがありますか（はい）

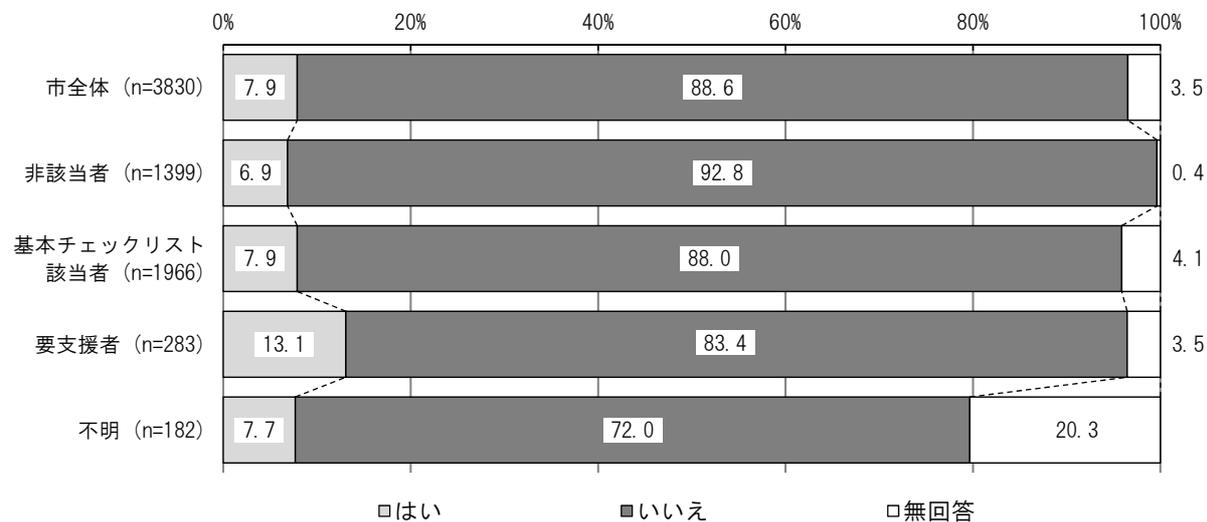


2 生活機能

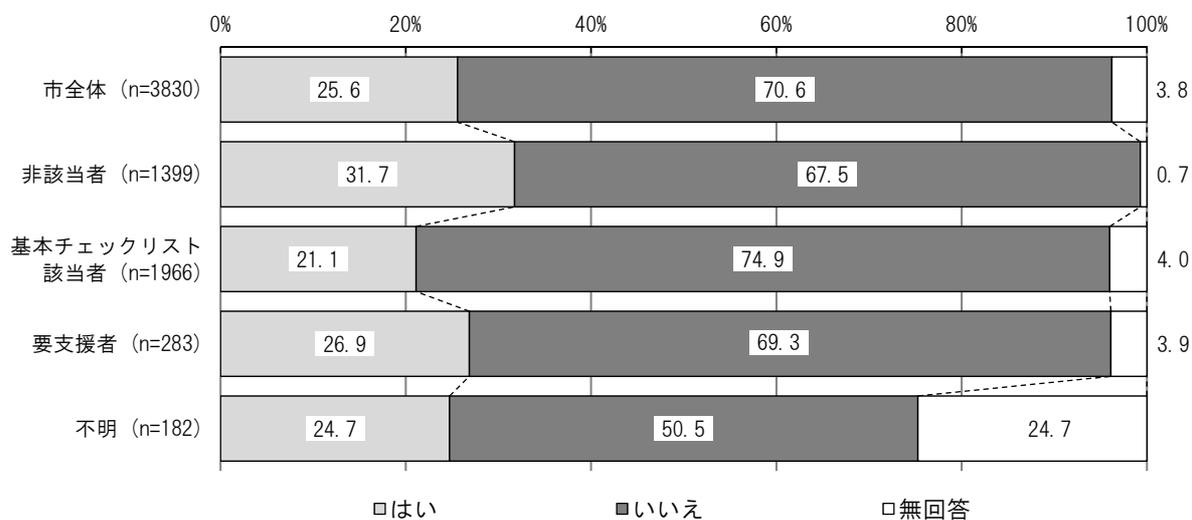
オ 関連設問

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか（問7・Q1）については、要支援者で13.1%となっており、1割を超えています。また、認知症の相談窓口の認知度（問7・Q2）は非該当者で31.7%となっており、比較的非該当者の認知度が高くなっています。

問7・Q1. 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか



問7・Q2. 認知症に関する相談窓口を知っていますか



(7) うつ予防

ア 設問と評価

国のニーズ調査の手引きにより、下の2つの設問に対する回答でうつリスクの判定をしています。

具体的には、2問中1問以上に該当した場合は、うつ予防の対象者（うつ傾向）となります。

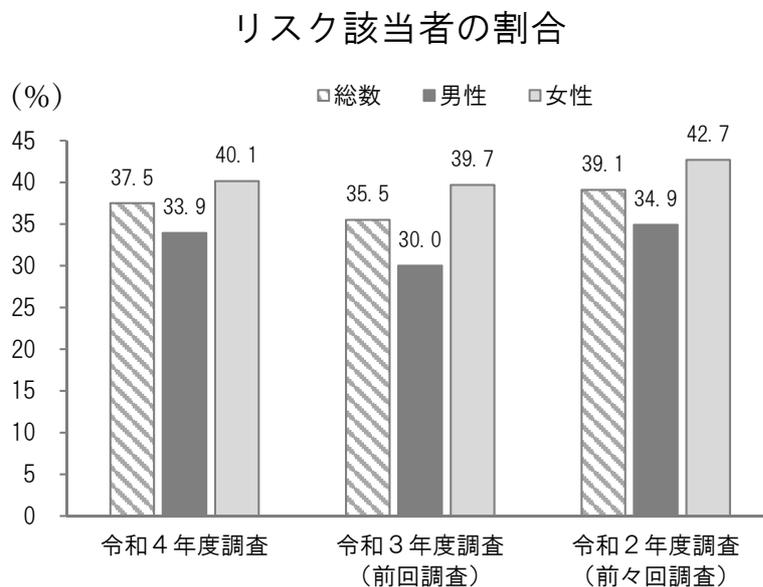
図表 うつ予防に関する設問（国のニーズ調査の手引き）

問番号	設 問	該当する選択肢
問6・Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問6・Q4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、国のニーズ調査の手引きによる判定では37.5%：1,434人、男性33.9%：550人、女性40.1%：884人が該当者となっています。過去の調査と比較すると、令和3年度調査（前回調査）より男女共に増加しています。

図表 リスク該当状況—うつ予防



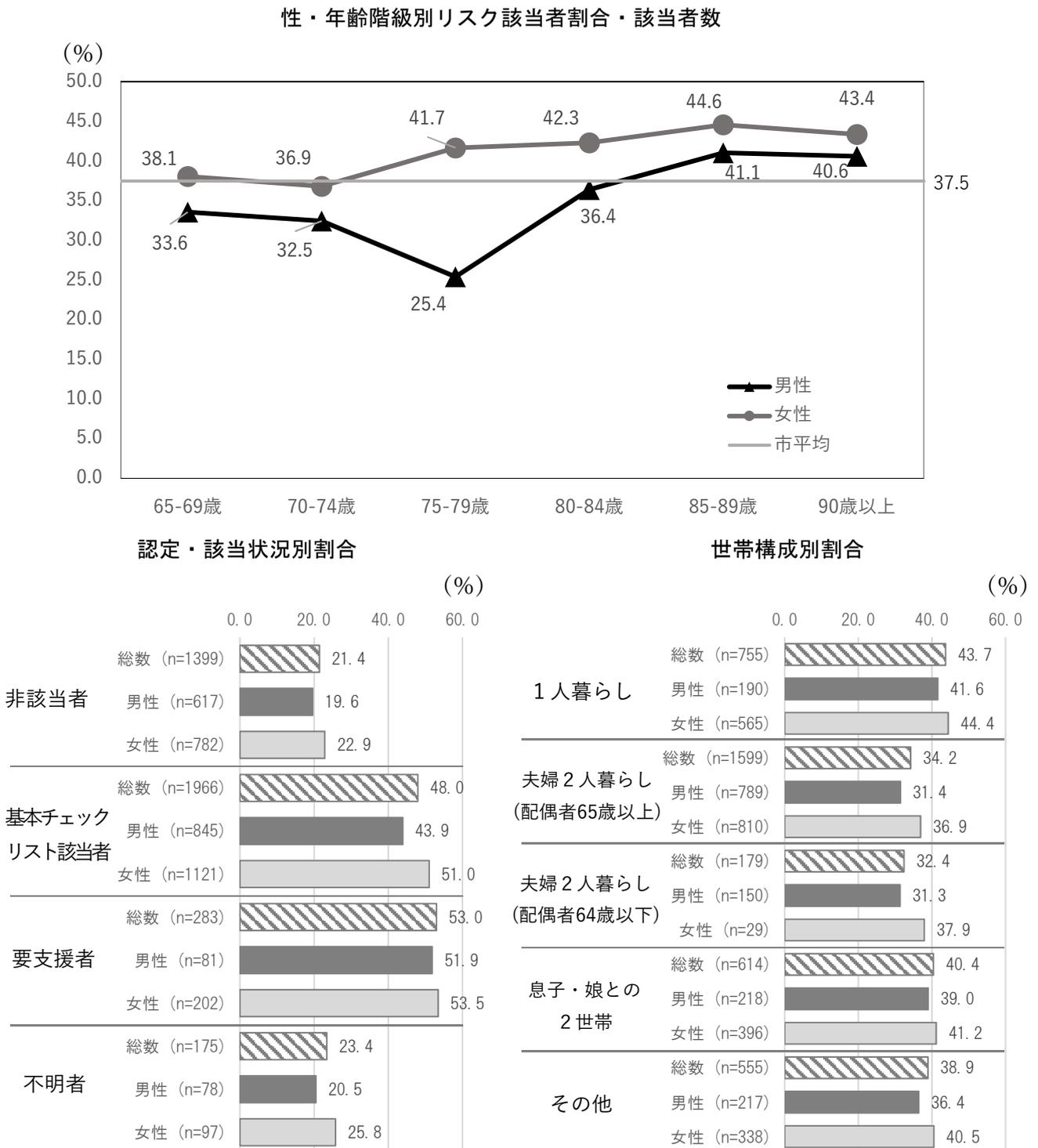
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、85～89歳から上の年齢の男性が市全体平均（37.5%）を超えています。女性は70～74歳を除くすべての年齢で市全体平均を超えています。

認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者が48.0%で、男女別にみても市全体平均を上回っています。また、要支援者は53.0%と、5割を超えています。

世帯構成別では、1人暮らしの男女ともに4割を超え、息子・娘との2世帯、その他の女性で4割を超えて高くなっています。

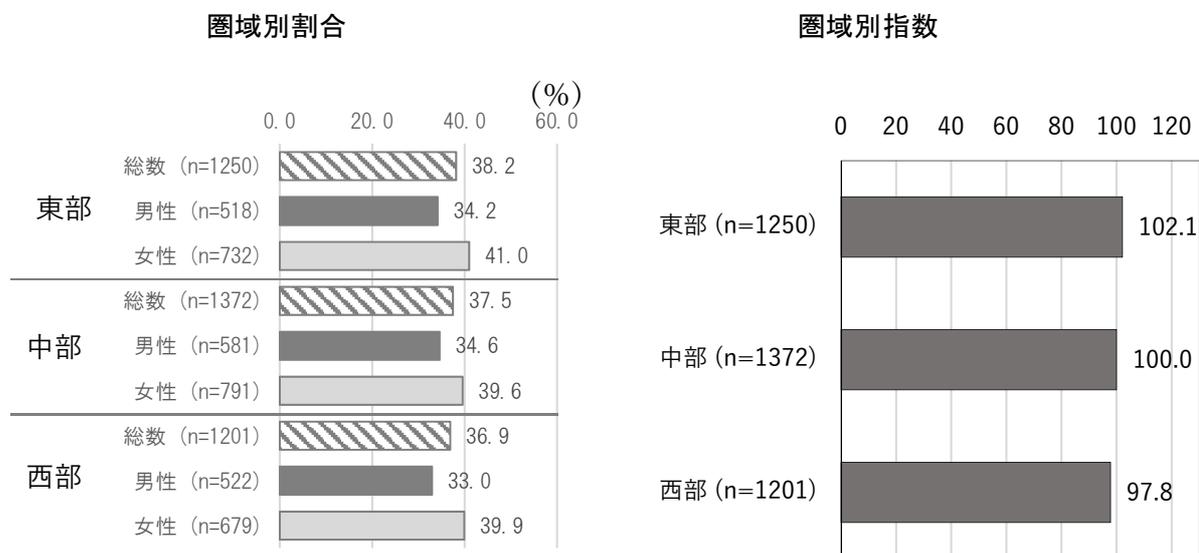
図表 うつ予防 リスク該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別割合をみると、東部圏域の女性が41.0%と他圏域に比べて高くなっています。

圏域別指数をみると、東部圏域が102.1で最も高くなっています。

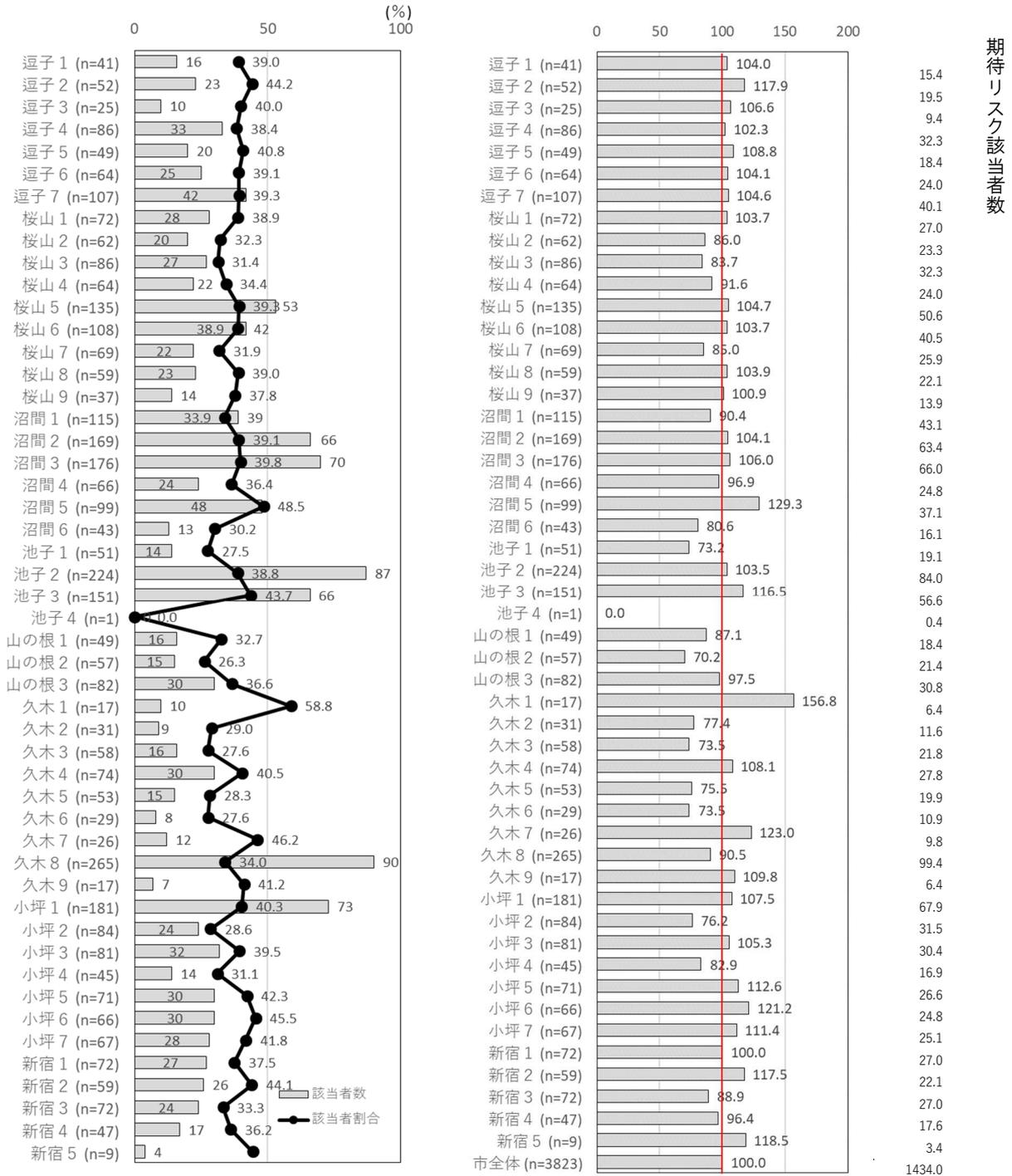
図表 うつ予防 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目、池子2丁目、小坪1丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、久木1丁目、沼間5丁目、久木7丁目の順で高くなっています。

図表 うつ予防（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



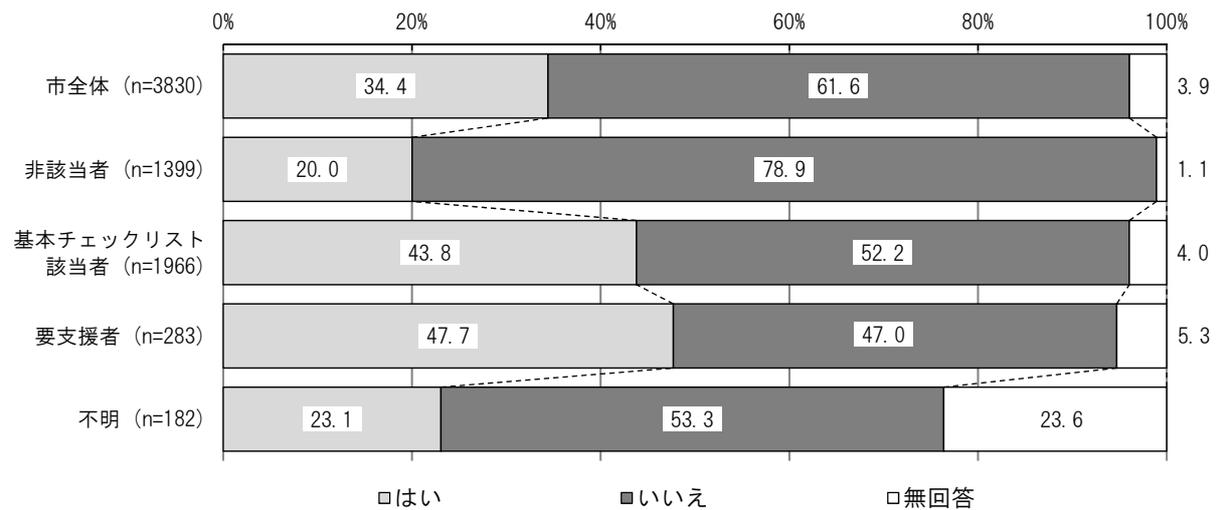
2 生活機能

ウ 回答結果-1

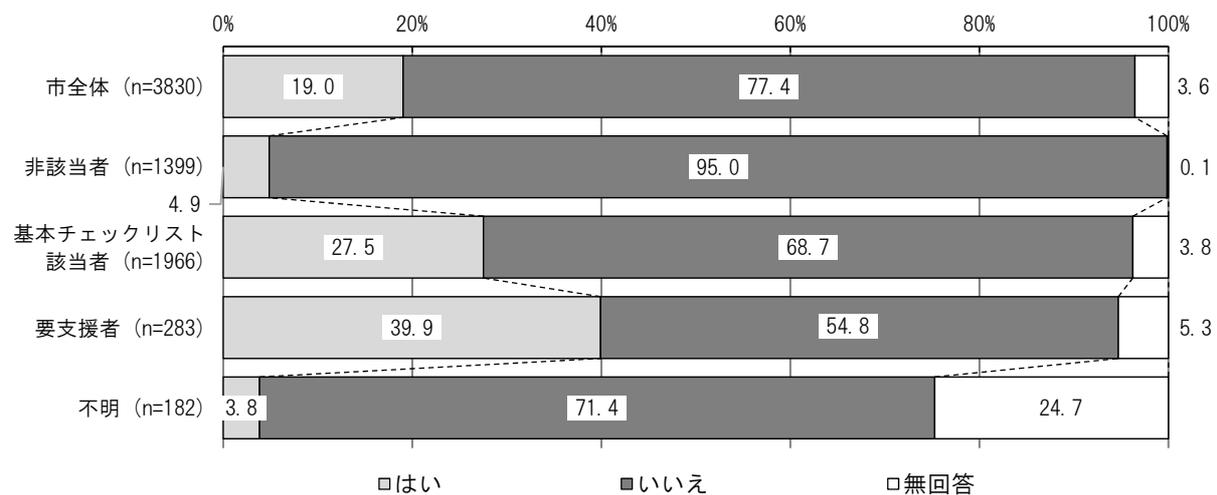
国のニーズ調査の手引きによる評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問6・Q3では、要支援者、基本チェックリスト該当者の順に該当回答の割合が高くなっています。非該当者と比べると、要支援者とは27.7ポイント、基本チェックリスト該当者とは23.8ポイントの大きな差があります。

図表 回答結果

問6・Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった（はい）



問6・Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくある（はい）



エ 回答結果-2

基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、うつリスクの判定をします。

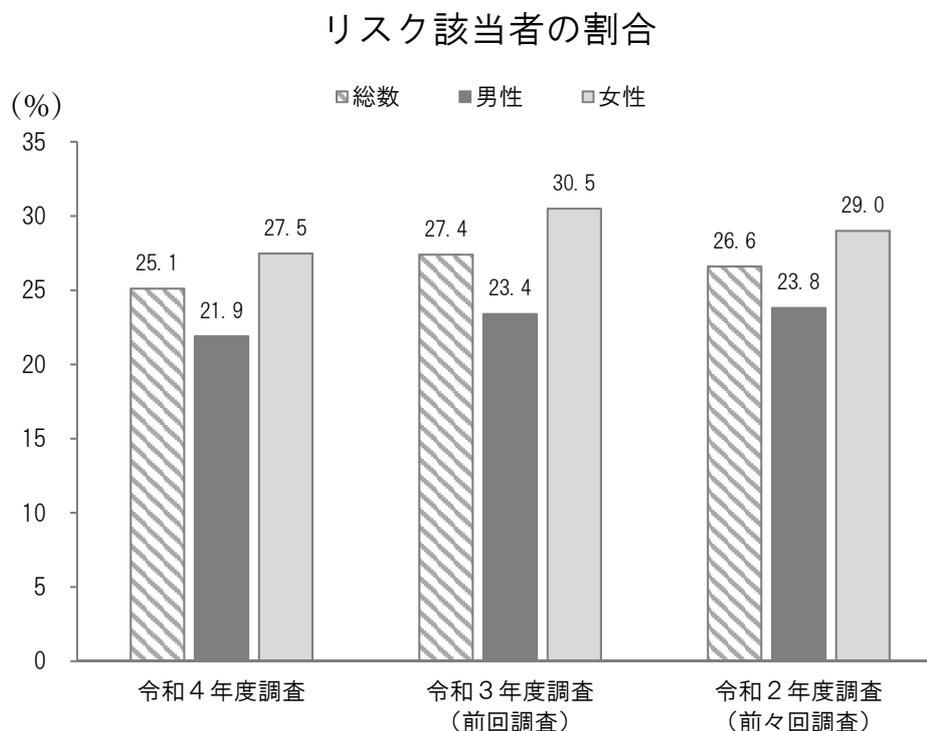
具体的には、5問中2問以上に該当した場合は、うつ予防の対象者となります。

図表 うつ予防に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問6・Q5	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
問6・Q6	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
問6・Q7	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「1. はい」
問6・Q8	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
問6・Q9	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、25.1%：960人、男性21.9%：355人、女性27.5%：605人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で令和3年度調査（前回調査）から2.3ポイント低くなっています。男性は1.5ポイント、女性は3.0ポイント低くなっています。

図表 リスク該当状況—うつ予防



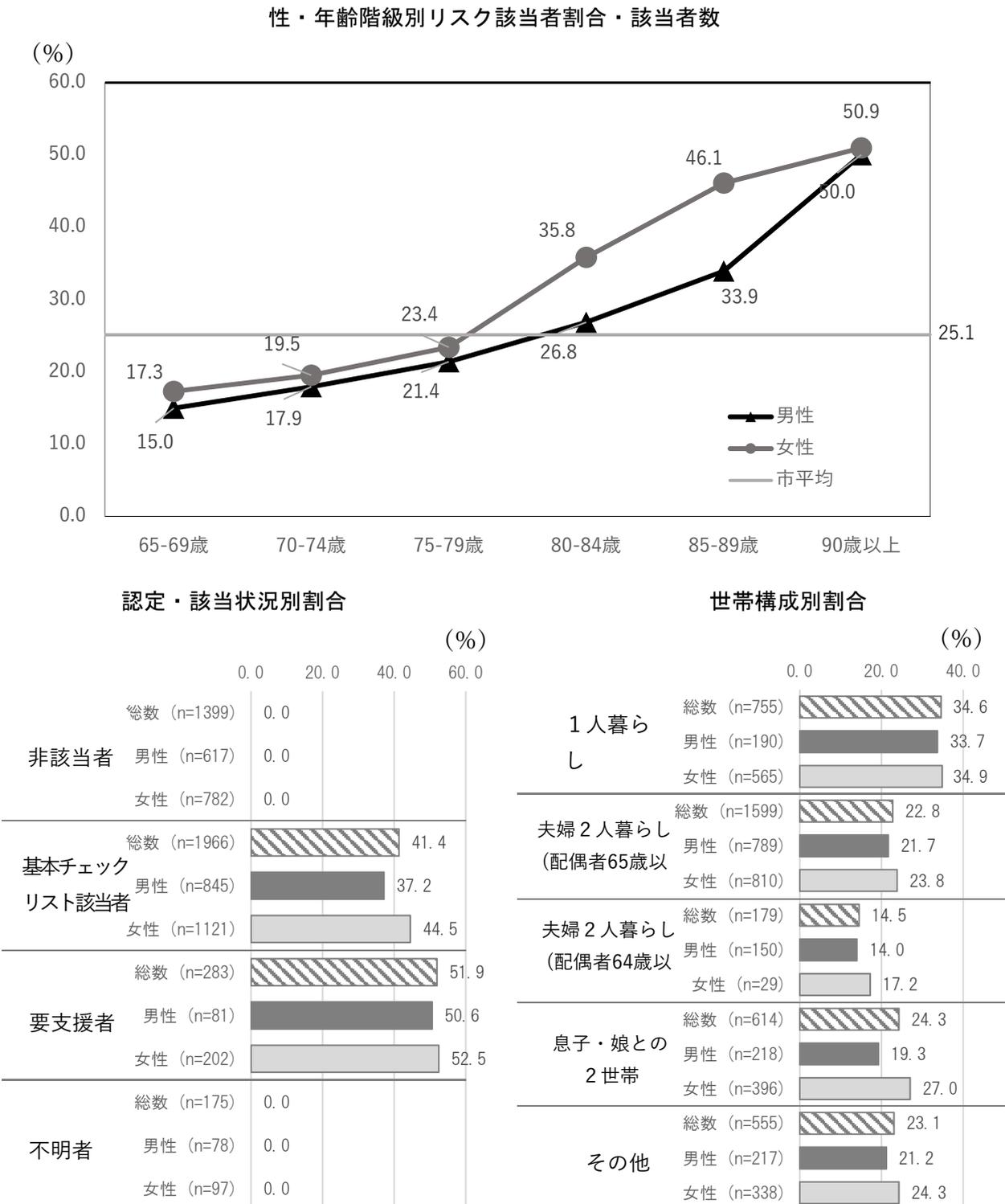
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともにリスク該当者割合が増加しており、男女ともに80～84歳から上の年齢階級で市全体平均（25.1%）より高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者、基本チェックリスト該当者は、男女ともに市全体平均より高くなっています。

世帯構成別では、1人暮らしのリスク該当者割合が34.6%と最も高くなっています。

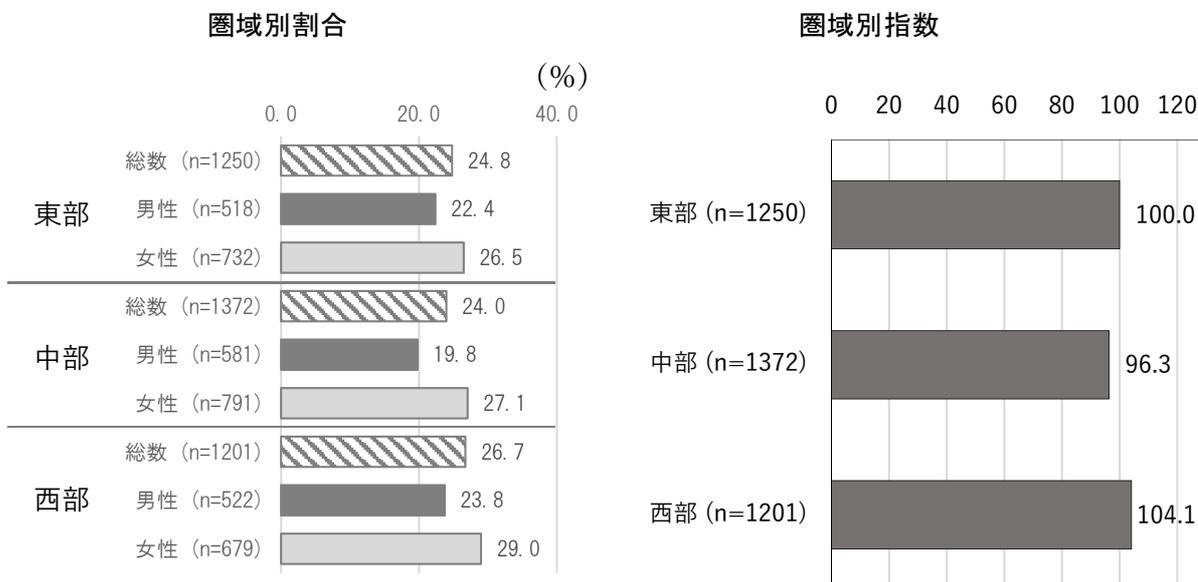
図表 うつ予防 リスク該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別割合をみると、西部圏域が 26.7%と他圏域に比べて該当者割合がやや高くなっています。また、いずれの圏域でも女性の方が高くなっています。

圏域別指数においても、西部圏域が 104.1 と最も高くなっています。

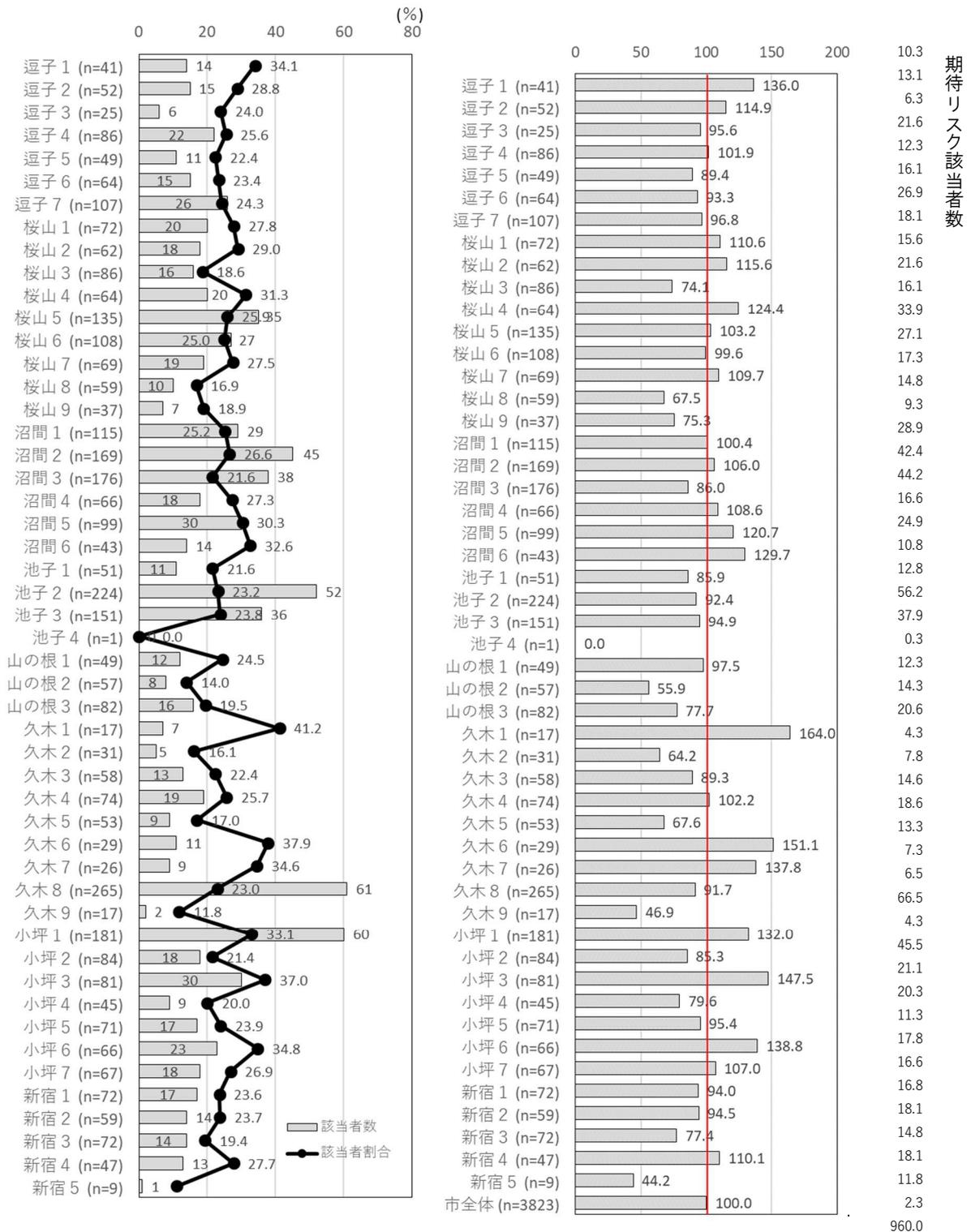
図表 うつ予防 リスク該当状況—圏域別割合・圏域別指数



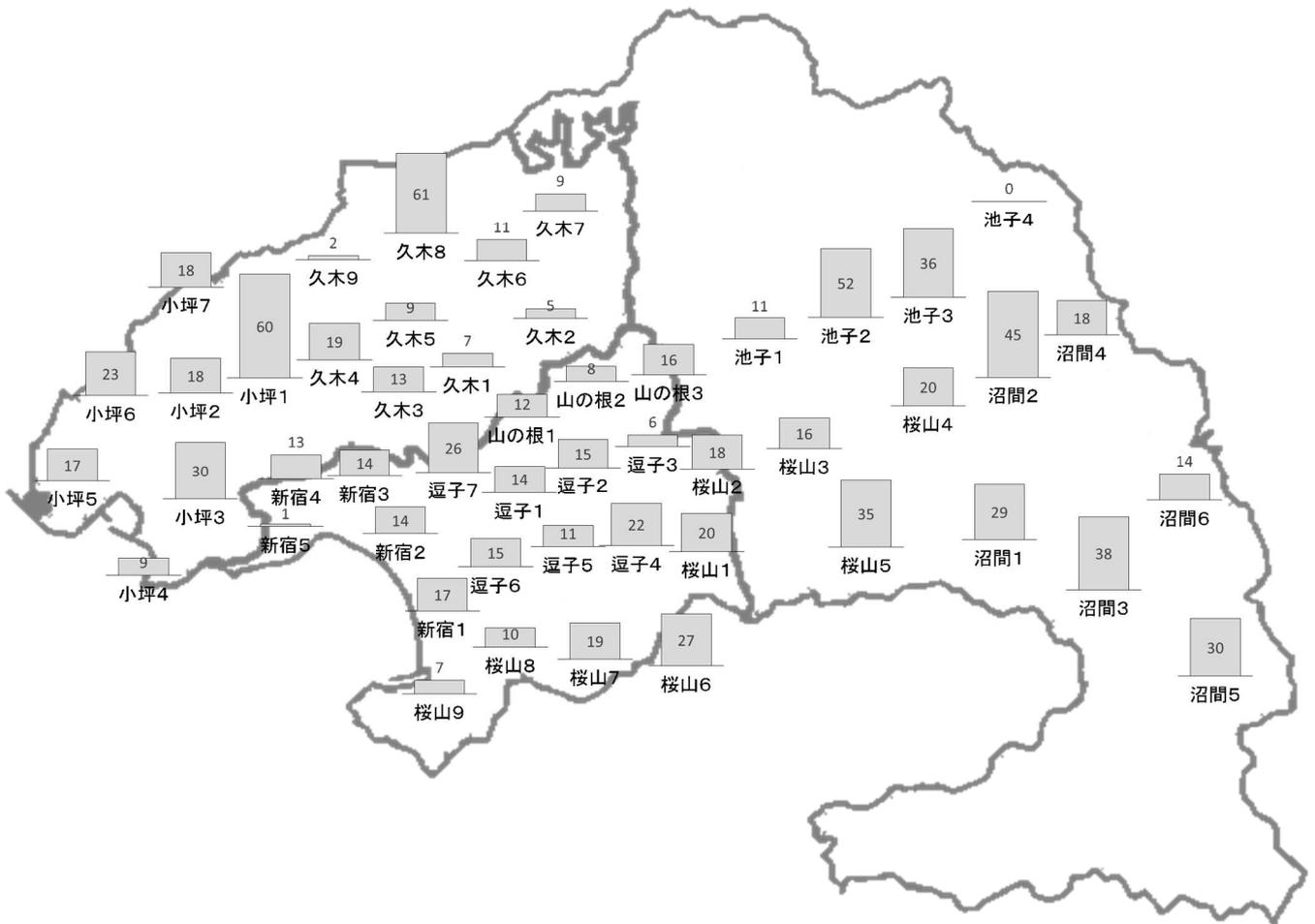
2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目、小坪1丁目、池子2丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、久木1丁目、久木6丁目、小坪3丁目の順で高くなっています。

図表 うつ予防（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



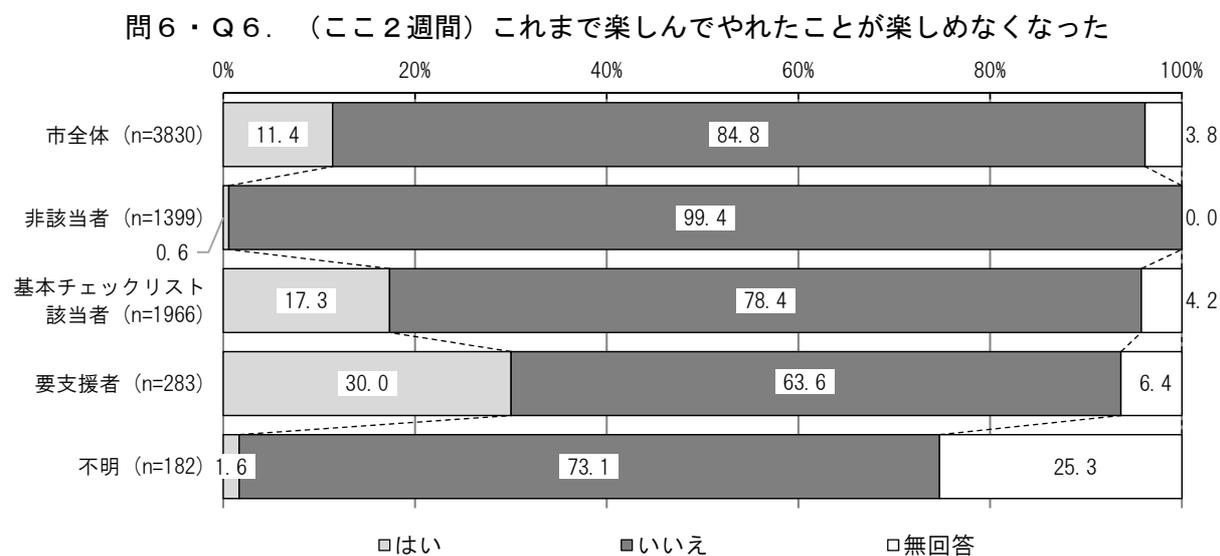
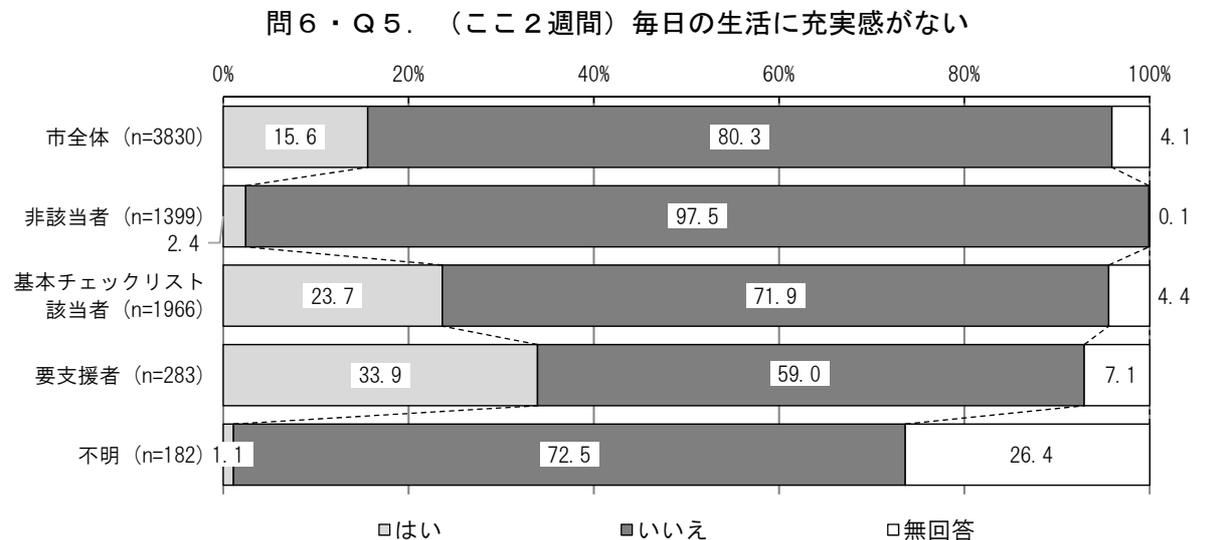
図表 町丁別リスク該当者数の分布：うつ予防



2 生活機能

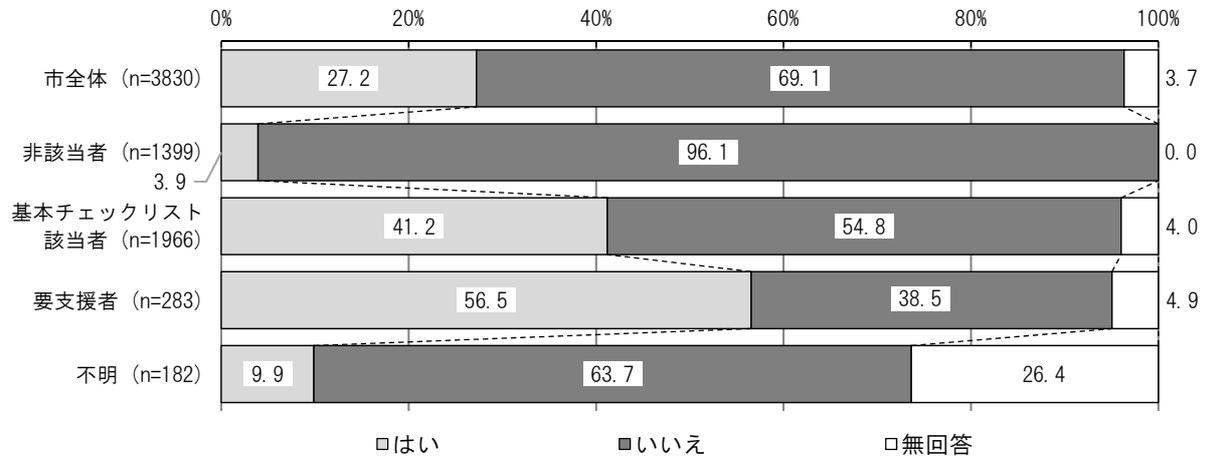
基本チェックリストによる判定対象となる設問への回答結果をみると、問6・Q5～Q9において、特に基本チェックリスト該当者、要支援者のリスク該当に係る割合が高くなっており、非該当者の割合と大きな差がみられます。

図表 回答結果-1

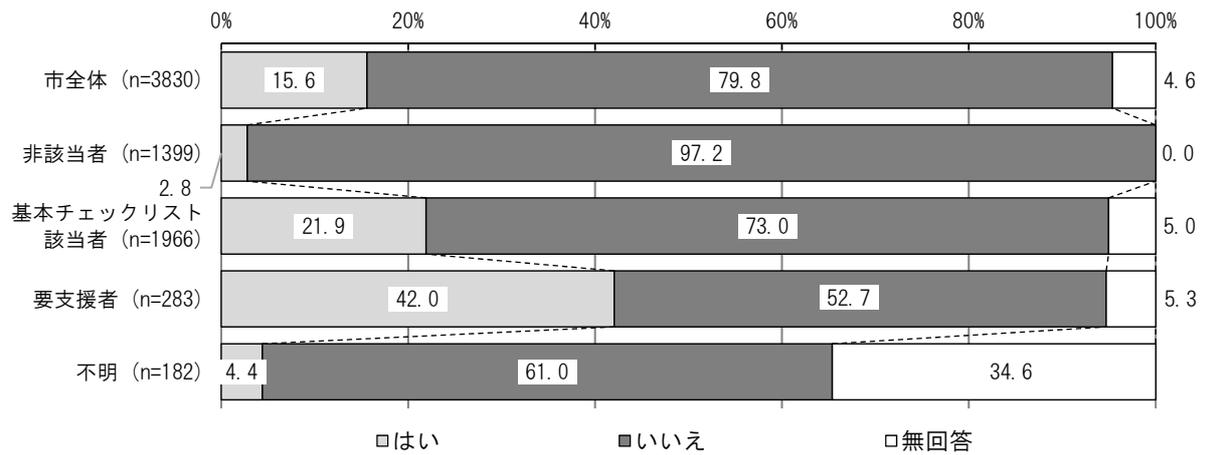


図表 回答結果-2

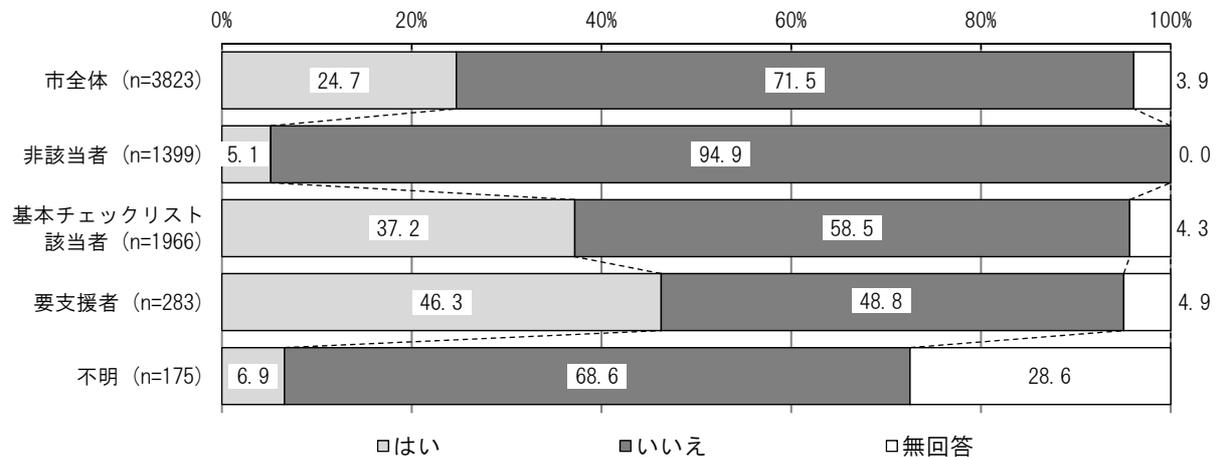
問6・Q7. (ここ2週間) 以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる



問6・Q8. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない



問6・Q9. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする



2 生活機能

オ 関連設問

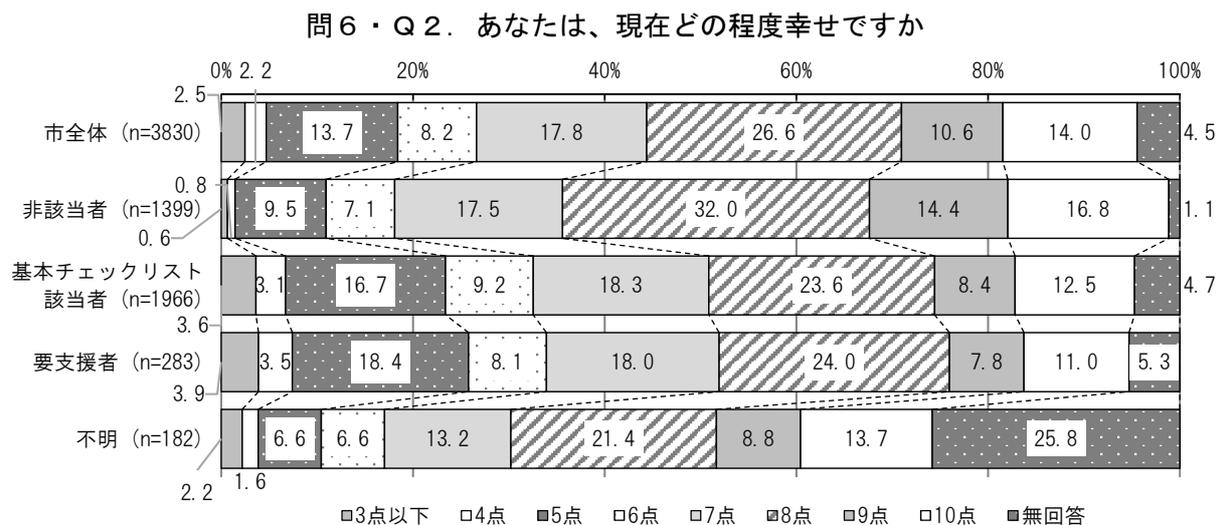
うつ傾向と関係すると言われている主観的幸福感（問6・Q2）についてみると、全体を11段階に点数化した回答で「8点」が26.6%で最も多く、次いで「7点」（17.8%）、「10点」（14.0%）、「5点」（13.7%）、「9点」（10.6%）等が続いています。

認定・該当状況別に5点以下の割合をみると、非該当者は10.9%、基本チェックリスト該当者は23.4%、要支援者は25.8%と、不明を除くと、非該当者以外は主観的幸福感が低いと感じている方が多いことがうかがえます。

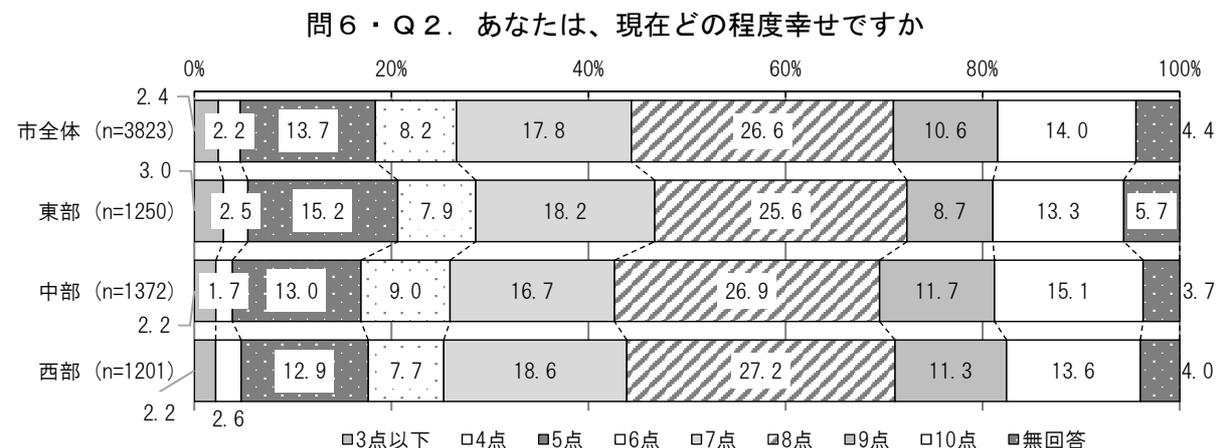
そのため、主観的幸福感は地域の精神面での健康度のアウトカム指標として活用ができると考えられ、圏域別に5点以下の割合をみると、東部圏域では20.7%と最も高く、次に、西部圏域が17.7%、中部圏域が16.9%となっており、東部圏域の幸福感が他の地域よりもやや低くなっています。

毎日の生活の満足度（問6・Q10）は、非該当者で「満足」と「やや満足」の合計が95.4%と最も高い割合になりましたが、要支援者は75.9%と、非該当者と比較して19.5ポイント低くなっています。

図表 幸福感-認定・該当状況別

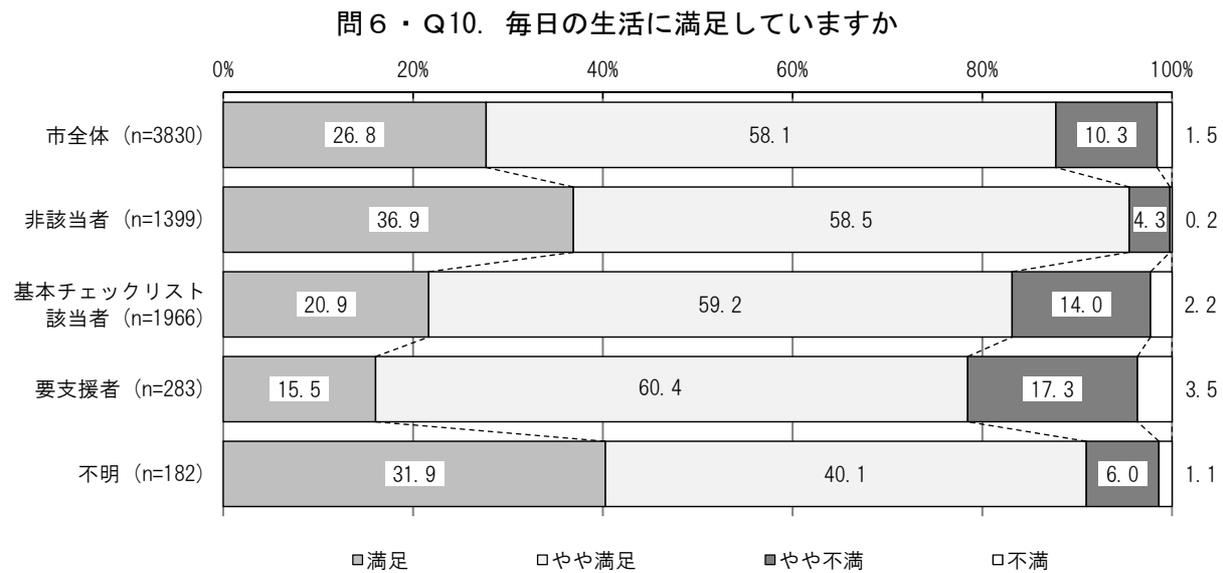


図表 幸福感-圏域別



(7) うつ予防

図表 生活の満足度-認定・該当状況別



2 生活機能

(8) 虚弱

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、うつ予防に関する5問を除いた20問中10問以上に当てはまる場合、虚弱リスク該当者となります。

この項目は、運動や栄養などの個別の評価項目にIADLや社会生活に関する設問を加えた生活機能の総合評価としての位置づけになります。

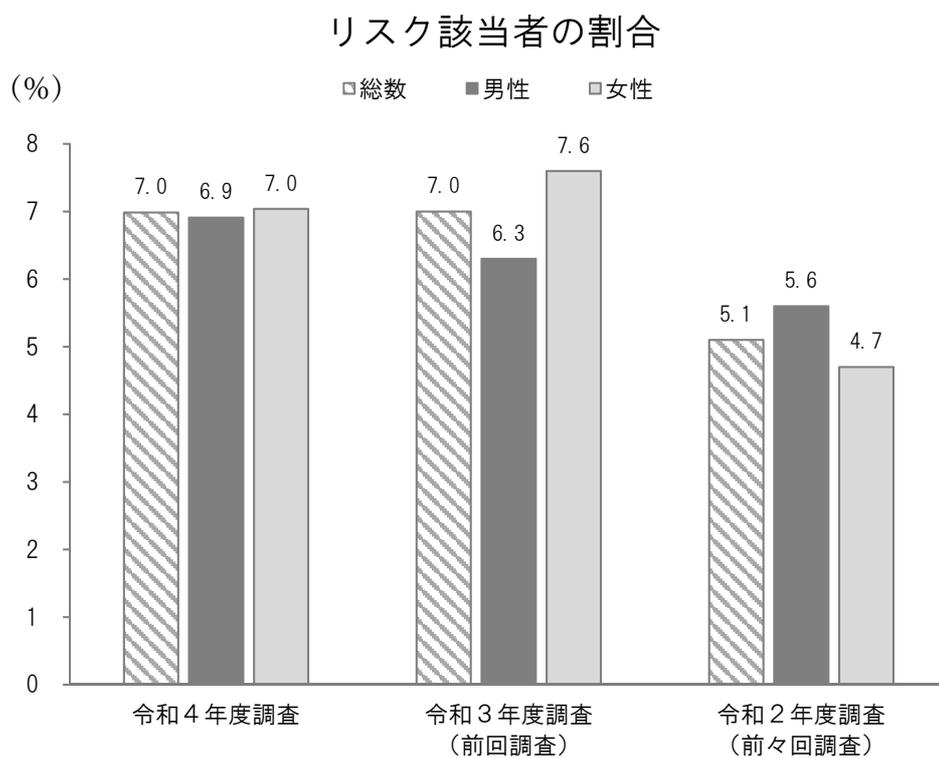
図表 評価に使用する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問2・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q4	15分位続けて歩いていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q5	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または「2. 1度ある」
問2・Q6	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 または「2. やや不安である」
問2・Q8	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」
問2・Q9	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 または「2. 減っている」
問3・Q1	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
問3・Q10	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問3・Q3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3・Q4	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3・Q5	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問4・Q3	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
問4・Q4	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4・Q5	今日が何月何日かわからないときがありますか	「1. はい」
問4・Q6	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q8	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q11	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q18	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問4・Q19	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった高齢者全体で7.0%：267人、男性6.9%：112人、女性7.0%：155人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、令和3年度調査（前回調査）から男性が0.6%増加し、女性が0.6%減少しています。

図表 リスク該当状況－虚弱

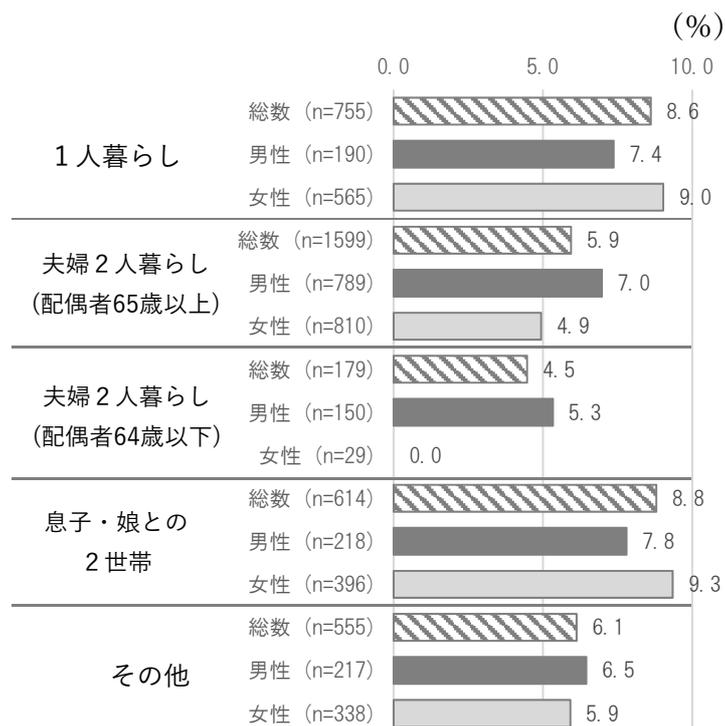
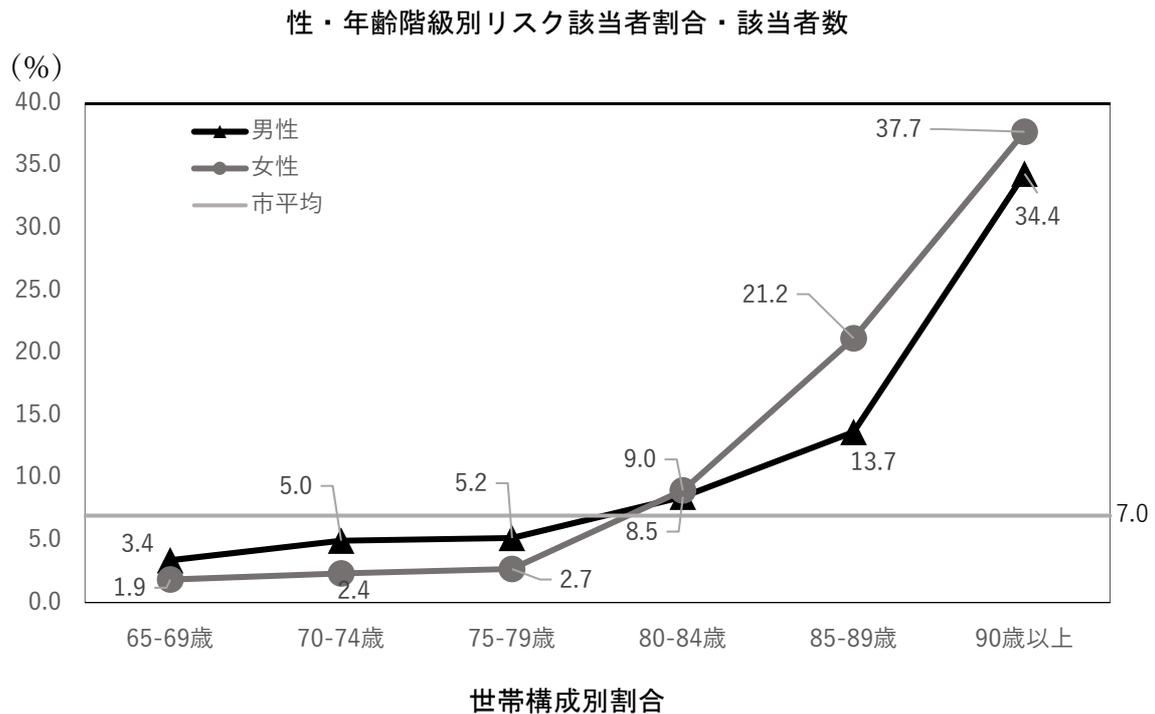


2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者割合が高くなっています。80～84歳までは男女ともに同じような上昇を描いていますが、85～89歳になると、男性は13.7%、女性は21.2%と高くなり、90歳以上になると、男性は34.4%、女性は37.7%とさらに高くなっています。

世帯構成別では、息子・娘との2世帯、1人暮らしで8.0%以上となり、リスク該当者割合が高くなっています。

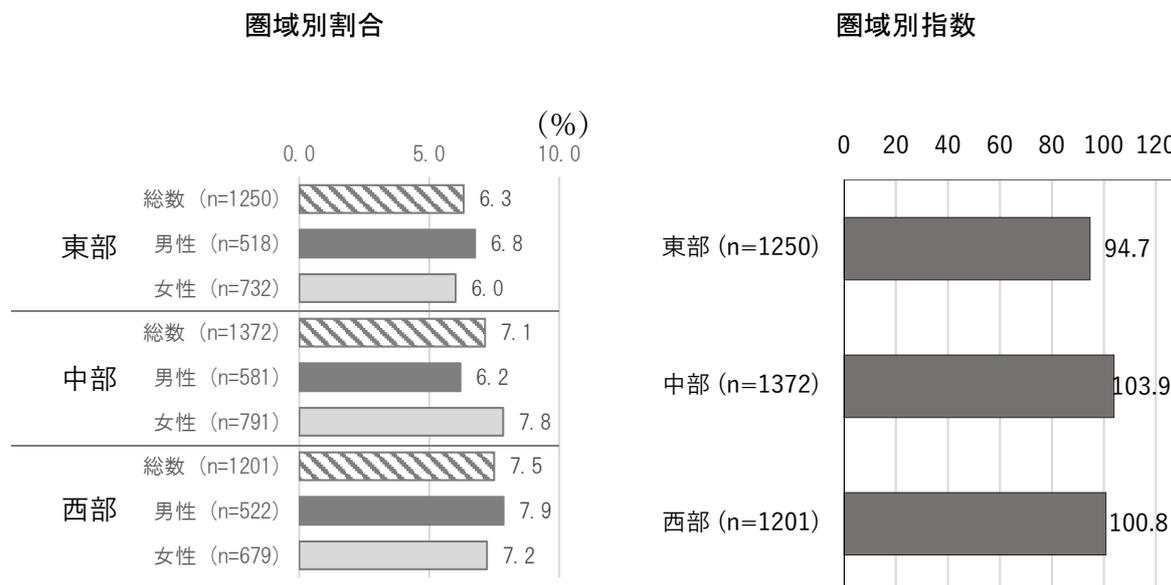
図表 虚弱 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



圏域別割合をみると、西部圏域の男性が7.9%と他圏域に比べて高くなっている一方、東部圏域の女性は6.0%と低くなっています。

圏域別指数をみると、中部圏域が103.9と高くなっています。

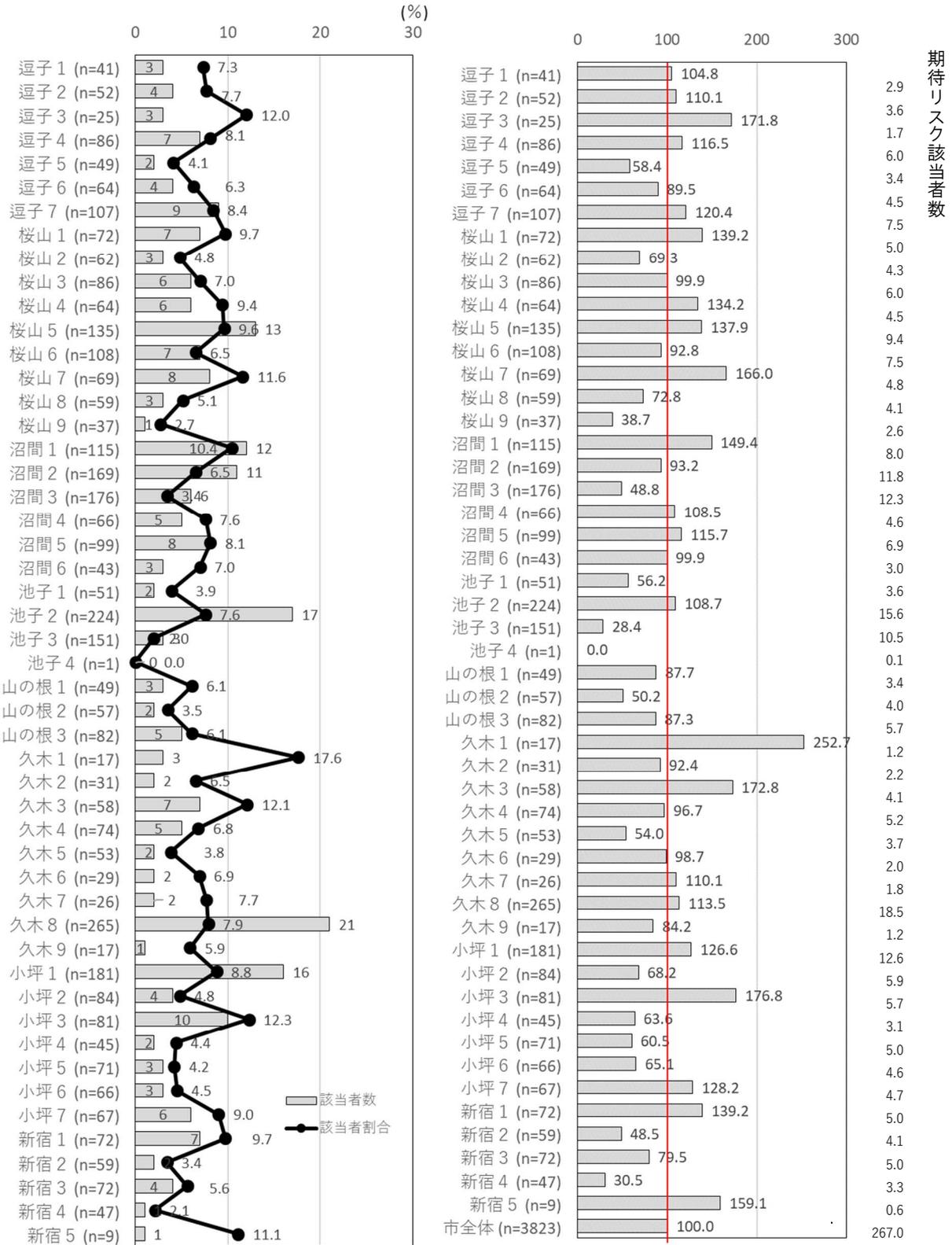
図表 虚弱 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



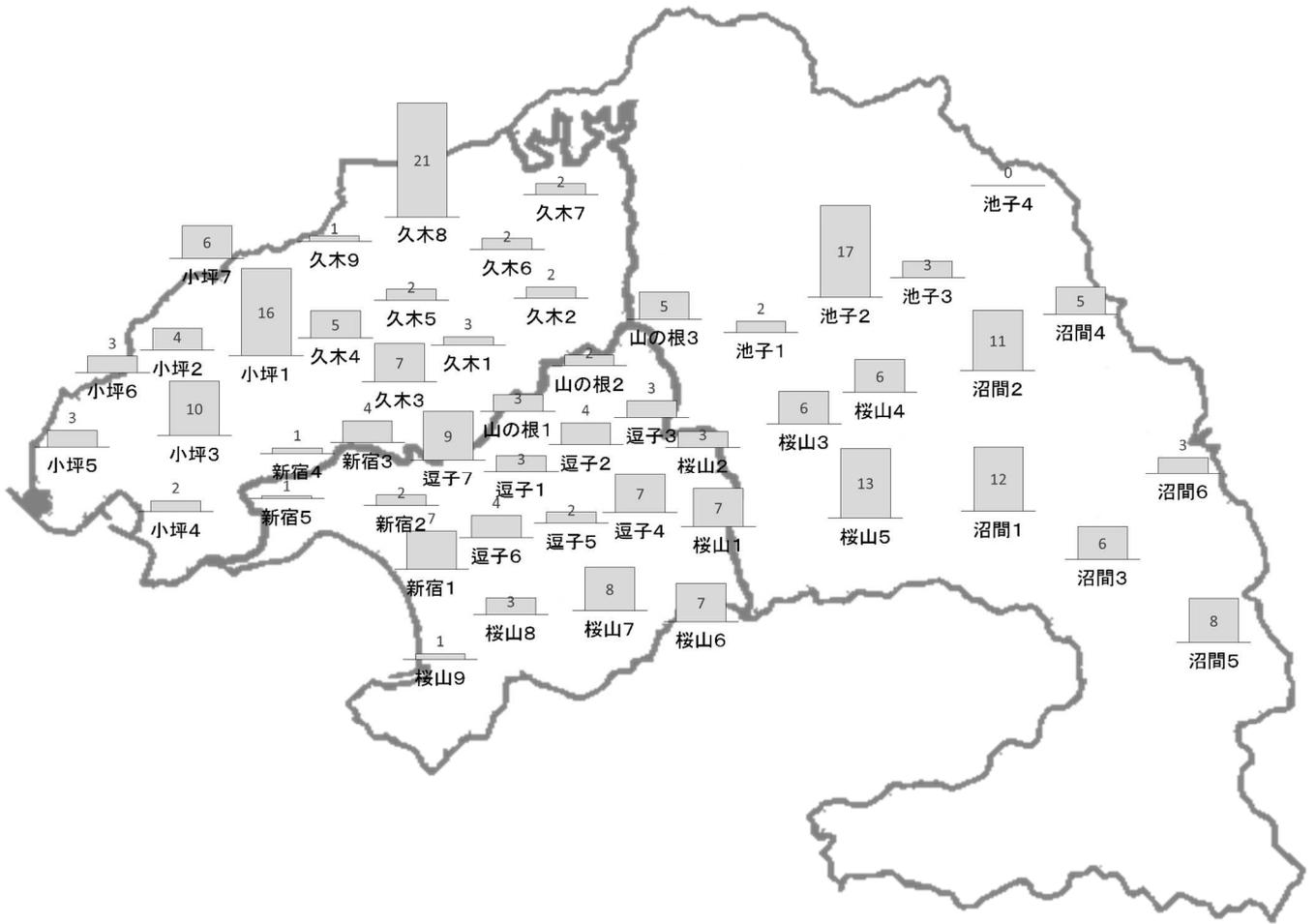
2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目、池子2丁目、小坪1丁目の順で多くなっています。町丁別指数をみると、久木1丁目、小坪3丁目、久木3丁目の順で高くなっています。

図表 虚弱（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



図表 町丁別リスク該当者数の分布：虚弱



2 生活機能

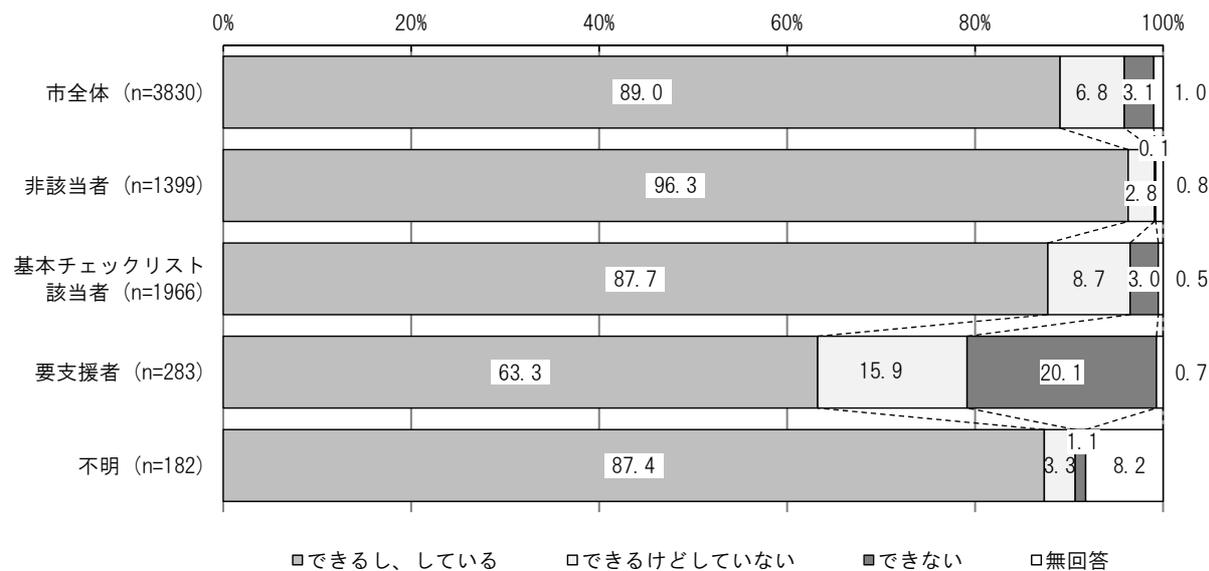
ウ 回答結果

評価の基礎となった 20 問のうち、他の評価項目に含まれない 5 問についてそれぞれの回答結果をみてみます。

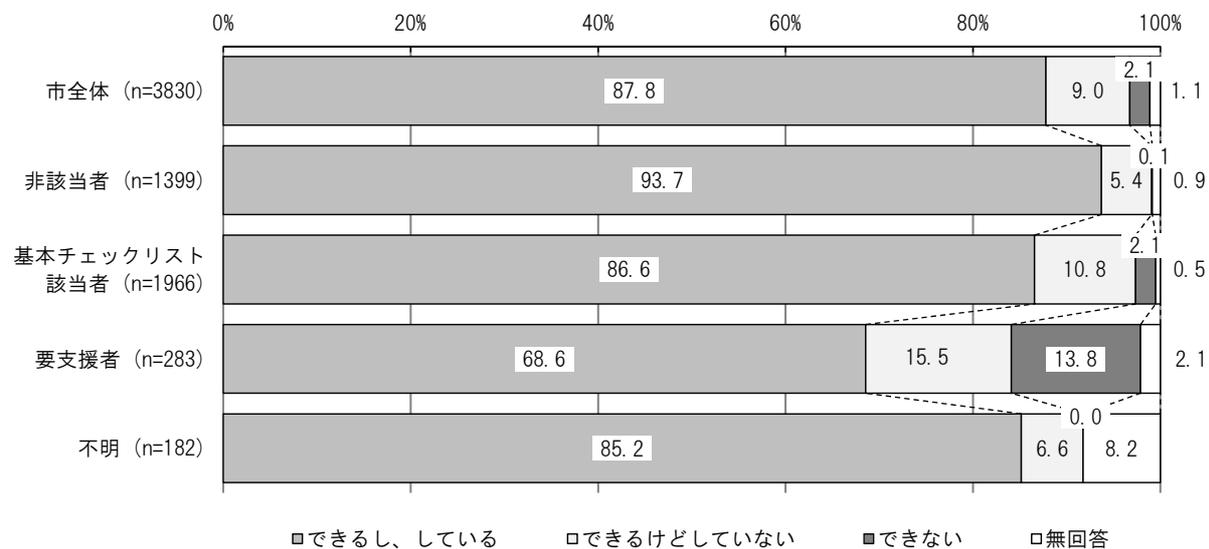
全ての設問において、要支援者でリスク該当に係る回答率が最も高くなっています。

図表 回答結果-1

問 4・Q 6. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）
（できるだけしていない・できない）

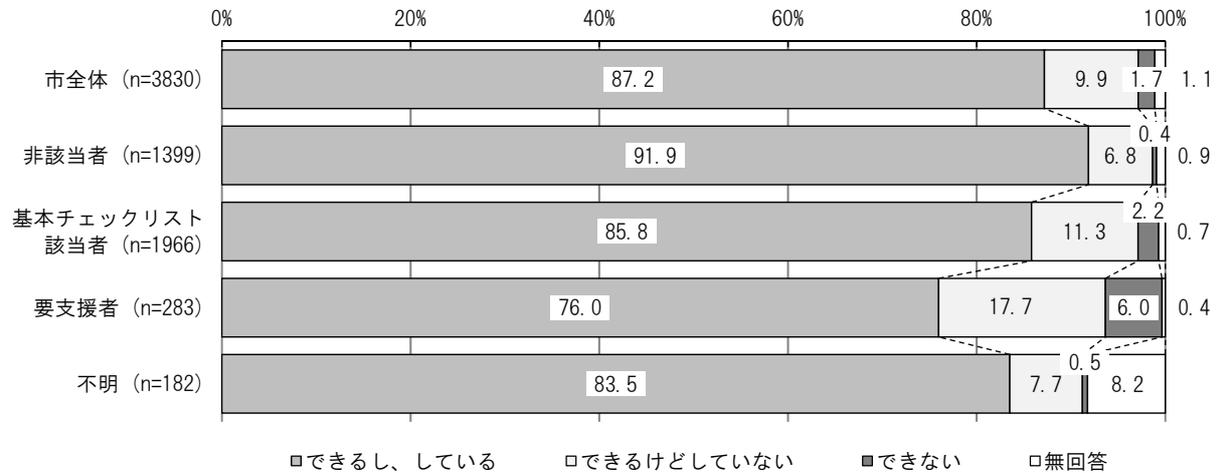


問 4・Q 8. 自分で食品・日用品の買物をしていますか（できるだけしていない・できない）

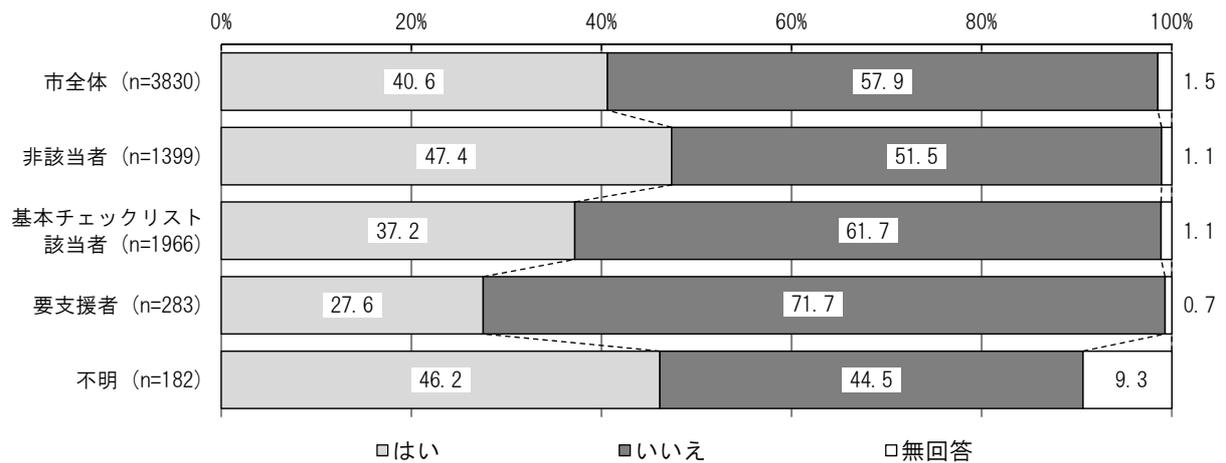


図表 回答結果-2

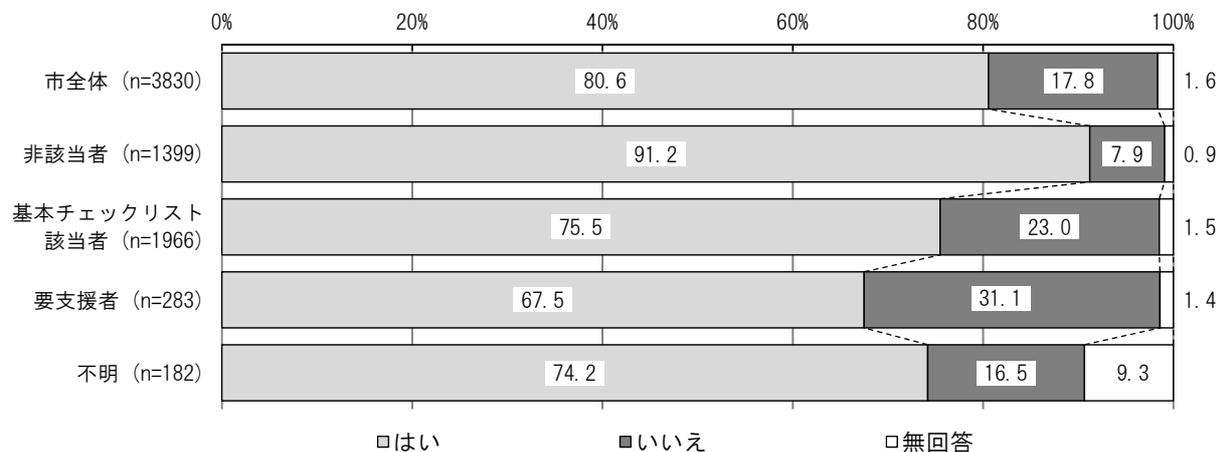
問4・Q11. 自分で預貯金の出し入れをしていますか（できるけどしていない・できない）



問4・Q18. 友人の家を訪ねていますか（いいえ）



問4・Q19. 家族や友人の相談にのっていますか（いいえ）

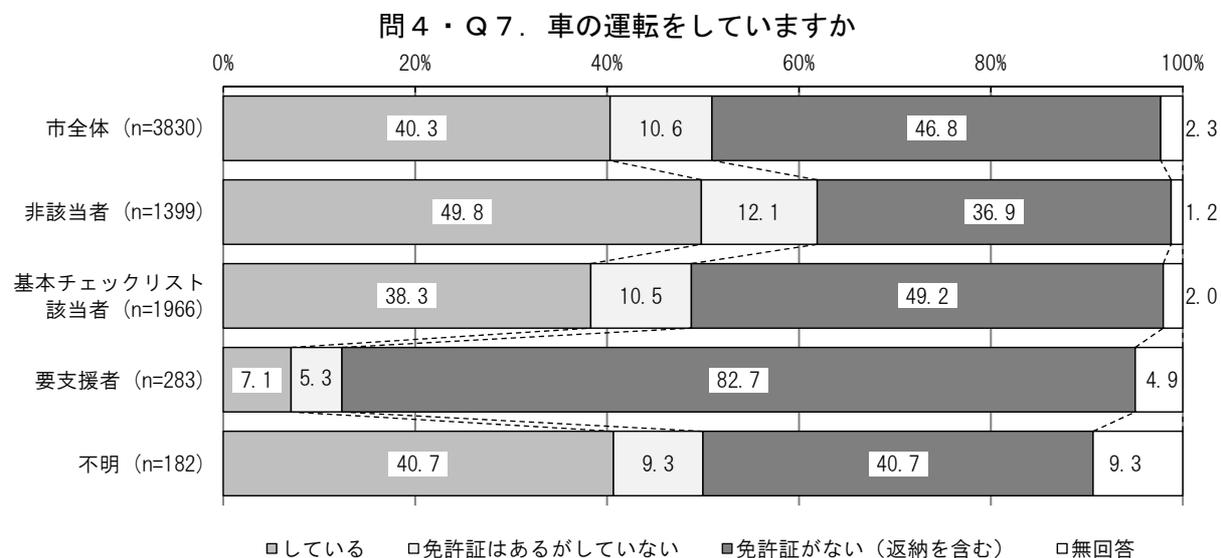


2 生活機能

エ 関連設問

車の運転をしているかについては、全体では「している」が40.3%、「免許証はあるがしていない」が10.6%と回答している一方、「免許証がない（返納を含む）」が46.8%となっています。特に、要支援者では、8割以上で免許証がない（返納を含む）と回答しています。

図表 車の運転



(9) 基本チェックリスト該当者

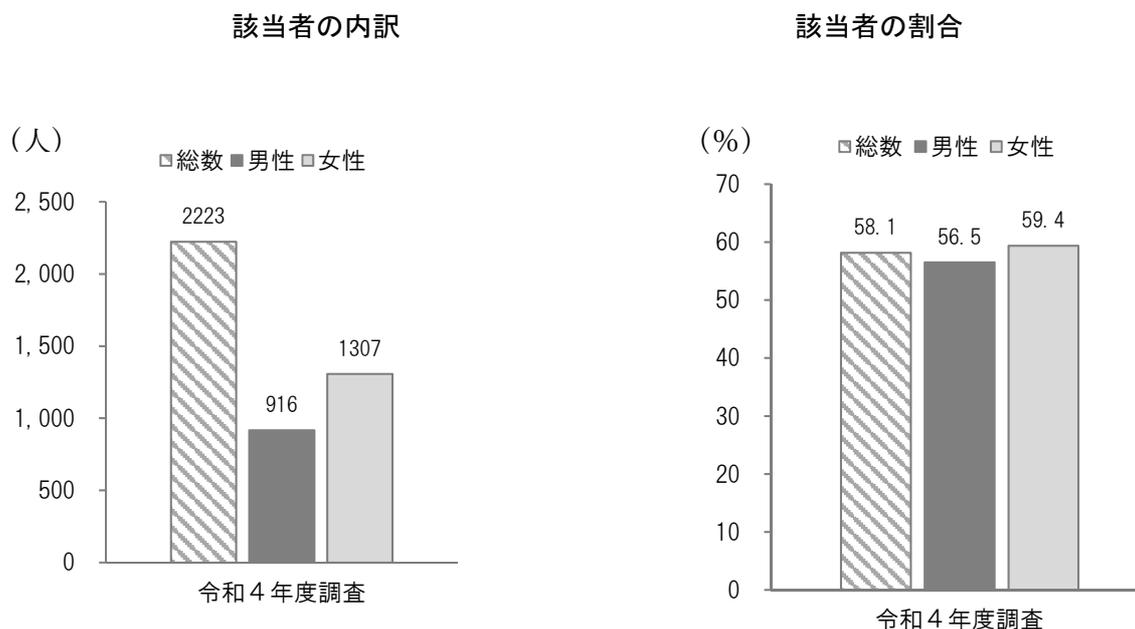
ア 設問と評価

該当する方は、本調査において基本チェックリストの判定項目（虚弱、運動、閉じこもり、栄養、口腔、認知機能、うつ）のいずれかにあてはまる方になります。

イ 評価結果

全体で 58.1% : 2,223 人、男性 56.5% : 916 人、女性 59.4% : 1,307 人が該当者となっています。

図表 基本チェックリスト該当者の状況



図表 基本チェックリスト該当者のリスク該当状況

上段：人数、下段：%

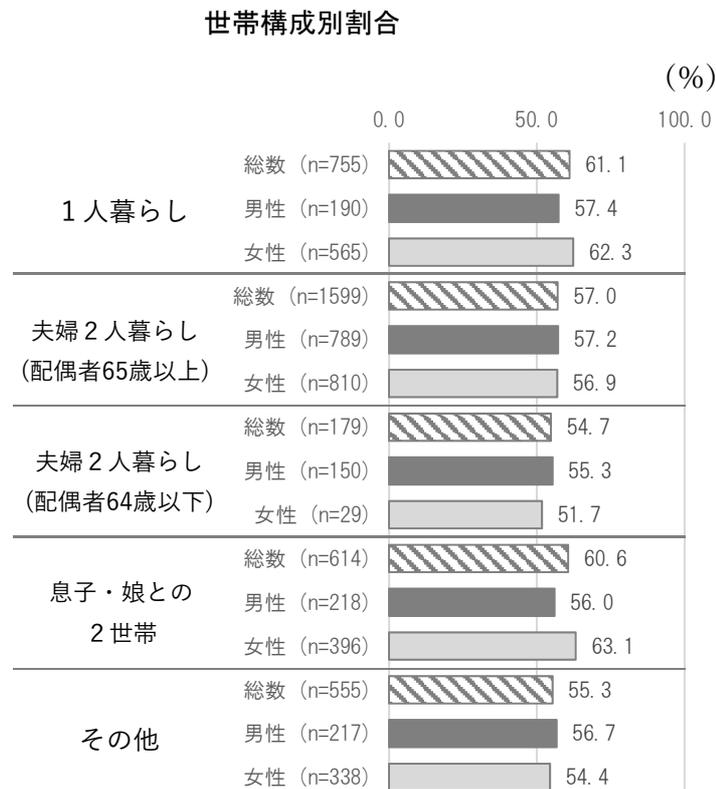
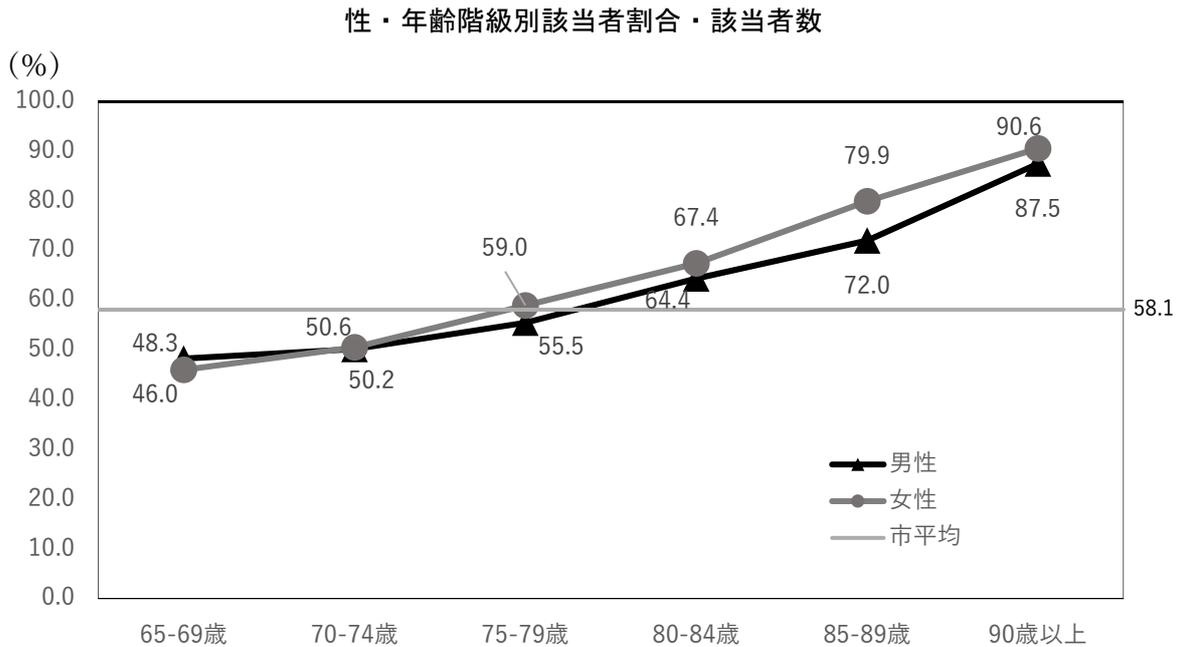
	虚弱	運動	閉じこもり	栄養	口腔	認知機能	うつ	全体
市全体	267 12.0	812 36.5	211 9.5	64 2.9	657 29.6	1,235 55.6	960 43.2	2,223 100.0
男性	112 12.2	276 30.1	100 10.9	21 2.3	253 27.6	583 63.6	355 38.8	916 100.0
女性	155 11.9	536 41.0	111 8.5	43 3.3	404 30.9	652 49.9	605 46.3	1,307 100.0

2 生活機能

性・年齢階級別にみると、年齢が上がるにつれてリスク該当者割合が高くなる傾向があります。また、男性では80～84歳、女性では75～79歳より上の年齢階級で市全体平均(58.1%)より高くなっています。

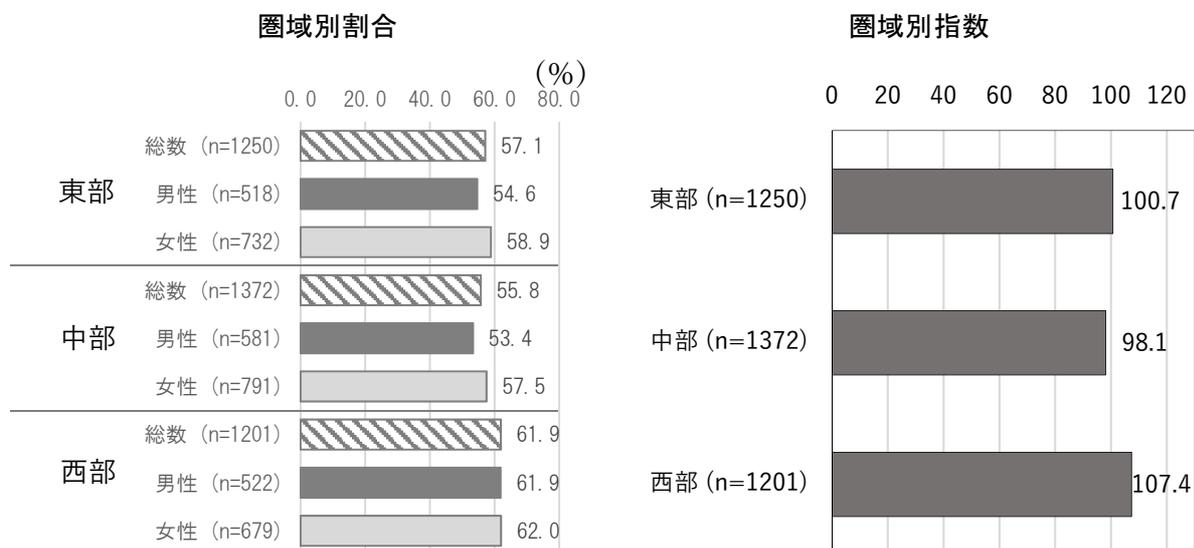
世帯構成別にみると、総数では1人暮らしが最も高くなっています。男女別では、息子・娘との2世帯の女性が63.1%と最も高く、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)世帯の女性が51.7%と最も低くなっています。

図表 基本チェックリスト該当者状況－性・年齢階級別、世帯構成別



圏域別割合をみると、西部圏域が61.9%と他圏域に比べてやや高くなっています。
 圏域別指数においても、西部圏域が107.4と高くなっています。

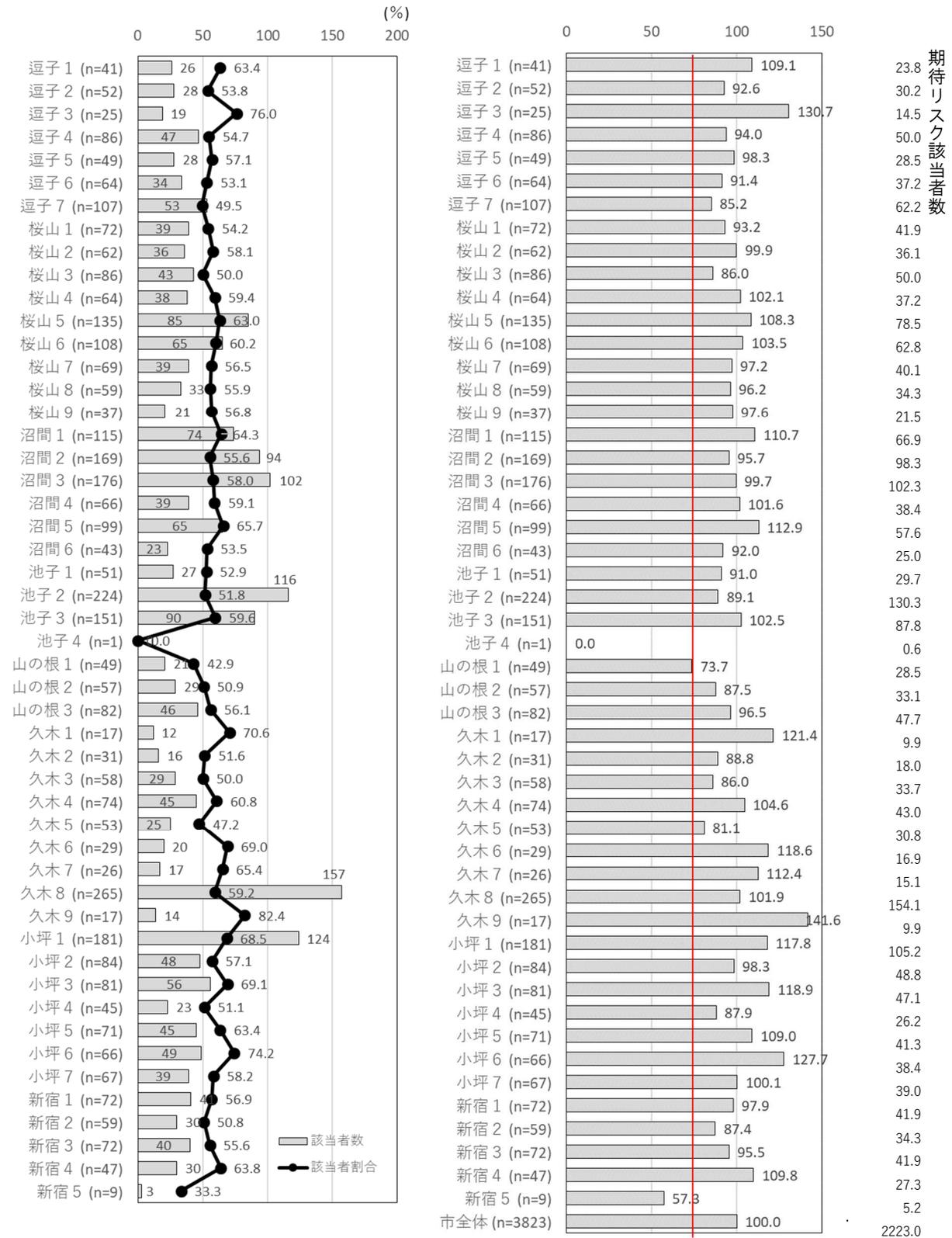
図表 基本チェックリスト該当者状況—圏域別割合、圏域別指数



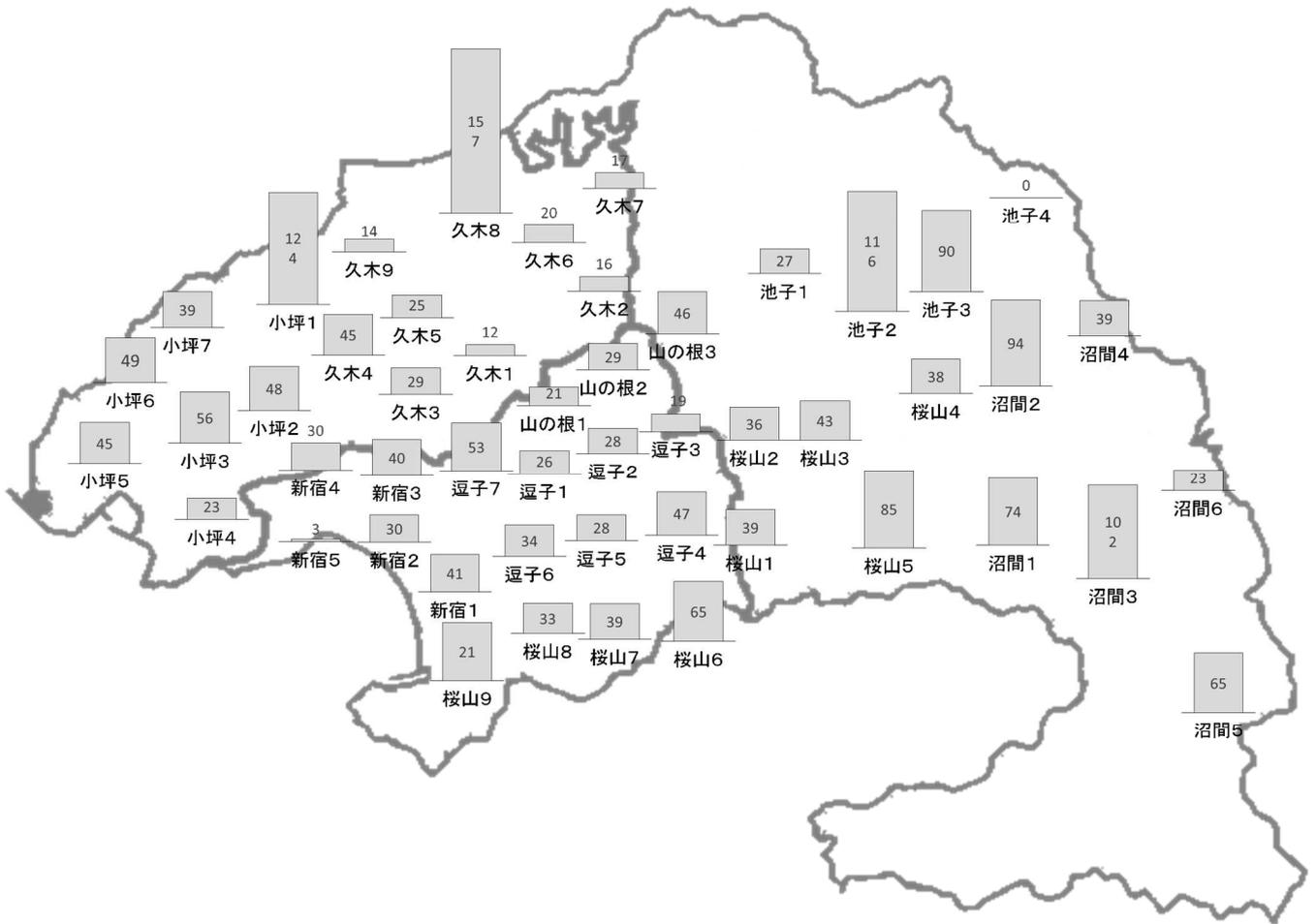
2 生活機能

町丁別該当者数をみると、久木8丁目、小坪1丁目、池子2丁目の順で多くなっています。
町丁別指数をみると、久木9丁目、逗子3丁目、小坪6丁目の順で高くなっています。

図表 基本チェックリスト該当者（左：町丁別該当者数・割合 右：町丁別指数）



図表 町丁別人数の分布：基本チェックリスト該当者



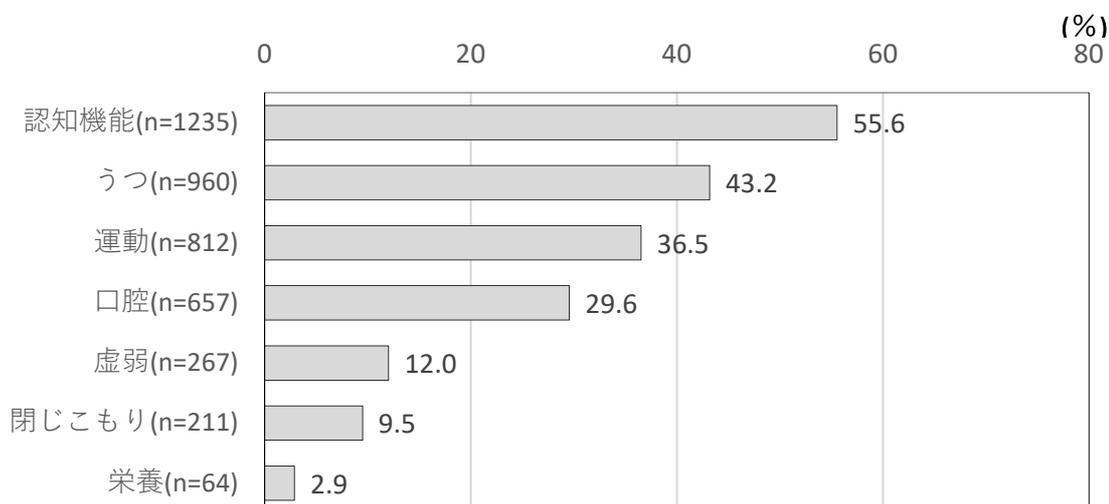
2 生活機能

ウ 該当項目

基本チェックリストの判定項目（虚弱、運動、閉じこもり、栄養、口腔、認知機能、うつ）について、重複している方がいますが、該当項目の割合は以下のグラフのとおりです。

評価項目のうち最も多いのは「認知機能」で、全体の 55.6%となっており、次いで「うつ」が 43.2%となっています。

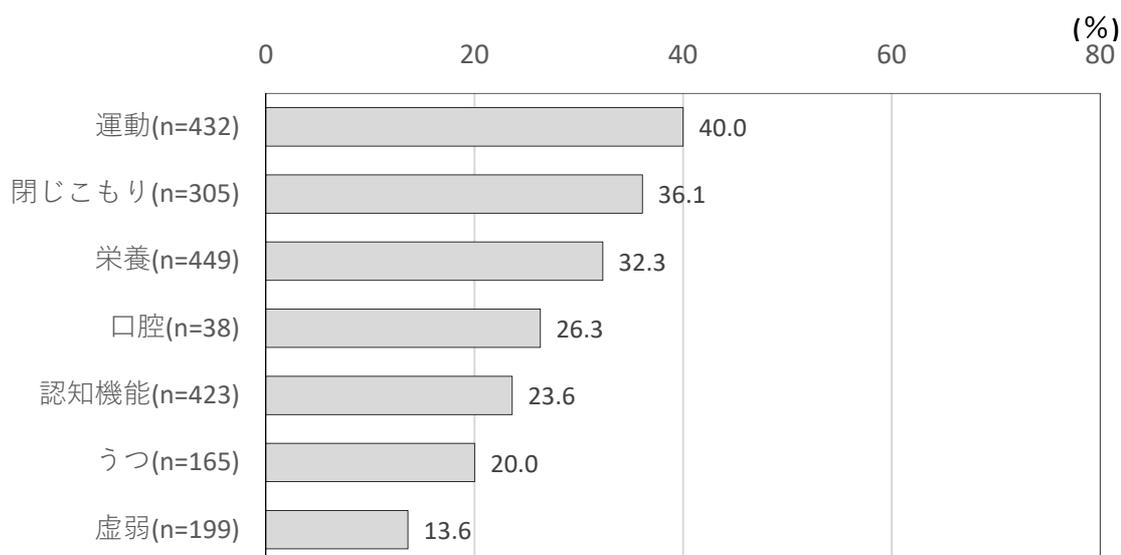
リスク該当項目構成比（該当項目に重複する方あり）



エ 関連項目

新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響をみるため、各リスク該当者のうち、外出を控えている理由（問2・Q10-1）で新型コロナウイルスによる外出自粛と回答した割合をみると、「運動」が 40.0%で最も高く、次いで「閉じこもり」が 36.1%、「栄養」が 32.3%で3割を超えています。

新型コロナウイルス感染症による外出自粛と回答した方（リスク該当項目別）



3 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

ア 設問と評価

ニーズ調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。

このうち、手段的自立度 (IADL) については、各設問に「している」または「できるだけしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価が可能です。

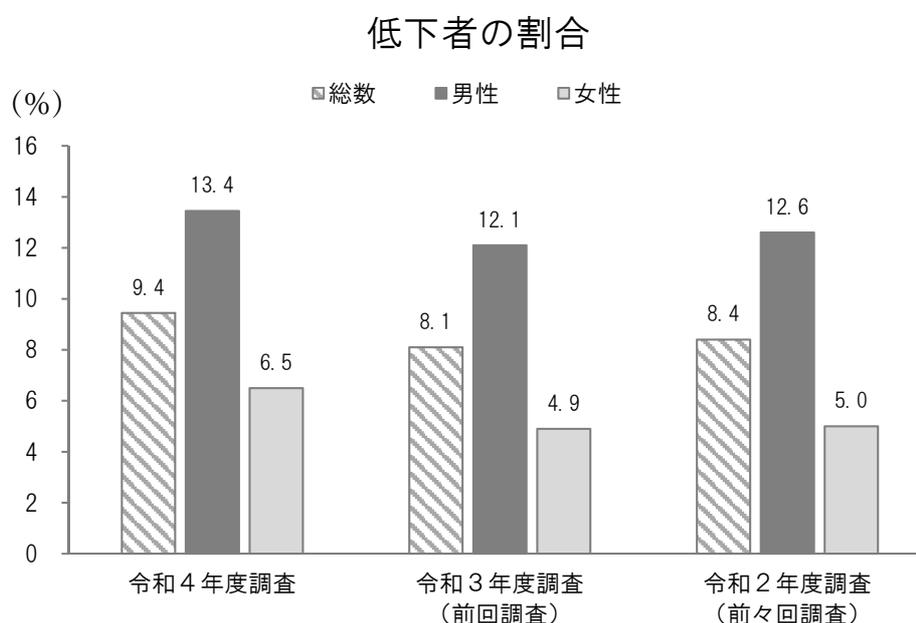
図表 手段的自立度に関する設問 (老研指標)

問番号	設問	配点と選択肢
問4・Q6	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	1:「1. できるし、している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q8	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q9	自分で食事の用意をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q10	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「1. している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q11	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「1. している」または「2. できるだけしていない」

イ 評価結果

4点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で9.4% : 361人、男性13.4% : 218人、女性6.5% : 143人が低下者となっており、女性より男性の低下者割合が顕著に高くなっています。過去の調査と比較すると、全体では、令和3年度調査(前回調査)から1.3ポイント増加しています。

図表 低下者割合－手段的自立度 (IADL)



(1) 手段的自立度 (IADL)

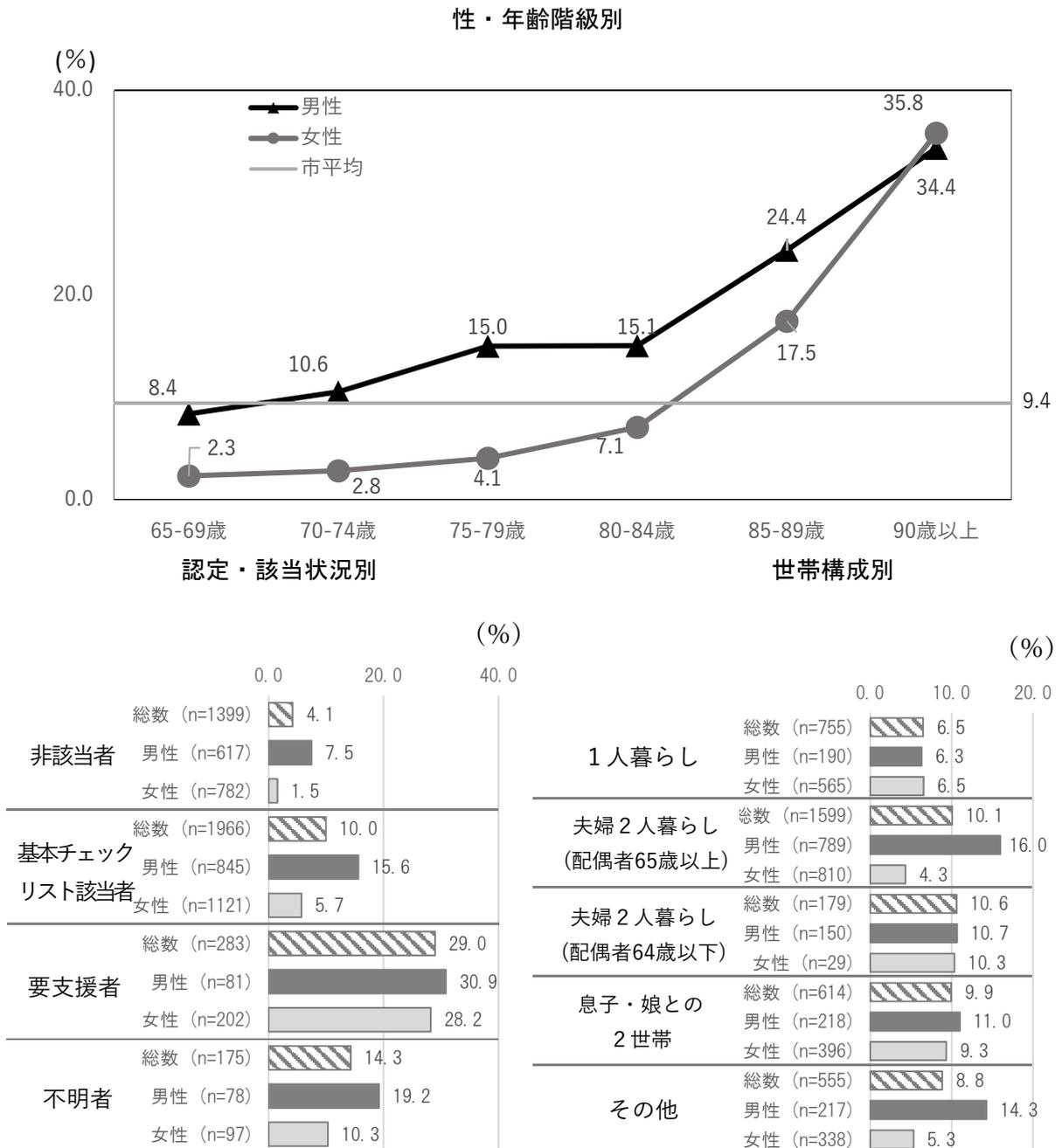
3 日常生活

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が高いほど低下者割合が高くなる傾向となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者が29.0%と、非該当者の7倍以上高くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の男性で16.0%、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性で10.3%と低下者割合が高くなっています。

図表 IADL低下者割合－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別

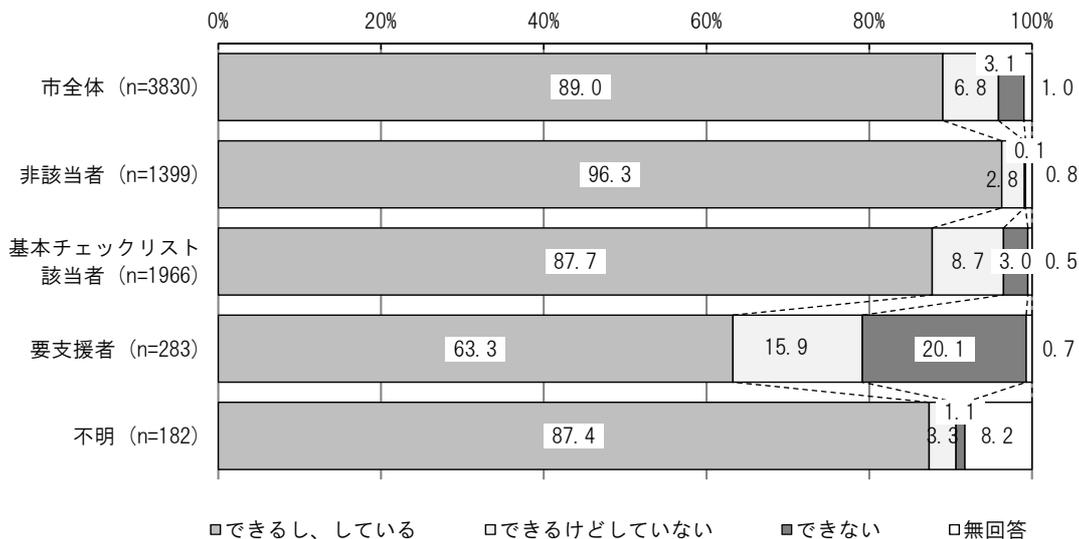


ウ 回答結果

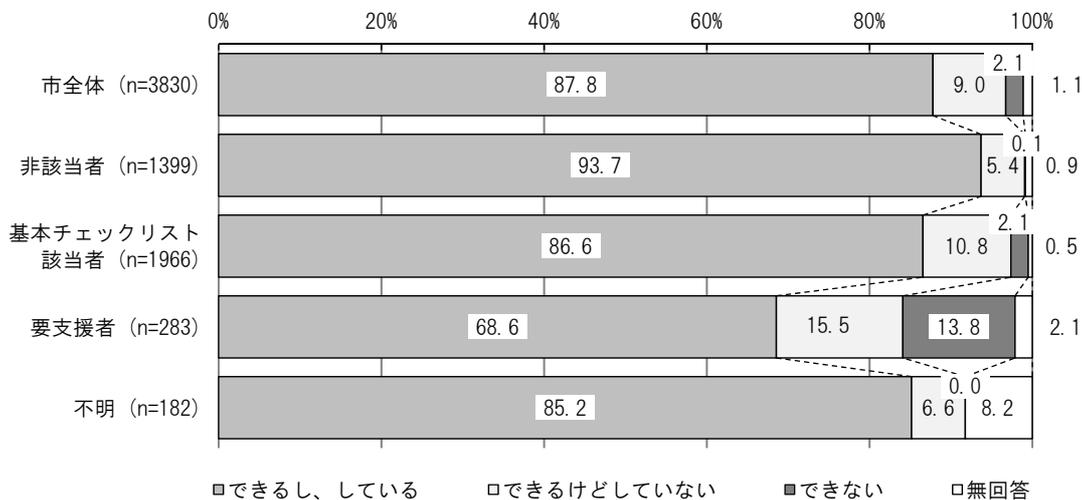
評価の基礎となった回答結果をみると、市全体で「できるし、している」との回答は、食事の用意（問4・Q9）のみ80%を下回っています。

図表 回答結果-1

問4・Q6. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）
（できるけどしていない・できない）



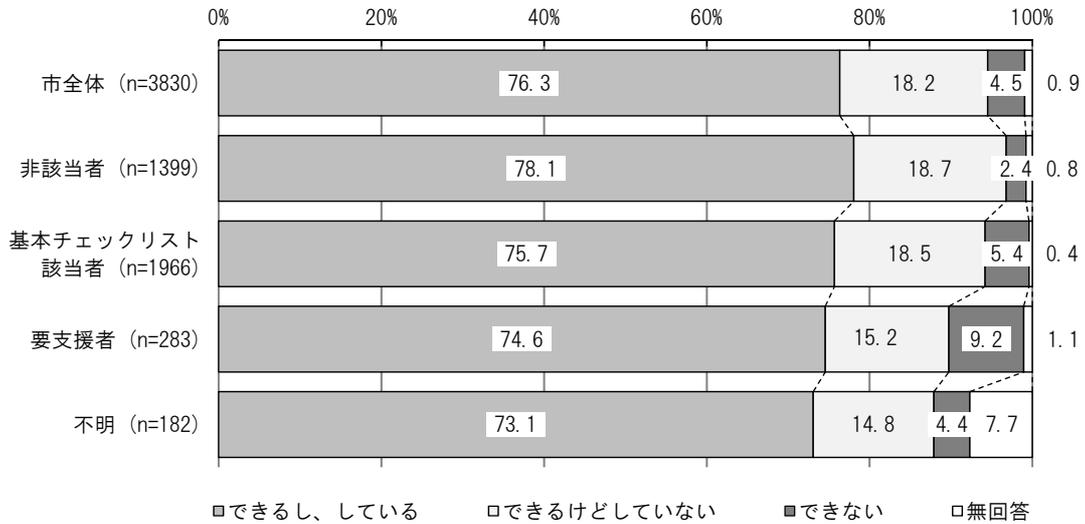
問4・Q8. 自分で食品・日用品の買物をしていますか（できるけどしていない・できない）



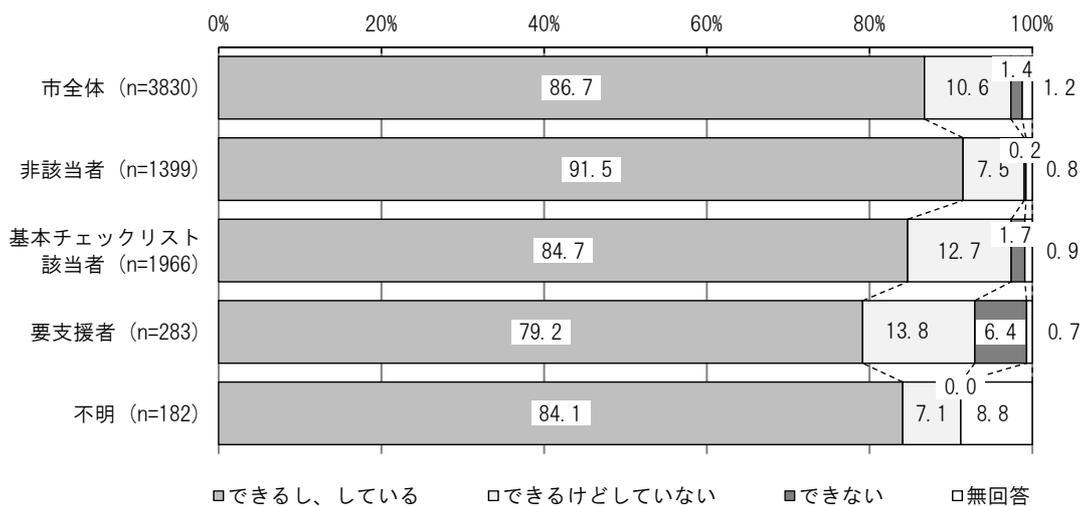
3 日常生活

図表 回答結果-2

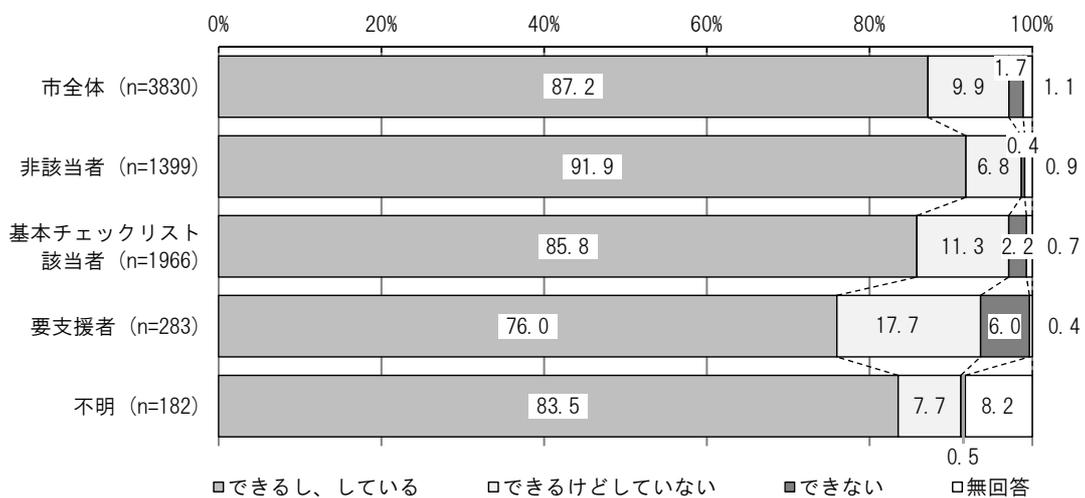
問4・Q9. 自分で食事の用意をしていますか（できるけどしていない・できない）



問4・Q10. 自分で請求書の支払いをしていますか（できるけどしていない・できない）



問4・Q11. 自分で預貯金の出し入れをしていますか（できるけどしていない・できない）



(1) 手段的自立度 (IADL)

4 社会参加

(1) 知的能動性

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

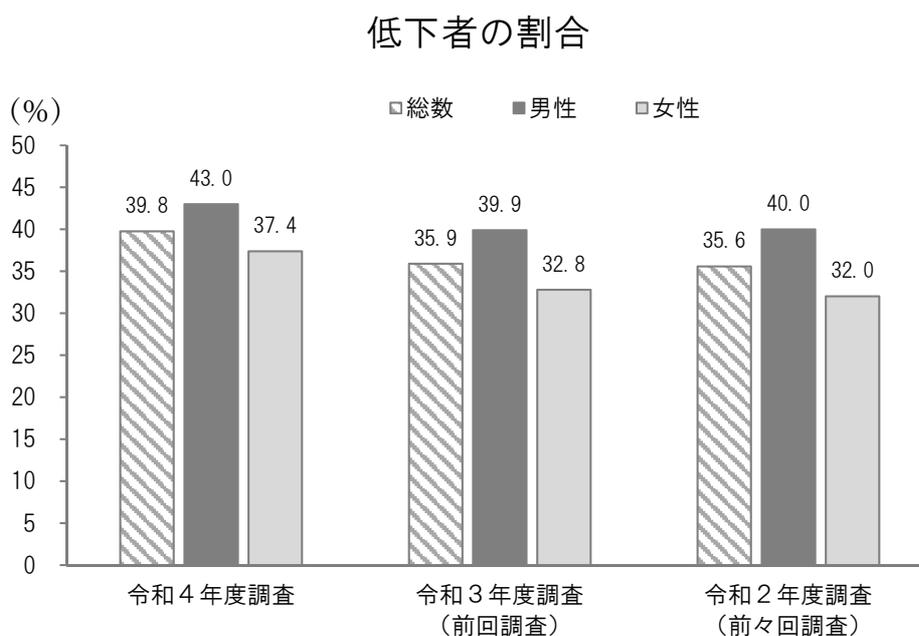
図表 知的能動性に関する設問（老研指標）

問番号	設 問	配点と選択肢
問4・Q12	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「1. はい」
問4・Q13	新聞を読んでいますか	1:「1. はい」
問4・Q14	本や雑誌を読んでいますか	1:「1. はい」
問4・Q15	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で39.8%：1,520人、男性43.0%：697人、女性37.4%：823人が低下者となっており、女性より男性の方が5.6ポイント低下者割合は高くなっています。過去の調査と比較すると、全体で令和2年度調査（前々回調査）から増加傾向にあり、令和3年度調査（前回調査）との比較でも3.9ポイント高くなっています。

図表 低下者割合—知的能動性



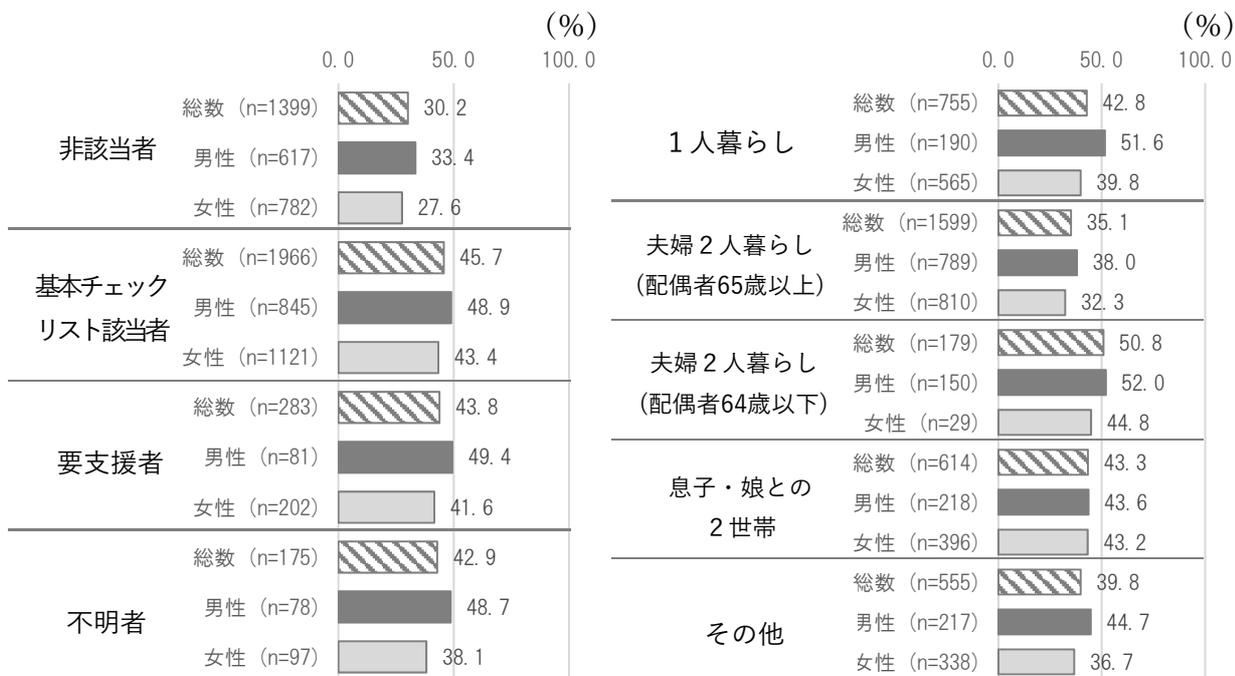
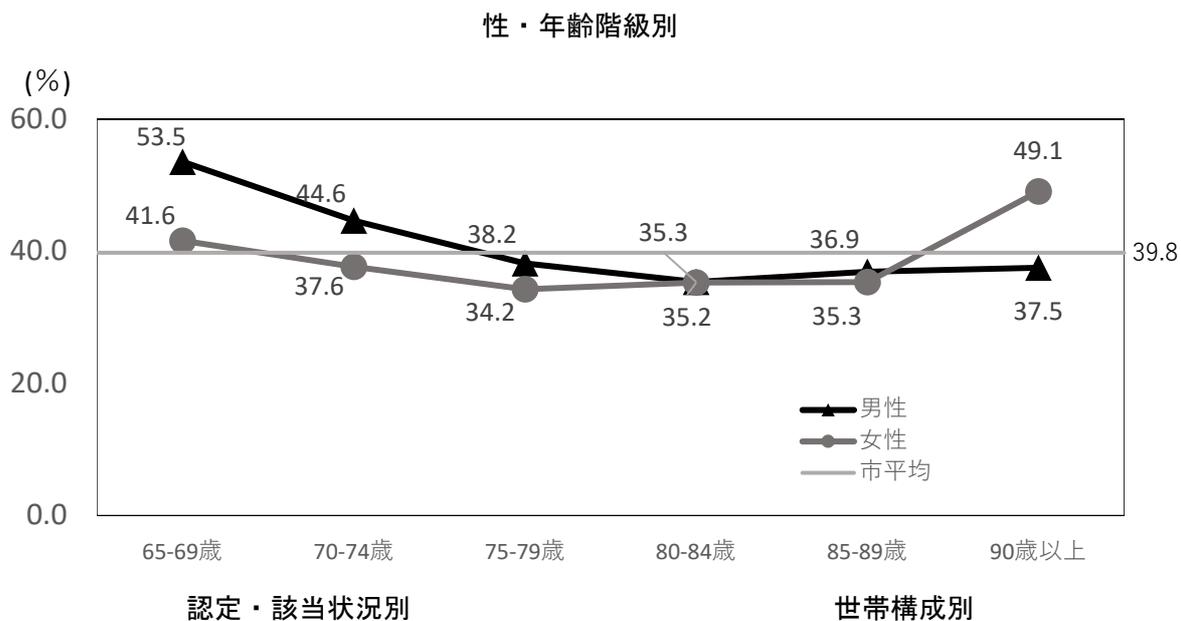
4 社会参加

性・年齢階級別にみると、男性では65～69歳が53.5%、女性では90歳以上が49.1%と他の年齢と比べて低下者割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者30.2%、基本チェックリスト該当者45.7%、要支援者43.8%が低下者になっています。

世帯構成別にみると、男女ともに夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の割合が高く、男性が52.0%、女性が44.8%と、低下者割合が高くなっています。

図表 知的能動性 低下者割合－性・年齢階級別、世帯構成別、認定・該当状況別

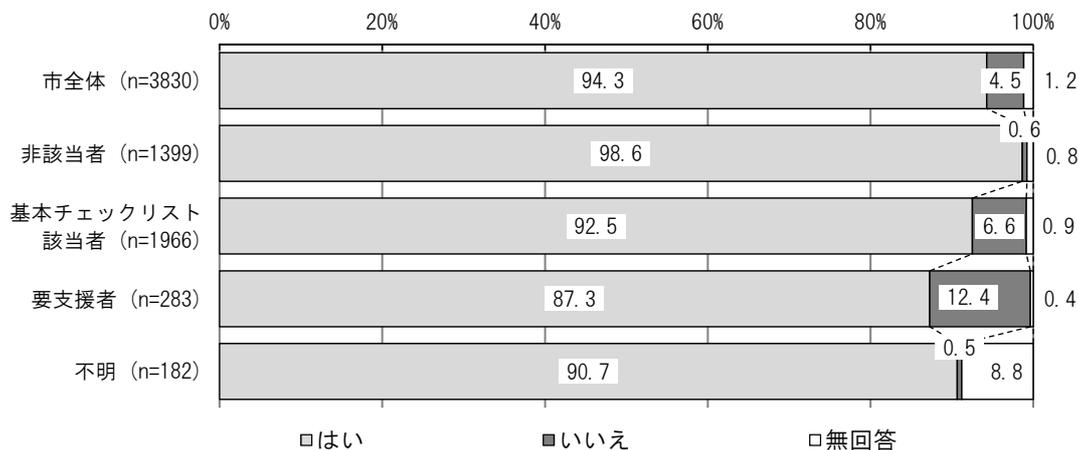


ウ 回答結果

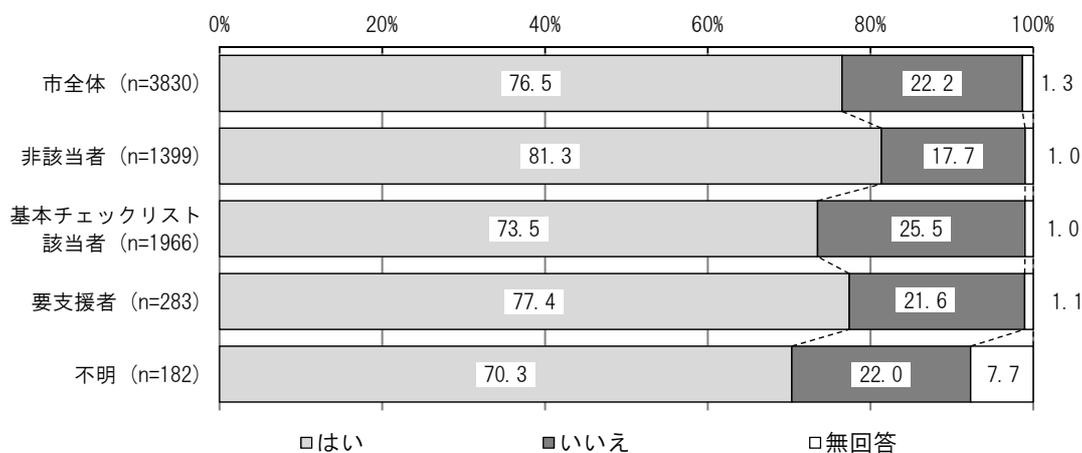
評価の基礎となっている4問の回答結果をみると、(問4・Q12)年金などの書類が書けるかについては、「はい」の回答が全ての認定・該当状況で80%を超えており、市全体でも9割以上と他の設問と比較して高くなっています。

図表 回答結果-1

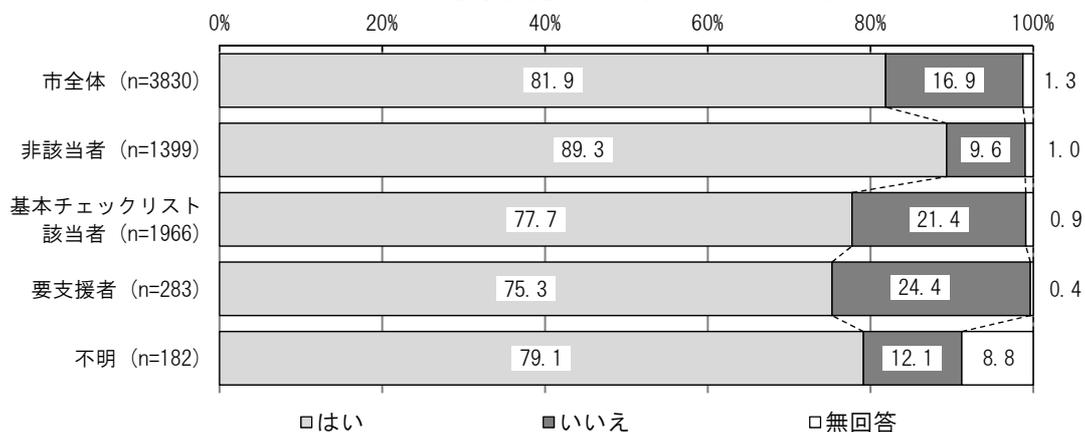
問4・Q12. 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか(いいえ)



問4・Q13. 新聞を読んでいますか(いいえ)

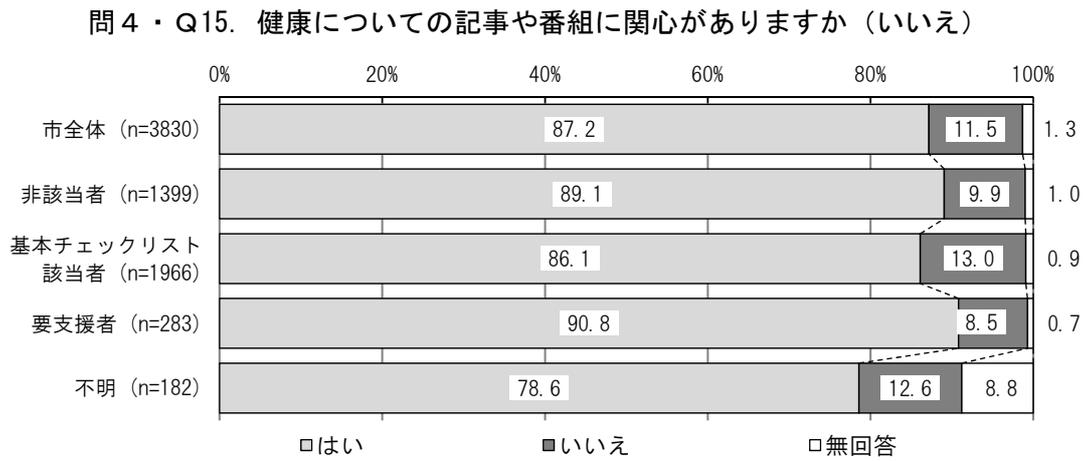


問4・Q14. 本や雑誌を読んでいますか(いいえ)



4 社会参加

図表 回答結果-2



(2) 社会的役割

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています（問4・Q18～21）。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

図表 社会的役割に関する設問（老研指標）

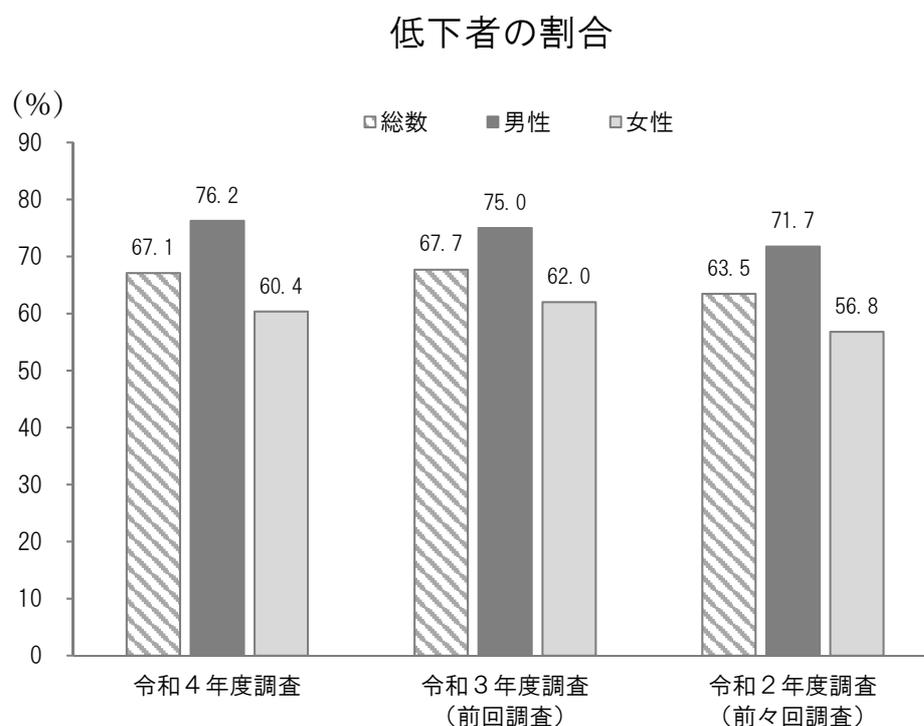
問番号	設 問	配点と選択肢
問4・Q18	友人の家を訪ねていますか	1:「1. はい」
問4・Q19	家族や友人の相談にのっていますか	1:「1. はい」
問4・Q20	病人を見舞うことができますか	1:「1. はい」
問4・Q21	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で67.1%：2,565人、男性76.2%：1,236人、女性60.4%：1,329人が低下者となっています。男性が女性よりも15.8ポイント高くなっています。

過去の調査と比較すると、令和3年度調査（前回調査）から全体で0.6ポイント低くなっています。

図表 低下者割合－社会的役割



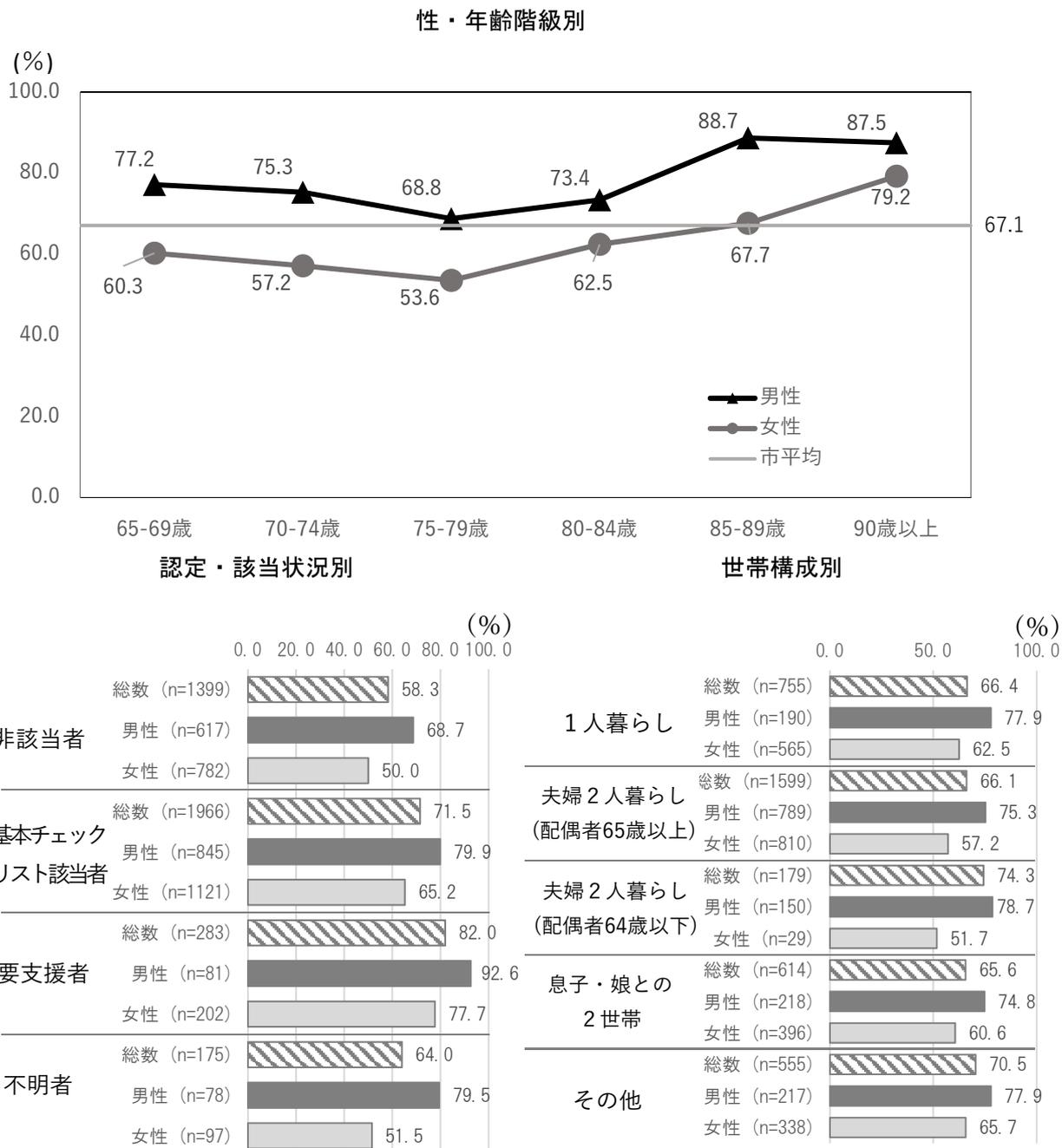
4 社会参加

性・年齢階級別にみると、全ての年齢階級で男性が女性より高くなっています。男性は85～89歳の88.7%が最も高く、女性は75～79歳の53.6%から年齢とともに高くなり、90歳以上で79.2%と最も高い割合となっています。

認定・該当状況別にみると、男性が非該当者で68.7%、基本チェックリスト該当者で79.9%、要支援者で92.6%といずれにおいても女性より高くなっています。

世帯構成別でも、全ての世帯構成で男性の低下者割合が市全体平均（67.1%）より高くなっています。

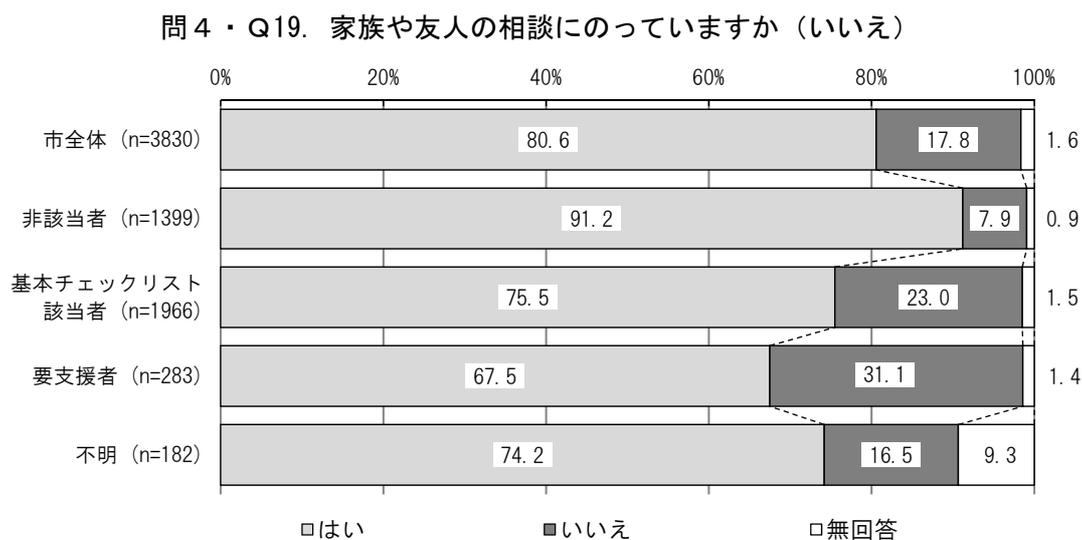
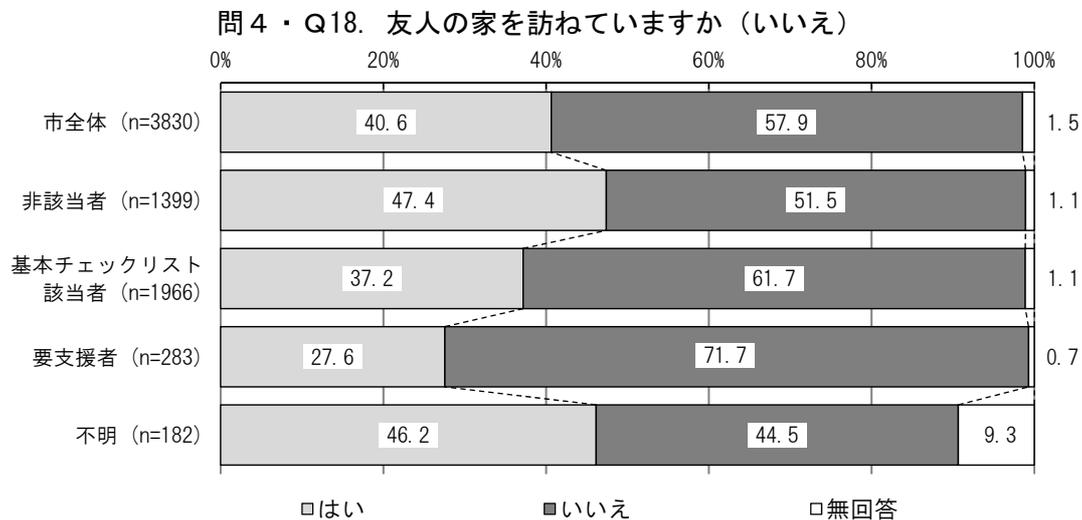
図表 社会的役割 低下者割合－性・年齢階級別、世帯構成別、認定・該当状況別



ウ 回答結果

評価の基礎となっている4問の回答結果をみると、友人の家を訪ねているか（問4・Q18）の設問で「はい」の回答が最も少なくなっています。

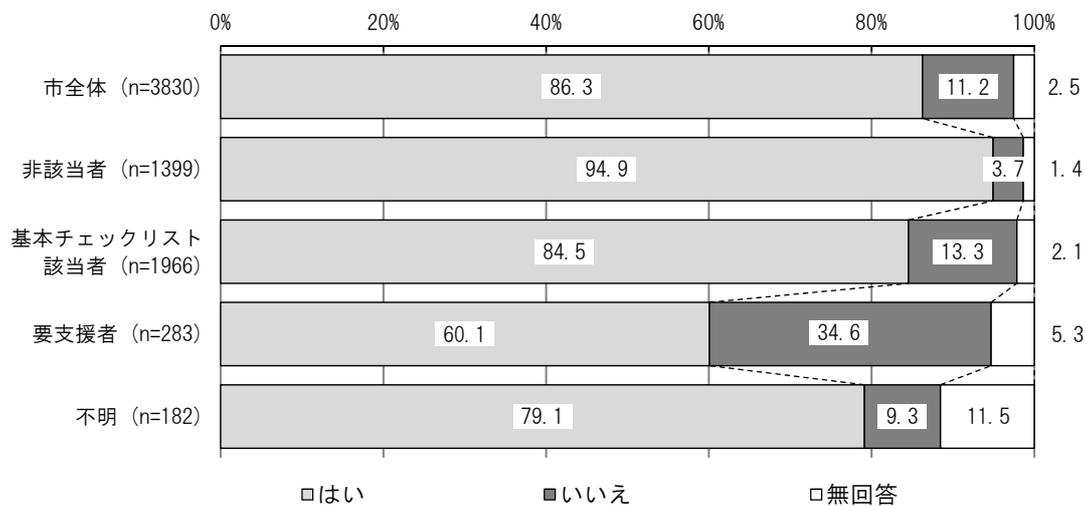
図表 回答結果-1



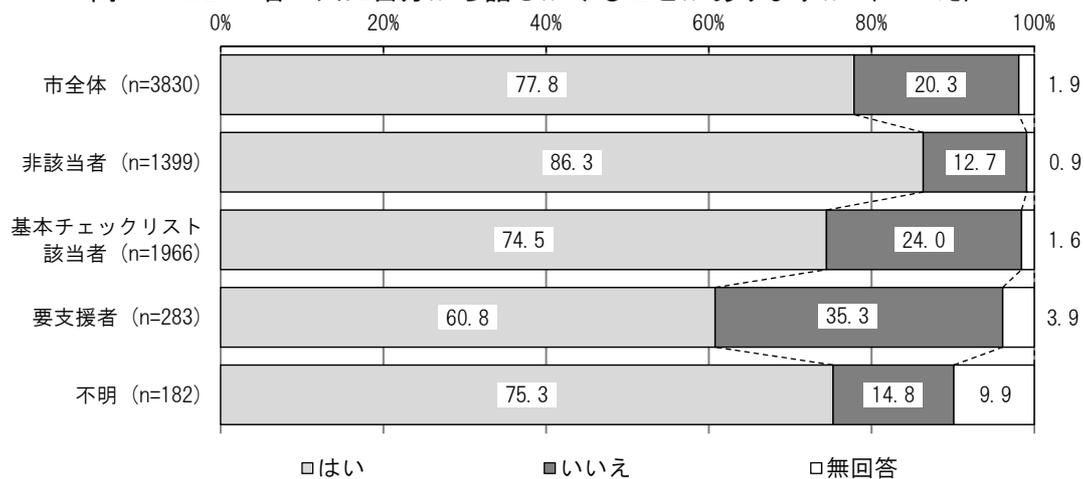
4 社会参加

図表 回答結果-2

問4・Q20. 病人を見舞うことができますか（いいえ）



問4・Q21. 若い人に自分から話しかけることがありますか（いいえ）



エ 関連設問

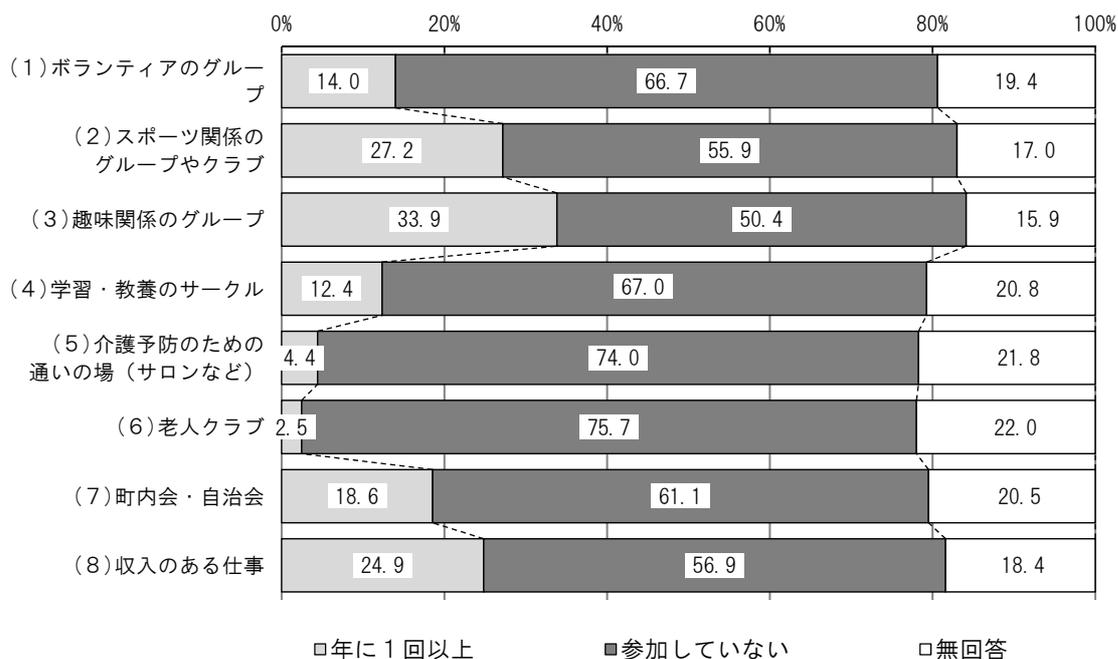
① 会の活動

関連設問である、参加している会・グループについてみると、比較的多いのは「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」となっています。

また、いずれの会・グループも参加していない人の割合は24.7%となっています。

図表 参加している会・グループ

問5・Q1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか



上段：人数、下段：%

	年に1回以上						参加していない	無回答
	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回			
(1) ボランティアのグループ	536 14.0	26 0.7	62 1.6	66 1.7	240 6.3	142 3.7	2,551 66.7	743 19.4
(2) スポーツ関係のグループやクラブ	1,041 27.2	104 2.7	346 9.1	275 7.2	202 5.3	114 3.0	2,138 55.9	651 17.0
(3) 趣味関係のグループ	1,296 33.9	65 1.7	201 5.3	235 6.1	573 15.0	222 5.8	1,926 50.4	608 15.9
(4) 学習・教養のサークル	473 12.4	16 0.4	41 1.1	64 1.7	219 5.7	133 3.5	2,563 67.0	794 20.8
(5) 介護予防のための通いの場 (サロンなど)	169 4.4	11 0.3	29 0.8	45 1.2	52 1.4	32 0.8	2,829 74.0	832 21.8
(6) 老人クラブ	94 2.5	7 0.2	4 0.1	9 0.2	44 1.2	30 0.8	2,894 75.7	842 22.0
(7) 町内会・自治会	711 18.6	16 0.4	24 0.6	23 0.6	190 5.0	458 12.0	2,334 61.1	785 20.5
(8) 収入のある仕事	951 24.9	430 11.2	273 7.1	80 2.1	92 2.4	76 2.0	2,174 56.9	705 18.4
合計※ (1)~(8) いずれかで年1回以上参加	2585 67.6						945 24.7	300 7.8

(2) 社会的役割

4 社会参加

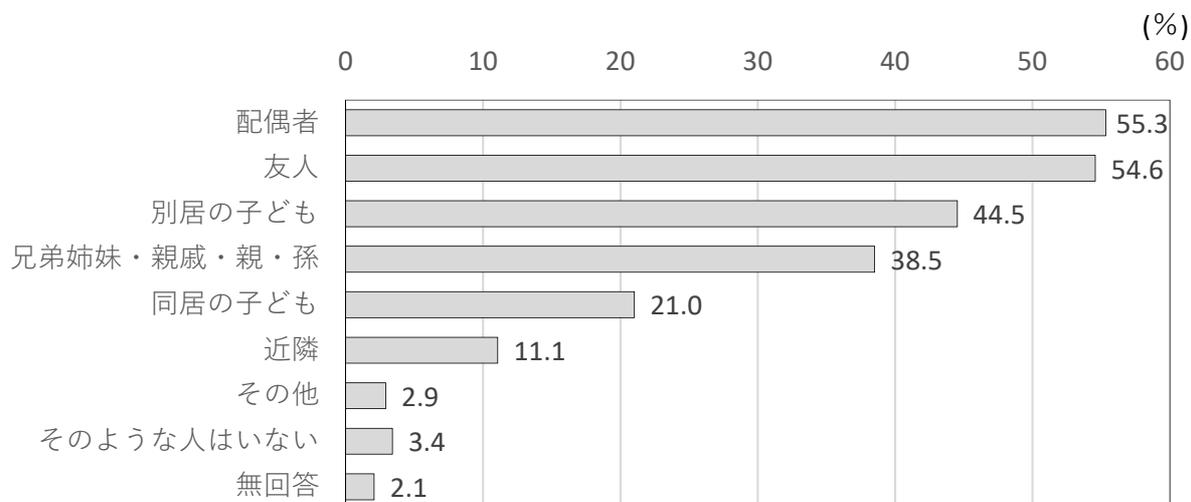
② まわりの人との助け合い

「心配事や愚痴を聞いてくれる人」としては、「配偶者」が55.3%と最も多く、次いで「友人」(54.6%)、「別居の子ども」(44.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(38.5%)となっています。

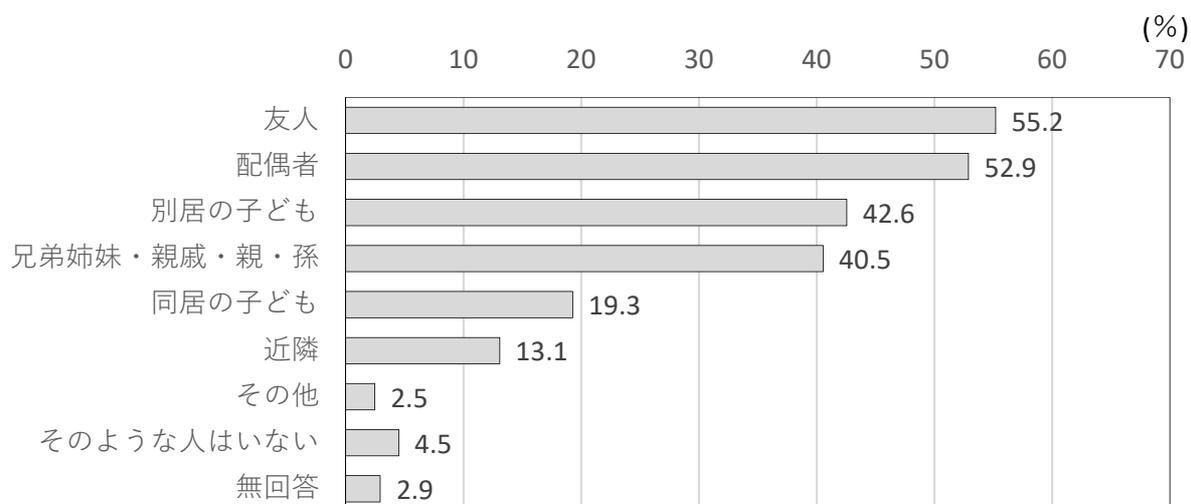
「心配事や愚痴を聞いてあげる人」は、「友人」(55.2%)が最も多く、次いで、「配偶者」(52.9%)、「別居の子ども」(42.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(40.5%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-1

問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)



問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)



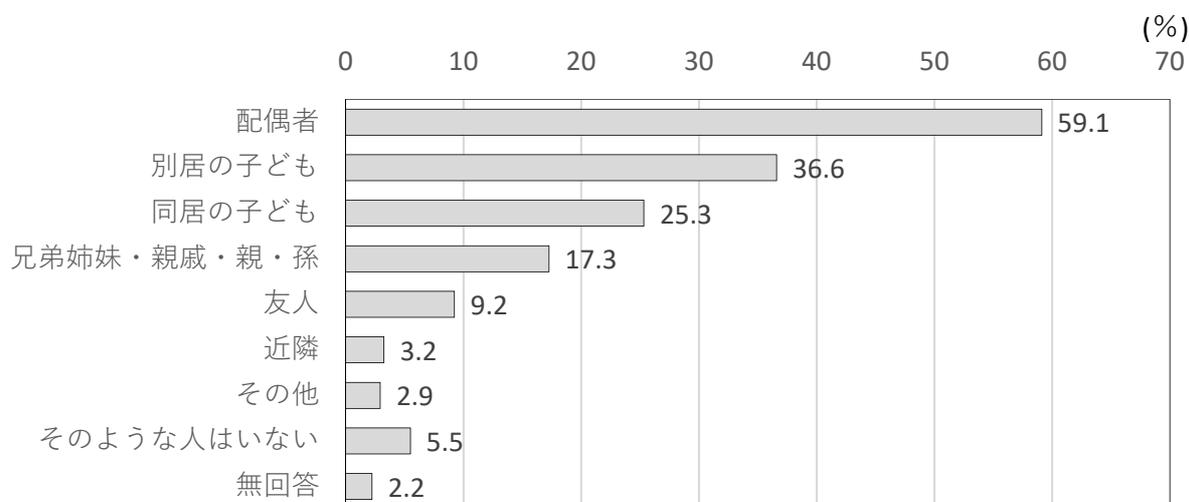
4 社会参加

「看病や世話をしてくれる人」は、「配偶者」が 59.1%で最も多く、次いで「別居の子ども」(36.6%)、「同居の子ども」(25.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(17.3%)が続いています。

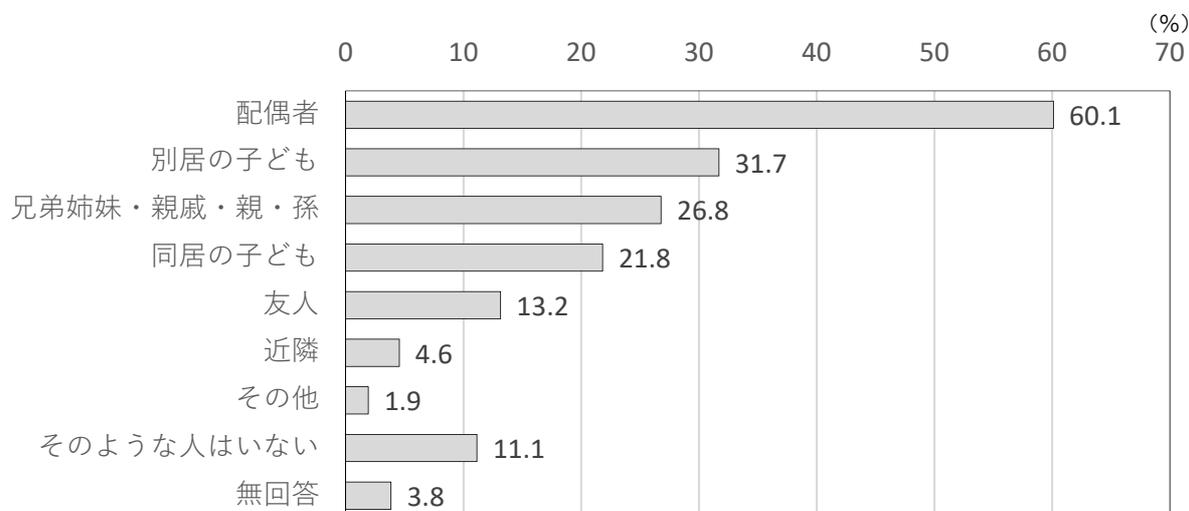
「看病や世話をしてあげる人」も、「配偶者」が 60.1%で最も多く、次いで「別居の子ども」(31.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(26.8%)、「同居の子ども」(21.8%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-2

問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)



問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)



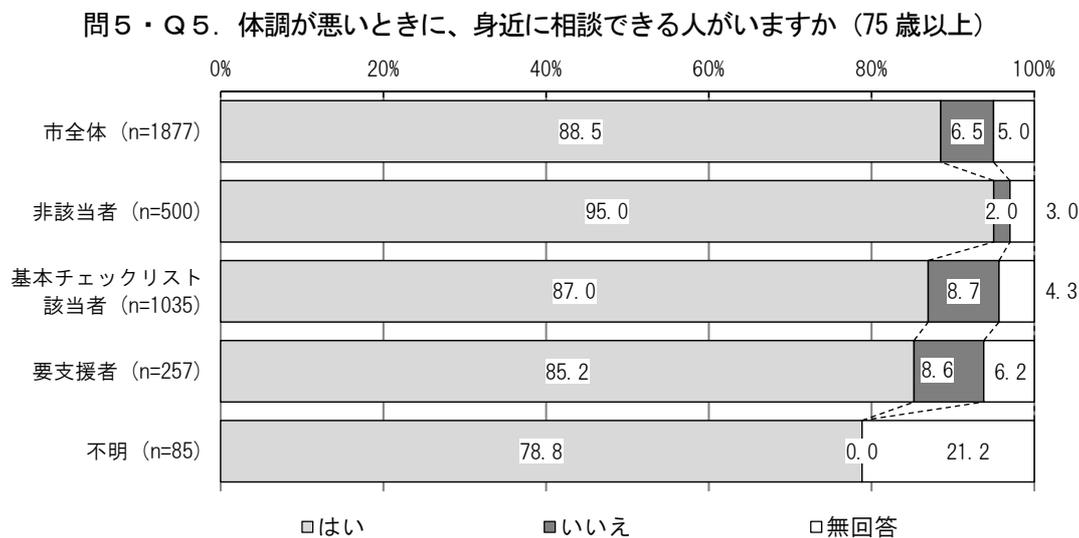
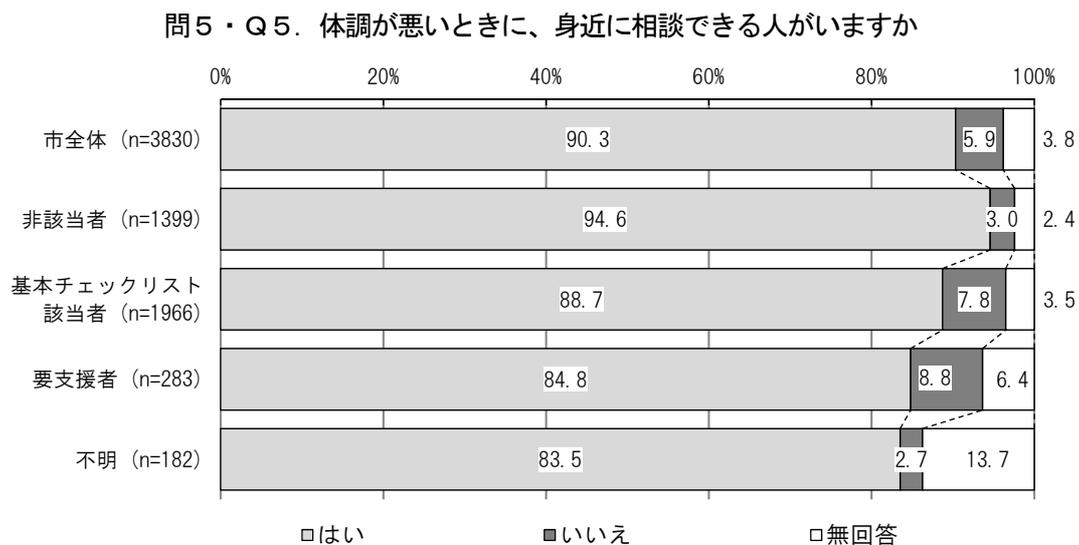
4 社会参加

③ 相談相手

体調が悪い時に、身近に相談できる人がいるかについては、「はい」が 90.3%、「いいえ」が 5.9%となりました。

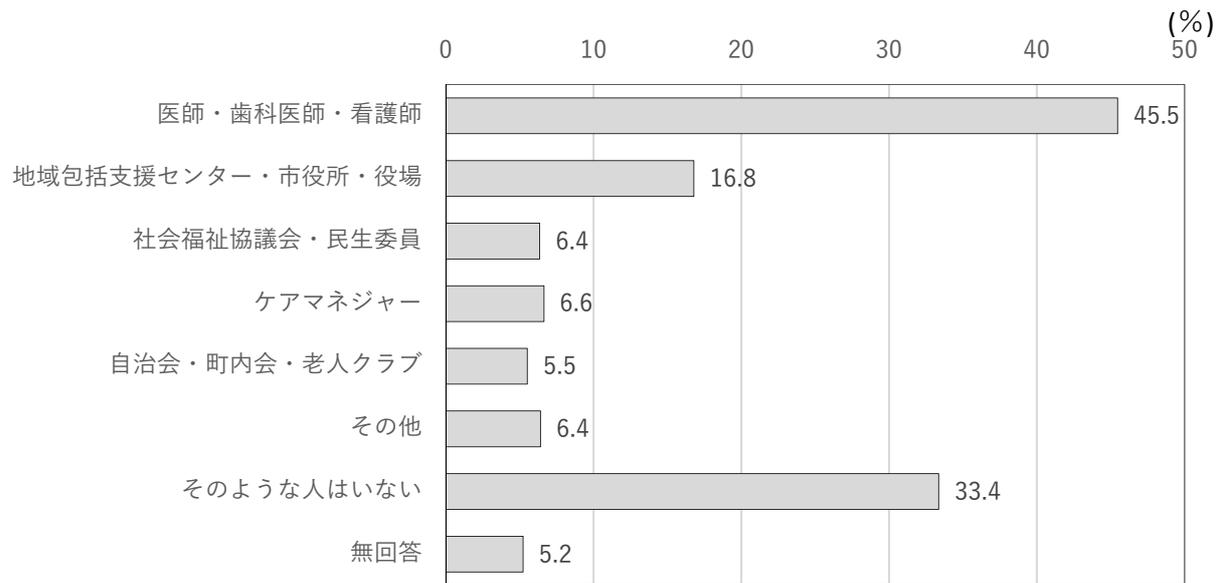
家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が 45.5%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・市役所・役場」(16.8%)などと続いています。「そのような人はいない」の回答は 33.4%となっています。

図表 体調が悪いときの相談相手



図表 何かあったときの相談相手

問5・Q6. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）



4 社会参加

④ 知人・友人

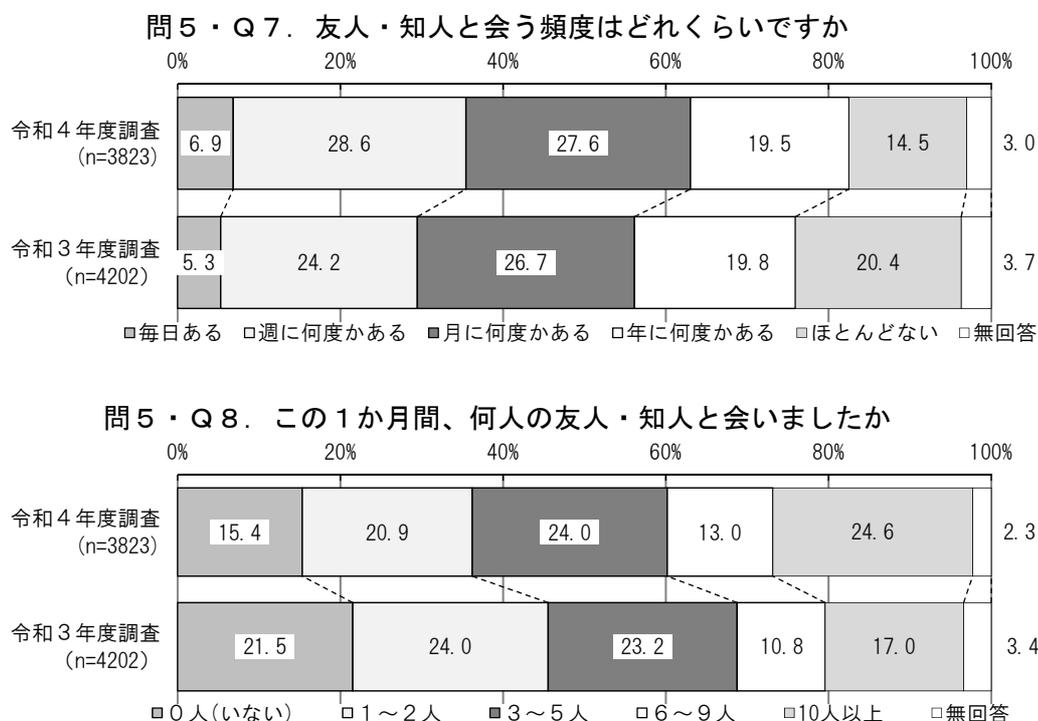
「知人・友人に会う頻度」については、「週に何度かある」が28.6%で最も多くなっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、「毎日ある」、「週に何度かある」、「月に何度かある」の割合が増加し、「年に何度かある」、「ほとんどない」の割合が減少しています。

1か月に会った友人・知人の数は、「10人以上」が24.6%で最も多くなっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、「0人（いない）」と「1～2人」の割合が減少した一方、それ以外の割合は増加しています。

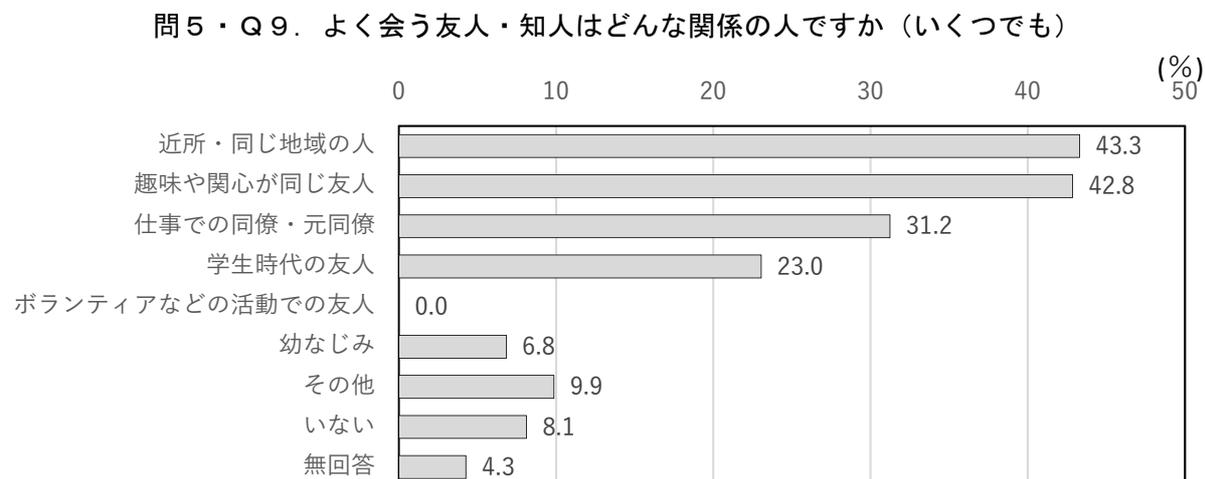
「よく会う友人・知人」としては、「近所・同じ地域の人」が43.3%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（42.8%）、「仕事での同僚・元同僚」（31.2%）と続いています。

「ふだんから家族や友人との付き合いがありますか」は、「はい」が94.3%で最も多く、非該当者が97.7%と高くなっていますが、それ以外も90%付近の数値になっています。

図表 知人・友人と会う頻度・人数



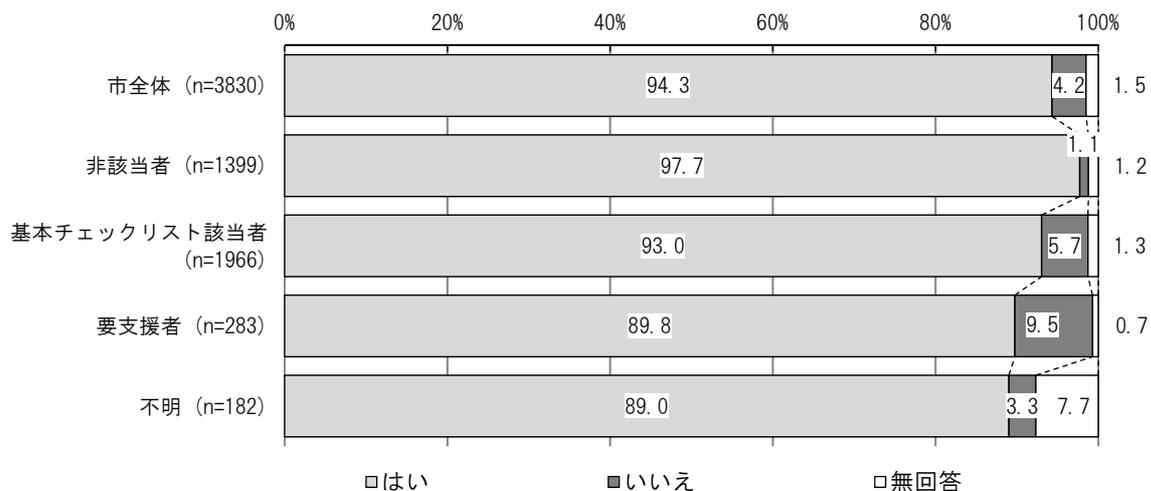
図表 知人・友人の関係



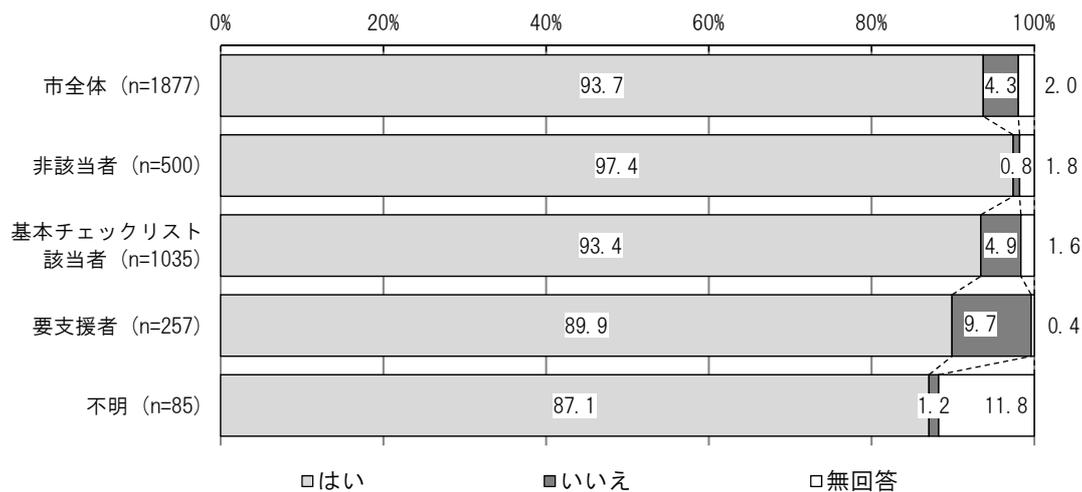
(2) 社会的役割

図表 知人・友人の関係

問4・Q17. ふだんから家族や友人との付き合いがありますか



問4・Q17. ふだんから家族や友人との付き合いがありますか (75歳以上)



4 社会参加

⑤ 地域づくり

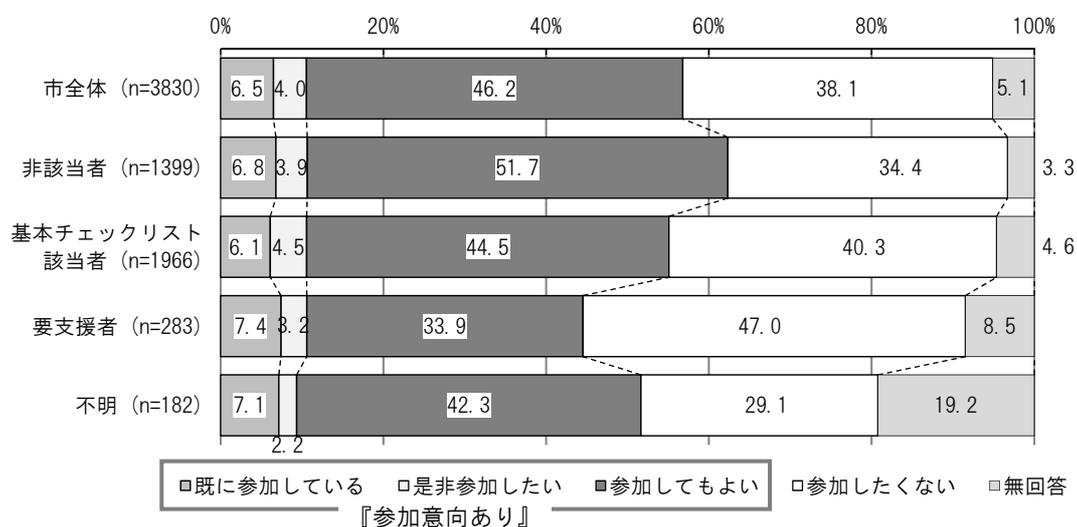
「地域づくりを進めるために、あなたはその活動に参加者として参加したいか」については、全体では「参加してもよい」が46.2%と最も多く、次いで「参加したくない」(38.1%)、「既に参加している」(6.5%)「是非参加したい」(4.0%)となっています。非該当者、基本チェックリスト該当者では、半数以上が『参加意向あり』と回答しています。

「地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加したいか」については、全体では「参加したくない」が61.2%と最も多く、次いで「参加してもよい」(28.1%)、「既に参加している」(4.5%)「是非参加したい」(2.0%)となっています。また、非該当者の39.5%が『参加意向あり』と回答しています。

図表 活動に参加者として参加

問5・Q2.

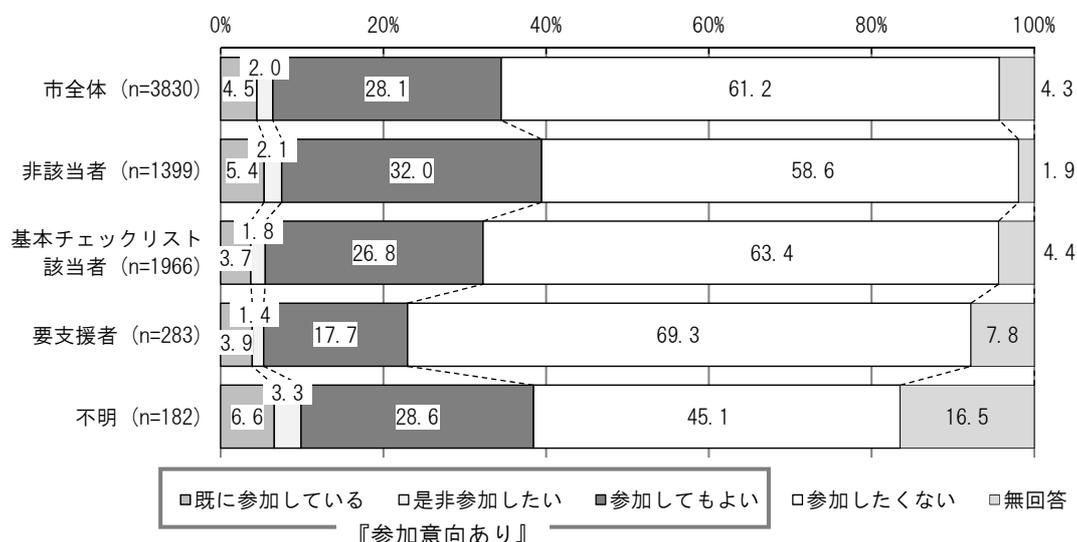
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



図表 活動に企画・運営（お世話役）として参加

問5・Q3.

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



(2) 社会的役割

(3) 老研式活動能力指標総合評価

ア 設問と評価

老研指標では、全 13 問の合計得点で生活機能において高次・複雑な対応ができるかどうか等の活動能力の総合評価ができます。

評価は 13 点満点で行いますが、ここでは 11 点以上を「高い」、9、10 点を「やや低い」、8 点以下を「低い」として評価しています。(設問の実行している状況の評価)

図表 老研式活動能力指標総合評価に関する設問

問番号	設 問	配点と選択肢
問4・Q6	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q8	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q9	自分で食事の用意をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q10	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q11	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q12	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「はい」
問4・Q13	新聞を読んでいますか	1:「はい」
問4・Q14	本や雑誌を読んでいますか	1:「はい」
問4・Q15	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「はい」
問4・Q18	友人の家を訪ねていますか	1:「はい」
問4・Q19	家族や友人の相談にのっていますか	1:「はい」
問4・Q20	病人を見舞うことができますか	1:「はい」
問4・Q21	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「はい」

4 社会参加

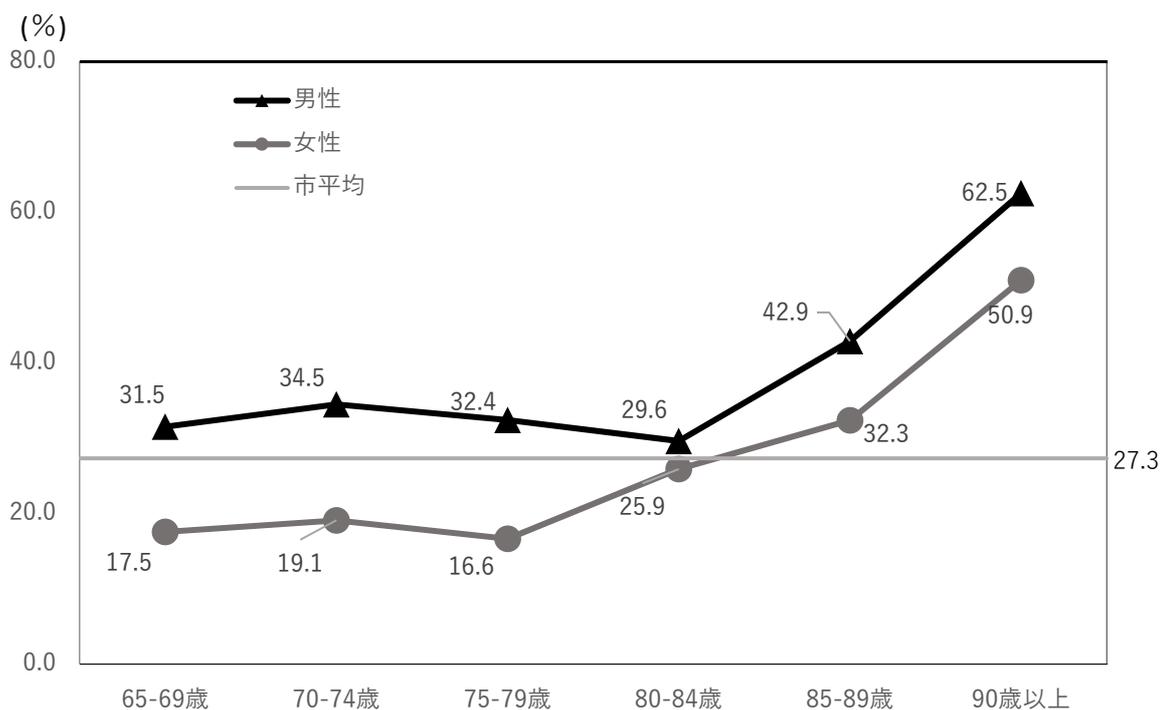
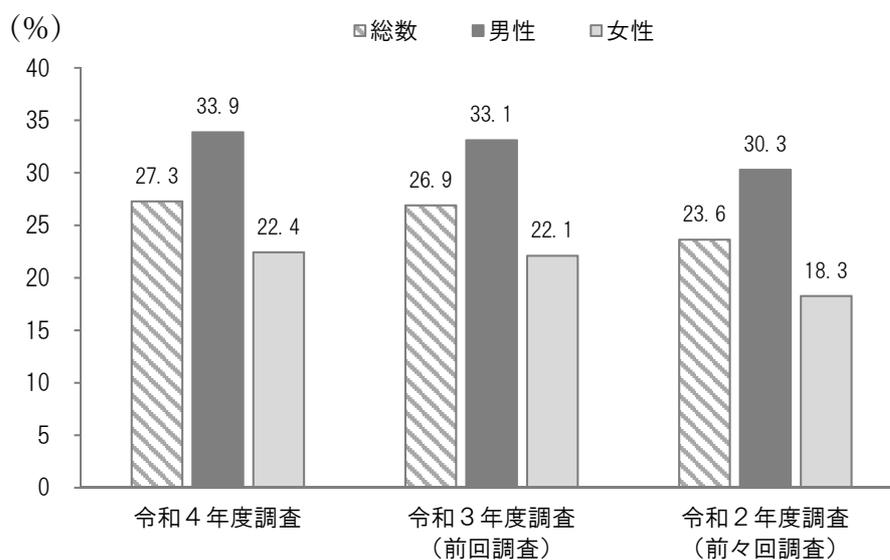
イ 評価結果

10点以下を低下者とした結果をみると、全体で27.3%：1,043人、男性33.9%：549人、女性22.4%：494人が低下者となっており、男性が女性より11.5ポイント高くなっています。過去の調査と比較すると、令和2年度調査（前々回調査）から増加傾向にあり、令和3年度調査（前回調査）から0.4ポイント増加しています。

性・年齢階級別にみると、年齢が上がるほど低下者割合が高くなる傾向があり、男性は85～89歳から低下者割合が高くなり、90歳以上で62.5%となっています。女性は80～84歳から高くなり、90歳以上で50.9%となっています。

図表 低下者割合－老研指標総合評価

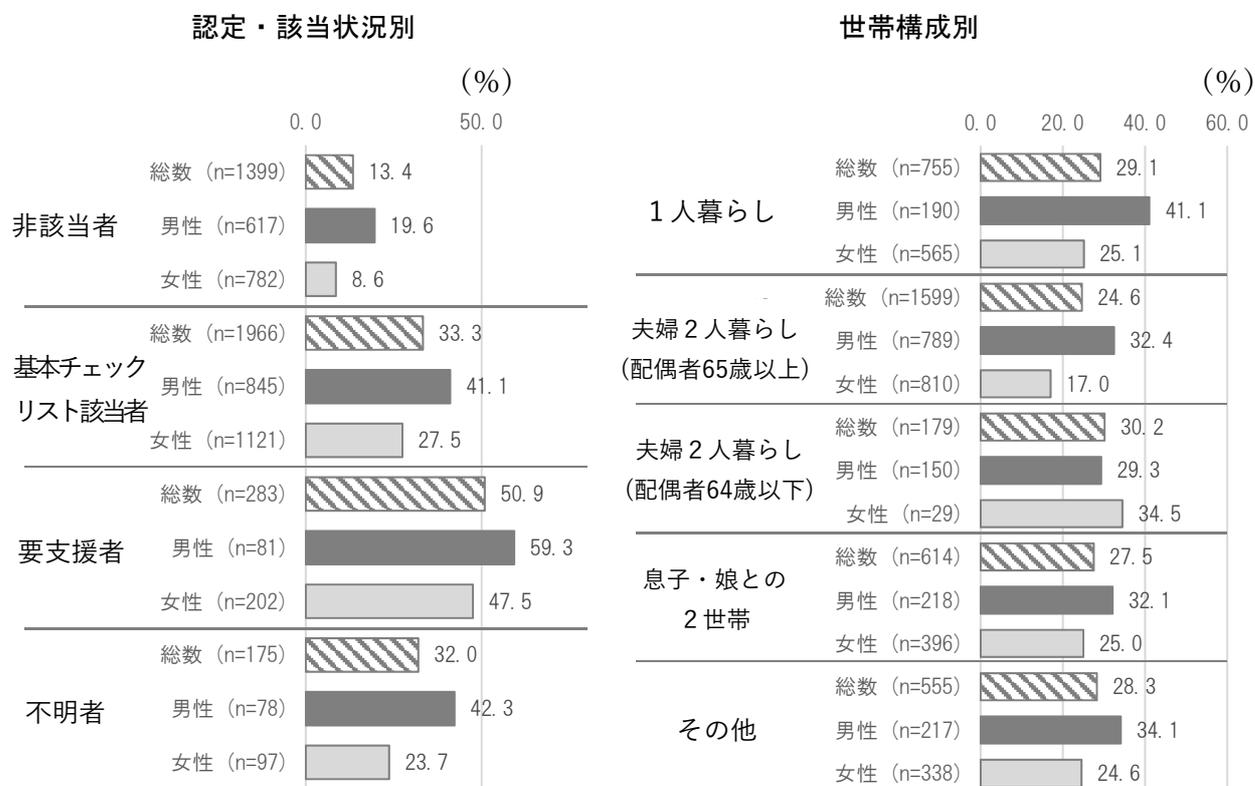
低下者の割合



これを認定・該当状況別にみると、非該当者 13.4%、基本チェックリスト該当者 33.3%、要支援者 50.9%となっています。

また世帯構成別にみると、1人暮らし世帯の男性が41.1%と特に高くなっています。

図表 低下者割合－認定・該当状況別、世帯構成別



4 社会参加

(4) 生きがい

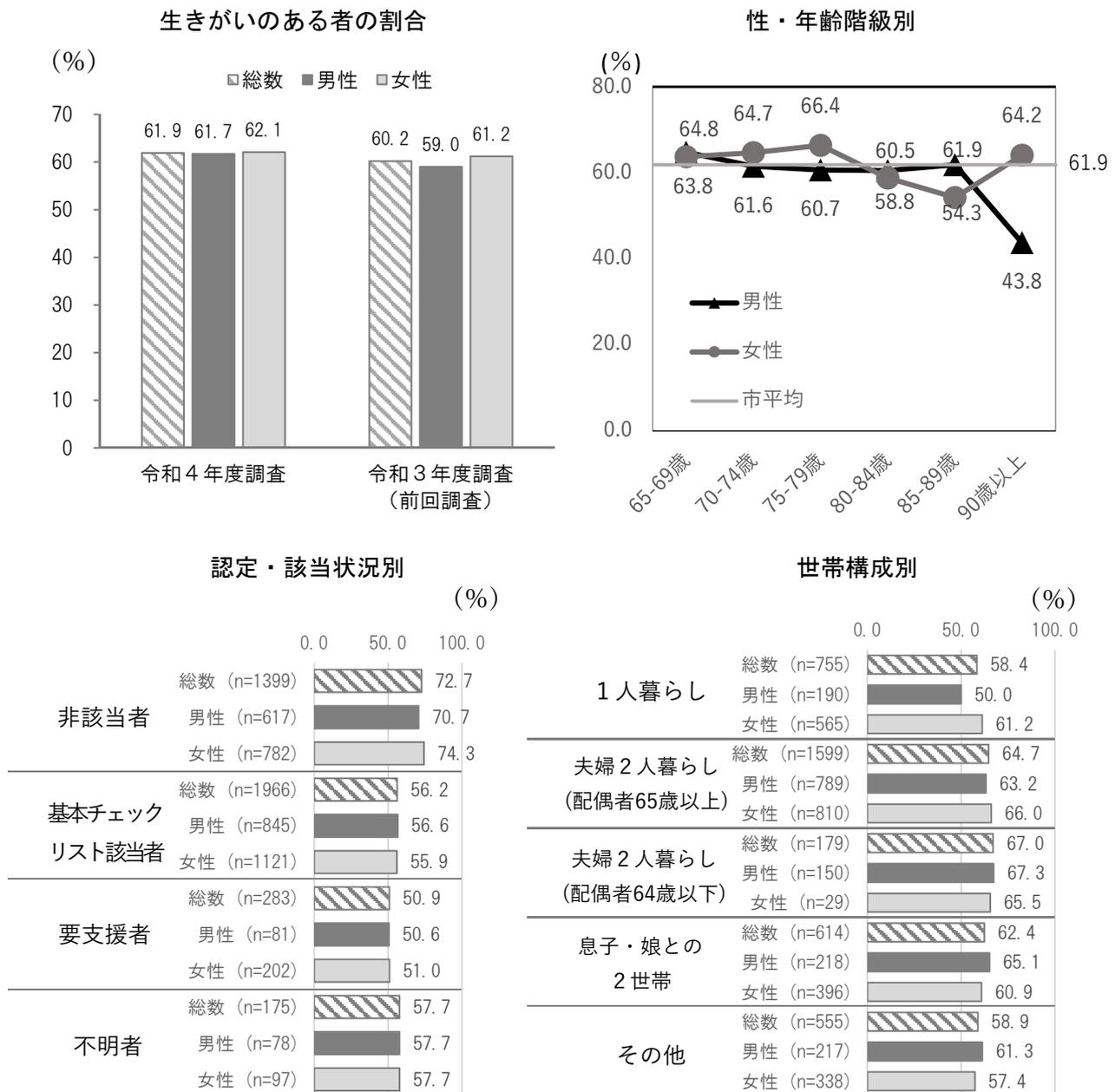
ニーズ調査では、生きがいの有無についての設問が設けられています。「生きがいはありますか」(問4・Q23)の設問に「はい」と回答したのは、全体で61.9%：2,367人、男性61.7%：1,000人、女性62.1%：1,367人となっています。また、令和3年度調査(前回調査)と比較すると、全体で1.7ポイント増加しています。

性・年齢階級別にみると、男性の90歳以上が43.8%と85～89歳と比べて18.1ポイント低下していますが、女性の90歳以上が64.2%と85～89歳より9.9ポイント増加しています。

認定・該当状況別では、非該当者が72.7%で最も高く、基本チェックリスト該当者は56.2%となっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)世帯で67.0%、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)で64.7%、息子・娘との2世帯で62.4%となり、6割を超えています。

図表 生きがいがある者の割合



(4) 生きがい

(5) 趣味

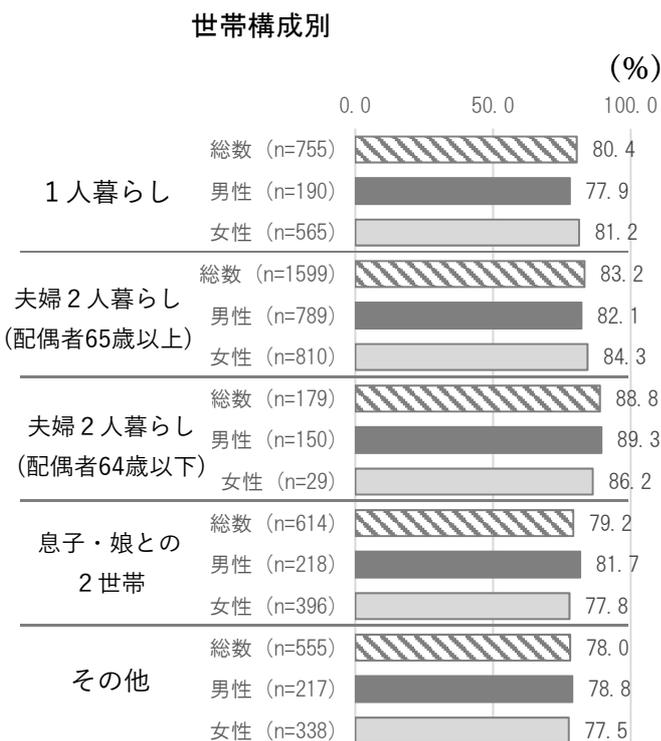
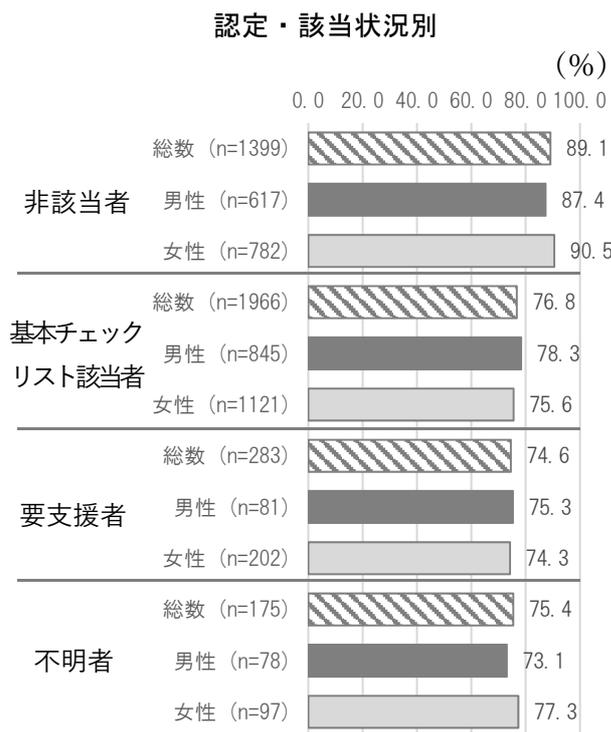
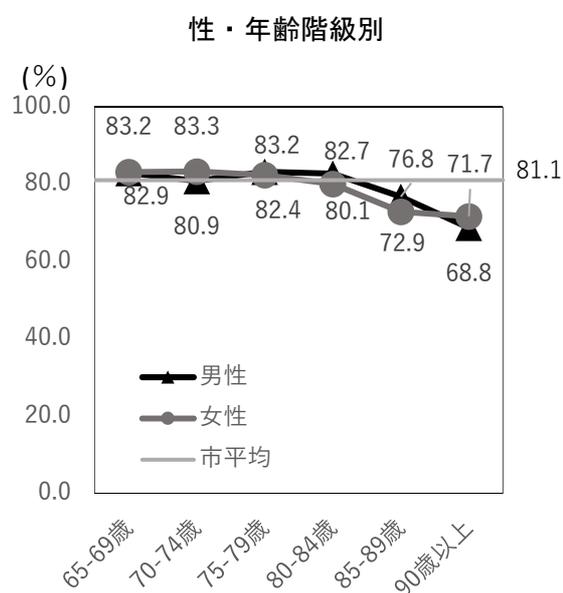
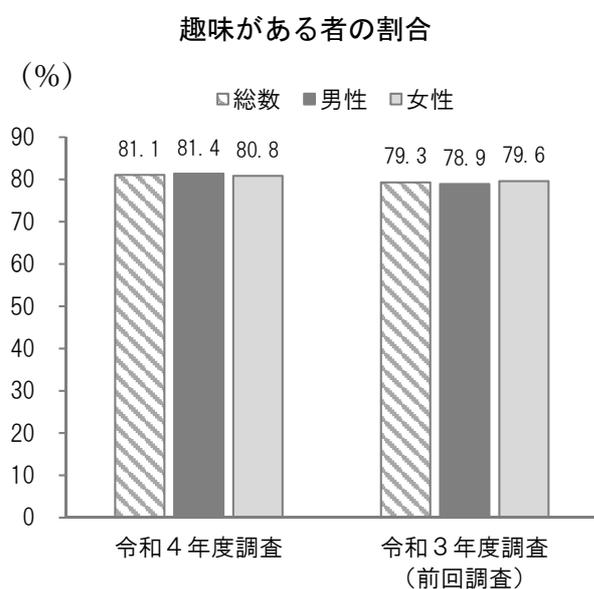
ニーズ調査では、趣味の有無についての設問が設けられています。「趣味はありますか」(問4・Q22)の設問に「はい」と回答したのは、全体で81.1%：3,099人、男性81.4%：1,319人、女性80.8%：1,780人となっています。また、令和3年度調査(前回調査)と比較すると、全体で1.8ポイント増加しています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに80~84歳までほぼ市全体平均(81.1%)付近を保ち、90歳以上で7割前後に低下しています。

認定・該当状況別では、基本チェックリスト該当者では76.8%が「はい」と回答していますが、非該当者の89.1%より12.3ポイント低くなっています。

世帯構成別では、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)が全体で88.8%と高くなっています。

図表 趣味がある者の割合



5 疾病

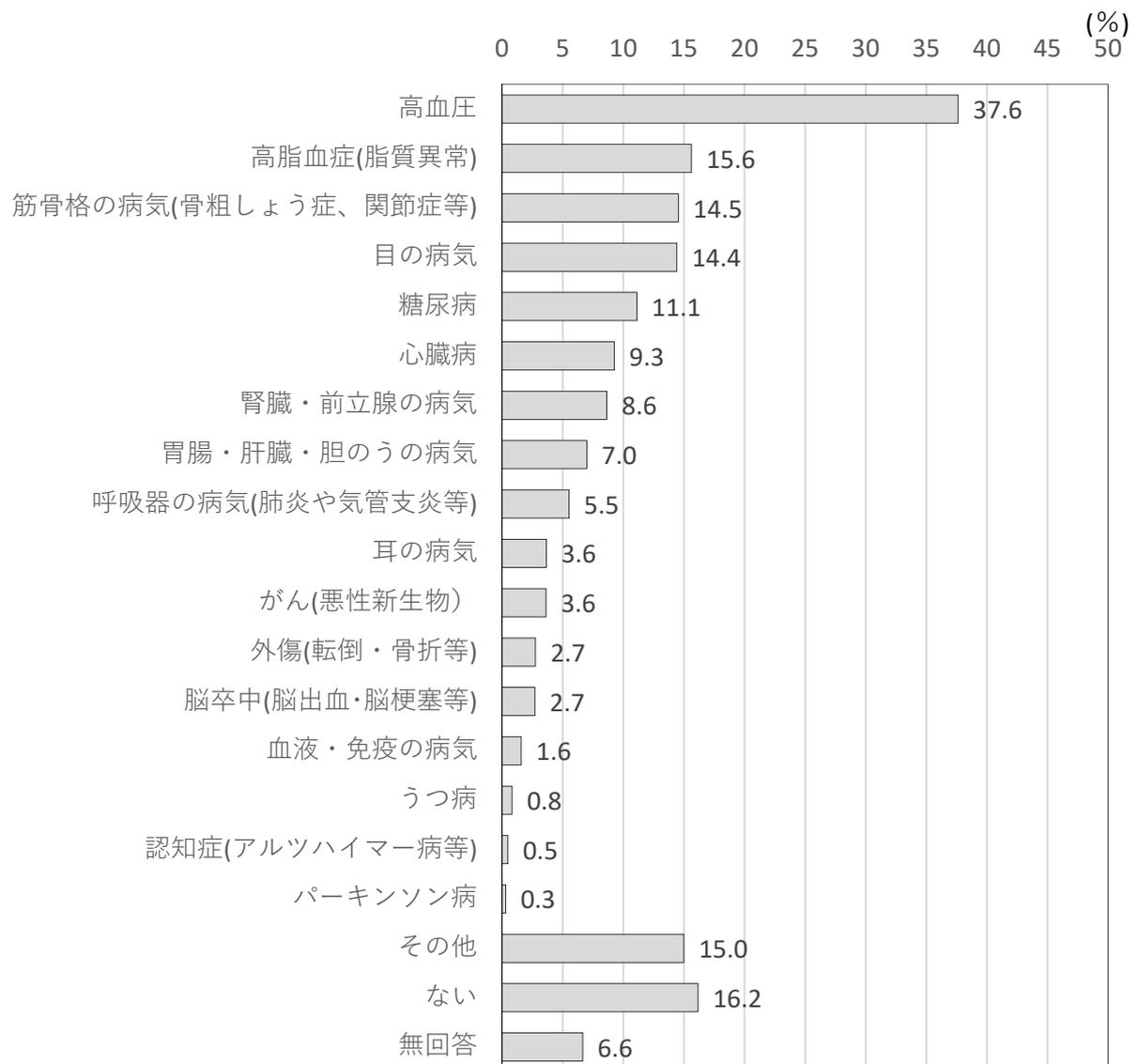
5 疾病

(1) 病気全体

現在治療中、又は後遺症のある病気の有無や病名について聞いてみると、「高血圧」が37.6%で最も多く、次いで「高脂血症(脂質異常)」(15.6%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(14.5%)、「目の病気」(14.4%)、「糖尿病」(11.1%)、「心臓病」(9.3%)、「腎臓・前立腺の病気」(8.6%)などが続いています。「ない」の回答は16.2%となっています。

図表 病気全体

問6・Q14 現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか(いくつでも)



(2) 高血圧

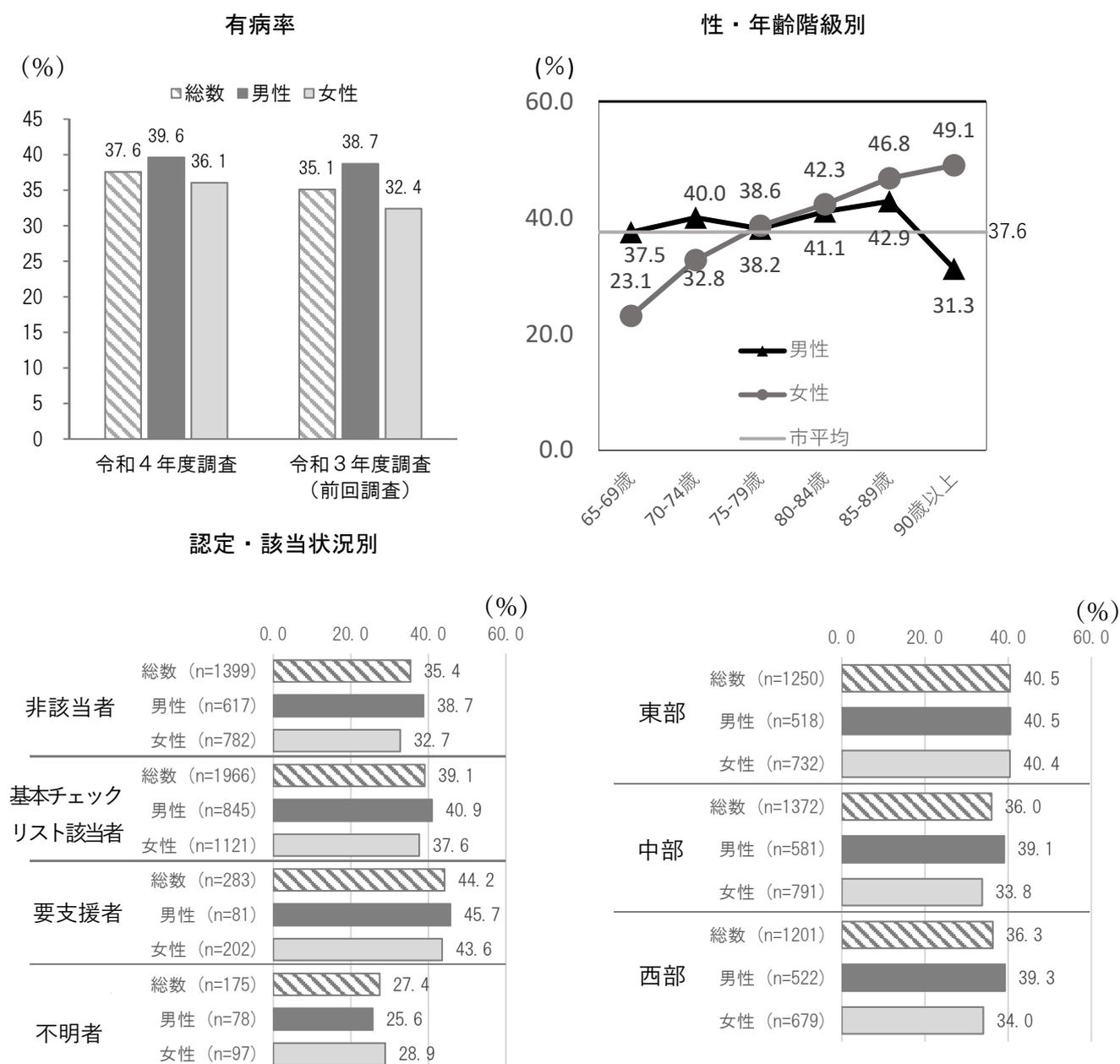
個々の疾病に関する回答結果について、「現在治療中、または後遺症のある病気」（問6・Q14）があるとする割合（有病率）で、最も高いのは「高血圧」で、全体で37.6%：1,436人、男性39.6%：642人、女性36.1%：794人となっており、女性より男性の方が3.5ポイント高くなっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体では2.5ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性は85～89歳、女性は90歳以上の有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が45.7%と最も高くなっています。

圏域別では、東部圏域の全体が40.5%と最も高く、最も低いのは中部圏域の女性で33.8%となっています。また、全ての圏域で男性が女性より高くなっています。

図表 有病率—高血圧



5 疾病

(3) 高脂血症（脂質異常）

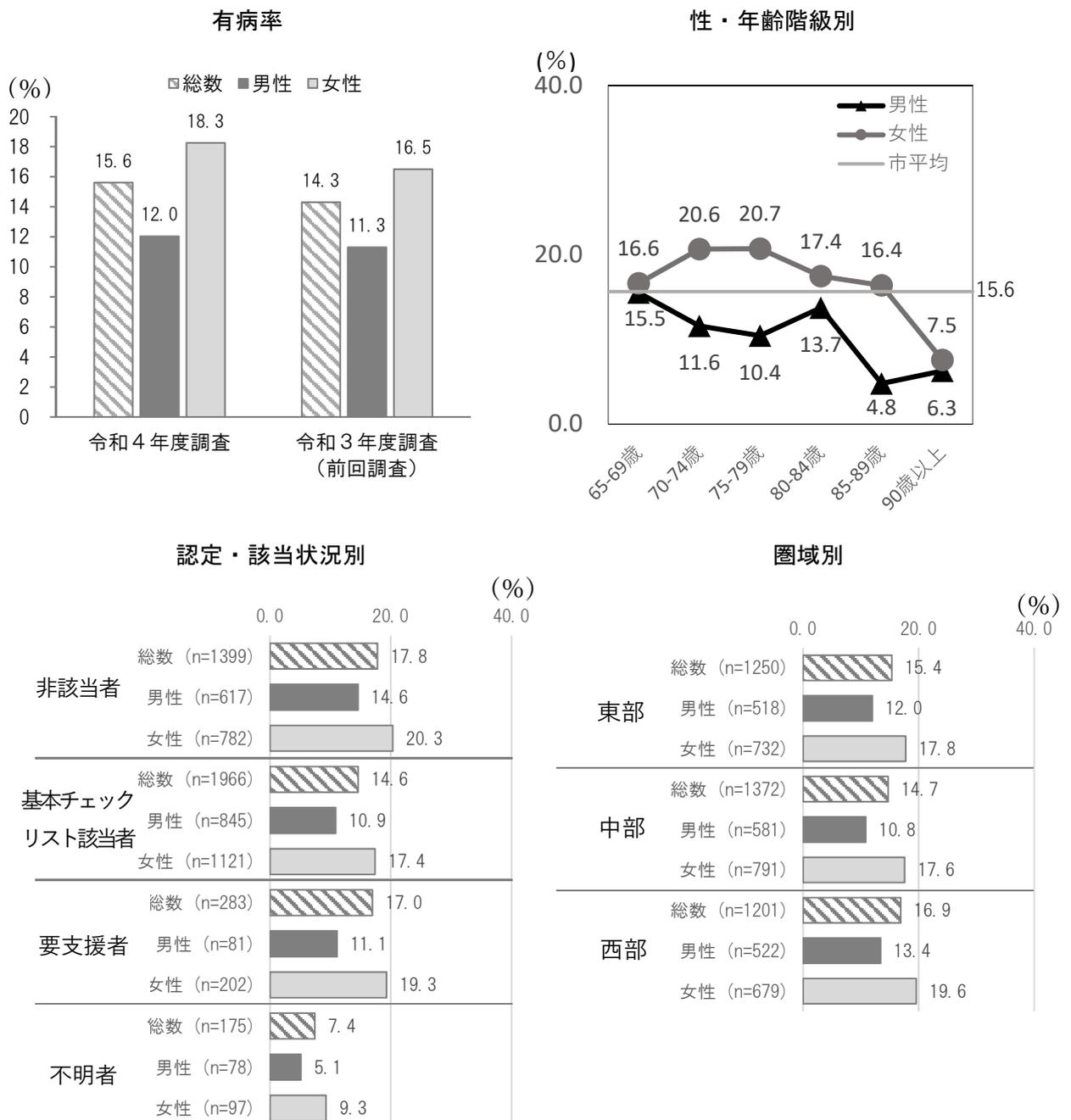
「現在治療中、または後遺症のある病気」（問6・Q14）があるとする割合（有病率）で、「高血圧」の次に高いのは「高脂血症（脂質異常）」です。全体で15.6%：597人、男性12.0%：195人、女性18.3%：402人となっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で1.3ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、女性は70～74歳、75～79歳で有病率が高く、2割を超えました。

認定・該当状況別にみると、非該当者の女性で有病率が20.3%と最も高くなっています。

圏域別では、西部圏域の女性が19.6%と最も高く、最も低いのは中部圏域の男性で10.8%となっています。

図表 有病率—高脂血症（脂質異常）



(3) 高脂血症（脂質異常）

(4) 筋骨格の病気

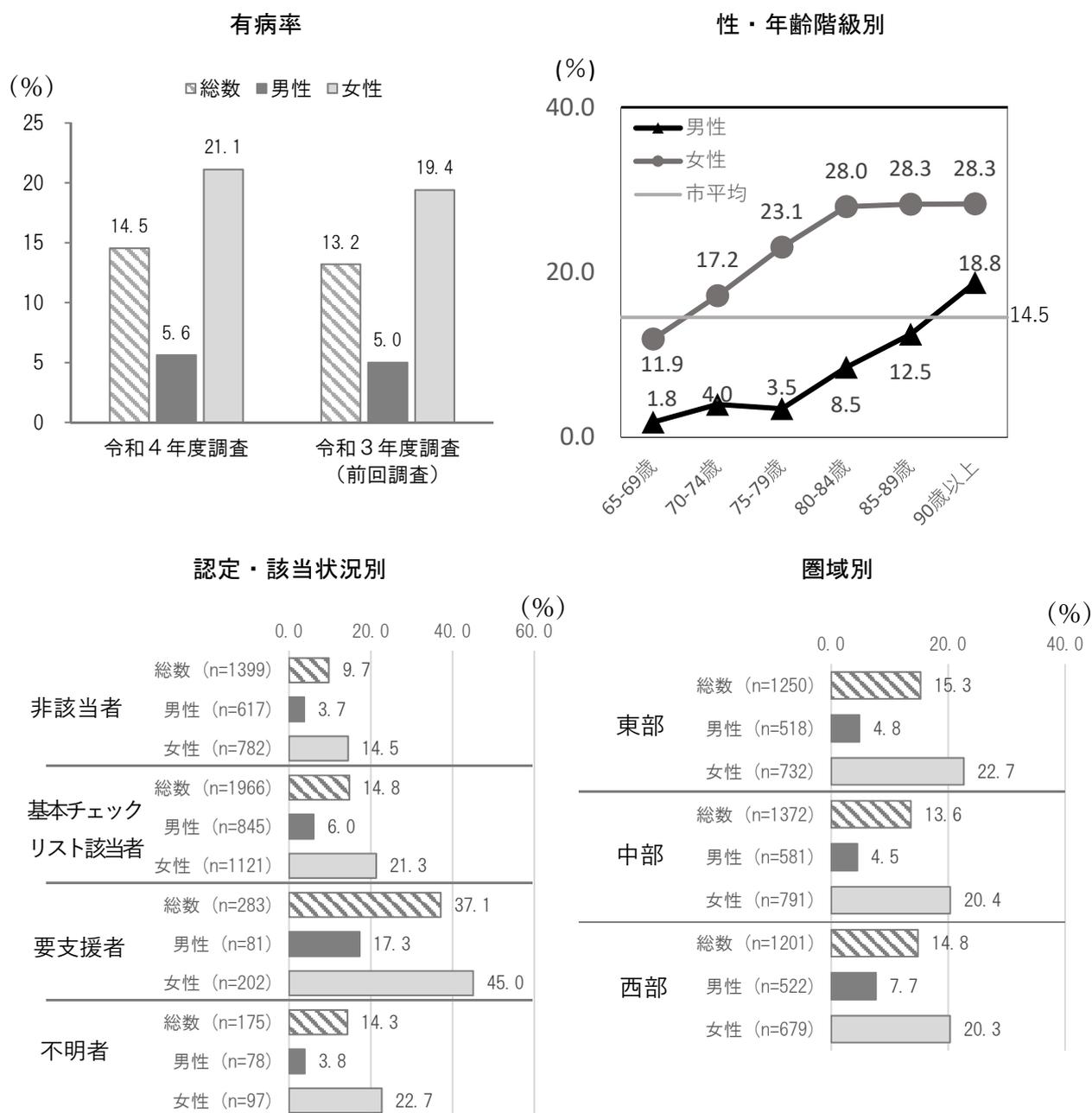
要介護の原因となりうる「筋骨格の病気」の有病率は、全体で14.5%：556人、男性5.6%：91人、女性21.1%：465人となっており、男性より女性が顕著に高くなっています。また、令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で1.3ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、全体的に年齢が上がるほど有病率が高くなる傾向があり、男性は90歳以上で18.8%と最も高く、女性は80歳以上の有病率が28%以上と高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の女性で有病率が45.0%と高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で女性の有病率が男性より高く、特に東部圏域では女性の有病率が22.7%と高くなっています。

図表 有病率—筋骨格の病気



(4) 筋骨格の病気

5 疾病

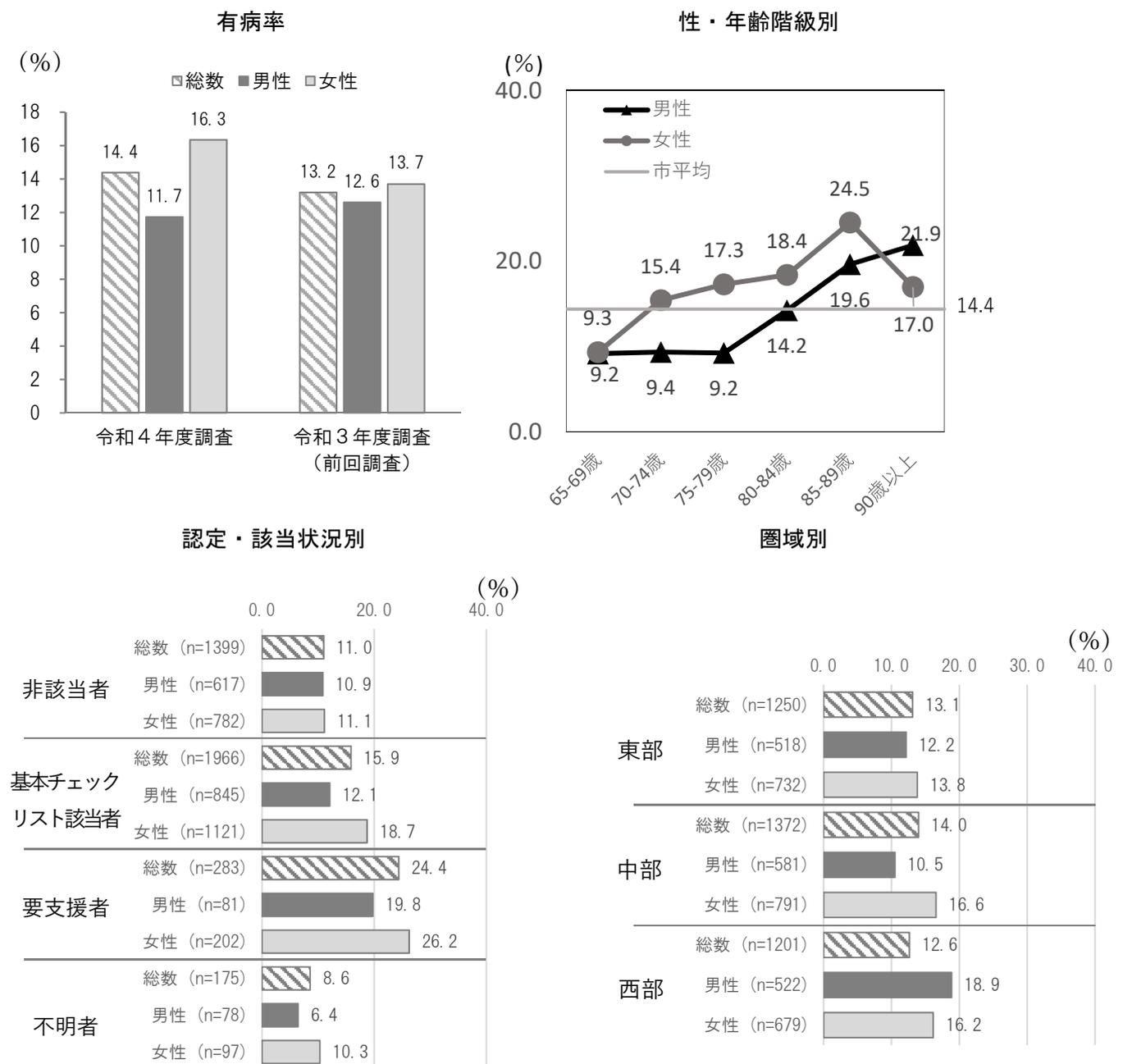
(5) 目の病気

高齢者に多い「目の病気」の有病率は、全体で 14.4% : 550 人、男性 11.7% : 190 人、女性 16.3% : 360 人となっています。また、令和 3 年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 1.2 ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性は 90 歳以上が 21.9%、女性は、85~89 歳以上が 24.5% で有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の女性で有病率が 26.2% と最も高くなっています。圏域別では、西部圏域の男性の有病率が 18.9% と、他圏域より高くなっています。

図表 有病率—目の病気



(5) 目の病気

(6) 糖尿病

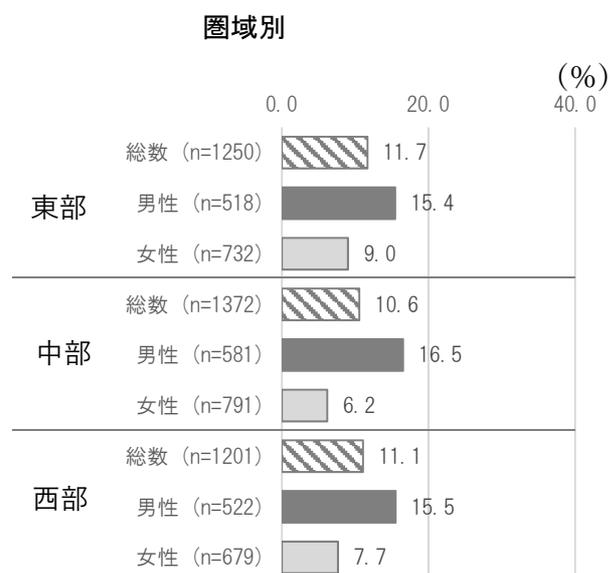
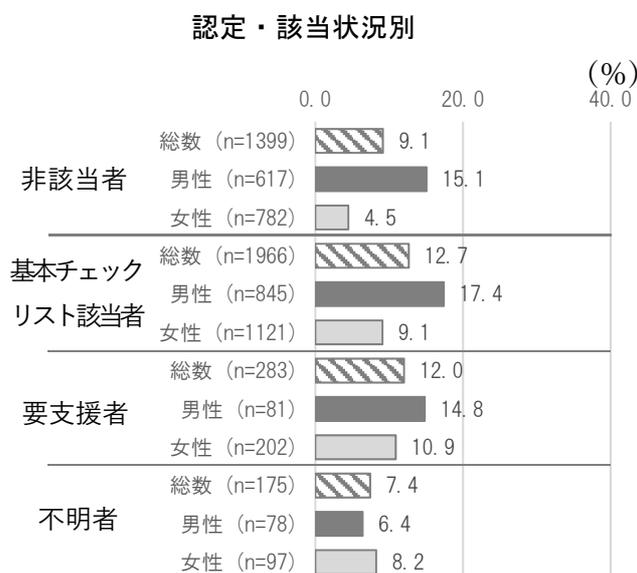
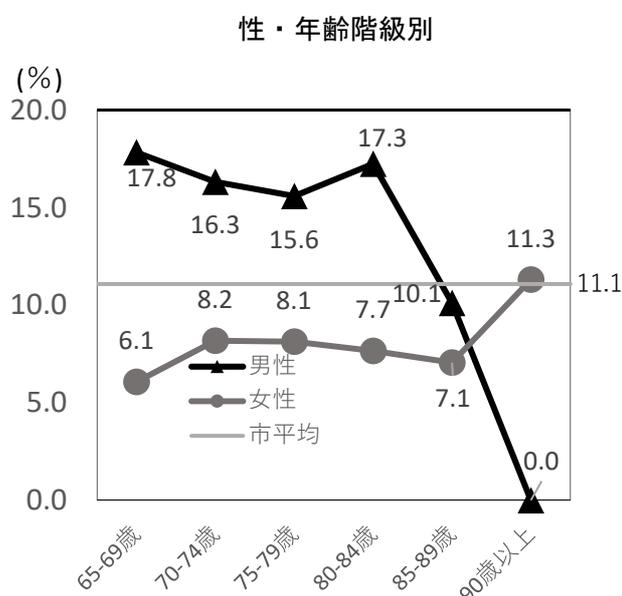
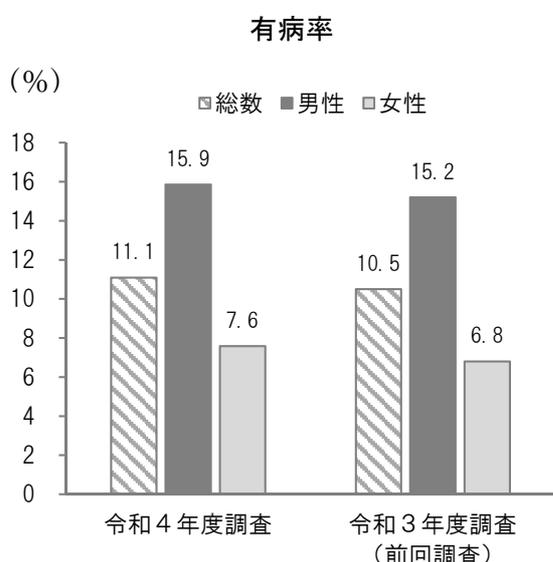
主な生活習慣病で要介護の原因ともなる「糖尿病」の有病率は、全体で 11.1% : 424 人、男性 15.9% : 257 人、女性 7.6% : 167 人で、女性より男性の有病率が 8.3 ポイント高くなっています。令和 3 年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 0.6 ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性は 65~69 歳が 17.8%、女性は 90 歳以上が 11.3% で最も高い有病率となっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者 9.1%、基本チェックリスト該当者 12.7%、要支援者 12.0% となり、基本チェックリスト該当者の有病率が高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で女性より男性の有病率が高くなっています。中部圏域では、男性が 16.5%、女性が 6.2% となっており、10.3 ポイントの差があります。

図表 有病率—糖尿病



5 疾病

(7) 心臓病

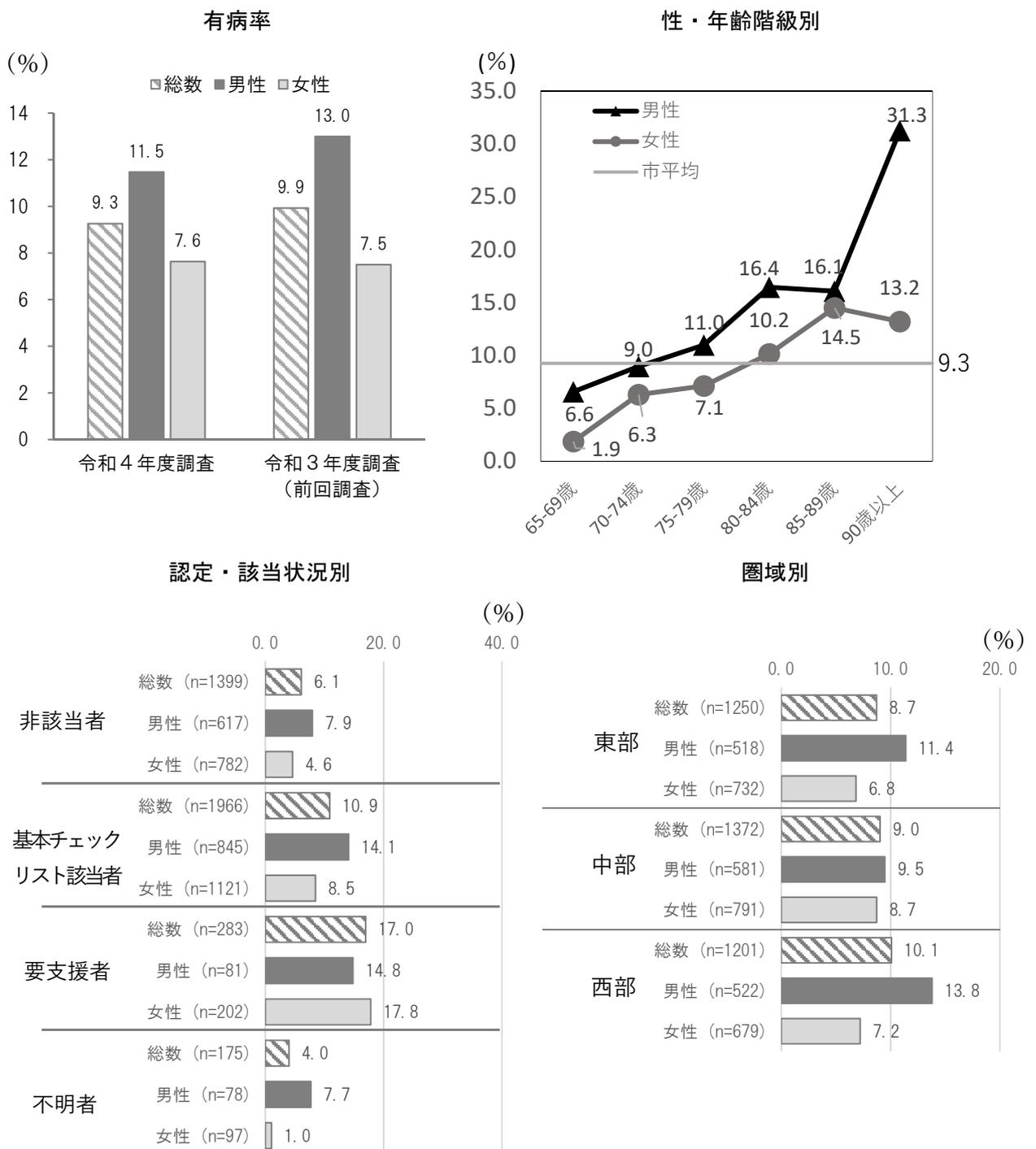
主な生活習慣病で要介護の原因ともなる「心臓病」の有病率は、全体で9.3%：354人、男性11.5%：186人、女性7.6%：168人となっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.6ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、全ての年齢階級で女性より男性が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の女性で有病率が17.8%と最も高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で女性より男性が高くなっています。

図表 有病率—心臓病



(7) 心臓病

(8) 脳卒中

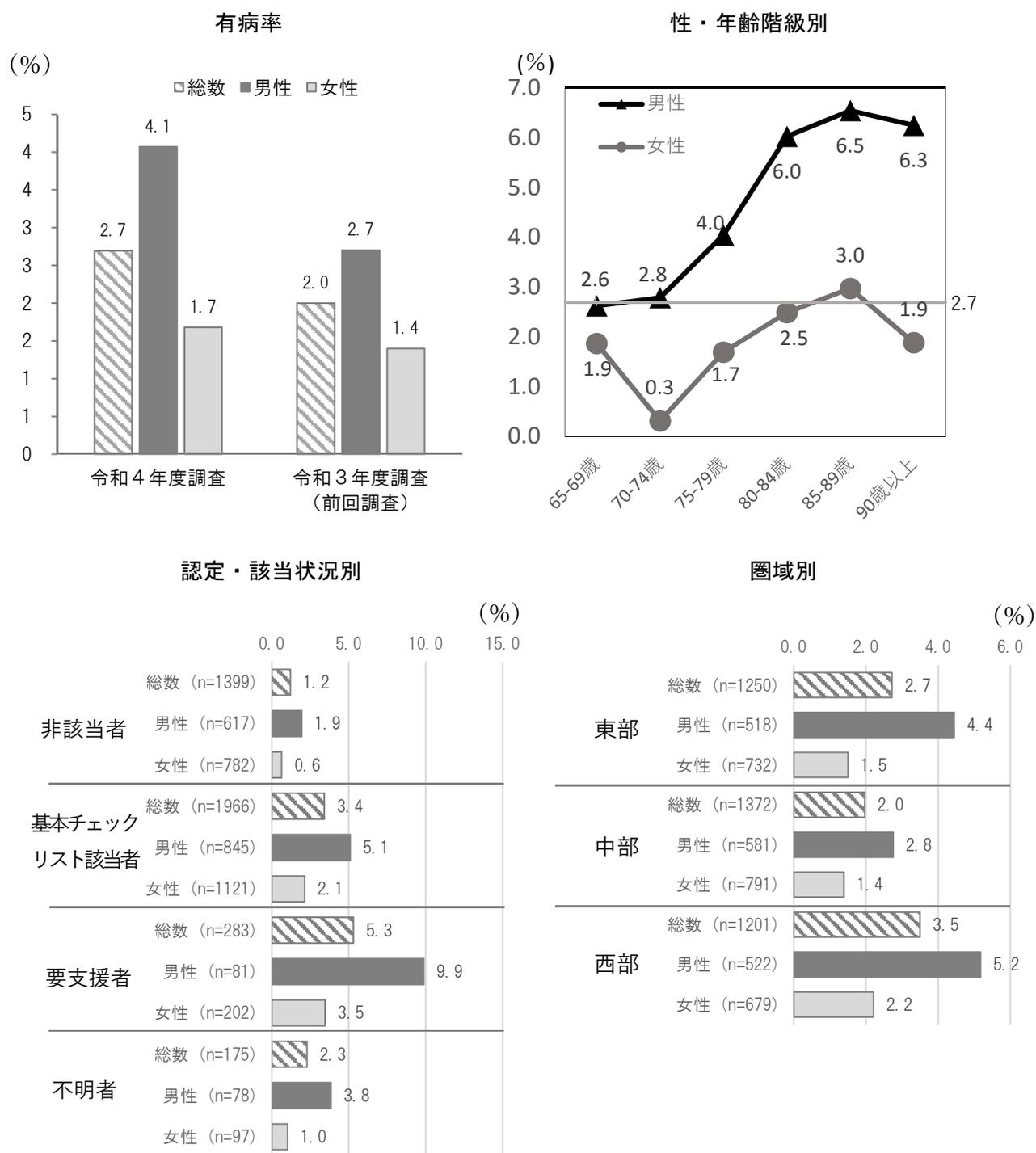
要介護の主原因となる「脳卒中」の有病率は、全体で2.7%：103人、男性4.1%：66人、女性1.7%：37人で、男性の有病率が高くなっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.7ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、80～84歳以上の男性が6.0%を超える有病率となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が9.9%と最も高くなっています。

圏域別では、特に西部圏域の男性は有病率が5.2%と、市全体平均（2.7%）より2.5ポイント高くなっています。

図表 有病率－脳卒中



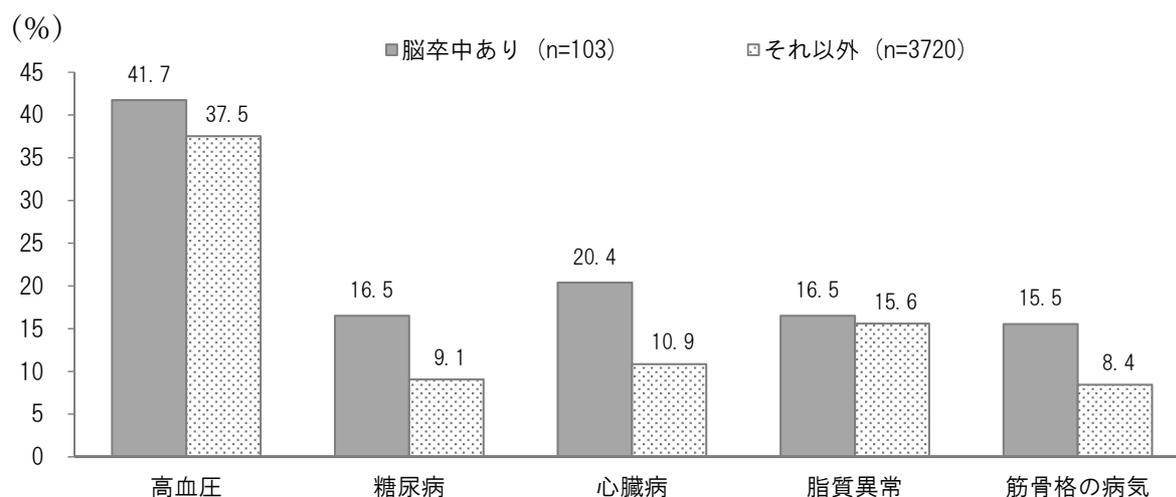
5 疾病

厚労省のe-ヘルスネットによると、脳卒中の危険因子として、高血圧、不整脈(心房細動)、糖尿病、喫煙、肥満などが挙げられています。

今回の調査結果でも、「現在治療中、または後遺症のある病気」として「脳卒中」と回答した方とそれ以外の方で、他の病気の有病率をみると以下の図表のとおりとなっています。糖尿病、心臓病、筋骨格については、脳卒中有病者でそれぞれの有病率が高くなっています。

こうした疾病と脳卒中の関連が、今回の調査結果からもうかがえます。

図表 脳卒中有病者の他の疾病（有病率）



(9) 通院

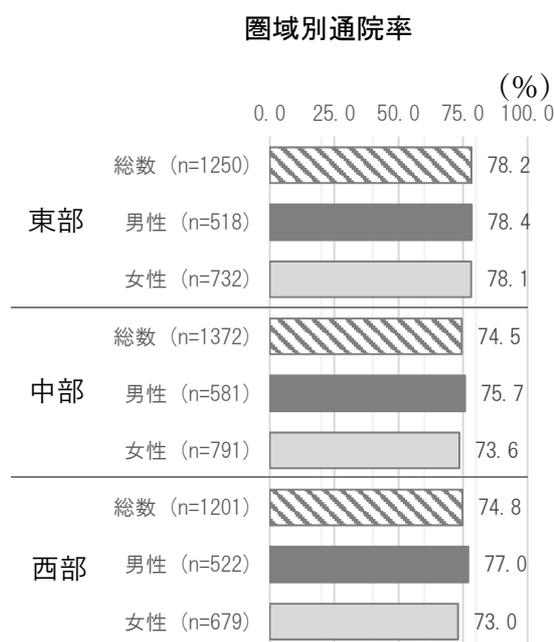
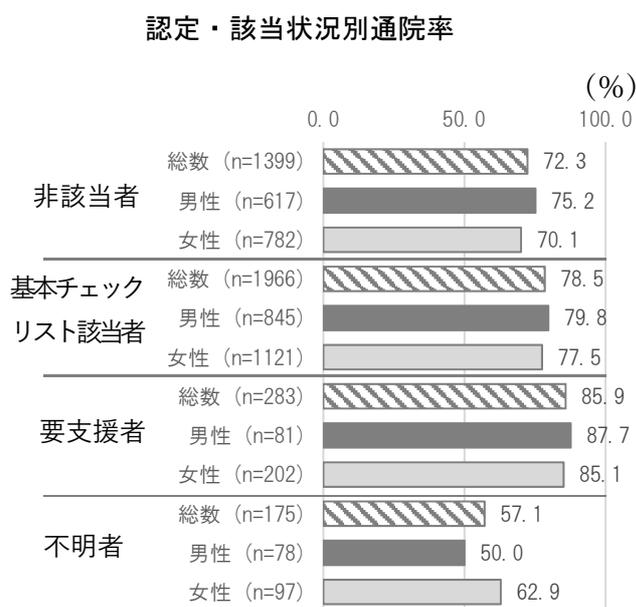
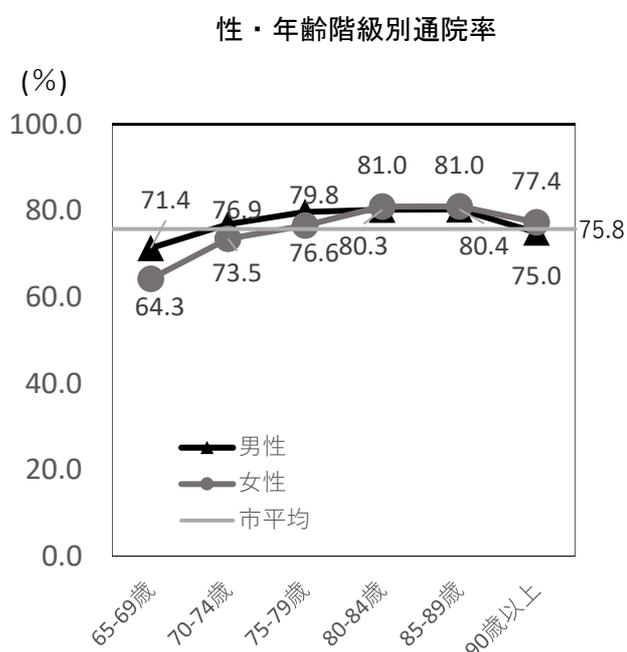
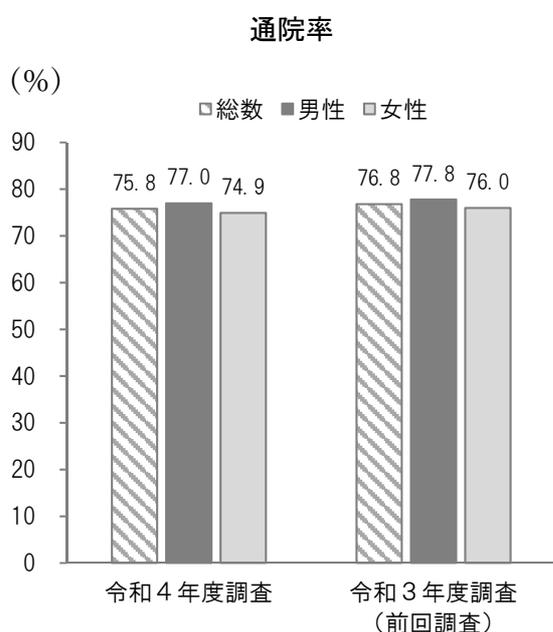
病院・医院（診療所、クリニック）への通院者の割合（通院率）についてみると、全体で75.8%：2,898人、男性77.0%：1,248人、女性74.9%：1,650人となっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で1.0ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに89歳までは、年齢が上がるにつれて通院率が高くなっています。

認定・該当状況別では、基本チェックリスト該当者で通院率が78.5%、要支援者で85.9%となっており、それぞれ非該当者の72.3%より6.0ポイント以上高くなっています。

圏域別では、東部圏域が男女ともに他圏域よりやや高くなっています。

図表 通院状況



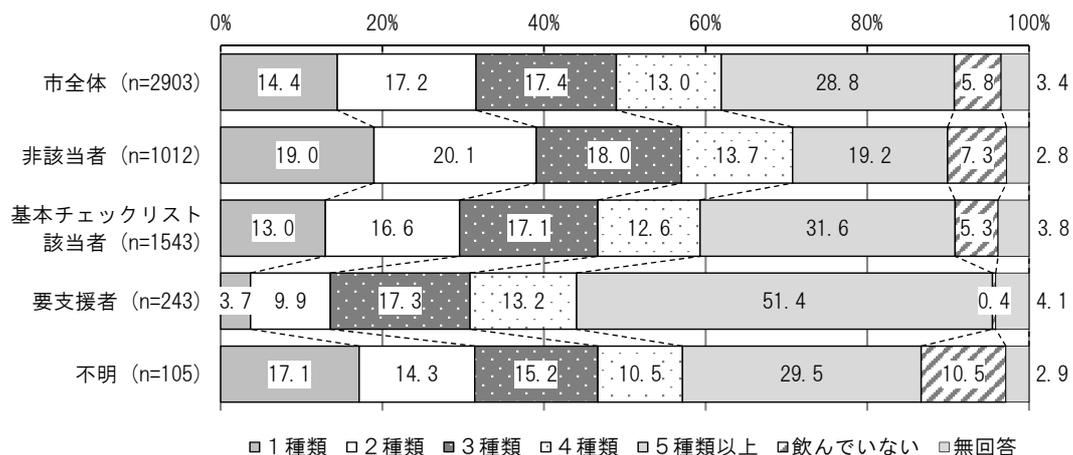
5 疾病

次に、通院している方を対象にした、医師の処方した薬を何種類飲んでいるかについての回答結果をみると、全体で「5種類以上」が28.8%で最も多く、次いで「3種類」(17.4%)、「2種類」(17.2%)、「1種類」(14.4%)となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者で5種類以上飲んでいる方が51.4%と、他と比べて多くなっています。

図表 薬を飲む種類

問6・Q13-1. (通院している方のみ) 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか



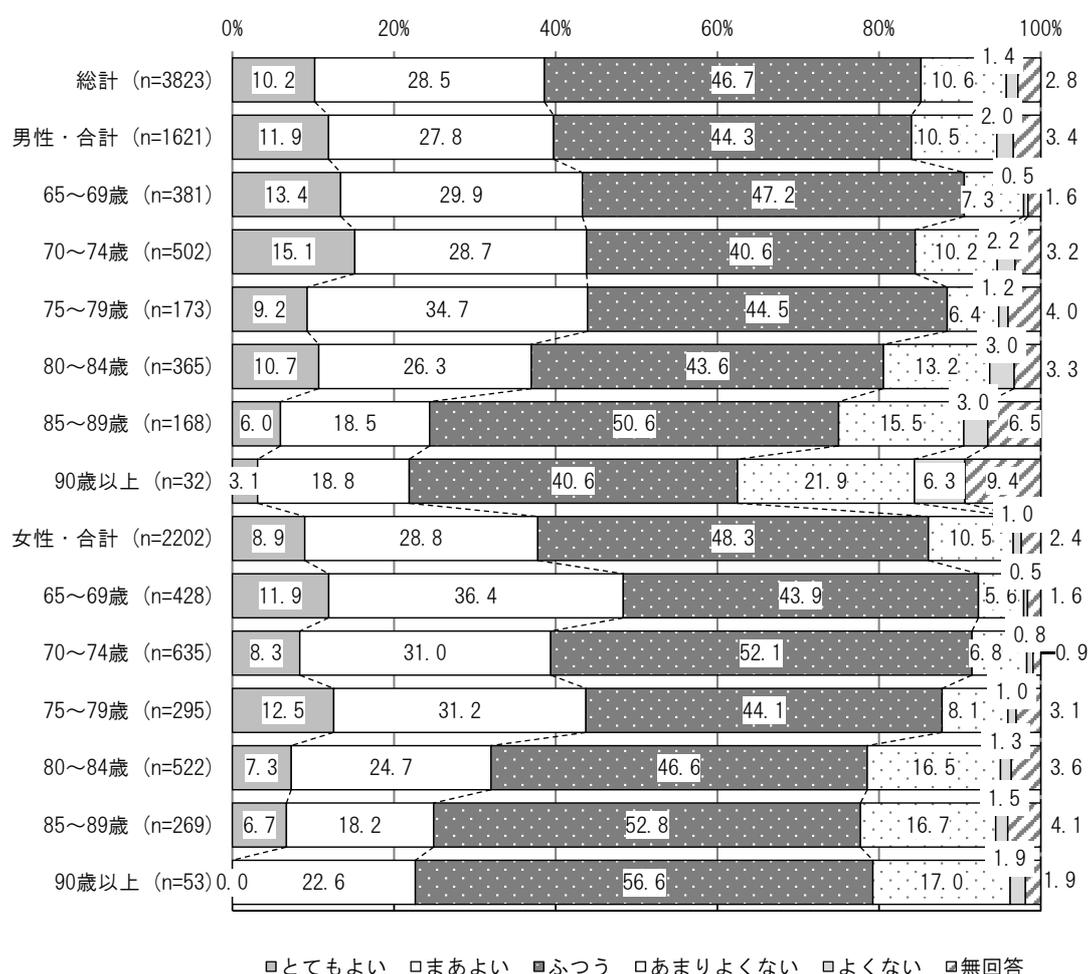
6 健康・生活習慣

(1) 主観的健康感

高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感（問6・Q1）の回答結果をみると、「とてもよい」「まあよい」「ふつう」と回答した「健康群」は、全体でそれぞれ10.2%、28.5%、46.7%となっています。一方、「あまりよくない」「よくない」と回答した「不健康群」はそれぞれ10.6%、1.4%となっています。また、年齢が高くなるほど「健康群」の割合が低くなる傾向がみられます。

図表 主観的健康感—性・年齢階級別

問6・Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか

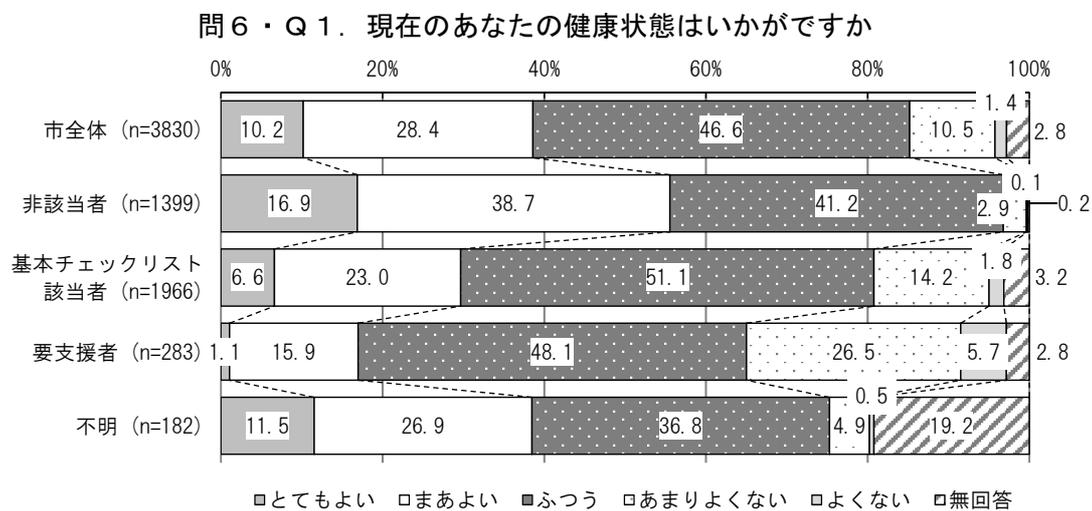


※上記のグラフの「総計」には、性・年齢階級が無回答の方の数値は含まれておりません

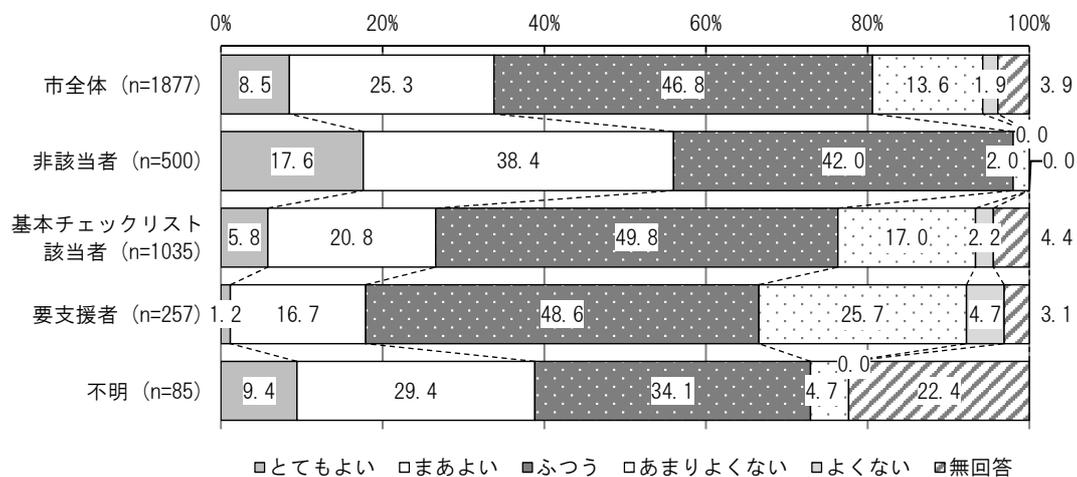
6 健康・生活習慣

認定・該当状況別にみると、「あまりよくない」と「よくない」と回答した「不健康群」の合計は、要支援者が32.2%と最も高く、次いで基本チェックリスト該当者が16.0%となっています。一方、「とてもよい」、「まあよい」、「ふつう」と回答した「健康群」の合計は、非該当者が96.8%と最も高くなっています。

図表 主観的健康感



問6・Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか (75歳以上)



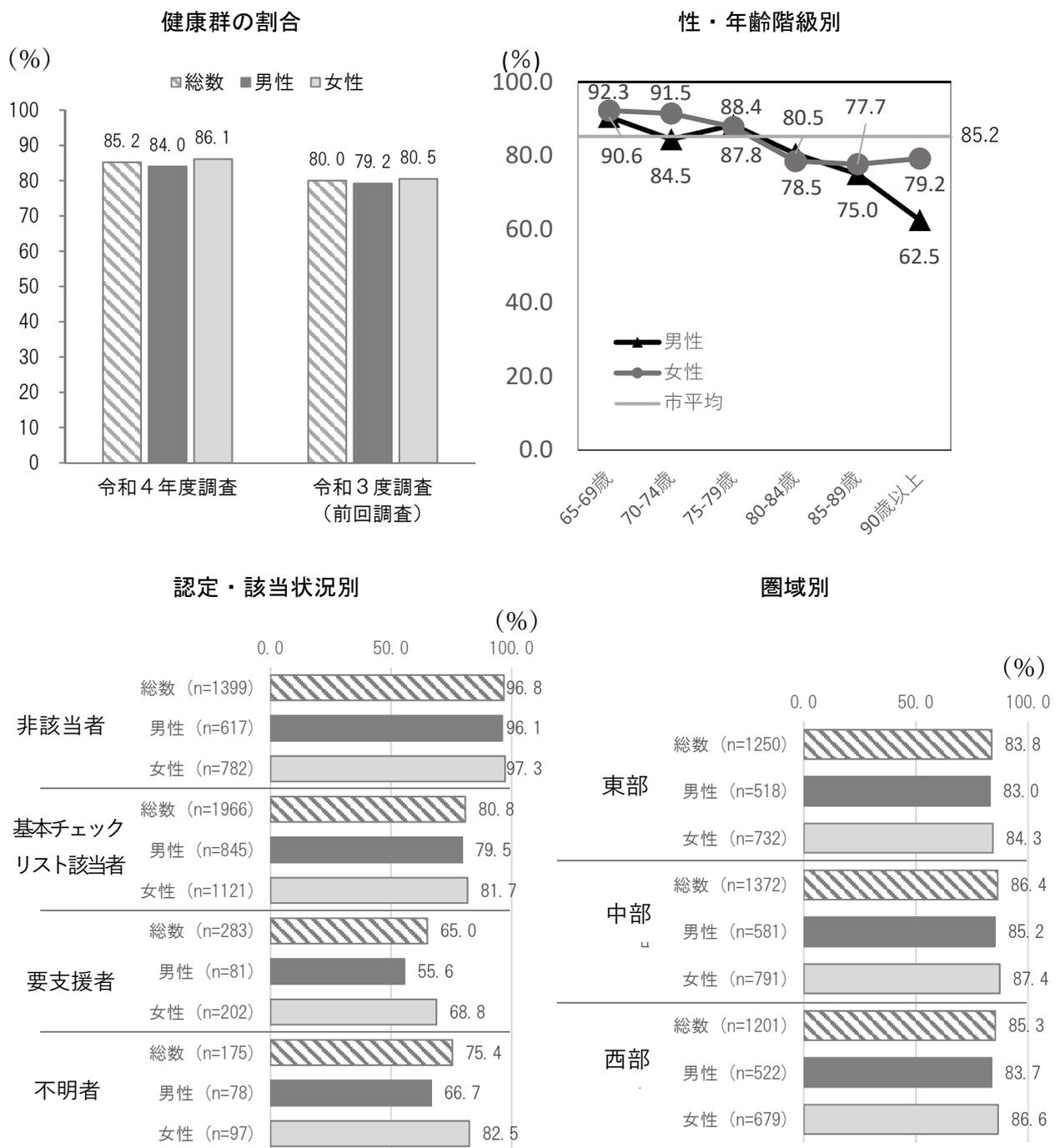
「とてもよい」、「まあよい」、「ふつう」を合計した「健康群」についてまとめると、全体では85.2%：3,258人、男性84.0%：1,362人、女性86.1%：1,896人が「健康群」となっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で5.2ポイント高くなっています。ただし、令和3年度の調査は、「ふつう」の回答が設けられていなかったため、比較には留意が必要です。

性・年齢階級別にみると、年齢が高くなるほど「健康群」の割合が低くなる傾向がみられます。

認定・該当状況別にみると、男女ともに非該当者は高く、要支援者が最も低く全体で65.0%となっています。

圏域別にみると、全て8割台となっており、全体的にはほぼ同じ割合となっています。

図表 主観的健康感—健康群の割合

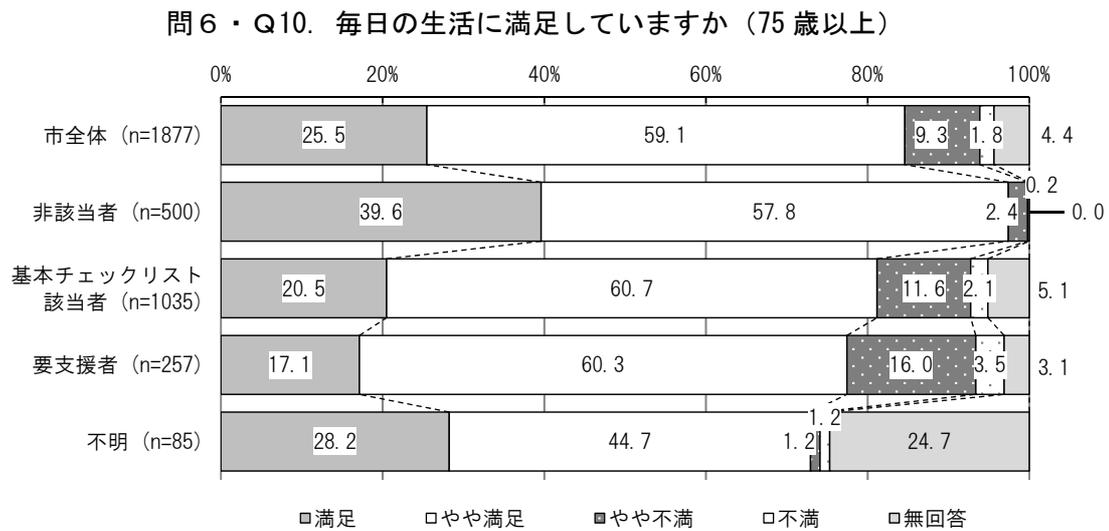
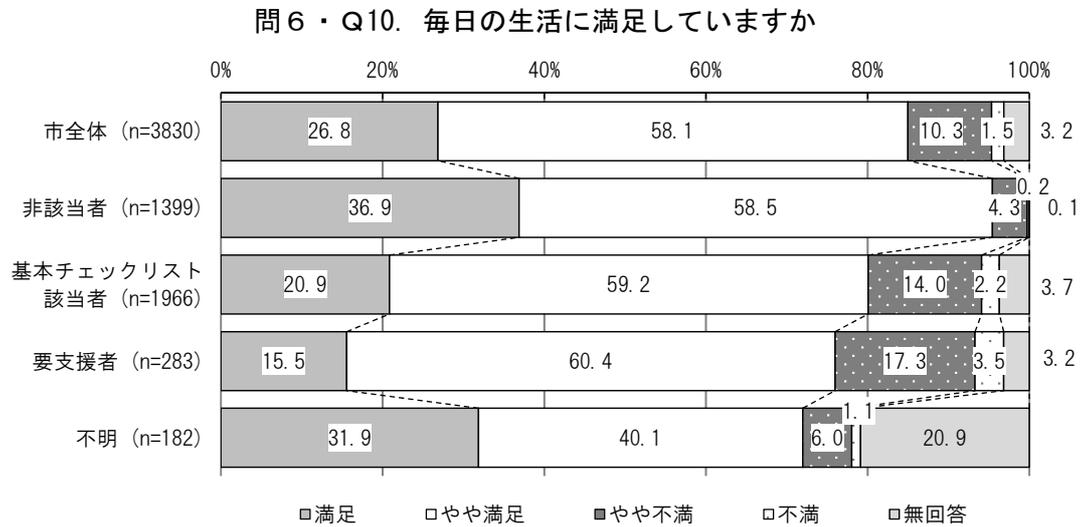


(1) 主観的健康感

6 健康・生活習慣

関連設問である、毎日の生活の満足度（問6・Q10）についてみると、非該当者は「満足」「やや満足」と回答した人が95.4%と最も高い割合になったのに対し、要支援者は、75.9%と19.5ポイント低い結果となりました。

図表 毎日の生活の満足度



(2) 肥満度

生活習慣に関連する項目の1つとして、肥満者割合についてみます（問3・Q1）。

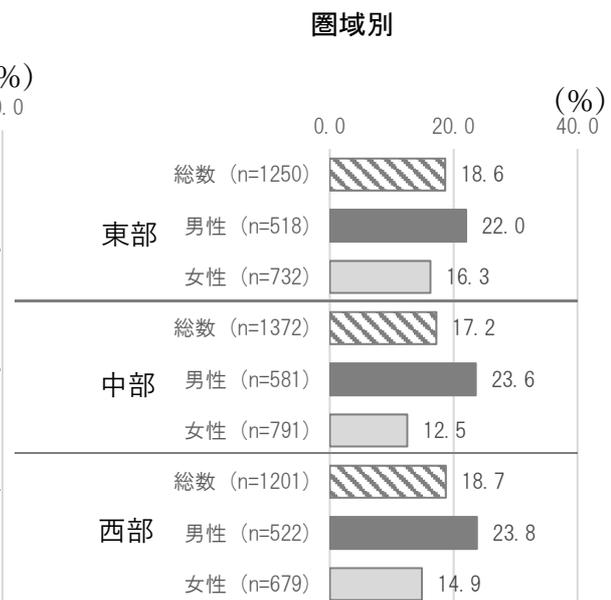
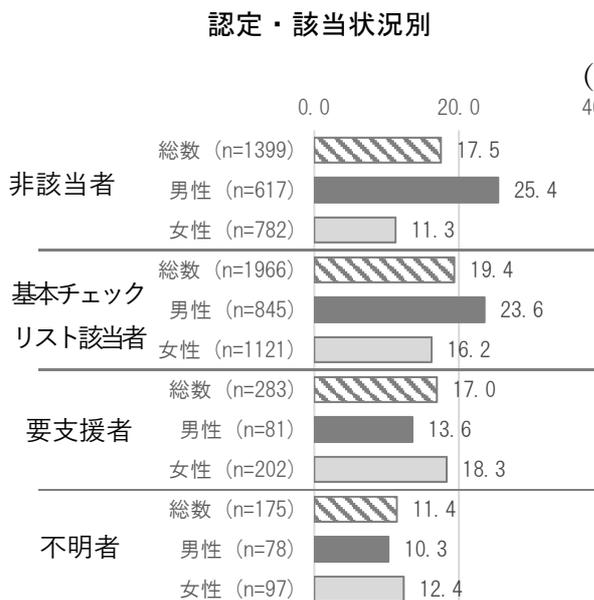
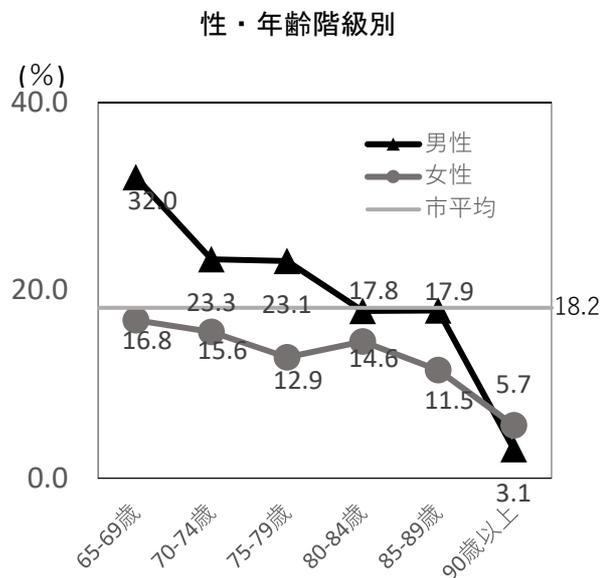
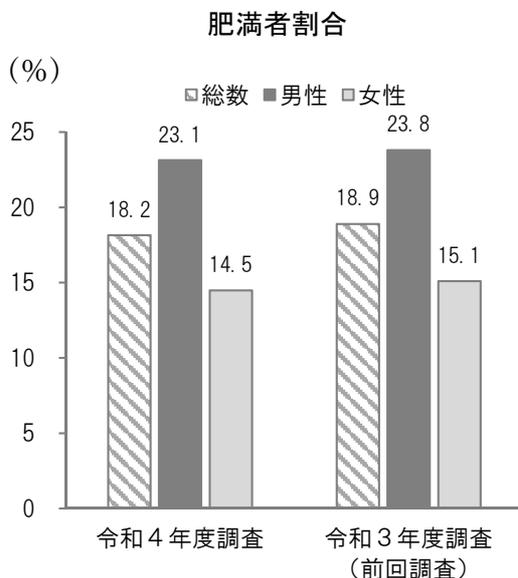
肥満者（BMI＝体重 kg/身長 m/身長 m \geq 25）の割合は全体で 18.2%：694 人、男性 23.1%：375 人、女性 14.5%：319 人となっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 0.7 ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、65～69歳の男性の肥満者割合が最も高く、年齢とともに低下しています。

認定・該当状況別では、男性は非該当者が 25.4%と最も高く、次いで基本チェックリスト該当者（23.6%）、要支援者（13.6%）となっています。女性は要支援者が 18.3%と最も高く、次いで基本チェックリスト該当者（16.2%）となっています。

圏域別にみると、全ての圏域で男性の肥満者割合が女性より高くなっています。

図表 肥満者割合



6 健康・生活習慣

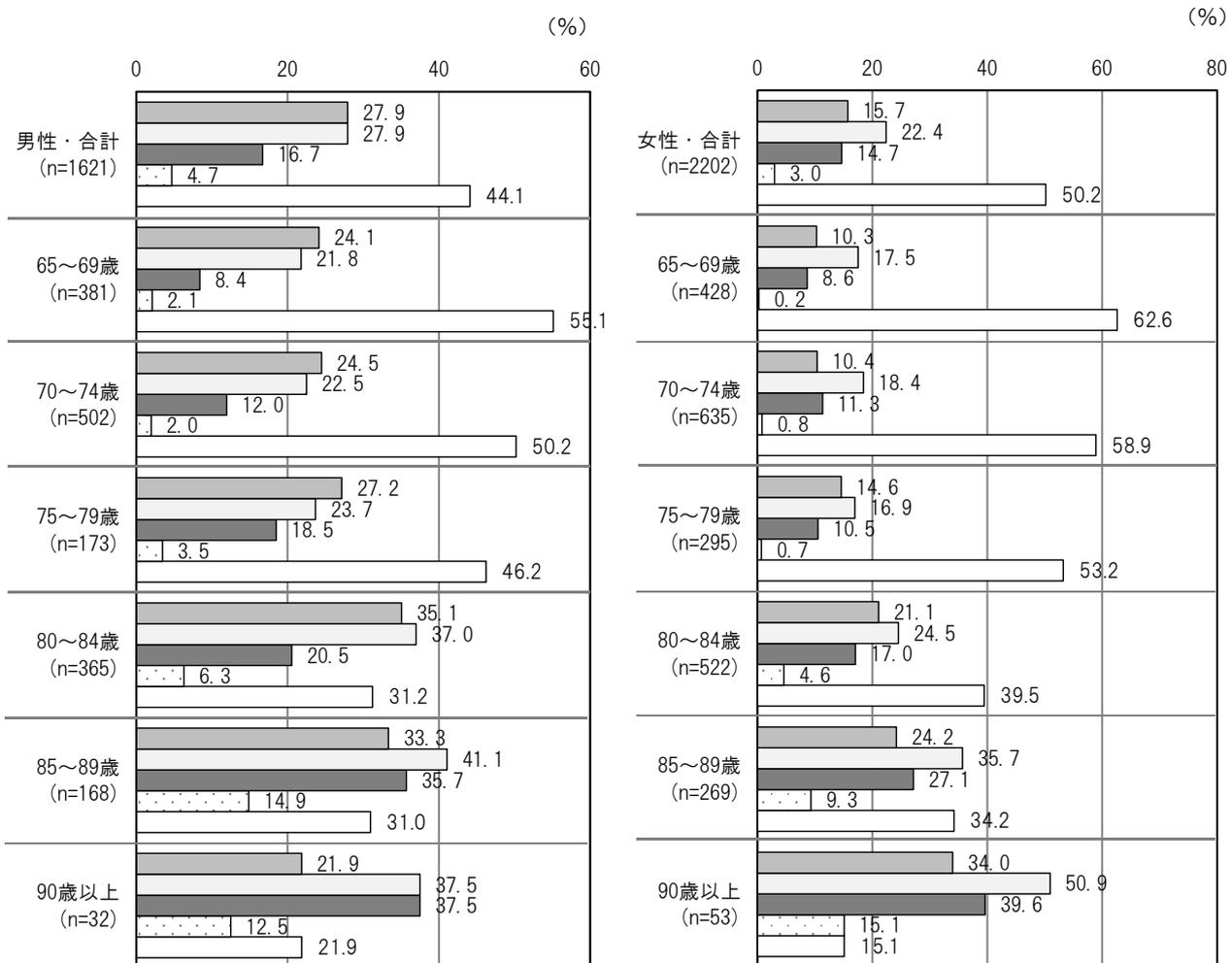
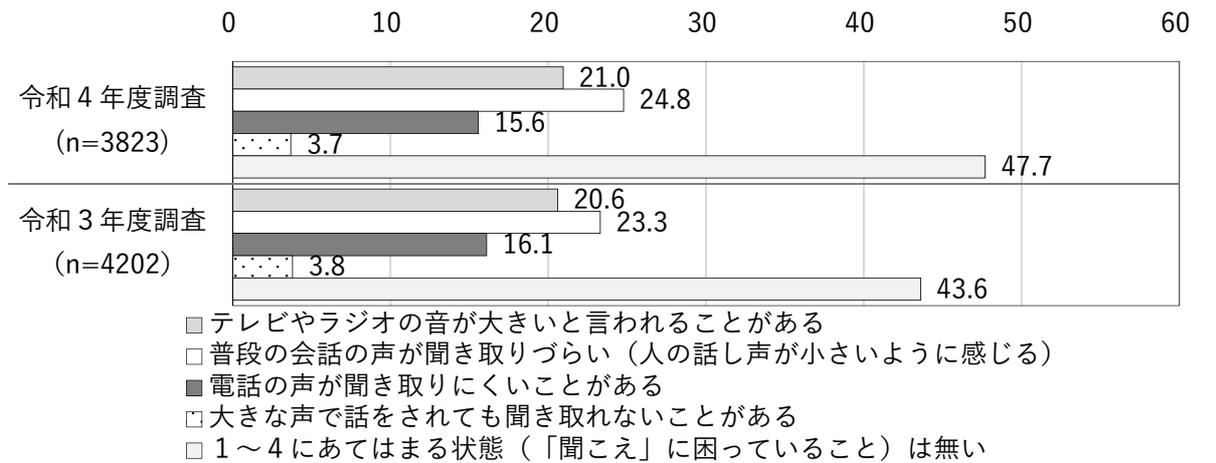
(3) 聞こえ

聞こえの状態についてみます（問4・Q1）。

市全体でみると「『聞こえ』に困っていることは無い」が47.7%で最も高く、次いで「普段の会話の音声聞き取りづらい（人の話し声が小さいように感じる）」が24.8%となっています。年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるほど「『聞こえ』に困っていることはない」の割合が低くなる傾向があります。

図表 「聞こえ」の状態－性別、年齢階級別

問4・Q1. 「聞こえ」としてあてはまる内容（いくつでも）※無回答は除く (%)

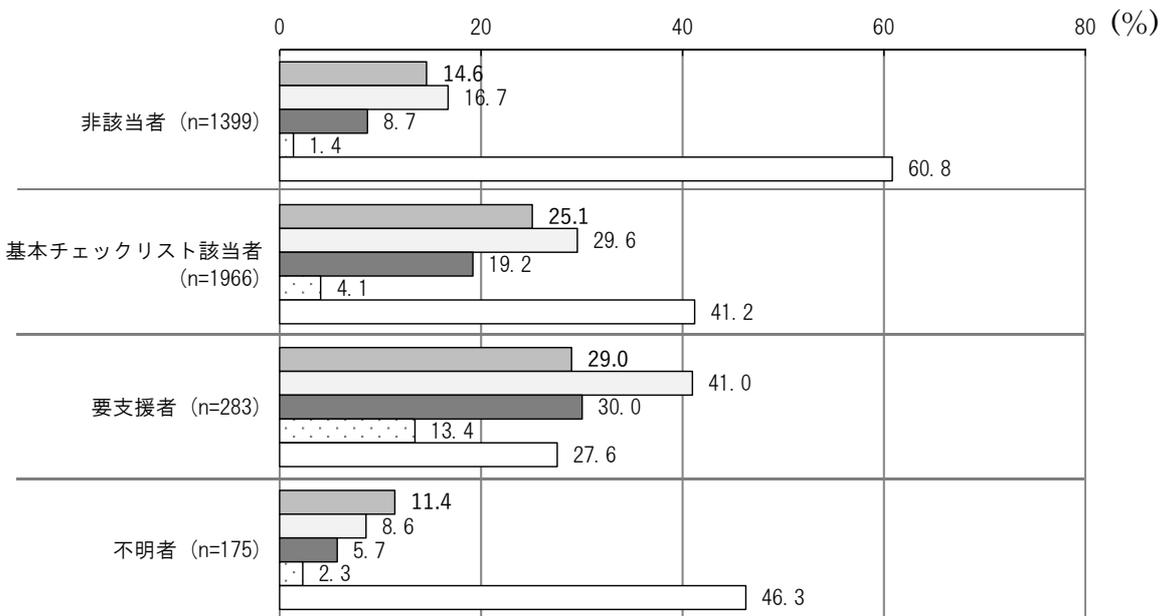


(3) 聞こえ

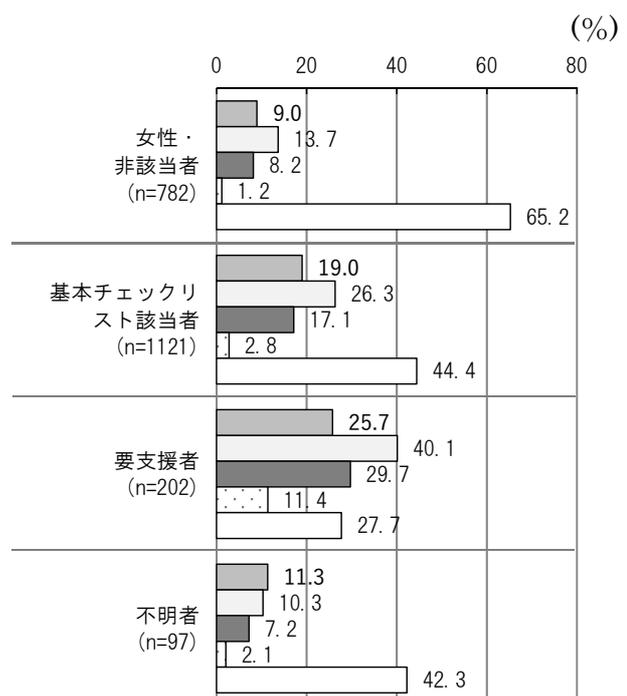
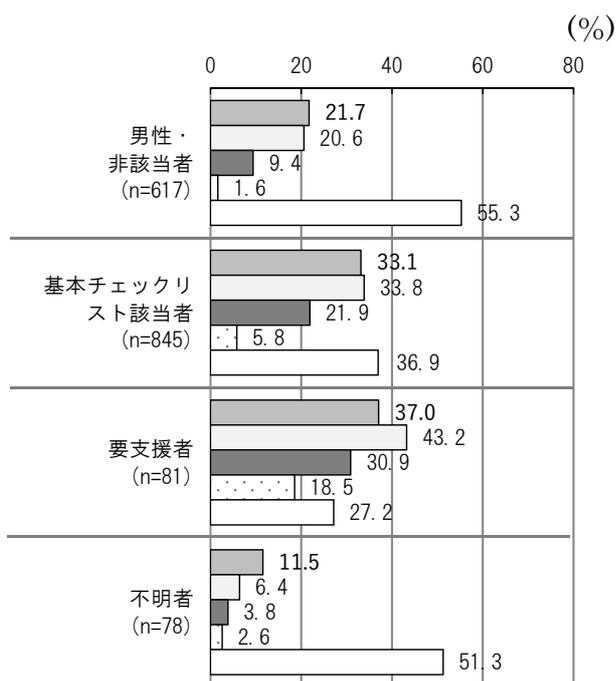
認定・該当状況別にみると、非該当者は「『聞こえ』に困っていることはない」が最も高く、6割以上ですが、要支援者では「普段の会話の音声が聞き取りづらい(人の話し声が小さいように感じる)」が4割を超えています。

図表 「聞こえ」の状態－認定・該当状況別

問4・Q1. 「聞こえ」としてあてはまる内容(いくつでも) ※無回答は除く



- テレビやラジオの音大きいと言われることがある
- 普段の会話の音が聞き取りづらい(人の話し声が小さいように感じる)
- 電話の音が聞き取りにくいことがある
- 大きな声で話をされても聞き取れないことがある
- 1~4にあてはまる状態(「聞こえ」に困っていること)は無い



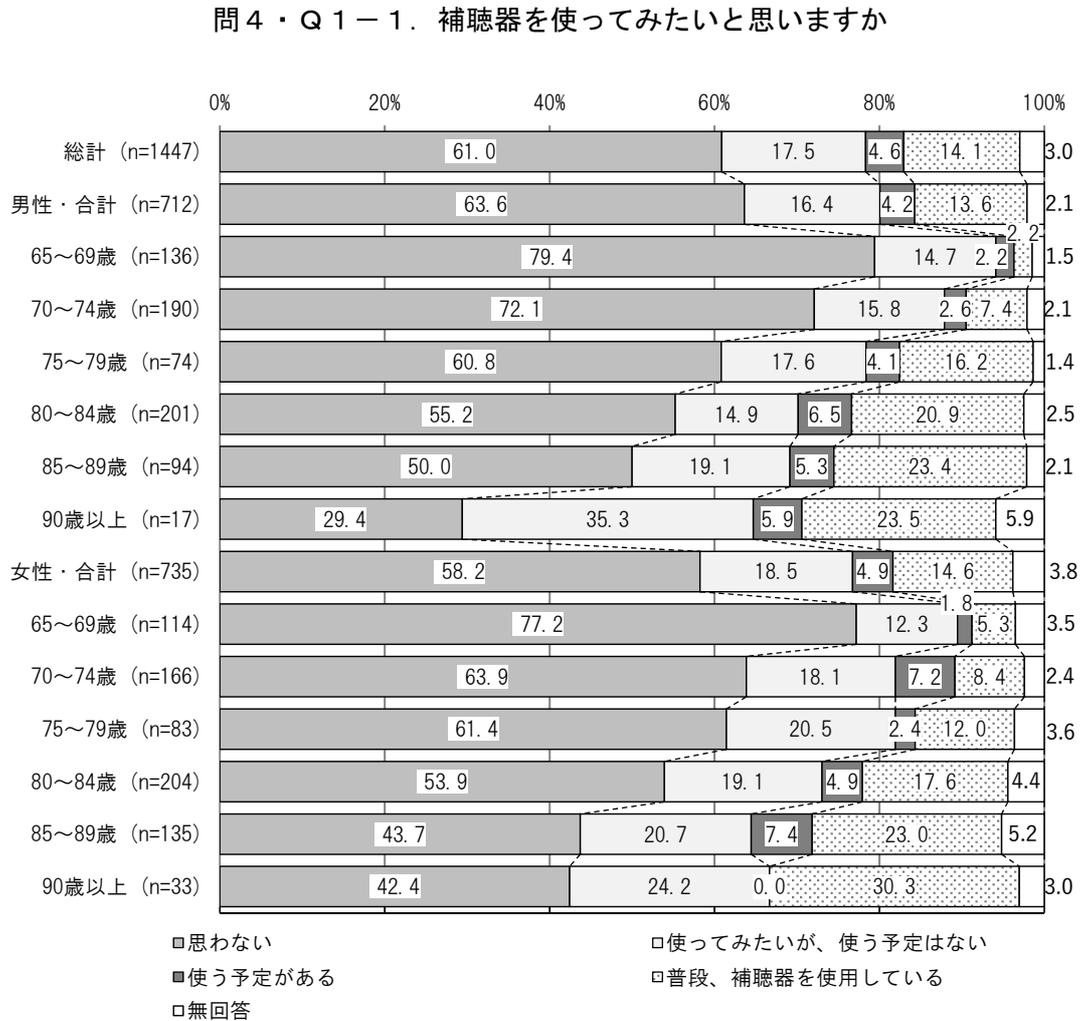
6 健康・生活習慣

問4・Q1で『「聞こえ」に困っていることは無い』以外の回答をした人に、補聴器を使ってみたいかを質問したところ、「思わない」が61.0%：881人、男性63.6%：453人、女性58.2%：428人となっています。

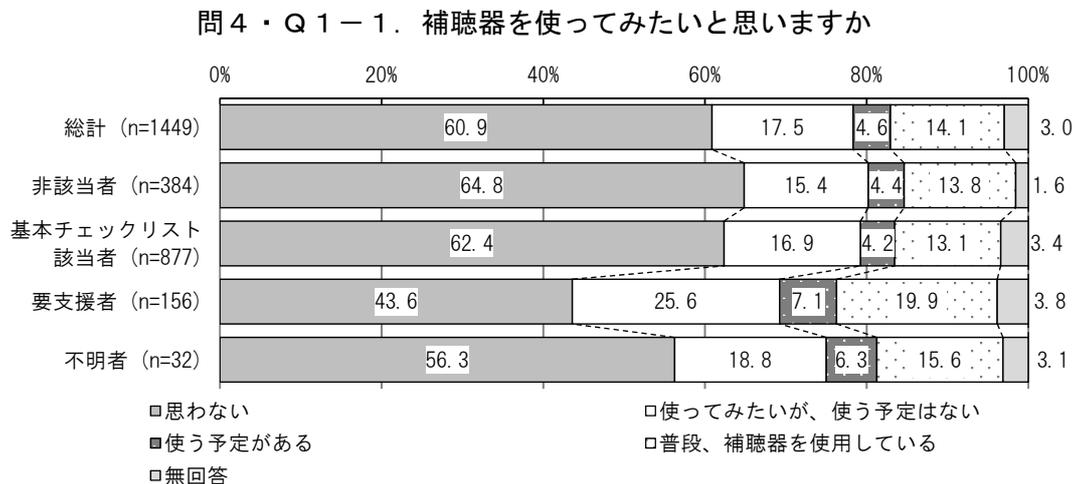
年齢階級別にみると、年齢が高いほどその割合が低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者が64.8%と最も高くなっています。

図表 「聞こえ」の状態－補聴器の使用意向－性・年齢階級別



図表 「聞こえ」の状態－補聴器の使用意向－認定・該当状況別



(3) 聞こえ

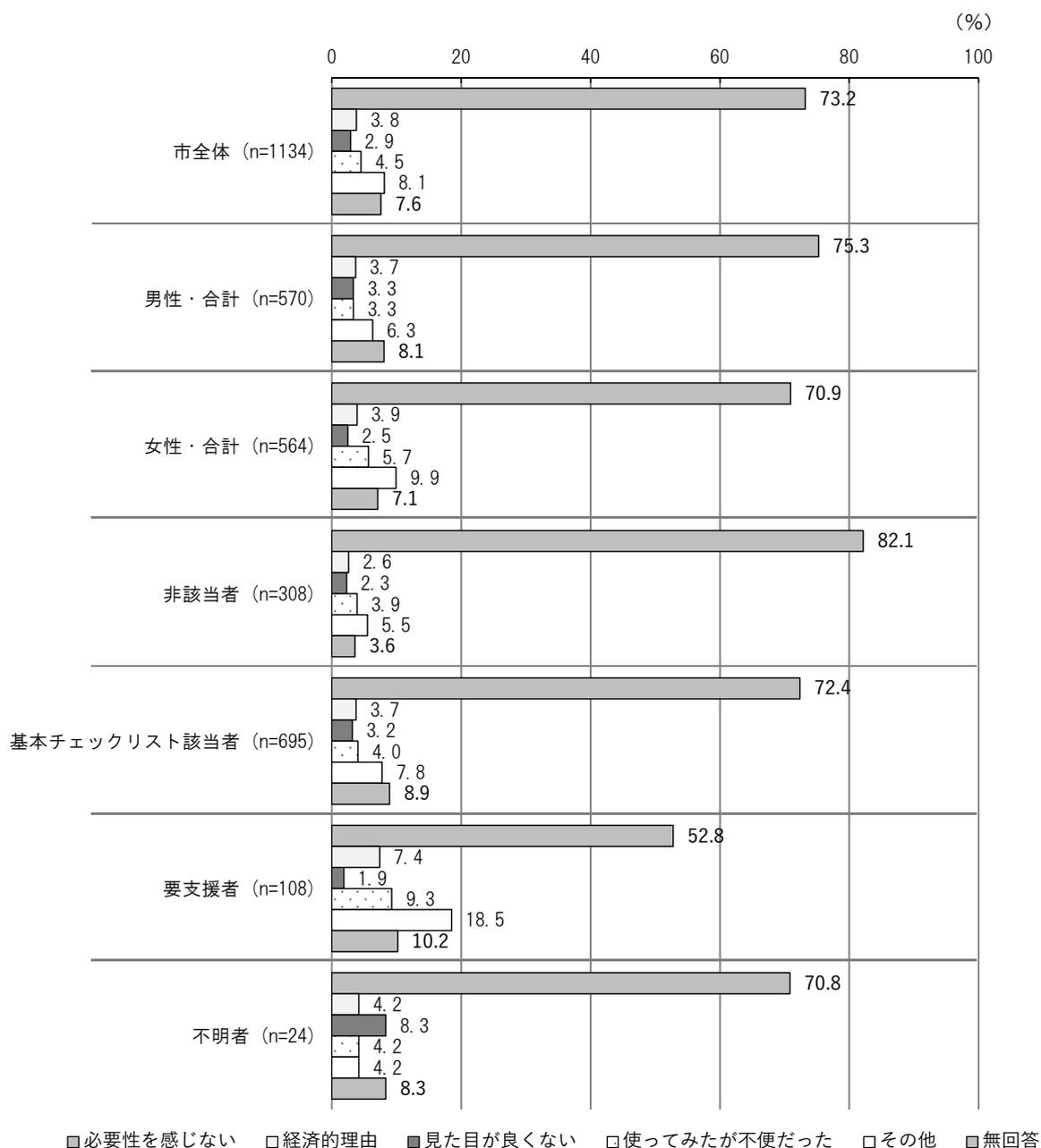
問4・Q1-1で「補聴器を使ってみたいと思わない」、「使ってみたいが、使う予定はない」と答えた人にその理由を尋ねたところ、「必要性を感じない」が73.2%と最も多く、次いで「その他」(8.1%)、「使ってみたが不便だった」(4.5%)となっています。

男女別にみると、「必要性を感じない」は、男性の方が女性より4.4ポイント高く、「使ってみたが不便だった」は、女性の方が男性より2.4ポイント高くなっています。

認定・該当状況別にみると、「必要性を感じない」の割合は、非該当者(82.1%)、基本チェックリスト該当(72.4%)の順に減っています。

図表 「聞こえ」の状態—補聴器を使わない理由—性別、認定・該当状況別

問4・Q1-2. 補聴器を使ってみたいと思わない、使ってみたいが使う予定はない理由



※複数回答者がいたため、割合を全て足すと100.0%を超える場合があります

6 健康・生活習慣

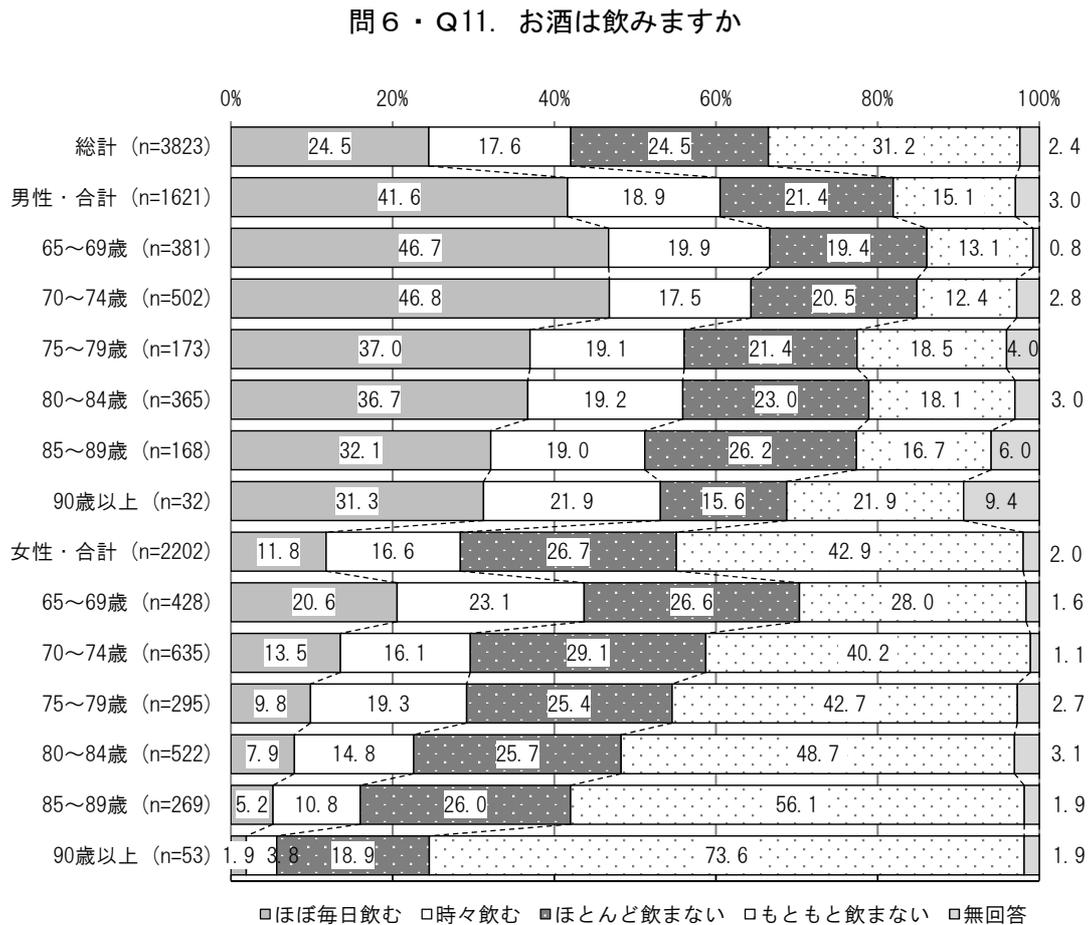
(4) 飲酒

飲酒習慣についての質問（問6・Q11）では、「ほぼ毎日飲む」の回答は、全体で24.5%：934人、男性41.6%：675人、女性11.8%：259人となっており、性別による差が非常に大きく表れています。

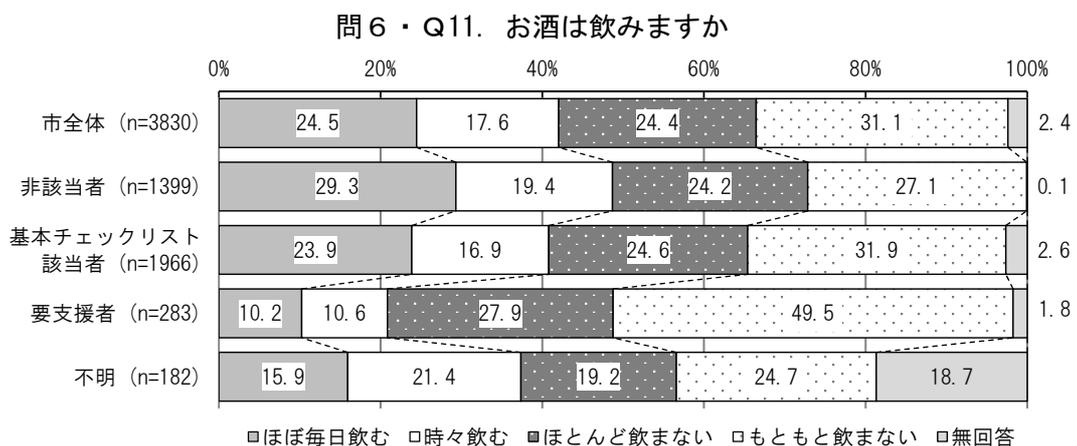
年齢階級別では、飲酒習慣は年齢とともに低くなる傾向にあります。

認定・該当状況別にみると、非該当者が29.3%と最も高くなっています。

図表 飲酒習慣－性・年齢階級別



図表 飲酒習慣－認定・該当状況別



(4) 飲酒

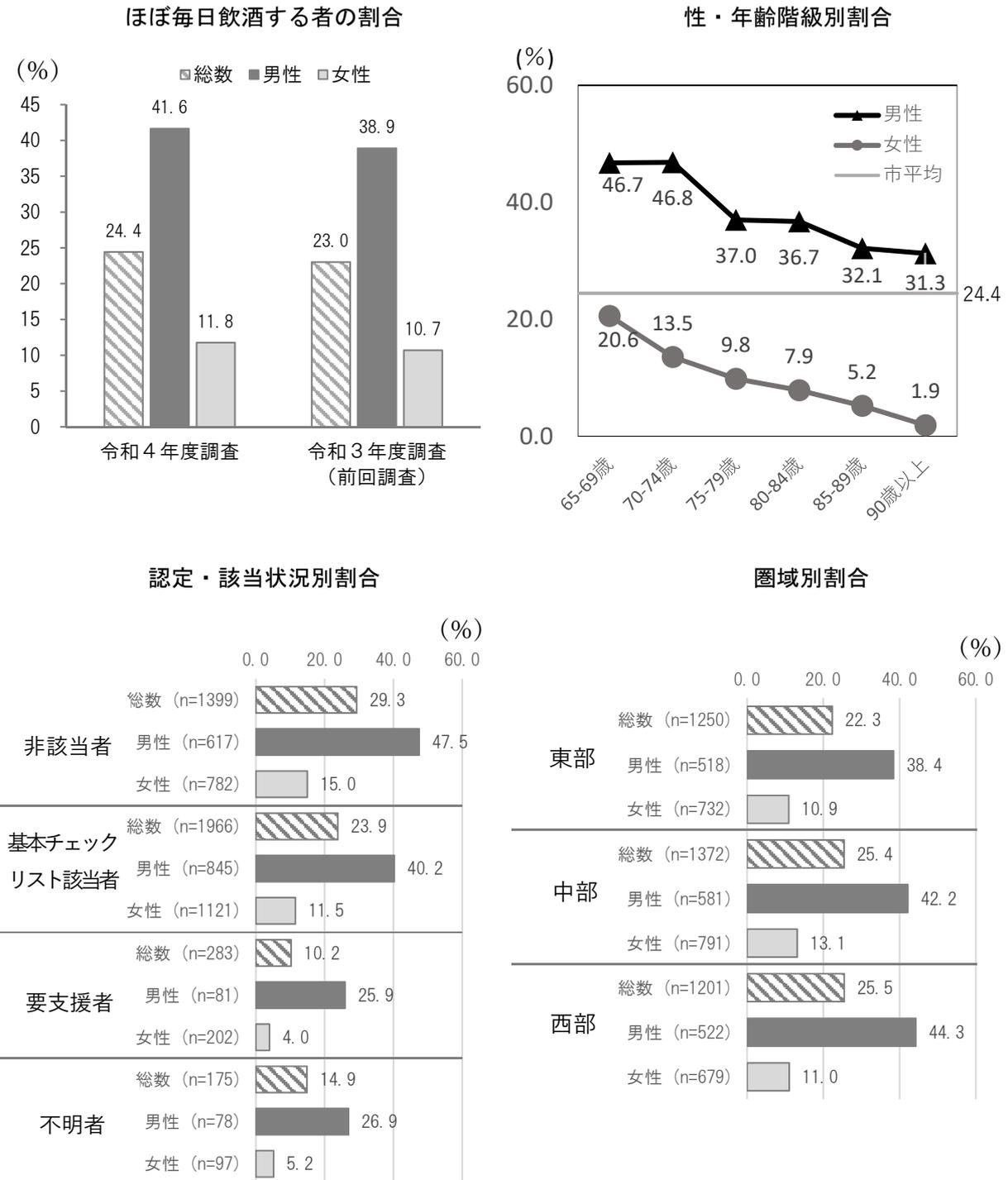
令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で1.4ポイント高くなっています。

性・年齢階級別では、男性は全ての年齢階級で市全体平均を上回り、女性は全ての年齢階級で市全体平均を下回っています。

認定・該当状況別にみると、「ほぼ毎日飲む」は非該当者の男性で47.5%、基本チェックリスト該当者の男性で40.2%と4割を超えています。

圏域別にみると、西部圏域の男性の割合が44.3%と最も高くなっています。

図表 飲酒習慣



6 健康・生活習慣

(5) 喫煙

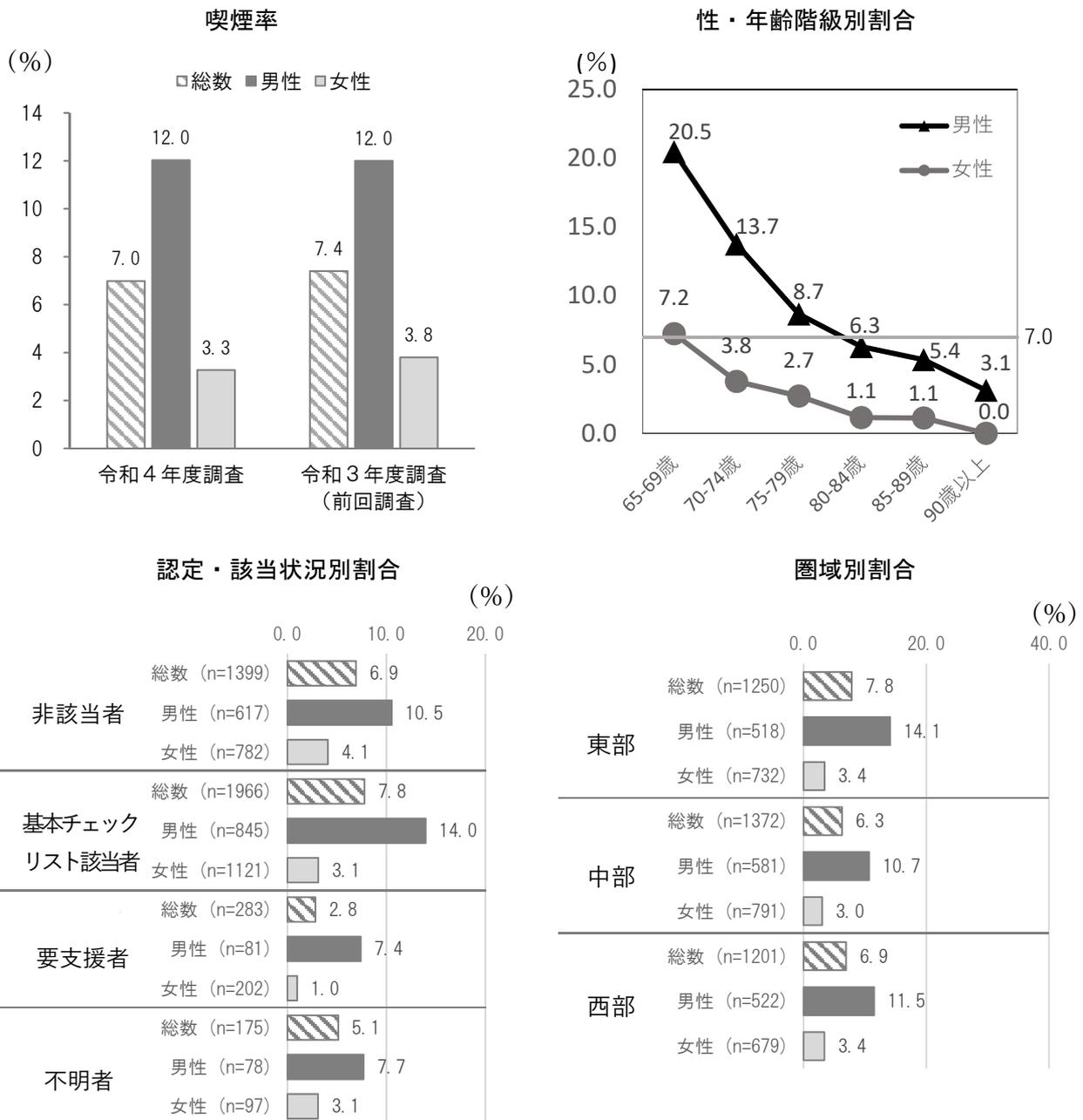
喫煙習慣についての質問（問6・Q12）では、「吸っている」の割合（喫煙率）は、全体で7.0%：267人、男性12.0%：195人、女性3.3%：72人となっており、飲酒同様、性別による差が大きくなっています。令和3年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.4ポイント低くなっています（前回調査は、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」と回答した人を合わせて「吸っている」の割合にしています）。

年齢階級別にみると、年齢が高いほど喫煙率は低くなる傾向となっています。

認定・該当状況別では、非該当者（6.9%）、基本チェックリスト該当者（7.8%）で喫煙率が6.0%を超えています。

圏域別にみると、東部圏域の男性で喫煙率が14.1%と高くなっています。

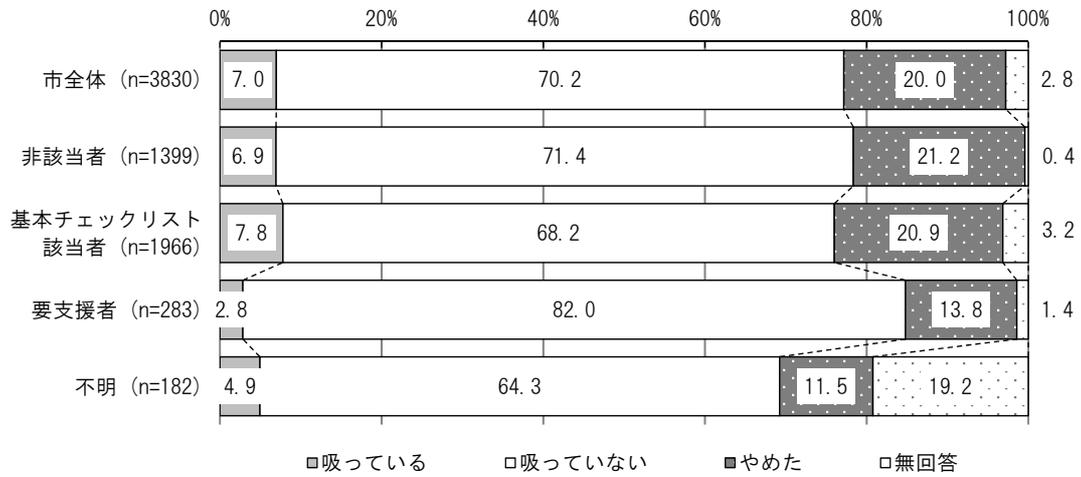
図表 喫煙習慣



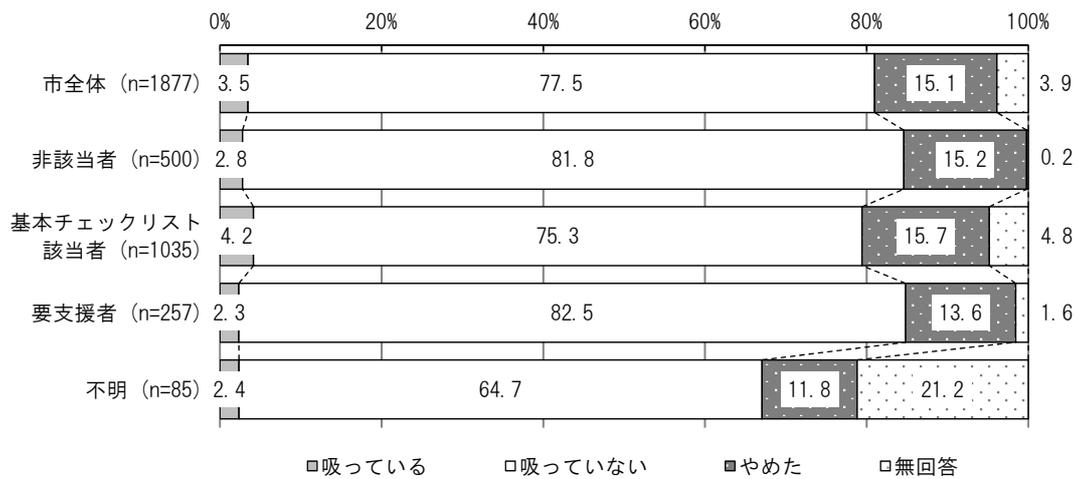
(5) 喫煙

図表 喫煙

問6・Q12. タバコは吸っていますか



問6・Q12. タバコは吸っていますか (75歳以上)



6 健康・生活習慣

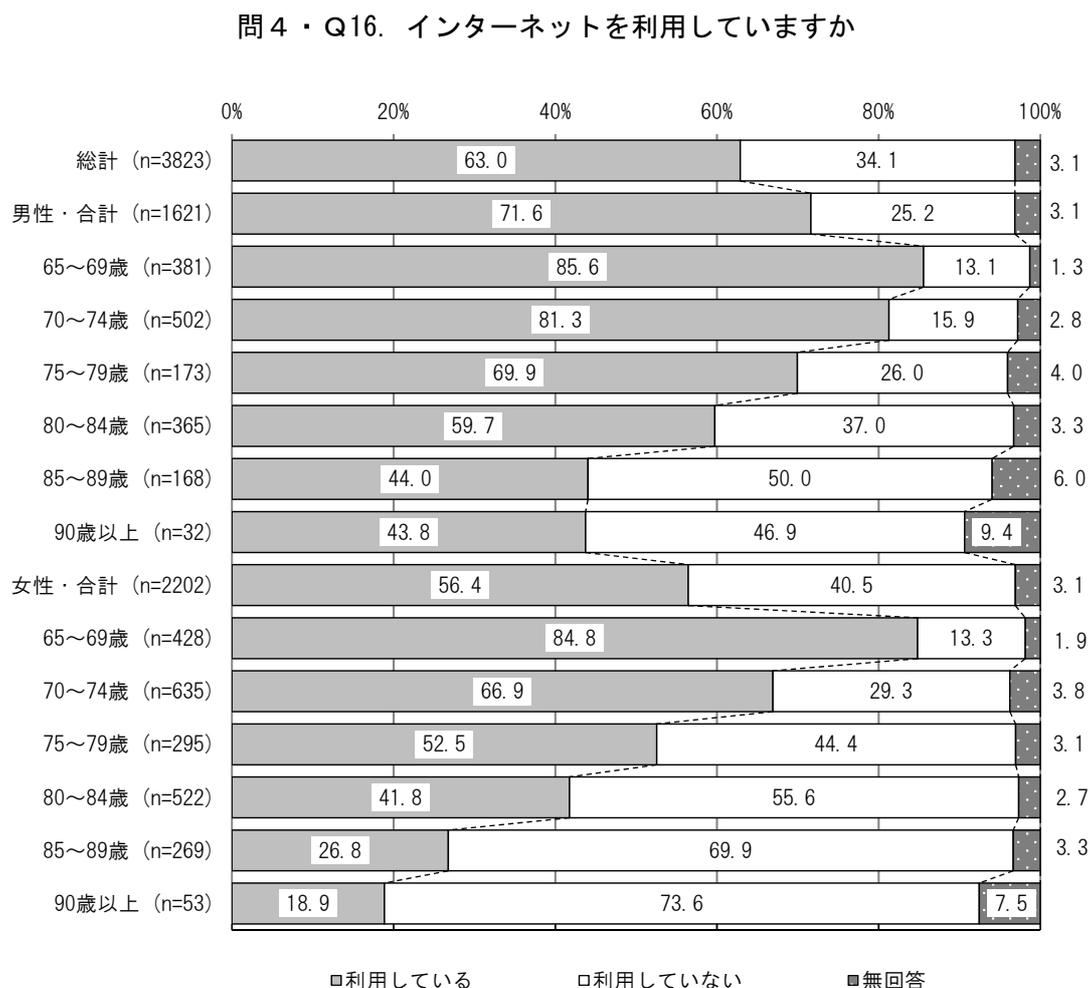
(6) インターネットの利用

インターネットの利用について、市全体で「利用している」の回答は63.0%、「利用していない」は34.1%となっています

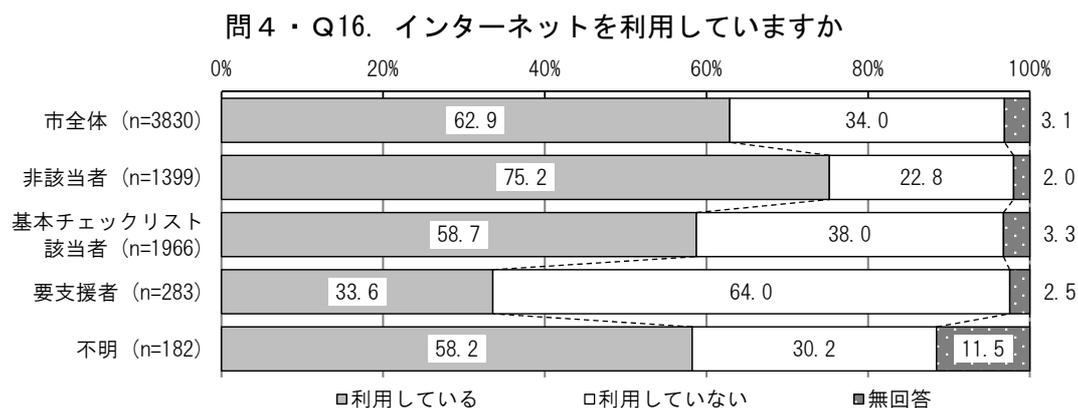
性・年齢階級別にみると、65～69歳では、男女とも8割以上がインターネットを利用していますが、年齢が高くなるにつれて利用率は低下しています。

認定・該当状況別にみると、要支援者はインターネットの利用率が低くなっています。

図表 インターネットの利用－性・年齢階級別



図表 インターネットの利用－認定・該当状況別



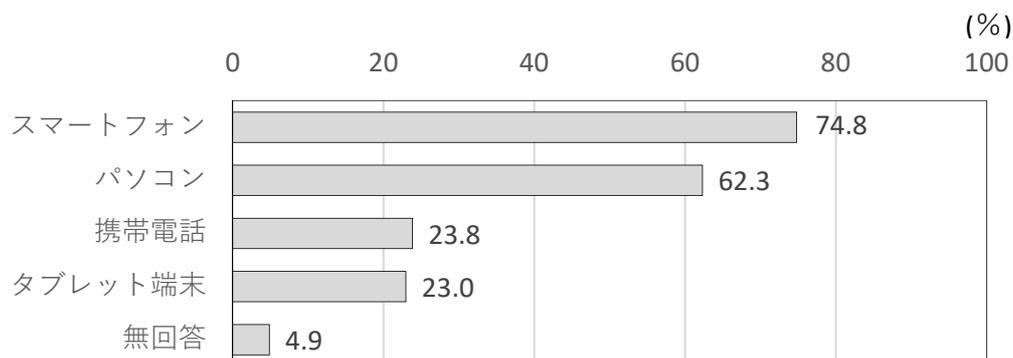
(6) インターネットの利用

インターネットを「利用している」と回答した人のうち、使用端末については、「スマートフォン」が74.8%と最も多く、次いで「パソコン」(62.3%)、「携帯電話」(23.8%)、「タブレット端末」(23.0%)となっています。

また、インターネットの利用目的としては、「検索」と「メール」が85.8%と最も多く、次いで「LINE」が71.8%などとなっています。

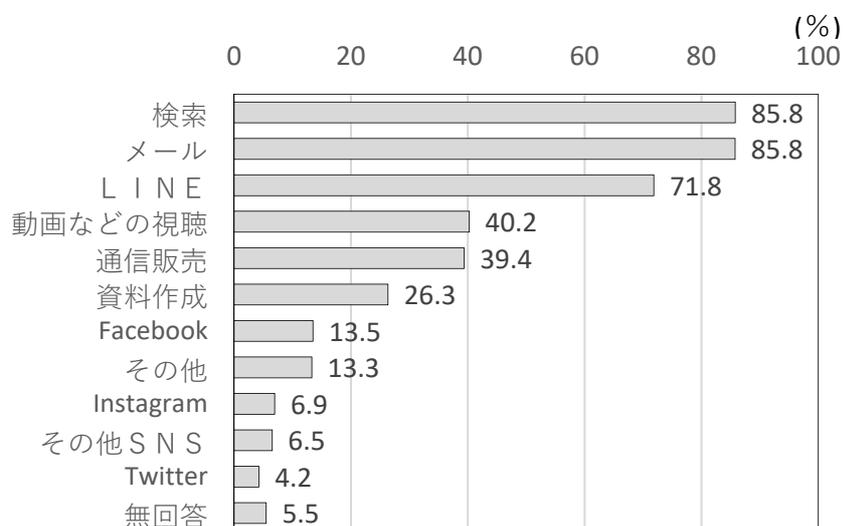
図表 インターネットの利用－使用端末

問4・Q16 - 1. 何を使用してインターネットを利用していますか (いくつでも)



図表 インターネットの利用－利用目的

問4・Q16 - 2. インターネットの利用目的は何ですか (いくつでも)



6 健康・生活習慣

(7) 就労

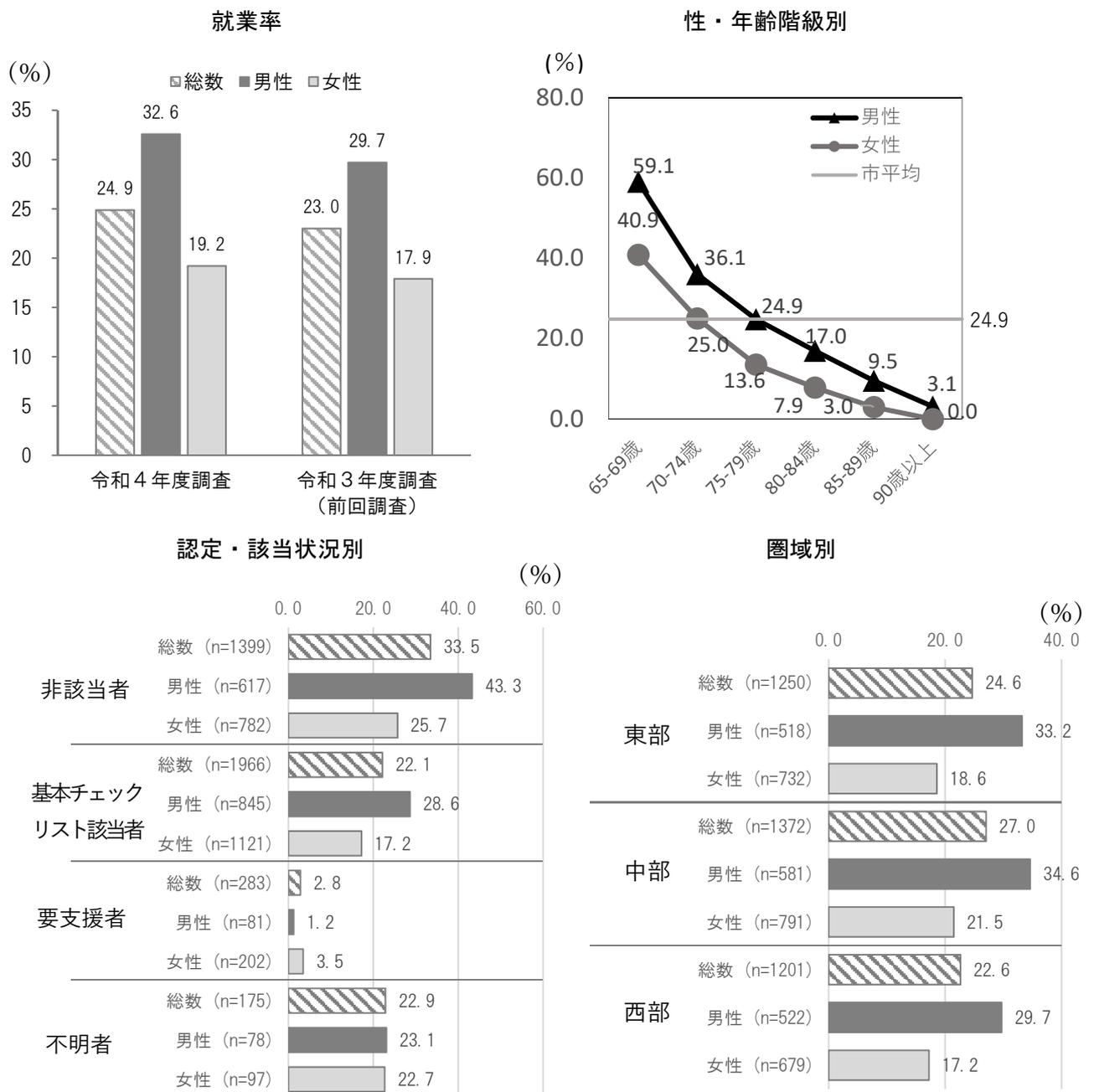
収入を伴う仕事の有無について、「収入のある仕事」（問5・Q1（8））を「週4回以上」～「年数回」と回答したのは、全体で24.9%：951人、男性32.6%：528人、女性19.2%：423人となっています。女性より男性で、収入のある仕事をしている割合が高くなっています。

性・年齢階級別にみると、65～69歳の男性で59.1%、女性で40.9%と最も高くなっていますが、年齢とともにその割合は低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者の33.5%、基本チェックリスト該当者の22.1%、要支援者の2.8%が「収入のある仕事」をしていると回答しています。

圏域別にみると、西部圏域の女性が17.2%と低くなっています。

図表 就業率



(7) 就労

7 介護の状況

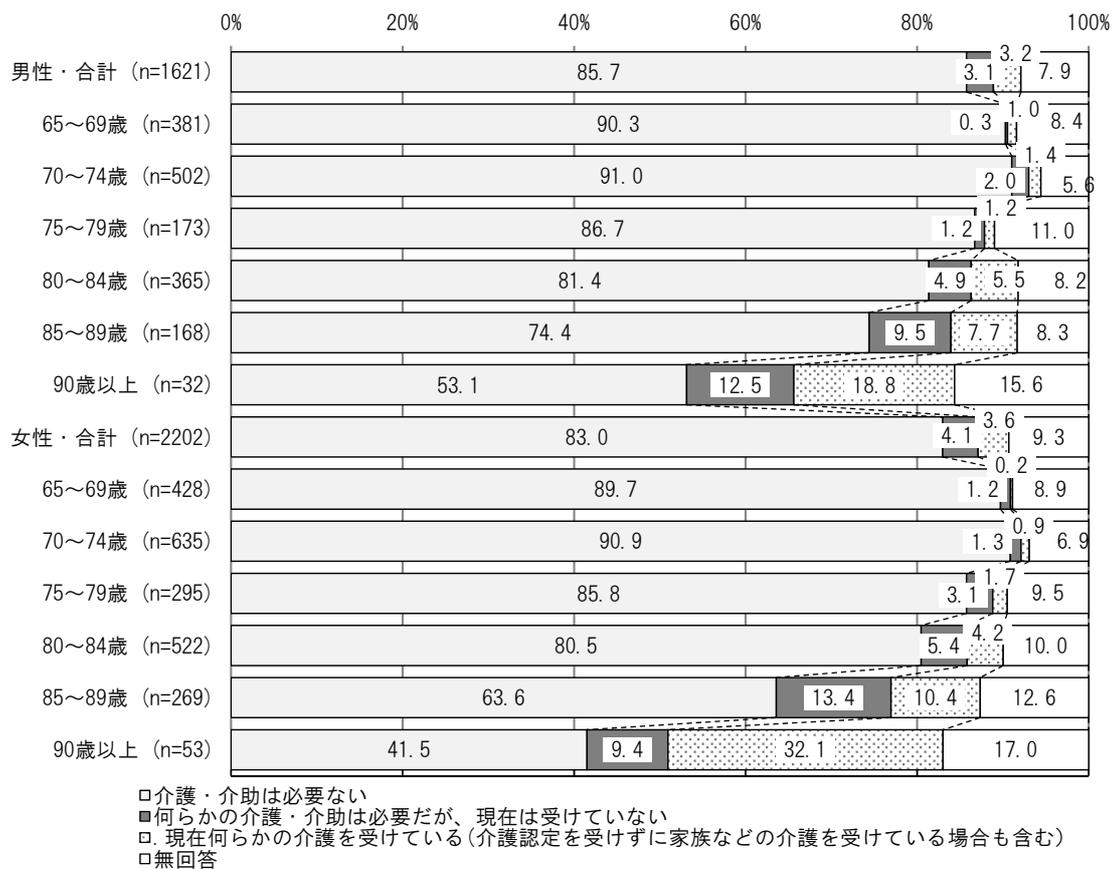
(1) 介護・介助の必要性

介護・介助（手助け）の必要性に関する設問（問1・Q2）に対する回答をみると、年齢が高いほど介護・介助を必要とする方の割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者では「介護・介助は必要ない」が44.9%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が16.3%と回答しています。

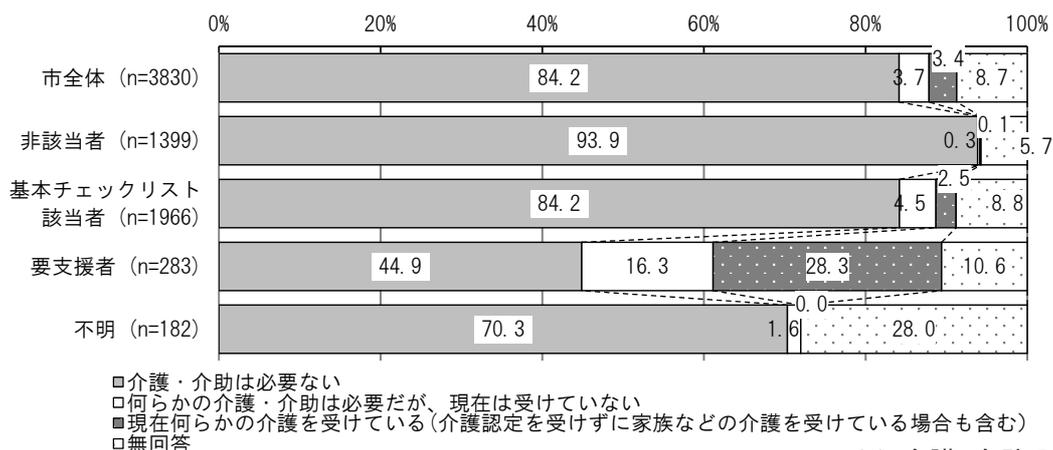
図表 介護・介助の必要性－性・年齢階級別

問1・Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか



図表 介護・介助の必要性－認定・該当状況別

問1・Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか



(1) 介護・介助の必要性

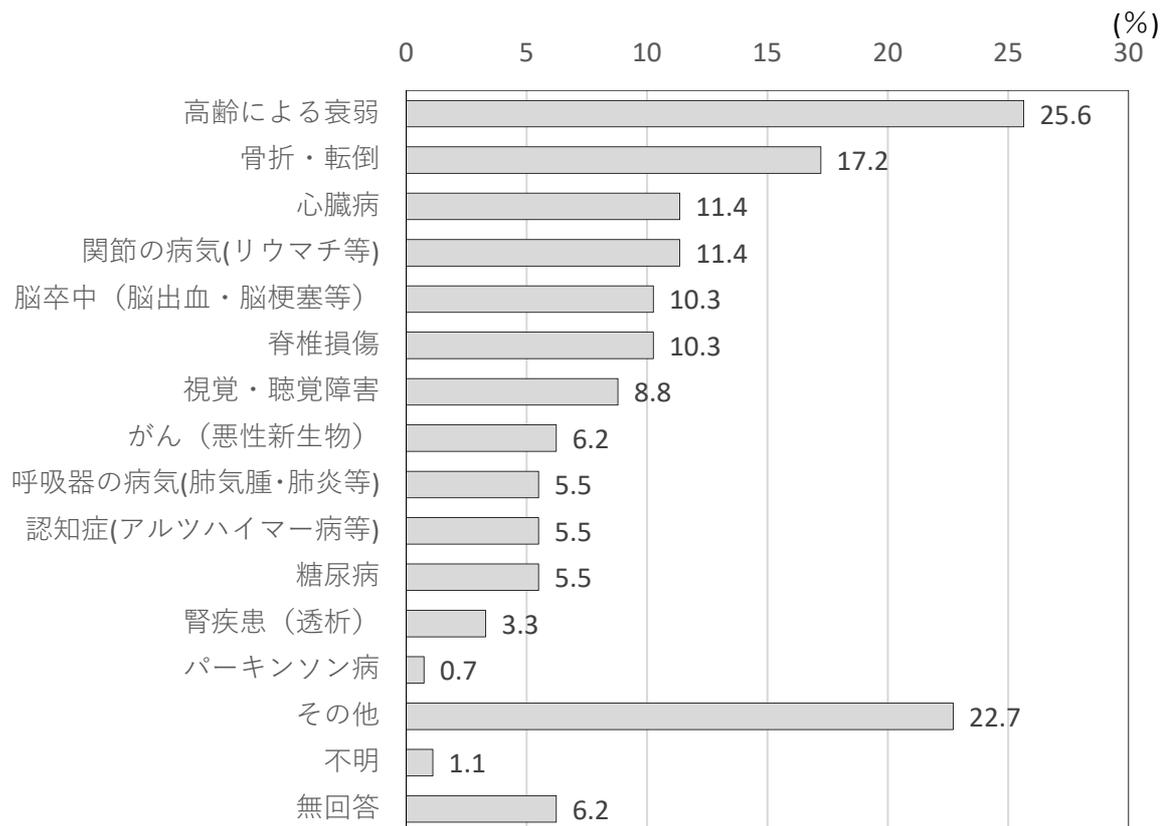
7 介護の状況

(2) 要介護・介助の原因

「介護・介助は必要」（「介護を受けている」を含む）と回答した方について、その主な原因をみると、「高齢による衰弱」が25.6%で最も多く、次いで「その他」（22.7%）、「骨折・転倒」（17.2%）、「心臓病」「関節の病気（リウマチ等）」（11.4%）と続いています。

図表 介護・介助が必要になった原因

問1・Q2-1. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

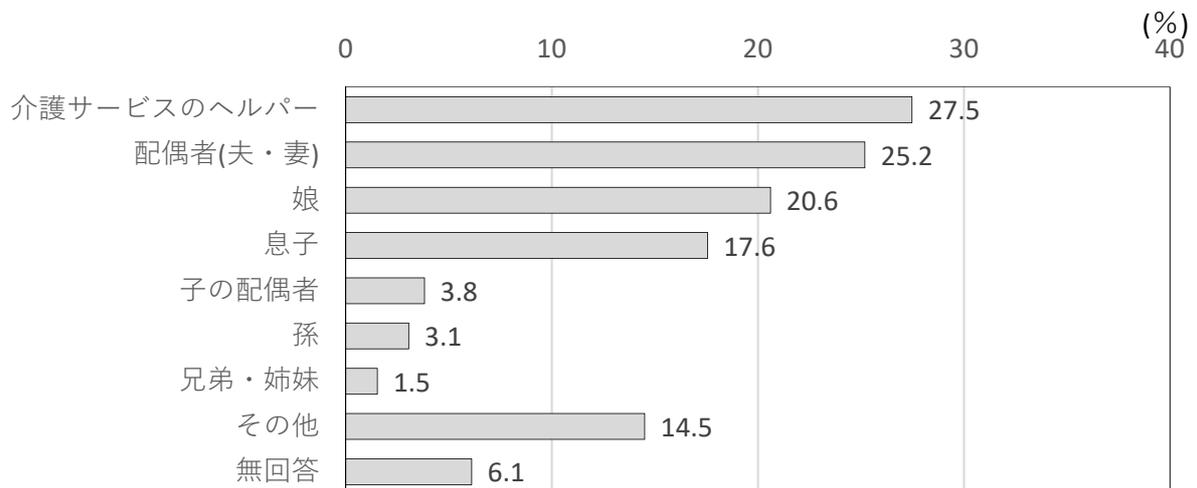


(3) 介護者

問1・Q2で「介護を受けている」と回答している方の介護者は、「介護サービスのヘルパー」が27.5%で最も多く、次いで「配偶者（夫・妻）」（25.2%）、「娘」（20.6%）、「息子」（17.6%）となっています。

図表 主な介護者

問1・Q2-2. 主にどなたの介護・介助を受けていますか（複数回答）



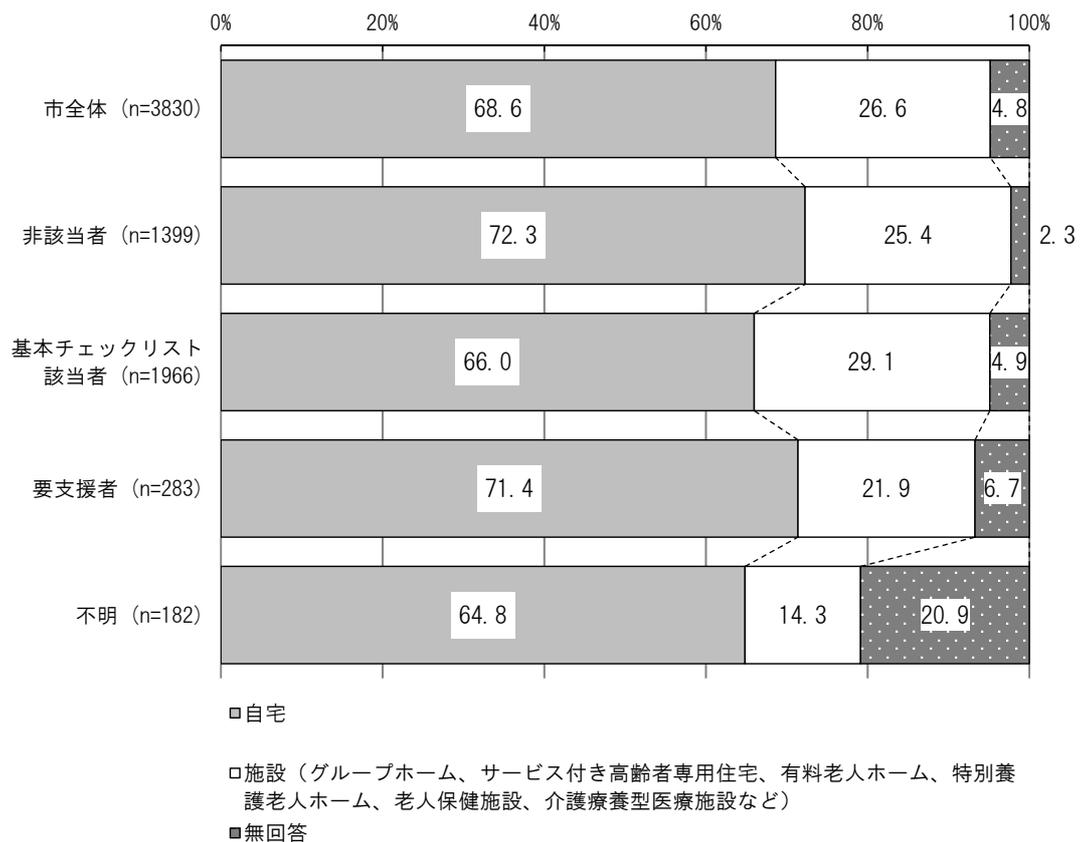
7 介護の状況

(4) 介護が必要な状態になった後の暮らし

介護が必要な状態になった場合にどこで暮らしたいかについては、「自宅」が 68.6%と多く、「施設」は 26.6%となっています。

図表 暮らす場所

問1・Q4. 介護が必要な状態になったら（既に必要な状態の場合も含む）、自宅と施設のどちらで暮らしたいですか



8 保健福祉サービス

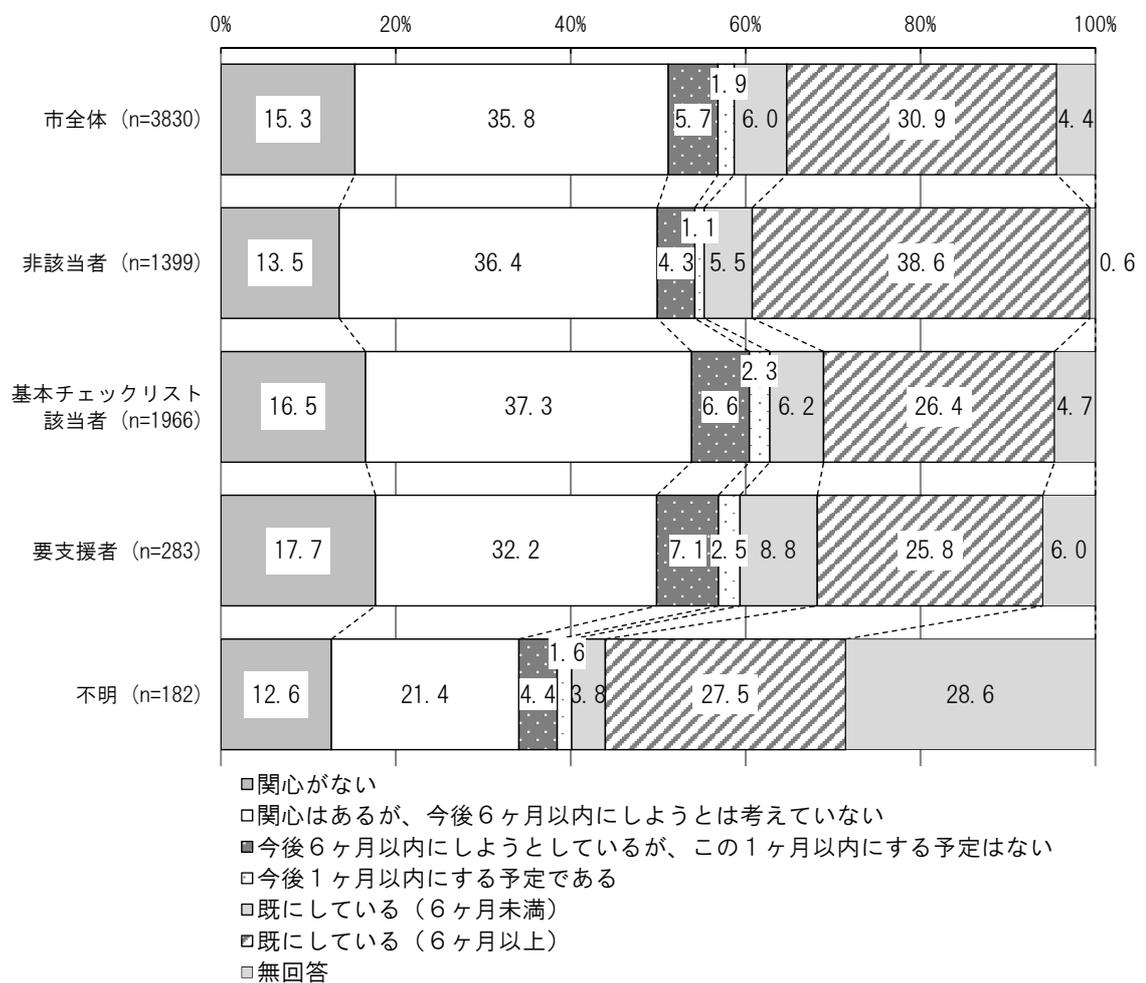
(1) 運動や栄養改善への関心度

介護予防事業への参加意向と関連する、運動・栄養改善への関心度についても質問しています。全体では、「関心はあるが、今後6ヶ月以内にしようとは考えていない」が35.8%、「既に行っている（6ヶ月以上）」が30.9%、「関心がない」が15.3%と続いています。

基本チェックリスト該当者と非該当者を比較すると、「関心はあるが今後6ヶ月以内にしようとは考えていない」や「関心がない」といった消極的な回答の割合は、基本チェックリスト該当者で53.8%となっており、非該当者（49.9%）より高くなっています。

図表 運動・栄養改善への関心度

問8・Q1. あなたは、運動や栄養改善をすることにどのくらい関心がありますか



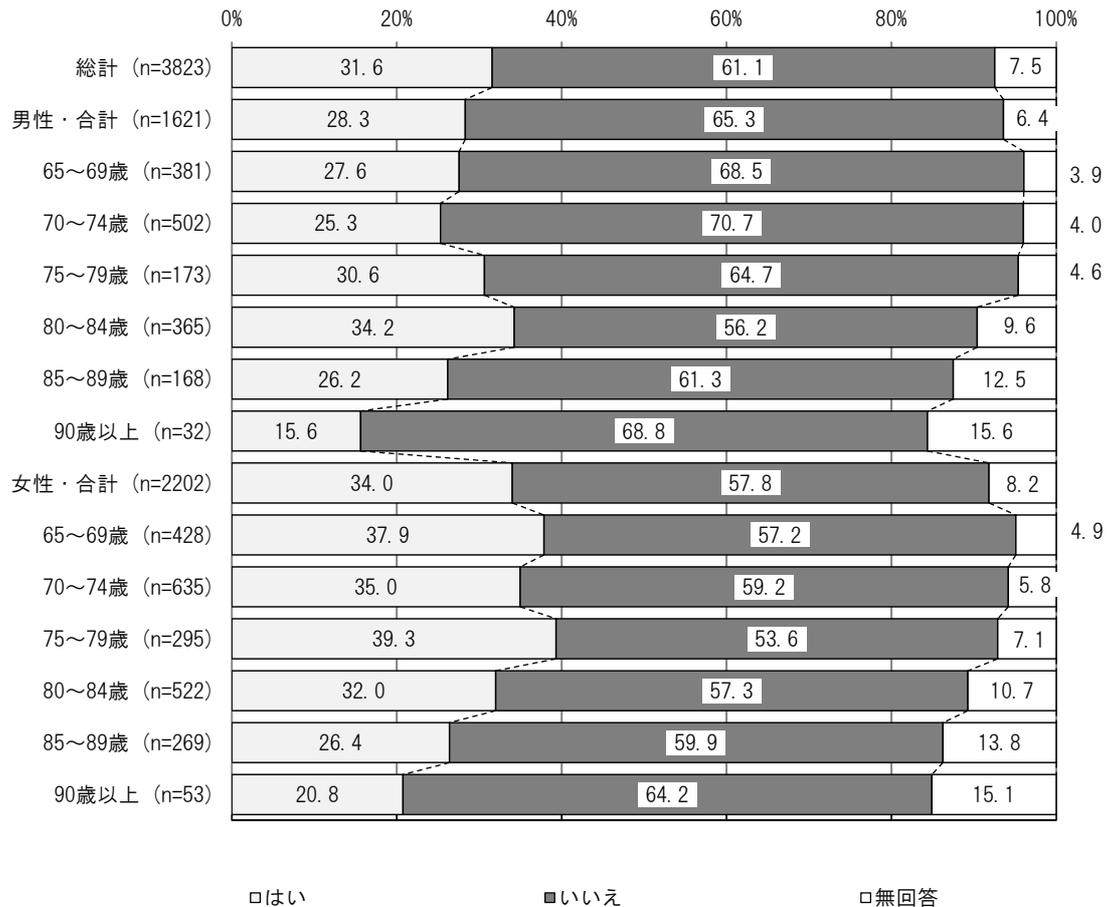
7 介護の状況

(2) 介護予防教室への参加意向

逗子市で行う介護予防のための教室に参加したいかについては、「はい」(参加したい)が31.6%、「いいえ」が61.1%となっています。性別で見ると、「はい」は80~84歳を除く全ての年齢階級で女性の方が高くなっています。

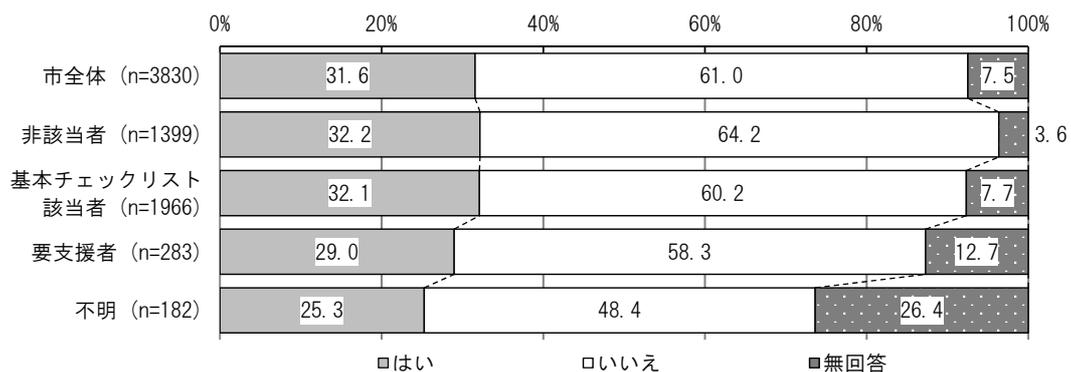
図表 介護予防教室への参加意向－性・年齢階級別

問8・Q2. この調査の結果、教室等への参加が望ましいとわかった場合、逗子市で行う次のような教室へ参加したいですか(介護予防機能向上トレーニング・フレイル予防運動教室)



図表 介護予防教室への参加意向－認定・該当状況別

問8・Q2. この調査の結果、教室等への参加が望ましいとわかった場合、逗子市で行う次のような教室へ参加したいですか(介護予防機能向上トレーニング・フレイル予防運動教室)



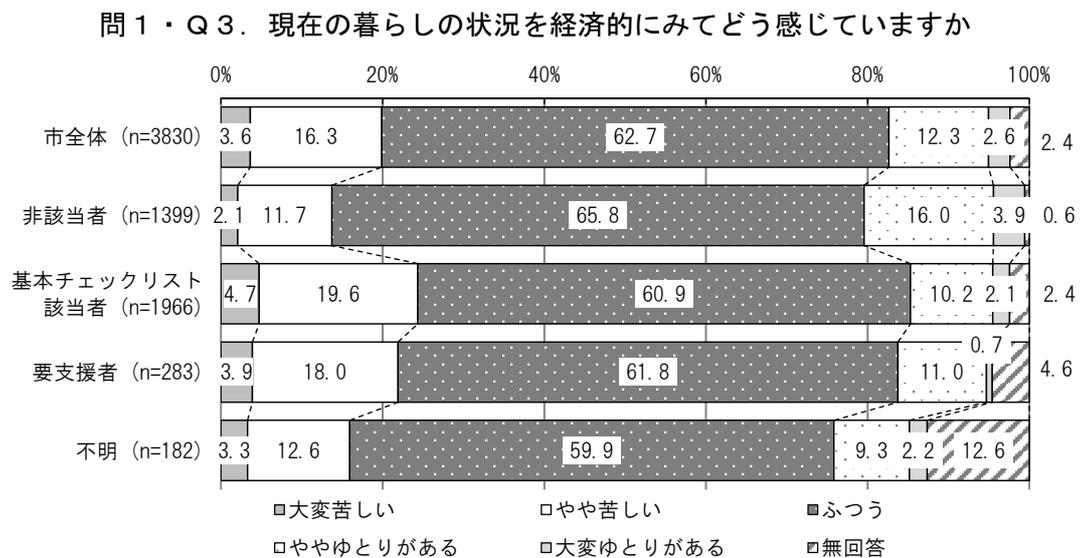
(2) 介護予防教室への参加意向

9 住宅・暮らし

(1) 現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、「ふつう」が62.7%で最も多く、次いで「やや苦しい」(16.3%)、「ややゆとりがある」(12.3%)、「大変苦しい」(3.6%)となっています。

図表 現在の暮らしの状況－認定・該当状況別

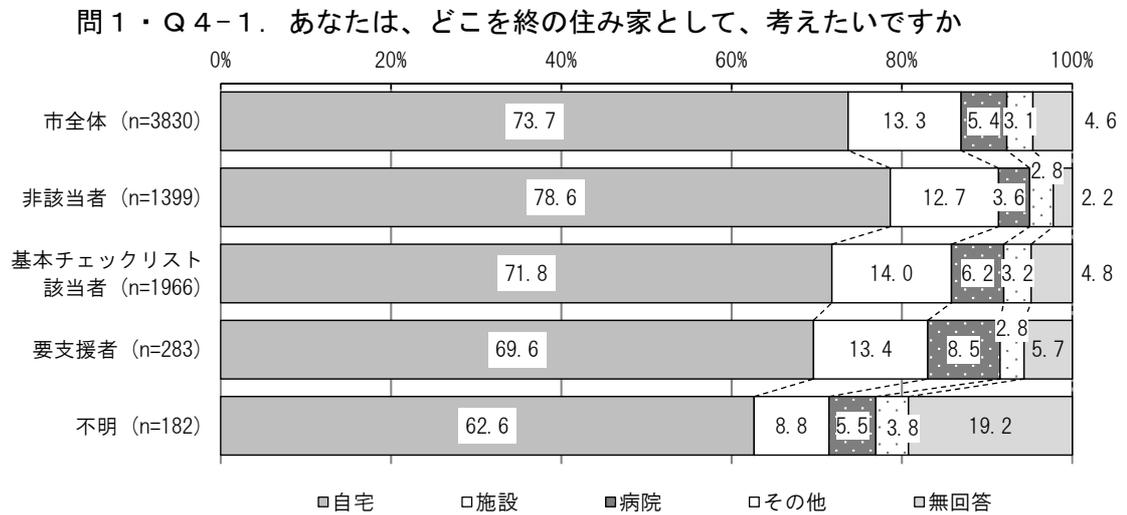


9 住宅・暮らし

(2) 終の住み家

終の住み家として考えている場所については、「自宅」が73.7%で最も多く、次いで「施設」が13.3%、「病院」が5.4%となっています。

図表 終の住み家

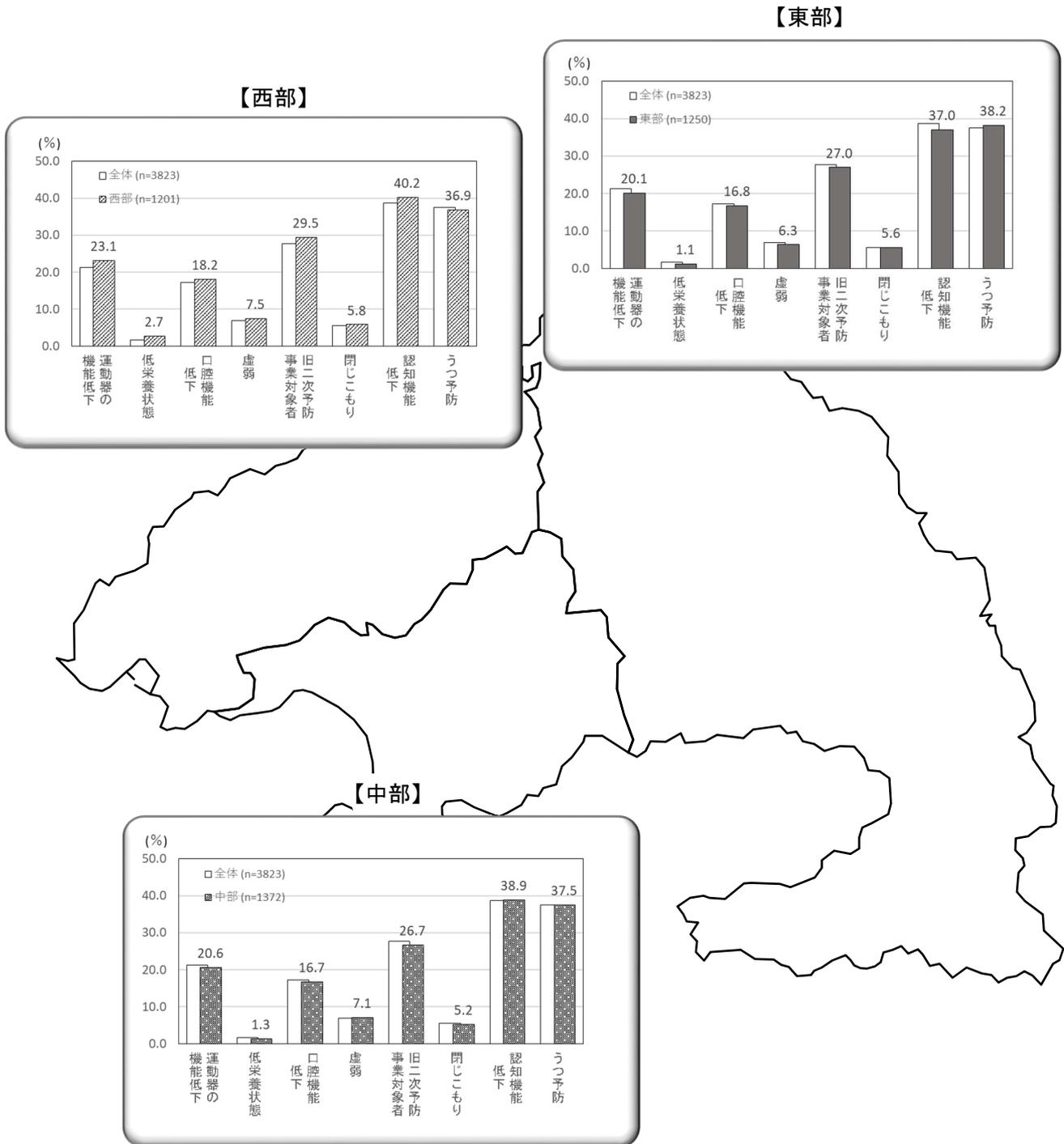


10 圏域別の概況

(1) 生活機能等リスク該当者

各圏域別に生活機能等リスク該当者状況についてまとめると、下図のとおりとなります。

図表 生活機能等リスク該当者（圏域別）



(2) 疾病

各圏域別に疾病の状況についてまとめると、下図のとおりとなります。

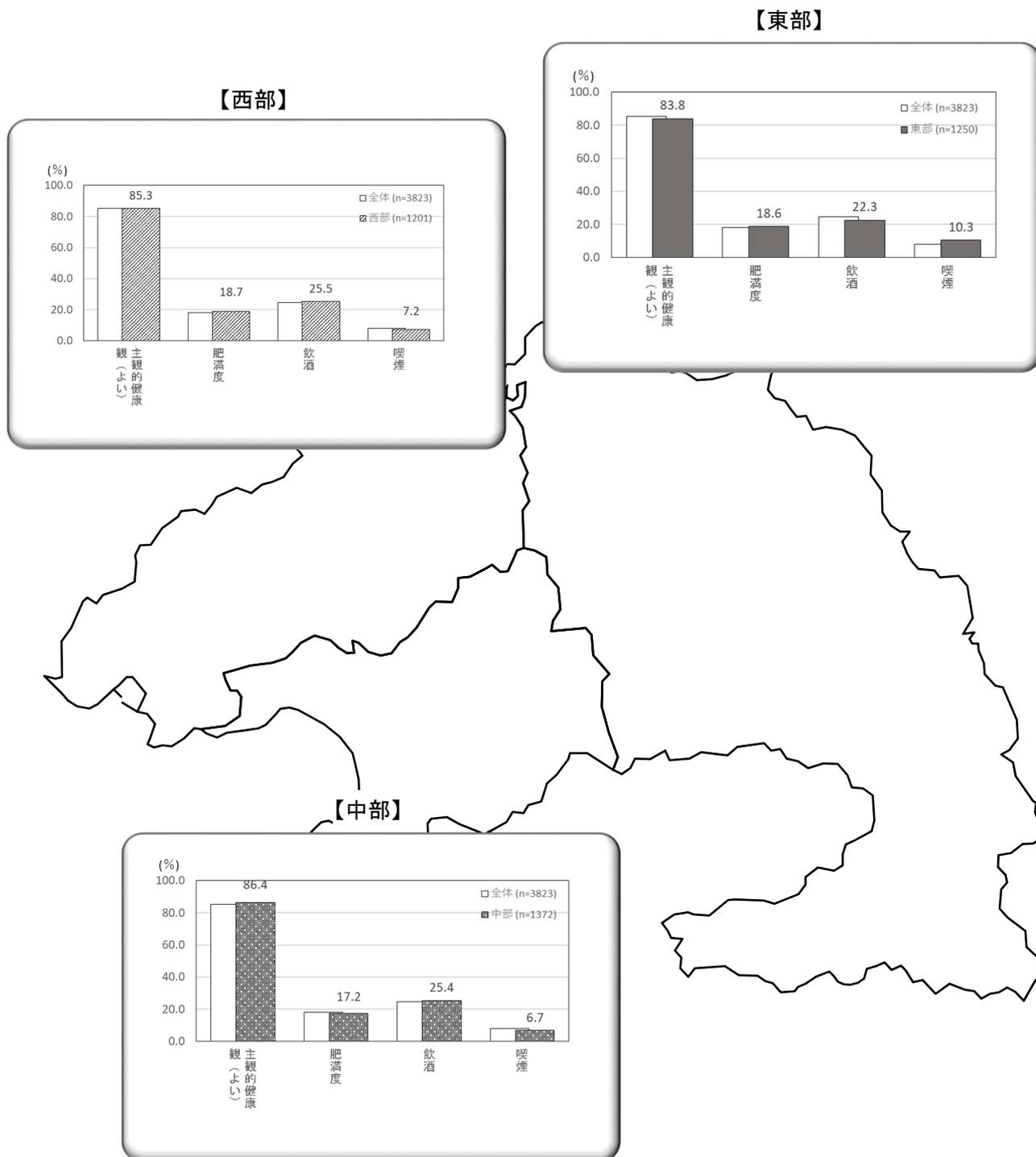
図表 有病率（圏域別）



(3) 健康に関する事項

健康観及び健康に関する事項についての状況をまとめると、下図のとおりとなります。

図表 健康観及び健康に関する事項（圏域別）



参考資料 1 (圏域別設問クロス集計)

1 基本チェックリスト項目

リスク該当の項目には、3圏域で最も割合の高い圏域に網掛けを行っている。

No.	質問項目	選択肢	全体	圏域		
				東部	中部	西部
1	問4 Q 6. バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	できるし、している	89.0	90.8	87.5	88.9
		できるけどしていない	6.8	5.8	7.8	6.9
		できない	3.1	2.8	3.4	3.2
2	問4 Q 8. 自分で食品・日用品の買物をしていますか	できるし、している	87.8	87.8	87.8	87.7
		できるけどしていない	9.0	9.8	8.6	8.5
		できない	2.1	1.5	2.3	2.6
3	問4 Q 11. 自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している	87.2	86.0	87.5	87.9
		できるけどしていない	9.9	11.1	9.8	8.9
		できない	1.7	2.0	1.3	2.0
4	問4 Q 18. 友人の家を訪ねていますか	はい	40.6	40.6	40.7	40.7
		いいえ	57.9	57.8	57.9	57.8
5	問4 Q 19. 家族や友人の相談にのっていますか	はい	80.6	79.7	82.1	80.0
		いいえ	17.8	18.9	16.2	18.2
6	問2 Q 1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できるし、している	64.4	62.6	66.6	63.9
		できるけどしていない	20.9	21.6	19.7	21.5
		できない	12.1	12.2	11.3	13.0
7	問2 Q 2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できるし、している	79.7	79.1	81.7	78.1
		できるけどしていない	10.5	10.2	9.3	12.1
		できない	7.3	7.0	6.9	8.0
8	問2 Q 4. 15分位続けて歩いていますか	できるし、している	81.7	81.1	82.1	81.7
		できるけどしていない	11.0	11.0	10.6	11.4
		できない	5.2	4.8	5.4	5.4
9	問2 Q 5. 過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある	6.0	5.0	6.0	6.9
		1度ある	18.3	17.6	18.1	19.2
		ない	73.7	74.5	74.0	72.5
10	問2 Q 6. 転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である	11.3	11.9	10.1	11.9
		やや不安である	35.5	33.9	35.1	37.4
		あまり不安でない	31.2	32.2	31.7	29.7
		不安でない	19.8	19.2	21.1	19.2
11	問3 Q 10. 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	はい	13.6	13.9	13.4	13.7
		いいえ	83.5	82.6	84.1	83.6
12	問3 Q 1. 身長と体重をご記入ください	BMI18.5未満	9.3	7.9	9.3	10.7
		BMI18.5~21.5未満	29.3	29.0	28.7	30.2
		BMI21.5~25.0未満	38.9	39.6	40.7	36.1
		BMI25.0以上	18.1	18.6	17.2	18.7
13	問3 Q 3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい	22.6	24.1	21.1	22.9
		いいえ	74.5	72.8	75.9	74.7
14	問3 Q 4. お茶や汁物等でむせることがありますか	はい	23.7	21.0	24.3	25.9
		いいえ	73.3	75.8	72.4	71.5
15	問3 Q 5. 口の渇きが気になりますか	はい	20.8	20.6	19.2	22.7
		いいえ	76.1	76.4	77.4	74.4
16	問2 Q 8. 週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない	5.5	5.6	5.2	5.8
		週1回	12.7	11.4	11.8	14.9
		週2~4回	49.0	51.4	46.2	49.7
		週5回以上	30.6	28.6	34.8	27.8

No.	質問項目	選択肢	全体	圏域		
				東部	中部	西部
17	問2Q9. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	とても減っている	5.9	5.4	6.0	6.4
		減っている	31.4	31.1	30.5	32.8
		あまり減っていない	31.4	31.0	31.1	31.9
		減っていない	29.0	29.2	30.4	27.4
18	問4Q3. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	はい	8.5	8.5	8.7	8.3
		いいえ	89.7	89.8	89.7	89.6
19	問4Q4. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	はい	88.7	88.9	89.9	87.3
		いいえ	9.8	9.9	8.4	10.9
20	問4Q5. 今日が何月何日かわからないときがありますか	はい	21.6	20.9	20.7	23.1
		いいえ	76.8	77.8	77.6	75.0
21	問6Q5. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	はい	15.6	16.9	13.7	16.5
		いいえ	80.3	78.1	83.2	79.5
22	問6Q6. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	はい	11.4	12.2	10.7	11.4
		いいえ	84.8	83.0	86.3	84.9
23	問6Q7. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	はい	27.2	27.4	25.9	28.6
		いいえ	69.1	68.4	70.8	68.0
24	問6Q8. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	はい	15.6	15.8	15.5	15.4
		いいえ	79.8	78.6	81.2	79.6
25	問6Q9. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	はい	24.7	25.4	23.8	24.8
		いいえ	71.4	70.1	73.3	70.9

2 後期高齢者の項目

リスク該当の項目には、3圏域で最も割合の高い圏域に網掛けを行っている。

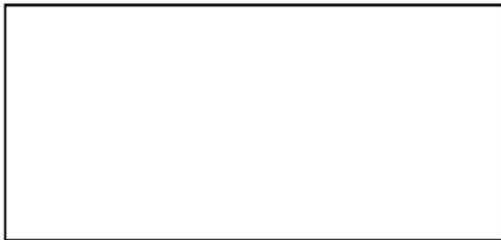
No.			全体	圏域		
				東部	中部	西部
1	問6 Q1. 現在のあなたの健康状態は いかがですか	とてもよい	10.2	9.6	10.6	10.3
		まあよい	28.4	27.8	29.4	27.9
		ふつう	46.6	46.3	46.4	47.1
		あまりよくない	10.5	11.2	9.8	10.7
		よくない	1.4	1.6	1.5	1.2
2	問6 Q10. 毎日の生活に満足していますか	満足	26.8	24.1	28.9	27.4
		やや満足	58.1	60.2	56.3	58.2
		やや不満	10.3	10.2	10.9	9.8
		不満	1.5	1.7	1.3	1.6
3	問3 Q2. 1日3食きちんと食べていますか	はい	86.0	85.4	86.8	85.8
		いいえ	11.0	11.1	10.2	11.7
4	問3 Q3. 半年前に比べて固いものが 食べにくくなりましたか	はい	22.6	24.1	21.1	22.9
		いいえ	74.5	72.8	75.9	74.7
5	問3 Q4. お茶や汁物等でむせることが ありますか	はい	23.7	21.0	24.3	25.9
		いいえ	73.3	75.8	72.4	71.5
6	問3 Q10. 6か月間で2～3kg以上の 体重減少がありましたか	はい	13.6	13.9	13.4	13.7
		いいえ	83.5	82.6	84.1	83.6
7	問2 Q3. 以前に比べて歩く速度が遅く なってきたと思いますか	はい	66.3	66.0	65.8	67.1
		いいえ	31.5	31.2	31.9	31.6
8	問2 Q5. 過去1年間に転んだ経験が ありますか	何度もある	6.0	5.0	6.0	6.9
		1度ある	18.3	17.6	18.1	19.2
		ない	73.7	74.5	74.0	72.5
9	問2 Q7. ウォーキング等の運動を週に 1回以上していますか	はい	65.5	63.5	65.0	68.0
		いいえ	32.3	33.4	33.1	30.1
10	問4 Q3. 周りの人から「いつも同じ事を 聞く」などの物忘れがあるとされますか	はい	8.5	8.5	8.7	8.3
		いいえ	89.7	89.8	89.7	89.6
11	問4 Q5. 今日が何月何日かわからない ときがありますか	はい	21.6	20.9	20.7	23.1
		いいえ	76.8	77.8	77.6	75.0
12	問6 Q12. タバコは吸っていますか	吸っている	7.0	7.8	6.3	6.9
		吸っていない	70.2	71.3	70.3	68.9
		やめた	20.0	17.8	20.9	21.4
13	問2 Q8. 週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない	5.5	5.6	5.2	5.8
		週1回	12.7	11.4	11.8	14.9
		週2～4回	49.0	51.4	46.2	49.7
		週5回以上	30.6	28.6	34.8	27.8
14	問4 Q17. ふだんから家族や友人と付き合い がありますか	はい	94.3	93.8	94.8	94.3
		いいえ	4.2	5.0	3.6	3.8
15	問5 Q5. 体調が悪いときに、身近に相談 できる人がいますか	はい	90.3	88.8	91.0	91.1
		いいえ	5.9	6.1	5.8	5.7

3 後期高齢者の項目（75歳以上）

リスク該当の項目には、3圏域で最も割合の高い圏域に網掛けを行っている。

No.	質問項目	選択肢	全体	圏域		
				東部	中部	西部
1	問6 Q1. 現在のあなたの健康状態は いかがですか	とてもよい	8.5	8.3	8.6	8.5
		まあよい	25.3	24.8	28.2	22.7
		ふつう	46.8	46.5	44.8	49.3
		あまりよくない	13.6	13.9	12.6	14.5
		よくない	1.9	2.0	2.1	1.5
2	問6 Q10. 毎日の生活に満足していますか	満足	25.5	22.8	25.5	28.1
		やや満足	59.1	60.6	59.5	57.3
		やや不満	9.3	8.9	9.7	9.1
		不満	1.8	2.3	1.7	1.3
3	問3 Q2. 1日3食きちんと食べていますか	はい	88.1	84.9	89.8	89.4
		いいえ	8.5	10.6	7.1	8.0
4	問3 Q3. 半年前に比べて固いものが 食べにくくなりましたか	はい	29.0	30.5	27.4	29.4
		いいえ	68.1	65.9	69.5	68.7
5	問3 Q4. お茶や汁物等でむせることが ありますか	はい	25.5	23.3	25.9	27.2
		いいえ	71.3	72.7	70.8	70.5
6	問3 Q10. 6か月間で2～3kg以上の 体重減少がありましたか	はい	14.9	14.2	14.8	15.5
		いいえ	81.5	81.3	81.8	81.2
7	問2 Q3. 以前に比べて歩く速度が遅く なってきたと思いますか	はい	78.1	77.2	78.3	78.6
		いいえ	19.3	19.0	19.1	19.9
8	問2 Q5. 過去1年間に転んだ経験が ありますか	何度もある	7.5	5.8	6.8	10.0
		1度ある	21.2	21.4	21.2	21.0
		ない	68.6	68.9	69.4	67.5
9	問2 Q7. ウォーキング等の運動を週に 1回以上していますか	はい	61.4	60.1	61.2	63.0
		いいえ	35.7	35.8	36.4	35.1
10	問4 Q3. 周りの人から「いつも同じ事を 聞く」などの物忘れがあると 言われますか	はい	10.4	10.8	9.8	10.8
		いいえ	87.1	86.9	87.7	86.5
11	問4 Q5. 今日が何月何日かわからない ときがありますか	はい	25.5	24.8	25.2	26.4
		いいえ	72.3	73.5	72.3	71.3
12	問6 Q12. タバコは吸っていますか	吸っている	3.5	4.1	2.3	4.1
		吸っていない	77.5	79.1	78.2	75.2
		やめた	15.1	12.9	15.6	16.8
13	問2 Q8. 週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない	7.7	6.8	7.4	9.0
		週1回	17.0	15.6	15.3	20.2
		週2～4回	51.1	53.0	50.0	50.6
		週5回以上	20.9	19.9	24.4	18.1
14	問4 Q17. ふだんから家族や友人と付き合い がありますか	はい	93.7	93.9	93.6	93.6
		いいえ	4.3	4.8	4.1	4.1
15	問5 Q5. 体調が悪いときに、身近に相談 できる人がいますか	はい	88.5	85.9	89.1	90.4
		いいえ	6.5	7.1	6.8	5.5

参考資料 2 (調査票)



介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 (健康寿命 100)
【調査票】

調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○を付けてください。

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて

10月4日(火)までに投函してください。

記 入 日	令和 4 年 月 日
<p>●調査票を記入されたのはどなたですか</p> <p>1. 宛名のご本人が記入 2. ご家族が記入(続柄_____)</p> <p>3. その他()</p> <p>●ご回答のない質問があった場合、お電話でお聞きしてもよろしいですか</p> <p>1. はい 2. いいえ</p>	

※以下は**宛名のご本人の情報**を記入してください。

電 話 番 号	— —
年 齢 ・ 性 別	() 歳 男 ・ 女
生 年 月 日	大正 ・ 昭和 年 月 日

ご記入に際してのお願い

1. この調査の対象者は、令和4年6月1日現在、逗子市内にお住いの65歳以上の市民の方で3歳毎（65歳、68歳、71歳…）の年齢に該当し、要介護認定を受けていない方及び施設に入所していない方。（要支援認定を受けている方にはお送りしています。）
2. ご家族の方がご本人に代わって回答されたり、一緒に記入してもかまいません。
3. ご回答に当たっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は右詰め（例.

0	6	2
---	---	---

 kg ）でご記入ください。
4. 「あなたの～」と尋ねている質問項目がいくつかあります。
この場合「あなた」とは、宛名のご本人を指しますので、ご本人以外のご家族が回答された場合でも、宛名のご本人に関して回答してください。
5. 「～していますか」と尋ねている質問項目が多くあります。できる能力があっても、していない場合は「いいえ」と回答してください。
この質問は、ご本人の主観に基づき「している」、「していない」という「活動」や「参加」の状況をチェックすることを目的としており、「できる」「できない」という「能力」をチェックすることを目的としていません。
（例 問4・Q13 新聞を読んでいますか）
6. 調査票記入後は、3つ折りで同封の返信用封筒に入れてお送りください。
7. この調査についてのお問合せは以下までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

調査票の記入方法など	045-534-4141 上の番号がつかない場合 092-633-5015	コールセンター ※委託先: (株)ジック
調査全般（目的など）	046-873-1111（内線213）	逗子市福祉部社会福祉課地域共生係

【個人情報の取扱いについて】

個人情報の保護及び使用目的は、次のとおりですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものとみなさせていただきます。

■個人情報の保護及び使用目的について

- ・ この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、保健事業及び介護予防事業等の企画や運営、逗子市高齢者保健福祉計画策定・効果評価、地域包括支援センターによる支援活動に利用させていただきます（アンケート結果に応じて地域包括支援センターから連絡が入ることがあります）。

逗子市福祉部

質問の該当する答えの番号に○印をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

問1 あなたのご家族や生活状況について

Q1. 家族構成をお教えてください

- | | | |
|----------------------|----------------------|--------|
| 1. 1人暮らし | 2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） | |
| 3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） | 4. 息子・娘との2世帯 | 5. その他 |

Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない → **Q3へ**
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない → **Q2-1へ**
3. 現在何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）
→ **Q2-1、Q2-2へ**

【Q2において、「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

Q2-1. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

- | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------|----------|--------|
| 1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） | 2. 心臓病 | 3. がん（悪性新生物） | | |
| 4. 呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等） | 5. 関節の病気（リウマチ等） | | | |
| 6. 認知症（アルツハイマー病等） | 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 | | |
| 9. 腎疾患（透析） | 10. 視覚・聴覚障害 | 11. 骨折・転倒 | 12. 脊椎損傷 | |
| 13. 高齢による衰弱 | 14. その他（ | | ） | 15. 不明 |

【Q2において、「3. 現在、何らかの介護を受けている」方のみ】

Q2-2. 主にどなたの介護・介助を受けていますか

- | | | | |
|----------------|---------|----------|---|
| 1. 配偶者（夫・妻） | 2. 息子 | 3. 娘 | |
| 4. 子の配偶者 | 5. 孫 | 6. 兄弟・姉妹 | |
| 7. 介護サービスのヘルパー | 8. その他（ | | ） |

Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

Q4. 介護が必要な状態になったら（既に必要な状態の場合も含む）、自宅と施設のどちらで暮らしたいですか

1. **自宅**
2. 施設（グループホーム、サービス付き高齢者専用住宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設など）

Q4-1. あなたは、どこを終の住み家として、考えたいですか

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|---------|--|---|
| 1. 自宅 | 2. 施設 | 3. 病院 | 4. その他（ | | ） |
|-------|-------|-------|---------|--|---|

問3 食べることについて

Q1. 身長と体重をご記入ください

身長 cm 体重 kg

Q2. 1日3食きちんと食べていますか

1. はい 2. いいえ

Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

1. はい 2. いいえ

Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか

1. はい 2. いいえ

Q5. 口の渇きが気になりますか

1. はい 2. いいえ

Q6. 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか

1. はい 2. いいえ

Q7. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

Q7-1. (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の手入れをしていますか

1. はい 2. いいえ

Q8. 噛み合わせは良いですか

1. はい 2. いいえ

Q9. 定期的に歯科受診(健診を含む)をしていますか

1. はい 2. いいえ

Q10. 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか

1. はい 2. いいえ

Q11. どなたかと食事をとる機会がありますか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある
5. ほとんどない

問4 毎日の生活について

Q1. あなたの「聞こえ」として、当てはまる内容をご回答ください。(複数回答可)

(補聴器を使用されている方は、使用した状態についてご回答ください。)

1. テレビやラジオの音が大きいと言われることがある
2. 普段の会話の音が聞き取りづらい(人の話し声が小さいように感じる)
3. 電話の音が聞き取りにくいことがある
4. 大きな声で話をされても聞き取れないことがある
5. 1~4にあてはまる状態(「聞こえ」に困っていること)は無い→ Q2^

1~4を
選んだ方は
Q1-1^

【Q1の回答に1~4のいずれかを選んだ方へお尋ねします】 ←

Q1-1. 補聴器を使ってみたいと思いますか

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 思わない | 2. 使ってみたいが、使う予定はない |
| 3. 使う予定がある | 4. 普段、補聴器を使用している |

【Q1-1において、「1. 思わない」「2. 使ってみたいが、使う予定はない」を選んだ方】

Q1-2. 選択肢を選んだ理由は次のどれですか

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 必要性を感じない | 2. 経済的理由 |
| 3. 見た目が良くない | 4. 使ってみたら不便だった |
| 5. その他 () | |

Q2. 物忘れが多いと感じますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q3. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q4. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q5. 今日が何月何日かわからないときがありますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q6. バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q7. 車の運転をしていますか

- | | | |
|---------|-----------------|------------------|
| 1. している | 2. 免許証はあるがしていない | 3. 免許証がない(返納を含む) |
|---------|-----------------|------------------|

Q8. 自分で食品・日用品の買物をしていますか

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q20. 病人を見舞うことができますか
 1. はい 2. いいえ

Q21. 若い人に自分から話しかけることがありますか
 1. はい 2. いいえ

Q22. 趣味はありますか
 1. 趣味あり 【具体的に】()
 2. 思いつかない

Q23. 生きがいがありますか
 1. 生きがいあり 【具体的に】()
 2. 思いつかない

問5 地域での活動について

Q1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

	週4回 以上	週 2~3回	週1回	月 1~3回	年に数回	参加して いない
(1) ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
(2) スポーツ関係のグループ やクラブ	1	2	3	4	5	6
(3) 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
(4) 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
(5) 介護予防のための 通いの場（サロンなど）	1	2	3	4	5	6
(6) 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
(7) 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
(8) 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

Q2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない
 4. 既に参加している

Q3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない
4. 既に参加している

Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
あてはまるすべてに○をしてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

Q5. 体調が悪いときに、身近に相談できる人がいますか

1. はい 2. いいえ

Q6. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

1. 自治会・町内会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネジャー
4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・市役所・役場 6. その他
7. そのような人はいない

Q7. 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

Q8. この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか
（同じ人には何度会っても1人と数えることとします）

1. 0人（いない） 2. 1～2人 3. 3～5人 4. 6～9人 5. 10人以上

Q9. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

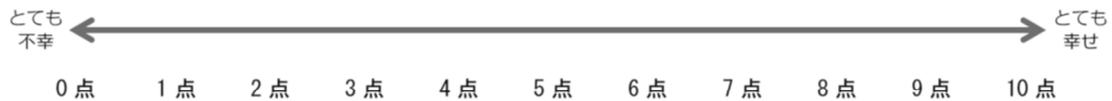
問6 健康について

Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない

Q2. あなたは、現在どの程度幸せですか

（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数を○で囲んでください）



Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

Q5. （ここ2週間）毎日の生活に充実感がない

1. はい 2. いいえ

Q6. （ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった

1. はい 2. いいえ

Q7. （ここ2週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる

1. はい 2. いいえ

Q8. （ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない

1. はい 2. いいえ

Q9. （ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする

1. はい 2. いいえ

Q10. 毎日の生活に満足していますか

1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満

Q11. お酒は飲みますか

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない

Q12. タバコは吸っていますか

1. 吸っている 2. 吸っていない 3. やめた

Q2. この調査の結果、教室等への参加が望ましいとわかった場合、逗子市で行う次のような教室へ参加したいですか。

1. はい

2. いいえ

逗子市で行う介護予防の教室

【介護予防機能向上トレーニング】 要介護リスクが高まっていると判定された人向けの短期集中型の介護予防プログラム（3～6か月、週1～2回、自己負担1回330円）	（内容） 筋力、持久力、柔軟性、お口の衛生、かむ力、飲み込む力、栄養状態の維持改善に一体的に取り組めます。また、自宅で行う安全な体操を学ぶことで日常の生活機能の向上を図ります。
【フレイル予防運動教室】 健康維持、運動を習慣化するための、元気な人向けのプログラム 1コース全12回（1回2時間程度） 室内プール利用時のみ自己負担250円	（内容） 身体の動かし方の基礎から、体幹トレーニングなどを学ぶシニアヘルスアップ講座や、認知症予防とウォーキングの習慣化を目指す脳活筋活講座など2講座3コース

ご協力ありがとうございました。記入した調査票を切り離すことなく3つ折りにし、同封した返信用封筒に入れて、切手を貼らずに投函してください。

**令和4年度 日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書**

逗子市 福祉部 社会福祉課 地域共生係 発行 令和5年2月

〒249-8686 神奈川県逗子市逗子5丁目2番16号

電話：046-873-1111（内線213） F A X：046-873-4520